

- 4531 **弥阿**(彌阿やあ) ? - ? 室町後期の時宗僧/連歌師;  
 文安-文亀1445-1504頃「大山祇法楽連歌」(1482万句)のうち1504「何人百韻」参加、  
 1551(天文20)大内義隆発企「宮島千句」参加
- 4532 **弥市**(やいち・江田/枝えだ、俳名;富百)?-? 江戸中期江戸の歌舞伎役者/作者:  
 1730-37(享保15-元文2)頃江戸中村座・市村座で活動、振付・謡に長ず、  
 1733「妻恋隅田川」/34「相生獅子の乱曲」36「帆柱太平記」37「今昔佛曾我」外著多数
- 弥一(弥市やいち・村山) → 暢(ちょう・村山、国学者) H 2 8 0 8  
 弥一(やいち・近江屋) → 冬映(3世とうえい・近江屋、俳人) B 3 1 3 1  
 弥一(やいち・山村) → 昌永(まさなが・山村やまむら、藩士/蘭学者) F 4 0 3 4  
 弥一(やいち・杉木) → 有一(ありかず・杉木すぎき、村役人/地誌) F 1 0 2 7  
 弥市(やいち・阿久沢) → 琵琶磨(びわまる・便々館べんべんかん、幕臣/狂歌) 3 7 3 3  
 弥市(やいち・遠藤/山城屋) → 奈万須盛方(なますのもりかた、狂歌) G 3 2 8 8  
 弥市(やいち・井伊) → 仁山(じんざん・井伊い、藩士/詩人) O 2 2 6 5
- 4533 **弥一右衛門**(やいちえもん・来野きの)?-? 播磨の武士;別所長治の家臣、軍使として従軍;  
 平山の合戦に参加;負傷し歩行不能/1580(天正8)三木落城後に美作に退隠、  
 「別所長治記」(;1580三木落城後執筆)
- 弥市右衛門(やいちえもん・梶原) → 直景(なおかげ・梶原、武芸者) 3 2 8 3  
 弥市右衛門(やいちえもん・沖) → 忠敬(ただたか・沖、藩士/儒者) P 2 6 7 1  
 弥市右衛門(弥一-やいちえもん・鷹見) → 星阜(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩) B 2 4 4 5  
 弥一右衛門(やいちえもん・和田) → 安清(やすきよ・和田わだ、藩家老/詩) B 4 5 2 7  
 弥一右衛門(やいちえもん・手塚) → 紀興(のりおき・手塚、藩士/和算) E 3 5 3 2  
 弥一右衛門(弥市右衛門やいちえもん・滝川) → 征成(ゆきしげ・滝川、藩士) E 4 6 5 1  
 弥一右衛門(やいちえもん・原) → 守孝(もりたか・原はら、陪臣/国学) L 4 4 0 9  
 弥一右衛門(やいちえもん・小泉) → 信盈(のぶみつ・小泉こいずみ、藩士/歌人) I 3 5 3 8  
 弥一右衛門(やいちえもん・小泉) → 信行(のぶゆき・小泉、信盈弟/国学/歌) I 3 5 3 9  
 弥一右衛門(やいちえもん・前沢) → 万重(よろづえ・前沢まえさわ、国学者) P 4 7 0 5  
 弥一左衛門(やいちざえもん・平沢) → 香山(こうざん・平沢ひらさわ、藩儒者) G 1 9 3 6  
 弥一左衛門(やいちざえもん・印東) → 応中(まさなか・印東いんどう、藩士/歌人) N 4 0 8 8  
 弥一兵衛(やいちべえ・田村) → 寧我(ねいが・田村むら、藩儒/詩文) 3 4 5 1  
 弥一兵衛(やいちべえ・上田) → 亮章(すけあき・上田うへだ、藩士/洋学者) F 2 3 9 8  
 弥市兵衛(やいちべえ・辻) → 守参(もりみつ・辻、幕臣/文筆家) G 4 4 6 2  
 弥一郎(やいちろう・林) → 東舟(とうしゅう・林はやし、幕臣/儒者/詩) E 3 1 8 9  
 弥一郎(やいちろう・芥川) → 寸艸(すんそう・芥川/小野寺、幕臣/歌) 2 3 2 1  
 弥一郎(やいちろう・富尾) → 似船(じせん、富尾とみお、俳人) E 2 1 4 0  
 弥一郎(やいちろう・山内) → 武秀(たけひで・山内やまうち、庄屋/歌人) O 2 6 6 9  
 弥一郎(やいちろう・斎藤) → 真鳥(まどり・斎藤さいとう、国学者) J 4 0 0 1  
 弥一郎(やいちろう・赤井) → 水雄(みずお・赤井あかい、神職/国学者) 4 1 9 2  
 弥一郎(やいちろう・小原) → 正路(正道まさみち・小原おはら、藩士/歌) M 4 0 0 4  
 弥一郎(やいちろう・砂川) → 義制(よしのり・砂川いさかわ/柴田、藩士/国学) L 4 7 5 1  
 弥一郎(弥市郎やいちろう・久世) → 安庭(やすにわ・久世くぜ/深田/水原、歌) C 4 5 5 2  
 弥一郎(やいちろう・喜多) → 金宝(かねみち・喜多きた、酒造業/歌人) U 1 5 4 7  
 弥一郎(やいちろう・深沢) → 秀景(ひでかげ・深沢ふかざわ、国学/狂歌) K 3 7 8 0  
 弥市郎(やいちろう・高田) → 松亭(しょうてい・高田たかた、藩士/儒者) K 2 2 9 8
- 4500 **野逸**(やいつ・加藤かとう、名;勝照) 1728-1807 80 江戸薬研堀の旗本幕臣/俳人:素丸2世門、  
 其日庵を継承;葛飾派四世、1778「五色墨三篇」柏翁・楚名らと共編、1790兎石「霞の碑」序、  
 1802「十論裸問答」校訂/03「附合論」編、1周忌「野逸句集」(白芹編/野逸遺吟3百余章入)、

[帚雛かみひなやつんとすねたる膳の先](野逸句集)、  
[紙製雛しか買えずせめて膳だけでもという親心も知らずにすねる娘)、  
[野逸(；号)の通称/別号]通称;定四郎/富右衛門、  
別号;一馬(；初号)/素丈/休々庵/七五庵/七六庵/七七庵/七八庵、  
竹冷舎/其夜坊/黙窓/其日庵4世

- E4599 **野逸**(やいつ・松村まつむら) ? - ? 江後期;歌人、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[妻恋ふる焼野のきぎす声立ててかげもあらはに鳴くがあはれさ](現存百人一首;51)
- 4534 **野逸**(やいつ・文川堂、名;恒通)?-? 江末期江戸本所四ツ目の俳人:  
1864-68(元治元-慶応4)「雪月花」、「東海道紀行記」著、  
[文川堂野逸(；号)の別号] 文川/七々庵/  
埜逸(やいつ・松橋) → 江城(こうじょう・松橋/服部、藩士/詩) J 1 9 8 2  
夜雨(やう;号) → 蘭陵(らんりょう;道号・越宗おしゅう;法諱、曹洞僧) D 4 8 2 8  
夜雨庵(やうあん) → 光輔(みつすけ・近藤、国学/歌人) D 4 1 6 7  
夜雨庵(やうあん) → 団十郎(4世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/俳人) 2 6 9 0  
夜雨庵(やうあん) → 団十郎(7世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/合卷) 2 6 9 1  
夜雨庵(やうあん) → 団十郎(8世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) I 2 6 3 3  
夜雨園(やうえん) → 葵亭(きてい・佐藤、俳人) B 1 6 5 3  
夜雨軒(やうけん) → 方祐(まさすけ・諏訪、神道/歌人) C 4 0 8 9  
也雲軒(やうけん/やうんけん) → 宗旦(そうたん・池田/松井、俳人) 2 5 1 5  
夜雨村(やうそん) → 昔桜(せきおう・一松ひとつまつ/松/淡海、儒者) J 2 4 9 5  
夜雨亭(初世やうてい) → 二曲(にきよく・松貴まつき、俳人、1735-1804) G 3 8 9  
夜雨亭(やうてい) → 維章(これあき・佐久間、藩士/儒者、1744-99) O 1 9 0 6  
夜雨亭(やうてい) → 米居(べいきよ、俳人、?-?1783頃活躍) 2 7 2 3  
夜雨亭(2世やうてい) → 省吾(しょうご・古森こもり、俳人1780-1844) I 2 2 7 0  
夜雨亭(5世やうてい) → 米牛(べいぎゅう・中瀬なかせ、俳人、1813-1861) 2 7 2 0  
野雲(やうん;号) → 道明(どうみょう;法諱・印光;道号、曹洞僧) S 3 1 5 8  
野雲(やうん;号) → 鉄帚(てつそう;道号・宗州、臨濟僧) E 3 0 7 1  
也雲軒(やうんけん) → 宗旦(そうたん・池田/松井、俳人) 2 5 1 5  
野雲子(やうんし;号) → 方充(ほうじゅう;道号・紹佗;法諱、臨濟僧) F 3 9 8 4
- F4549 **八重**(やえ・緒方おがた、蘭医億川百記女)1822-86<sup>65</sup> 母;志宇しう、摂津有馬郡名塩の生、  
歌人/号;花香はなか、1838(天保9/17歳)大坂の緒方章あきら(洪庵)と結婚;7男6女を産む、  
夫の適塾の門弟から慈母の如く慕われる(福澤諭吉[福翁自伝]入)  
八重(やえ・泰蔵/蔵田) → 花子(はなこ・蔵田くらた/泰蔵、歌人/書) K 3 6 0 9  
屋重(八重やえ・小野/平田) → 正子(まさこ・小野おの/平田、歌人) O 4 0 1 4  
八重岡(やえおか;検校) → 信成(のぶなり・服部はつとり、歌/三絃) J 3 5 6 3  
八重垣翁(やえがきおう) → 安崇(やすたか・伴部ともべ、儒・神道家) B 4 5 8 3  
八重吉(やえきち・神白) → 朝興(ともおき・神白こうじろ、神職/歌人) V 3 1 2 0  
八重吉(やえきち・神白) → 朝広(ともひろ・神白こうじろ、朝興孫/歌人) V 3 1 2 2
- 4535 **八重桐**(やえぎり・初世荻野おぎの)?-? 上方歌舞伎役者、1701-35活動、1711若女方巻頭
- F4562 **八重子**(やえこ・加藤かとう、)1787-1884<sup>長寿98</sup> 磨揖保郡網干の蔵元加藤務の妻、加藤高文の母、  
歌人  
八重太夫(初世やえだゆう・豊竹) → 此太夫(2世このだゆう・豊竹、浄瑠璃太夫) N 1 9 3 8  
八重の方(やえのかた) → 宗将側室(むねのぶのしつ・徳川/吉田、藩主母/歌) E 4 2 0 4  
八重舎(やえのや・神白) → 朝興(ともおき・神白こうじろ、神職/歌人) V 3 1 2 0
- F4528 **八重平**(やえひら・伊波/印南いなみ・本姓;源)1734-1800 陸奥会津藩士、神道;吉川従門門・  
更に吉田良俱[兼隆]門、  
[八重平(；名)の通称/諡]通称;左膳、諡;蒼竜神靈
- 4536 **弥右衛門**(やえもん・夏目なつめ)? - ? 幕末期三河吉田藩士/重鉄・小林美楯の父、  
1865(慶応元)「夏目重鉄小林美楯追慕詞集」編  
弥右衛門(やえもん・大蔵) → 虎清(とらきよ・大蔵おくら、狂言方宗家) R 3 1 7 3

弥右衛門(やえもん・大蔵)→ 虎明(とらあきら・大蔵、虎清男/狂言宗家) R 3 1 7 1  
 弥右衛門(やえもん・大蔵)→ 虎寛(とらひろ・大蔵おくら、狂言宗家) R 3 1 7 9  
 弥右衛門(やえもん・寺村)→ 山川(さんせん・寺村、藩士/俳人) F 2 0 9 9  
 弥右衛門(やえもん・人見)→ 璣岳(きゆう・人見ひとみ、藩士/詩歌) G 1 6 3 0  
 弥右衛門(やえもん・後藤)→ 黙斎(もくさい・後藤ごとう、藩儒) 4 4 8 3  
 弥右衛門(やえもん・太宰)→ 春台(しゅんたい・太宰だざい/平手、儒者) 2 1 6 2  
 弥右衛門(やえもん・太宰)→ 定保(さだやす・太宰だざい/阿武、儒者) K 2 0 0 5  
 弥右衛門(やえもん・梅村)→ 弥白(やはく・梅村うめむら、書肆) D 4 5 9 5  
 弥右衛門(やえもん・伊勢村)→ 重安(じゅうあん・伊勢村、仏師/俳人) G 2 1 7 9  
 弥右衛門(やえもん・臼田)→ 秋良(あきよし・臼田うすだ、国学者) E 1 0 1 1  
 弥右衛門(やえもん・松尾)→ 綾平(あやひら・松尾、里正/神職/国学) F 1 0 1 4  
 弥右衛門(やえもん・小倉)→ 三省(さんせい・小倉、藩士/儒者;南学) 2 0 5 3  
 弥右衛門(やえもん・三輪)→ 元門(もとかど・三輪みわ/長尾、藩老/兵学) C 4 4 4 0  
 弥右衛門(やえもん・田口)→ 藤好(ふじよし・田口たぐち、儒者/詩) C 3 8 7 4  
 弥右衛門(やえもん・大場)→ 一眞斎(いっしんさい・大場おおば、藩士/歌) C 1 1 8 6  
 弥右衛門(やえもん・林) → 正樹(まさき・林はやし、郷土史家) C 4 0 2 5  
 弥右衛門(やえもん・三津川)→ 于当(うらたか・三津川みつかわ、俳人) 1 2 7 5  
 弥右衛門(やえもん・真田)→ 人まね小まね(ひとまねこまね、狂歌作者) E 3 7 2 4  
 弥右衛門(やえもん・小河)→ 一敏(かずとし・小河おごう、藩士/勤王/詩) C 1 5 2 3  
 弥右衛門(やえもん・馬場)→ 築山(たけやま・馬場ばば/天野、藩士/儒者) B 4 8 1 9  
 弥右衛門(やえもん・大場)→ 玉泉(たまき・大場おおば、藩士/兵法) P 1 6 1 9  
 弥右衛門(やえもん・米屋/飯田)→ 桂山(けいざん・飯田、醸造業/詩人) D 1 8 4 8  
 弥右衛門(やえもん・小倉)→ 為信(ためのみち・小倉おぐら、商家/歌人) V 2 6 9 8  
 弥右衛門(やえもん・江藤)→ 正澄(まさずみ・江藤/上野、藩士/国学) D 4 0 1 0  
 弥右衛門(やえもん・神田)→ 正清(まさきよ・神田かんだ/平、歌人) M 4 0 2 1  
 弥右衛門(やえもん・小池)→ 信行(のぶゆき・小池こいけ/葛原、歌人) G 3 5 8 0  
 弥右衛門(やえもん・正直屋)→ 伴古(ともひさ・樽井たるい、醸造業/歌人) V 3 1 7 4  
 弥右衛門(やえもん・池原)→ 弥平(やへい・田村たむら/池原、皇典/神職) G 4 5 1 6  
 弥右衛門(やえもん・井口)→ 榴荘(りゅうそう・井口いくち、大庄屋/教育) F 4 9 0 4  
 弥右衛門(やえもん・新井)→ 道雄(みちお・新井あらい、国学/歌) L 4 1 0 9  
 弥右衛門(やえもん・河地)→ 時寛(ときひろ・河地かわち、国学者) U 3 1 8 6  
 弥右衛門(やえもん・堀口)→ 松庵(しょうあん・堀口ほりぐち、地役人/書家) V 2 2 1 3  
 弥右衛門(やえもん・齋藤)→ 元宝(もとたみ・齋藤さいとう、藩士/国学者) K 4 4 0 5  
 弥右衛門(やえもん・藤田)→ 孝之(たかゆき・藤田ふじた、国学者・歌人) Z 2 6 3 4  
 八重門(やえもん・本多) → 朴民(なのおたみ・本多ほんだ/水沢、国学者) O 3 2 7 1  
 野右衛門(やえもん・市川)→ 忠篤(ただあつ・市川いちかわ、藩士) P 2 6 1 7  
 野右衛門(やえもん・玉置)→ 直磋(なおあき・玉置たまおき、藩士/国学) N 3 2 8 0  
 野翁(やおう・長峰) → 茶醉軒(ちやすいけん、文筆家) F 2 8 5 6  
 八百庵(やおあん) → 保光(やすみつ・柳沢、信鴻男/藩主/諸芸) D 4 5 1 6  
 八百会(やおえ・常磐井) → 守貫(もりつら・常磐井ときわい、神職/歌人) K 4 4 5 0  
 八百会舎(やおえのや) → 蒼軒(そうけん・小泉こいづみ、地誌/測量家) H 2 5 0 8  
 八百吉(やおさち・牛島/梯)→ 箕嶺(きしん・梯かけはし、藩士/漢学者) Q 1 6 5 6  
 八百吉(やおさち・秋元) → 芳樹(よしき・大橋おおはし/秋元、教育/神職) L 4 7 9 9  
 八百吉(やおさち・蓬萊) → 尚知(ひさあき・蓬萊ほうらい/磯辺、神職) K 3 7 9 3  
 八百吉(やおさち・竹川) → 正柱(まさはし・竹川たけがわ、商家/国学) Q 4 0 7 8  
 八百左衛門(やおさえもん・村山)→ 守雄(もりお・村山/三井、藩士/歌人) F 4 4 2 0  
 八百司(やおし・渡辺) → 広輝(ひろてる・渡辺わたなべ、絵師) G 3 7 4 8  
 八百道(やおじ・柄崎・変名)→ 常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王) C 3 7 6 1  
 八百治(やおじ・牧) → 頼元(らいげん・牧まさき、教育者) 4 8 4 2  
 八百善(やおぜん) → 善四郎(ぜんしろう・栗山、料理人) M 2 4 6 3

- 八百蔵(3世やおそう・市川)→ 高助(2世たかすけ・助高屋、歌舞伎役者) C 2 6 9 1
- 4537 野乙(やおの) ? - ? 加賀小松の俳人;1776樗良「誹諧月の夜」1句入、  
[物言へば障子に消ゆる秋の暮](月の夜;晩秋の寂寥)
- 八尾のお上人(やおのおしょうにん)→ 築山(ぎょうざん;法諱、融通念仏僧) V 1 6 6 1
- 八百之丞(やおのじょう・三輪)→ 秀機(ひでり・三輪みわ、藩士/歌道) L 3 7 3 5
- 4538 八百彦(やおひこ・浅田/朝田あさだ、百合男)1697-1777<sup>81</sup> 撰津伊丹の俳人;貞佐門、画も嗜む、  
1710「宝永七年歳旦」編、「俳諧絵本四季の色香」「絵本桜かり」著、  
「百合追善集」編(父百合;1733没)、1767「歳旦集」編、  
[八百彦(;号)の別号] 十合斎/扇翁
- 八尾人(やおひと・河内) → 孤龍(こりゅう・秋月堂、俳人) E 1 9 0 3
- 八百坊(やおぼう) → 木全(もくどう・沢木さわき、俳人) B 4 4 0 5
- 八尾法眼(やおほうげん) → 源賢(げんけん・多田法眼、天台僧/歌人) B 1 8 6 6
- 八百道(やおみち・柄崎;変名)→ 常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王) C 3 7 6 1
- 八百道(やおみち・杉井) → 親倫(ちかとも・杉井すざい、神道家) B 2 8 3 3
- 八百道(やおみち・島) → 雅重(まさしげ・島しま/出雲臣、神職/歌) Q 4 0 1 5
- 八百屋善四郎(やおやぜんしろう)→ 善四郎(ぜんしろう・栗山、料理人) M 2 4 6 3
- 4539 野鶴(やかく・幸塚こうづか、本江屋庄助2男)1824-71<sup>48</sup> 越中高岡守山町俳人;京の梅室門、雲水行脚、  
1851「山鳩集」著、1865「浪化上人発句集」編、依山(聴風舎)の弟  
[野鶴(;号)の幼名/通称/別号]幼名;久米吉、通称;庄兵衛/三六、別号;半雪居
- 弥学(やがく・小川) → 丹下(たんげ・小川おがわ、藩家老) T 2 6 3 0
- 野鶴小栖主人(やかくしょうせいしゅじん)→ 清風(せいふう・村田、藩士/歌人) C 2 4 9 5
- 野鶴道人(やかくどうじん) → 葵亭(きてい・雛田ひなだ、神職/国学) L 1 6 5 2
- 4501 宅嗣(やかつぐ・石上朝臣いそのかみのあそみ、中納言乙磨男)729-781<sup>53</sup> 奈良期廷臣;751(天平勝宝2)従五下、  
参河守・上総守・中衛中将を歴任/766参議/768従三位/式部卿兼大宰帥/中納言兼中務卿、  
781(元応元)大納言・正三位兼式部卿、没後正二位追贈、書庫芸亭うんていを建設;蔵書を公開、  
わが国図書館の初め、万葉四期歌人;4282、詩;「経国集」「唐大和尚東征伝」入、  
[こと繁ことげみ相問はなくに梅の花雪にしをれてうつろはむかも](万葉;十九4282)、  
(天平勝宝五年753自邸での宴での詠;尋ねないうちに散ってしまわないか心配)
- 家主(やかぬし) → 屋主(やぬし・やかぬし・丹比、歌人) D 4 5 9 3
- 宅彦(やかひこ・松木) → 宅彦(いえひこ・松木、神職/歌/記録) E 1 1 9 5
- 4540 家仁親王(やかひとしんのう・桂宮7代/京極宮、文仁親王の長男)1703-67<sup>65</sup> 江中期1708東山天皇の猶子、  
1709(宝永6)親王宣下/11宮家継承/67一品、歌人/書家;有栖川宮職仁親王門;  
歌・書の奥義を相伝、文筆にも長ず、「秋十首和歌」「家仁親王朗詠詩歌」「桂別業に遊ぶ記」、  
「家仁親王詠十八首和歌」「家仁親王座右記」「家仁親王詠草」「今出川和歌」外著・書多数、
- 4519 宅麻呂(宅満やかまろ・雪連ゆきのむらじ、伊吉古麻呂男)?-736<sup>客死</sup> 渡来系神祇官宮主/736遣新羅使人、  
万葉四期十五3644/3688題詞;壱岐嶋で急死、  
[大君の命恐みことかじみ大船の行きのまにまに宿りするかも](万葉;十五3644)  
(佐婆の海で漂流後豊前分間わかまに着き苦難を思う詠)
- F4535 宅道(やかみち・岩井いらい、通称;伊予)1842-82<sup>41</sup> 武蔵足立郡の神職;1867(慶応3)氷川神社神主、  
神道・国学;平田鉄胤/1873皇学研究;井上頼囿門、「神官年中行事」著
- 八上采女(やかみのうねめ) → 因幡八上采女(いなばのやかみのうねめ) B 1 1 7 7
- 4502 家持(やかもち・大伴宿禰おおともすくね、旅人長男)718?-785<sup>68?</sup> 奈良期廷臣;738頃内舍人/745従五下、  
746越中守/751少納言/754兵部少輔/兵部大輔/右中弁歴任、758因幡守(;万葉4516)、  
信部大輔/764薩摩守/767大宰少弼/770民部少輔・左中弁兼中務大輔/774相模守、  
774左京大夫兼上総守/775右衛門督/776伊勢守/780正四下参議兼右大弁/781東宮大夫、  
782陸奥按察使兼鎮守將軍/783中納言兼春宮大夫/784持節征東將軍;785没、  
785;没20日余に藤原種継暗殺事件に連座し除名;領地没収息子永主も流罪/806赦免、  
万葉集編纂、万葉四期歌人;473首、「家持集」、拾遺集下62首、  
[新あたしき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事](万葉集最後の歌;4516)  
[かささぎの渡せる橋におく霜の白きを見れば夜ぞふけにける](新古620;万葉にはない)



- 4541 **家持妹**(やかもちのいろと・大伴宿禰、大伴女郎)**?-?** 家持・書持と同母か?、  
坂上大嬢と姉妹のように育てられたか?、万葉四期歌人;十九4184、4198の左注、  
留女之女郎りうぢよのいらつめ(京の家に留まっている女性)とある、  
[山吹の花取り持ちてつれなくも離かれにし妹を偲ひつるかも](万葉;十九4184)  
(京より越中の坂上大嬢に贈る歌)
- 4503 **宅守**(やかもり・中臣朝臣、東人男?)**?-?** 奈良期廷臣/739頃狭野弟上娘子と結婚した時越前に配流、  
741帰京?/763従五下、764恵美押勝(仲麻呂)の乱で連座;除名、  
万葉四期歌人:狭野弟上娘子との相聞63首(うち宅守の歌40首)、  
万葉集十五;3727-44/3754-66/3775-76/3779-85  
[恐かにみと告のらずありしをみ越路の手向に立ちて妹が名告りつ](万葉;十五3730)  
狭野弟上娘子 → 茅上娘子(ちがみのおとめ・狭野さの) 2 8 0 7  
薬罐子(やかんし) → 薬罐子(やくかんし、洒落本) 4 5 9 6  
八木(やぎ) → 八木(はちぼく、江前期俳人) I 3 6 9 4  
八木右衛門(やぎえもん・浜田) → 千束(ちづか・浜田はまだ、大庄屋/国学) N 2 8 3 1  
弥義右衛門(やぎえもん・成田) → 頼直(よりなお・成田なりた、藩士/藩史編) J 4 7 2 6  
弥義右衛門(やぎえもん・漆原) → 漆園(しつえん・漆原うるしばら、絵師/詩人) U 2 1 4 8
- 4542 **八菊**(やきく) **? - ?** 江中期俳人;涼菟[1659-1717]門、涼菟「築普請」編  
野菊(やきく・奥田) → 毛条(もうじょう・奥田、俳人) 4 4 5 6  
八木造(やぎぞう) → 美樹(よしき・八木やぎ、美徳男/国学者) D 4 7 1 0  
弥吉(やきち・品川) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0  
弥吉(やきち・服部) → 保常(やすつね・服部はつとり、国学者/歌) G 4 5 4 1  
弥吉(やきち・伊勢屋) → 吉輔(よしすけ・林はやし/桜井、商家/歌人) O 4 7 6 0  
弥吉郎(やきちろう・砂川) → 義制(よしのり・砂川いさかわ/柴田、藩士/国学) L 4 7 5 1
- 4543 **野橋**(やきつ・馬屋原/旧姓;木村、名;玄益)**?-1764?** 備後府中の生/福山の馬屋原家の養子(15歳)、  
上京;医を修学/帰郷し医業、俳人:素浅[野坡門弟]門、1740「桜苗」(:宜応/沙鷗と共編)、  
1762素浅13回忌追善集「雨声集」編、追善集「雪の梅」(:息保庵芦道編)、  
[蛙子や水のむ牛の鼻の先](「桜苗」、  
[野橋(;号)の別号] 東西軒/梅庵  
夜帰読書齋(やきどくしよさい) → 道(みち・井上いのうえ、儒者) F 4 1 3 3
- 4544 **野牛**(やぎゅう) **? - ?** 羽前山形の俳人;雑俳;  
1780楓吳「田舎曲紅畠いなかぶりべにばたけ」入  
野狂(やきょう) → 篁(たかむら・小野・野宰相、詩歌) 2 6 1 9  
約(やく・日尾) → 省齋(せいさい・日尾ひお、儒者) B 2 4 6 6  
約(やく・守村) → 抱儀(ほうぎ・守村[邨]、商家/俳人) 3 9 3 9  
薬園舎(やくえんしゃ) → 紅磧(こうせき・小此木おこのぎ、俳人) K 1 9 0 9  
薬園亭(やくえんてい) → 秀齋(しゅうさい・藤田ふじた、和算/測量家) X 2 1 3 5
- 4545 **約翁**(やくおう;道号・徳儉とくけん;法諱, 仏燈大光国師)**1245-1320****76** 鎌後期鎌倉臨濟:蘭溪門/入宋、  
1306京建仁寺17世/10建長寺14世、「仏燈国師語録」(:法嗣玉翁徳果とくこう編)
- 4546 **益翁**(やくおう/えきおう;道号・宗謙しゅうけん/そうけん;法諱)**?-1570** 越後の曹洞僧;  
越後中頸城郡春日村の林泉寺天室光育門/嗣法、諸国遊歴、  
一種長純創建の武州永林寺に招聘され門人/越前永平寺に住/1551越後林泉寺7世、  
上杉謙信に禅の要義を授与:謙信創建の妙照寺開山初世となる、  
「益翁宗謙禅師語録」「益翁謙公人下語」著  
薬翁(やくおう・木梨) → 恒徳(つねのり・木梨さなし、藩士) D 2 9 1 0  
役観(やくかん・役) → 藍泉(らんせん・役えき/島田、修験僧/詩人) C 4 8 8 3
- 4596 **薬罐子**(やくかんし/やかんし、本名不詳)**?-?** 洒落本1770茶釜散人「蕩子釜枉解とうしせんおうかい」編、  
作者茶釜散人・序者陶鉄房すてつぼう・編者は同一人の異名か?  
約軒(やくけん・手島) → 季隆(すえたか・手島てしま、兵法家) B 2 3 8 0
- 4547 **薬恒**(やくこう;法諱) **? - ?** 平安前期延喜1901-23頃の天台僧:叡山南谷住、  
「本朝法華験記」著(散佚;扶桑略記に逸文入)、

「尊勝真言異本勘定持誦功能唐朝日域興隆流布縁起」著

- 約齋(やくさい・香取) → 明之(てるゆき・香取、狂歌師) D 3 0 0 4  
約齋(やくさい・一条) → 正直(まさなお/まなほ・一条、藩士/天文) F 4 0 0 5  
約齋(やくさい・松岡) → 操(みさお・松岡まつおか、医/漢学者) K 4 1 5 4  
約山(やくざん・尾藤) → 二洲(じしゅう・尾藤、儒者/詩) 2 1 2 1  
薬山堂(やくさんどう) → 与清(とときよ・小山田/高田、国学者) 3 1 6 0
- H4508 薬師(やくし・仁和寺) ? - ? 鎌倉期;仁和寺眞乗院の童/歌人、  
1237刊[檜葉集]入;同院の童の千手王・松若と共に入集、  
[詞書;千手王せんじゅおうの歌に同じ、  
うらやましいかなるくさのゆかりまで露のなさをわきてかたらむ](檜葉;714)
- 約之(やくし・森) → 約之(のりゆき・森、医者/本草学) G 3 5 1 5  
約治(やくじ・沢田) → 泰綱(やすつな・沢田/荒木田/菌田、神職) C 4 5 1 0  
俳優堂夢遊(やくしやどうむゆう) → 夢遊(むゆう・俳優堂、役者研究家) D 4 2 0 7  
薬樹(やくじゆ;初道号) → 聞中(もんちゅう;道号・浄復;法諱、黄檗僧) I 4 4 6 6  
薬樹院僧正(やくじゆいんそうじょう) → 胤海(いんかい、天台僧) C 1 1 0 0
- 4548 薬壽丸(やくじゆまる) ? - ? 連歌、1464?盛長催「熊野千句」参加  
薬雫(やくしゆん;法諱、勝陽房) → 眞源(しんげん・勝陽房、天台叡山僧) D 2 2 9 4
- 4549 益信(やくしん;法諱、紀[品治]魚弼男) 827-906 80 備後の真言僧;幼時に宗叡門;出家、  
のち源仁門;887伝法灌頂を受/888権律師/東寺二長者/891東寺一長者/894東寺別当、  
895権大僧都/896石清水八幡検校を兼務/900僧正/広沢流の祖、  
尚侍藤原淑子の東山山荘を円成寺とす、「金剛界次第」「胎蔵界次第」「三摩耶戒文」外著多、  
[益信(;法諱)の通称/諡号]通称;円成寺僧正、 諡号;本覚大師
- 薬生堂(やくせいどう) → 好運(こううん・樋口ひぐち、医者) H 1 9 4 5
- 4550 薬仁(やくにん;法諱) ? - ? 鎌倉期天台宗比叡山僧;西塔長寿坊・長意坊住、  
谷流、「内作業灌頂私記」「瑜祇秘密根本契印」「合灌頂手日記」著
- 約夫(やくふ・新井) → 政毅(まさかた・新井あらい、歌人/蔵書家) N 4 0 2 3
- 4551 弥久馬(やくま・渡辺わたなべ/斎藤、名;利行、渡辺利成男) 1822-81 60 高知藩士;初名;渡辺弥久馬、  
少壮より文武に秀づ/藩主山内豊熙の御側物頭の時おこぜ組に属す;藩内抗争で失脚、  
嘉永年中(1848~58)参政吉田東洋のもとで復権;新おこぜ組員の有力者;藩政改革主張、  
1854近習目付/56上士銃隊の操練・教授/大目付側用役歴任、慶応1865-68頃仕置役、  
維新後;斎藤利行に改姓、新政府出仕、1870参議・麝香間祇候・元老院議官、  
「渡辺利行文稿」「斎藤利行日記」著、  
[弥久馬(;通称)の別通称] 馬五郎  
☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の[源利行]と同一?、  
[軒端もる月も枕に宿る夜は山風寒く身のぞしみける](大江戸倭歌;冬1172/寒月)
- 薬磨(やくまる・前田) → 道通(どうつう・前田、医者/家塾) G 3 1 5 5  
八雲(やくも・佐伯) → 惟明(これあき・佐伯さえき、神職/国学) Q 1 9 8 6  
八雲(やくも・一哭舎) → 成礼(なりただ・本多ほんだ、陪臣/歌人) O 3 2 7 3  
八雲外史(やくもがいし) → 古堂(こどう・松本、儒者/勤王) D 1 9 4 3
- E4563 八雲組(やくもぐみ;組連) ? - ? 武蔵北足立郡与野町(現さいたま市)の雑俳の組連、  
取次;1749「菊丈評万句合」入、  
取次例;[鼻に緒を通さぬ斗ばかり人遣い](前句;日の暮に迄々々/牛のごとく荒く使う)
- 八雲軒(やくもけん;室号/八雲院;法号) → 安元(やすもと・脇坂、藩主/歌) D 4 5 2 6  
八雲山人(やくもさんじん) → 春耕(しゅんこう・千葉、俳人) J 2 1 6 4  
八雲舎(やくもしゃ) → 憲長(のりなが・田村たむら、神職/歌人) I 3 5 9 0
- 4552 弥九郎(やくろう・斎藤さいどう、名;善道、庄屋斎藤新助信道の長男) 1798-1871 74 越中氷見郡仏生村生、  
江戸の幕臣能勢祐之丞に出仕、剣術;劍客岡田十松門;神道無念流を修得、  
同門江川坦庵・藤田東湖と交流、師没後;江戸飯田町に練兵館を開設、  
伊豆葎山代官就任の坦庵に請われ手代を務める、西洋砲術;高島秋帆門/漢籍;古賀精里門、  
兵学;平山子竜門、馬術にも長ず、水戸藩・長州藩で教授、明治政府に出仕、

「斎藤篤信斎往復書簡」著、

[弥九郎(；通称)の字/号]字；忠卿、号；篤信斎

弥九郎(やくろう・安達) → 景盛(かげもり・安達、覚智、武将/真言僧) C 1 5 0 0

弥九郎(やくろう・細川) → 頼之(よりゆき・細川ほそかわ/源、武将/幕政/歌) J 4 7 9 2

弥九郎(やくろう・細川) → 持賢(もちかた・細川/源、道賢、武将/歌/連歌) B 4 4 3 5

弥九郎(やくろう・山田) → 昌巖(しょうがん・山田、藩家老/記録) H 2 2 8 4

弥九郎(やくろう・寺崎) → 広方(ひろかた・寺崎てらさき、藩奉行/宿老) K 3 7 2 3

弥九郎(やくろう・秋山) → 盛恭(せいきょう・秋山あきやま、藩儒者) H 2 4 9 2

弥九郎(やくろう・古久保) → 直之(なおゆき・古久保ふるくぼ、国学者) O 3 2 6 3

弥九郎(やくろう・伊勢) → 貞昌(さだまさ・伊勢/平/有川、藩士/故実) J 2 0 6 5

弥九郎(やくろう・伊勢) → 貞喜(さだよし・伊勢いせ、藩士/故実) N 2 0 8 2

弥九郎(やくろう・横田) → 艶士(えんし・横田、壺谷軒、医者/俳人) C 1 3 2 3

4553 野径(やけい・縁督堂えんとくどう)?-? 近江膳所の俳人；芭蕉門、  
1690珍碩「ひさご」連衆；城下歌仙入/90其角「花摘」・91ノ松べっしょう「西の雲」、  
1692車庸「己が光」・93洒堂「俳諧深川」・91「猿蓑」1句・98「続猿蓑」1句入、  
[にべもなくついたつ蟬や旅の宿]（続猿蓑；下/ひょいと飛び立つ蟬と寂寥の旅の自分）

4554 野溪(やけい、姓名不詳) ?-? 俳人；1689举白「四季千句」入  
野径と同一? → 野径(やけい・縁督堂、俳人)

4555 野月(やげつ・鹿山、名；泰行) 1757-1830<sup>74</sup> 武州入間郡厚川村の俳人、  
1830鈴木道彦13回忌に向島百花園に碑建立；記念集「石碑供養」編刊  
[野月(；号)の通称/別号]通称；丈右衛門、別号；一桑庵

也軒(やけん・松風) → 松風也軒(しょうふうやけん・歌人) B 2 2 3 9

弥堅(やけん・坂部) → 胡兮(こけい・坂部さかべ、俳人) M 1 9 2 5

野狐庵(やこあん) → 魯文(ろぶん・仮名垣、滑稽本)

4556 野虹(やこう・長野ながの、名；直玄なおほる) 1660-1740<sup>81</sup> 豊後日田郡渡里村の庄屋里正、  
後妻りんと共に朱拙の手引きで俳諧に入る；野坡門、1702野坡は野虹邸に滞在、  
支考・露川・惟然・曾良も行脚中に滞在、妻と双白堂を経営、  
1703「小柑子」編、06「梅ヶ香」著/16「歌仙貝発句」共著(新；りん女筆/古；野虹筆)、  
[野虹(；号)の通称/別号]通称；三郎右衛門尉、別号；椿底舎/双白堂、法号；釈春山居士  
参照 → りん女(りんじょ・遠坂/長野、俳人) K 4 9 4 4

4557 也好(やこう) ?-? 京の俳人：  
1772几董「其雪影」1句/73「明鳥」1句/83維駒「五車反古」5句入、  
[草花の屏風を畳む野分のわき哉]（其雪影；341屏風を畳むかのように吹倒される）

4558 埜行(やこう) ?-? 俳人；樗良・關更・西村定雅と交流、  
1784(天明4)「半日行脚」編

4559 也好(やこう・原口はらぐち、朶々斎)?-?1818前没 武蔵熊谷の俳人；竹二坊と交流、  
「朶々斎四季発句」編

夜行(やこう・遊数里) → 夜行(よるゆき・遊数里ゆすり、洒落本)

弥光(やこう・河崎) → 正世(まさよ・河崎かわさき、神職/国学者) P 4 0 0 5

弥厚(やこう・都筑) → 弥厚(みつあつ・都筑つづき、酒造業/用水路開削) J 4 1 7 6

野紅花園(やこうかえん) → 良昌(よしまさ・笹村ささむら、藩侍医/歌人) N 4 7 2 1

野航斎(やこうさい) → 容斎(ようさい・藤田ふじた、儒/教育者/詩) B 4 7 0 0

野狐窟(やこくつ) → 完来(かんらい・大島/富増、俳人) 1 5 5 5

弥五右衛門(やごえもん・寺崎) → 広方(ひろかた・寺崎てらさき、藩奉行/宿老) K 3 7 2 3

弥五右衛門(やごえもん・石井) → 忠行(ただつら・石井いし、藩士/記録) C 2 6 3 5

弥五右衛門(やごえもん・船越) → 良弼(よしすけ・船越ふなこし/北条、劍術/歌) O 4 7 9 2

弥五右衛門(やごえもん・深沢) → 宗定(むねさだ・深沢ふかざわ、国学者/狂歌) E 4 2 1 9

4560 弥五左衛門(やごさえもん・福井ふくい?、浅之丞)?-? 江前期寛文1661-73頃歌舞伎作者/多幕物創始者、  
「非人の敵討」著

弥五左衛門(やごさえもん・土屋) → 知虎(ともとら・土屋、家老/詩文) P 3 1 9 6

- 弥五左衛門(やござえもん・青方)→ 繁治(しげはる・青方あおかた/白浜、藩家老) S 2 1 3 0  
 弥五左衛門(やござえもん・山田)→ 直正(なおまさ・山田、記録) C 3 2 3 9  
 弥五左衛門(やござえもん・横関)→ 可量(よしかず・横関よこせき、陪臣/歌人) P 4 7 9 6  
 弥五左衛門(やござえもん・寺門)→ 静軒(せいけん・寺門てらかど、儒者、文筆家) 2 4 0 9  
 弥五左衛門(やござえもん・早川)→ 武英(たけひで・早川、藩士/樺太開拓) O 2 6 6 8  
 弥五作(やごさく・前田) → 和明(かずあき・前田、系図作成) M 1 5 0 4  
 弥五作(やごさく・中村) → 闇指(あんし・中村なかむら、藩士/俳人) C 1 0 3 7
- 4561 **弥五四郎**(やごしろう・福岡ふくおか、京屋弥五四郎) 1642-? 1730(89歳) 存 江前中期上方歌舞伎役/作者、  
 初め若衆方/のち立役/親仁方を演ず、一座の世話役・狂言作者手伝、  
 1700(元禄13)京の夷屋座で福岡弥五四郎に改名;作者を兼ねる、  
 1707大坂岩井座で道外方を演ず/16京屋に改姓;23福岡姓に戻す/親仁役を演ず、  
 初世近松門左衛門との合作もある、1706「八万歳」10「干瓢町心中」12「干将莫邪」著、  
 1718「椀久松山翌の噂」24「けいせい二上山」30「花契情抱留弥陀」外著多数
- 弥五助(やごすけ・兵庫屋)→ 大阜(だいふ/たいふ・村瀬、商家/俳人) K 2 6 9 9  
 弥五助(やごすけ・堀) → 斐張(あやはる・堀ほり、藩老/国学者) I 1 0 4 1  
 弥五八(やごはち・仲居) → 光徳(みつなり・仲居なかい/高橋、国学/歌) J 4 1 9 6  
 弥五平(やごへい・近江屋)→ 信道(のぶみち・河村かわむら、商家/歌人) I 3 5 0 4  
 弥五兵衛(やごへえ・石井いはい)→ 三朶花(さんだか・石井/源、儒者/詩人) G 2 0 0 1  
 弥五兵衛(やごへえ・金沢)→ 椿山(ちんざん・金沢かなざわ、薬種業) K 2 8 7 5  
 弥五兵衛(やごへえ・服戸)→ 保泰(やすひろ・服戸ふくと、国学者) G 4 5 5 1  
 弥五兵衛(やごへえ・三宅)→ 正邦(まさくに・三宅みやけ、幕臣/国学) S 4 0 8 5  
 弥五兵衛(やごへえ・宮島)→ 則壽(のりひさ・宮島みやじま/藤原、大庄屋/国学) K 3 5 1 0  
 弥五兵衛尉(やごへえのじょう・大和田)→ 重右(しげすけ・大和田おおわだ、藩士/歌人) N 2 1 8 3  
 禰古彦(やこひこ) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4  
 矢五郎(やごろう・大山) → 重憲(しげのり・大山、軍学者)  
 矢五郎(やごろう・橋本) → 晩翠(ばんすい・橋本はしもと、儒者) I 3 6 2 1  
 矢五郎(やごろう・大山) → 重憲(しげのり・大山おおやま、軍学者) S 2 1 1 2  
 弥五郎(やごろう・飯田) → 興秀(おきひで・飯田、弓馬故実家) C 1 4 9 6  
 弥五郎(やごろう・荒川/渋江)→ 政光(まさみつ・渋江/荒川、藩士/農政) H 4 0 6 3  
 弥五郎(やごろう・白井) → 重勝(しげかつ・白井/源/長坂、藩士/儒者) Q 2 1 8 2  
 弥五郎(やごろう・杉木) → 有一(あrikazu・杉木すぎき、村役人/地誌) F 1 0 2 7  
 弥五郎(やごろう・大原) → 山清(さんせい、大原おおはら、神職) M 2 0 4 5  
 弥五郎(やごろう・三好/本橋)→ 宗心(そうしん・堀内ほりのうち/2代目、茶人) I 2 5 0 7  
 弥五郎(やごろう・恵川) → 景之(かげゆき・恵川えがわ、藩士/和算) L 1 5 4 4  
 弥五郎(やごろう・宝生) → 友子(ともゆき・宝生ほうしょう、能楽師) Q 3 1 8 7  
 弥五郎(やごろう・村山) → 大湖(たいこ・村山むらやま、俳人) J 2 6 9 2  
 弥五郎(やごろう・布屋) → 竹泉(ちくせん・関せき、商家/茶人) D 2 8 2 9  
 弥五郎(やごろう・中里) → 常嶽(つねおか・中里なかざと、商家/歌人) B 2 9 7 8  
 弥五郎(やごろう・田中) → 従吾軒(じゅうごけん・田中、藩儒) X 2 1 2 6  
 弥五郎(やごろう・国田) → 敬武(たかたけ・国田くにた、国学者/神職) W 2 6 8 9  
 弥五六(やごろく・馬場) → 唯政(ただまさ・馬場ばば、藩士/鉾山開発) Q 2 6 8 1  
 野宰相(やさいしょう) → 篁(たかむら・小野・野相公、廷臣/詩歌) 2 6 1 9  
 野宰相(やさいしょう) → 好古(こうこ・よしふる・小野、篁の孫/純友追捕/歌) 1 9 0 9
- 4562 **弥左衛門**(やざえもん・新井あらい)?-? 江中期宝永1704-11頃武州埼玉郡広田村の文筆家、  
 1707「埼玉郡広田村開発誌」著
- 4563 **弥左衛門**(やざえもん・真館まぢち)?-1859 江後期;能登鹿島郡武部の名主、  
 1666から代々武部十村役を勤める、1822苗字を許可/24扶持;15石、  
 1853「河北郡吉原村へ御渡置候刀鍛冶焼刃土取場一件旧記」著  
 「白浜村字左衛門三男巳之吉と申す者稀成小児二付品々頂戴一件」著
- G4574 **弥左衛門**(やざえもん・松原まつばら) 1802-? 江後期;近江彦根藩士;七十人奉行、



国学;岡村教邦のりくに門、歌人:[彦根歌人伝・寿]入、

[弥左衛門(通称)の名/別通称]名;成樹しげき、別通称;弥惣右衛門

- 弥左衛門(やざえもん・宮増)→ 親賢(ちかかた・宮増弥六、能楽;鼓) 2 8 7 0  
弥左衛門(やざえもん・神屋)→ 立軒(りっけん・神屋かみや、儒者/藩出仕) B 4 9 7 1  
弥左衛門(やざえもん・北潟屋/岸)→ 大睡(だいすい・岸、商人/俳人) B 2 6 7 1  
弥左衛門(やざえもん・須田)→ 無明(むみょう;法諱・梅天;道号、臨濟僧/歌) D 4 2 0 2  
弥左衛門(やざえもん・寺崎)→ 広方(ひろかた・寺崎てらさき、藩奉行/宿老) K 3 7 2 3  
弥左衛門(やざえもん・関口)→ 柔心(じゅうしん・関口せきぐち、武道;柔術家) H 2 1 7 0  
弥左衛門(やざえもん・曾根)→ 買山(ばいざん・曾根、藩士/俳人) B 3 6 2 9  
弥左衛門(やざえもん・山路)→ 主任(ぬしづみ・山路、幕臣/天文曆算) 3 4 0 7  
弥左衛門(やざえもん・入)→ 庸昌(ようしょう・入いり、藩士/和算家) B 4 7 2 5  
弥左衛門(やざえもん・橋屋/高橋)→ 羽笠(2世うりゅう・高橋、俳人) B 1 2 0 3  
弥左衛門(やざえもん・立石)→ 包清(かねきよ・立石たていし、藩士・文筆) O 1 5 4 5  
弥左衛門(やざえもん・竹内)→ 恭通(たかみち・竹内たけうち/古川、国学) Y 2 6 0 8  
弥左衛門(やざえもん・永田)→ 重種(しげたね・永田ながた、幕臣) Z 2 1 6 1  
弥左衛門(やざえもん・村士)→ 淡斎(たんさい・村士すぐり、儒者/茶人) I 2 6 1 2  
弥左衛門(やざえもん・福王)→ 是翁(ぜおう・福王ふくおう、心学者) J 2 4 8 7  
弥左衛門(やざえもん・伊良子)→ 大洲(たいしゅう・伊良子いらこ/伊良、儒者) K 2 6 1 8  
弥左衛門(やざえもん・長谷川)→ 安辰(やすとき・長谷川/藤原、幕臣) C 4 5 2 1  
弥左衛門(やざえもん・三宅)→ 正武(まさたけ・三宅みやけ、幕臣/和学) S 4 0 8 6  
弥左衛門(やざえもん・奥村)→ 寸童(すんりゅう・奥村おくむら、俳人/武術) H 2 3 3 2  
弥左衛門(やざえもん・山路)→ 諧孝(ゆきたか・山路やまぢ/平、幕臣/天文) E 4 6 6 5  
弥左衛門(やざえもん・糍屋/真野)→ 守貞(もりさだ・真野まの、商家/詩歌) L 4 4 2 8  
弥左衛門(やざえもん・山崎)→ 知雄(ともお・山崎やまさき、国学者) P 3 1 2 2  
弥左衛門(やざえもん・水野)→ 如酔(じょすい、水野みずの、歌人) U 2 2 4 5  
弥左衛門(やざえもん・江藤)→ 正澄(まさずみ・江藤/上野、藩士/国学) D 4 0 1 0  
弥左衛門(やざえもん・梶川)→ 正陳(まさのぶ・梶川かじかわ、藩士/国学) O 4 0 8 1  
弥左衛門(やざえもん・梶川)→ 正安(まさやす・梶川/宮崎、正陳の養子) O 4 0 8 2  
弥左衛門(やざえもん・河地)→ 時叔(ときよし・河地かわち、国学) U 3 1 8 8  
弥左衛門(やざえもん・志賀)→ 延年(のぶとし・志賀しが、藩士/国学者) I 3 5 6 6  
弥左衛門(やざえもん・湯浅)→ 祇庸(やすつね・湯浅あさ、藩士/国学) H 4 5 0 0  
弥三右衛門(やざえもん・蔭山)→ 可兮(かけい・蔭山かげやま、俳人) K 1 5 7 0  
弥三右衛門(やざえもん・橋本)→ 皐鶴(こうかく・橋本、製墨業/歌人) H 1 9 9 6  
弥三右衛門(やざえもん・横井)→ 時成(ときなり・横井よこい、藩士/俳人) J 3 1 6 5  
弥三右衛門(やざえもん・高野瀬)→ 道廿(道鑑どうかん・高瀬、俳人) C 3 1 3 6  
八坂検校(やさかけんぎょう)→ 城元(城玄・じょうげん、平曲音曲者) S 2 2 0 7  
八坂中観(やさかちゅうかん)→ 澄禅(澄禅ちようぜん;法諱、真言/三論僧) J 2 8 3 0  
弥作(やさく・正直屋)→ 不二鷹(ふじたか・榎井たるい、俳人) C 3 8 4 8  
弥作(やさく・中村)→ 鸞溪(らんけい・中村なかむら、藩儒) B 4 8 8 1  
弥作(やさく・萩原)→ 広満(ひろみつ・萩原はぎわら、国学者/歌人) I 3 7 3 2  
弥作(やさく・中山)→ 豊村(とよむら・中山なかやま/多治比、国学) T 3 1 3 0  
弥作(やさく・遠藤)→ 千胤(ちたね・遠藤えんどう/平、歌人) M 2 8 1 7  
弥作(八尺やさく・津田)→ 大門(ひろかど・道家どうけ/遠藤/津田、藩士/神職) K 3 7 2 9  
弥策(やさく・柚木)→ 玉嶼(ぎよくしよ・柚木ゆきの、藩士/書家) U 1 6 1 9

E4593 やさ子(やさこ・矢田堀やたぼり)?- ? 江後期歌人、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、

[小夜更けて遠山の端はに鳴く鹿の妻どふ声を聞くぞさびしき](江戸倭歌;秋778)

1808(文化5)「真田幸弘賀集」入集の紀州藩奥勤の[やさ子]と同一?

- 弥三五郎(やさごろう・山本)→ 飛驒掾(ひだのじょう・山本、人形遣/浄瑠璃作者) B 3 7 8 6  
弥三左衛門(やさざえもん・乳井)→ 貢(みつぎ・乳井にゅうい/鈴木、藩士/財政) D 4 1 2 6  
弥三郎(やさぶろう・宇都宮)→ 頼綱(よりつな・宇都宮、領主/浄土僧/歌) 4 7 3 3

弥三郎(やさぶろう・岩松) → 高融(たかなが・岩松いわまつ、武士/詩歌) 2 7 5 1  
 弥三郎(やさぶろう・椎尾/真壁) → 真伝(しんぶつ; 法諱、城主/親鸞門真宗僧) P 2 2 7 4  
 弥三郎(やさぶろう・赤松) → 則房(のりふさ・赤松、武将) F 3 5 6 9  
 弥三郎(やさぶろう・石井) → 了派(りょうは・石井いし、連歌作者) J 4 9 0 7  
 弥三郎(やさぶろう・支那) → 宗鑑(そうかん・山崎、連歌師/俳人) 2 5 0 5  
 弥三郎(やさぶろう・北条) → 時有(ときあり・北条/佐竹/平、武将/歌) I 3 1 9 3  
 弥三郎(やさぶろう・本間) → 松江(しょうこう・本間、藩士/医/俳人) S 2 2 1 0  
 弥三郎(やさぶろう・大久保) → 忠恒(ただつね・大久保おおくぼ、幕臣) P 2 6 8 6  
 弥三郎(やさぶろう・橋村/荒木田) → 久老(ひさおゆ・荒木田/度会、神職/国学) 3 7 0 5  
 弥三郎(やさぶろう・竹田/内藤) → 清成(きよなり・内藤、幕臣/日記) Q 1 6 0 6  
 弥三郎(やさぶろう・乳井) → 貢(みつぎ・乳井にゅうい/鈴木、藩士/財政) D 4 1 2 6  
 弥三郎(やさぶろう・市野屋) → 迷庵(めいあん・市野いちの、質商/儒者) 4 3 0 0  
 弥三郎(やさぶろう・両口屋) → 帯梅(たいばい・村瀬・暮雨巷3世、俳人) C 2 6 0 6  
 弥三郎(やさぶろう・坪屋) → 方乎(ほうこ・坪屋つばや、俳人) F 3 9 6 5  
 弥三郎(やさぶろう・三木) → 通資(みちもと・三木みき、郷土史家) C 4 1 6 7  
 弥三郎(やさぶろう・細田) → 栄之(えいし・鳥文斎ちようぶんさい、幕臣/絵師) 1 3 2 8  
 弥三郎(やさぶろう・桜井) → 基佐(もとすけ・桜井さくらい、連歌) 4 4 1 3  
 弥三郎(やさぶろう・一条) → 正直(まさなお/まなお・一条、藩士/天文) F 4 0 0 5  
 弥三郎(やさぶろう・椎名/酸漿かたばみ屋) → 管鳥(かんちよう・不夜庵3世、俳人) R 1 5 4 1  
 弥三郎(やさぶろう・久代) → 寛斎(かんさい・久代くしろ、儒者) H 1 5 5 9  
 弥三郎(やさぶろう・清水) → 中洲(ちゅうしゅう・清水しみず、藩士/詩人) G 2 8 2 1  
 弥三郎(やさぶろう・川路) → 宜麦(ぎばく・川路かわじ、幕臣/俳人) 1 6 2 5  
 弥三郎(やさぶろう・二山) → 時習堂(じしゅうどう・二山ふたやま、儒者) D 2 1 9 1  
 弥三郎(やさぶろう・加藤) → 千浪(ちなみ・加藤/藤原、国学者/歌人) F 2 8 1 0  
 弥三郎(やさぶろう・大滝) → 光憲(みつあきら・大滝/田中、商家/国学) E 4 1 4 8  
 弥三郎(やさぶろう・伊部) → 義成(よしなり・伊部いべ、藩士/歌人) F 4 7 4 3  
 弥三郎(やさぶろう・松平) → 康爵(やすたか・松平まつだいら、藩主/歌人) B 4 5 8 7  
 弥三郎(やさぶろう・松平) → 乗富(のりとみ・松平まつだいら/源、幕臣/国学) F 3 5 2 5  
 弥三郎(やさぶろう・貴志) → 朝暎(ちようとん、貴志きし、幕臣/文筆家) J 2 8 5 8  
 弥三郎(やさぶろう・堤) → 喜之(よしゆき・堤つみ、歌人) H 4 7 9 5  
 弥三郎(やさぶろう・児島) → 清文(きよふみ・児島こじま、絵師/国学) U 1 6 3 4  
 弥三郎(やさぶろう・吉田) → 蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師) L 2 5 1 4  
 弥三郎(やさぶろう・池田) → 正慶(まさよし・池田いけだ、和算家) I 4 0 7 6  
 弥三郎(やさぶろう・池永) → 祇徳(まさのり・池永いけなが、藩士/歌人) N 4 0 5 4  
 弥三郎(やさぶろう・根木谷) → 正孝(まさたか・根木谷ねきや、国学者) D 4 0 2 7  
 弥三郎(やさぶろう・宮崎) → 青谷(せいこく・宮崎/宮、藩士/儒者/画) I 2 4 1 4  
 弥三郎(やさぶろう・明石) → 博高(ひろあきら・明石あかし、医者/殖産家) L 3 7 9 4  
 八三郎右衛門(やさぶろうえもん・鷹見) → 星臯(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩) B 2 4 4 5  
 弥三(やさん) → 弥三(びさん、俳人) I 3 7 0 2  
 弥三次(やさんじ・鈴木/柳川) → 重信(初世しげのぶ・柳川やながわ、絵師) C 2 1 7 4  
 矢治馬(やじうま/しじま?・長尾) → 遁翁(とんおう・長尾ながお、儒者/勤王論) S 3 1 0 6  
 矢治馬(やじうま/しじま?・鈴木) → 永頼(ながより・鈴木すずき/穂積/竹本、藩士) N 3 2 5 3  
 弥次右衛門(やじえもん・前嶋) → 邦之(くにゆき・前嶋まえじま、藩士/歌人) E 1 7 4 9  
 弥次右衛門(やじえもん・前嶋) → 文香(ふみか・前嶋まえじま、藩士/歌人) I 3 8 7 1  
 弥次右衛門(やじえもん・林) → 自見(じけん・林はやし、町役/郷土史家) D 2 1 5 4  
 弥次右衛門(やじえもん・中島) → 範武(のりたけ・中島なかじま、国学者/歌) J 3 5 3 7  
 弥次右衛門(やじえもん・成宮) → 弘平(ひろひら・成宮なるみや、里正/歌人) K 3 7 5 1

4564 **夜潮**(やしお・矢野やの、名; 正敏) 1782-1828 47 京の絵師: 山口素絢門、姉小路大宮東・四条堀町住、  
 1811「ありま筆」画、「狂歌画賛集」画、  
 [夜潮(;号)の字/通称]字; 仲観、通称; 長兵衛/物集女もずめ

- 八潮(八塩やしお・帆足) → 京(みさと・帆足ほあし/岡、詩歌人) 4 1 8 3  
 八塩(やしお・重村) → 栄孝(しげたか・重村しげむら/林、神職/国学) O 2 1 7 5  
 八塩道翁(やしおじのおきな) → 信直(のぶなお・出雲路/板垣/春原、神職) C 3 5 4 7
- 4565 **也竺**(やじく) ? - 1785  
 山城宇治田原俳人;几董門、  
 1783維駒「五車反古」入、追善;1786「壬生念仏みぶねぶつ」春坡編、  
 [合点がてんして傾城買ふや秋の夕](五車反古;お大尽が遊郭諸事得心の上夜長を楽しむ)
- 椰園(やしぞの・鈴木) → 春蔭(はるかげ・鈴木すずき、藩士/国学者) G 3 6 0 9
- 4566 **弥七**(やしち・田辺たなべ) ? - ? 江後期歌舞伎作者;市岡和七門、  
 1795(寛政7)大坂中村金蔵座から1829(文化12)頃まで上方で活動、  
 1799「紅楓秋葉話」1801「銘作切籠曙」04「一陽扇勝鬨」07「女庭訓倭詞」、  
 1711「以呂波歌桜秀逸」/12「茜染浪花の色揚」「敵討義恋柵」著
- 弥七(やしち・石原) → 有物(うぶつ・石原いほら、俳人) D 1 2 2 8  
 弥七(やしち・木下) → 依勝(よしかつ・木下きのした、国学者) M 4 7 3 5  
 弥七(やしち・林) → 言文(ことぶみ・林はやし、商家/国学/歌) R 1 9 1 7
- 4567 **弥七左衛門**(やしちざえもん・佐野さの、総左衛門男)?-? **肥前**島原藩士;藩主松倉重政の弟重次の家人、  
 1637-38父と島原の役に参戦、1669(寛文9)「島原実記」著
- 弥七左衛門(やしちざえもん・中村) → 浄心(じょうしん;法名・中村、文筆家) K 2 2 0 4  
 [道喜(法号)初名/通称]初名;中村五郎左衛門、通称;渡辺弥七郎
- 弥七郎(やしちろう・渡辺) → 道喜(どうき・川端かわばた/渡辺/;中村、商家/国学) T 3 1 6 9  
 弥七郎(やしちろう・宮地) → 静軒(せいけん・宮地みやじ、藩儒者) B 2 4 2 3  
 弥七郎(やしちろう・赤尾) → 道宗(どうしゅう;法諱・赤尾あかお、真宗僧) F 3 1 0 2  
 弥七郎(やしちろう・江馬) → 久重(ひさしげ・江馬えま、和算家) B 3 7 1 1  
 弥七郎(やしちろう・牛尾) → 以直(ゆきなお・牛尾うしお、藩士/国学/歌) G 4 6 6 2  
 弥七郎(やしちろう・吉津) → 綾文(あやふみ・吉津よしづ、国学者/歌人) I 1 0 8 0  
 育(やしなう・河尻) → 春之(はるの・河尻かわじり、幕臣) 3 6 3 4  
 椰野屋(やしのや) → 嵐外(らんがい・辻つじ/山本、商家/俳人) B 4 8 6 5  
 椰廼舎(やしのや・松本) → 光清(みつきよ・松本まつもと、歌人) K 4 1 5 7  
 弥次平(やじへい・荒居) → 善長(よしなが・荒居あらい、藩士/茶人) L 4 7 3 0  
 弥次平(やじへい・荒居) → 朗(あきら・荒居あらい、藩士/歌人) G 1 0 8 7  
 弥次兵衛(やじべえ・三好/豊臣) → 秀次(ひでつぐ・豊臣、武将/連歌) D 3 7 2 1  
 弥次兵衛(やじべえ・名倉) → 千金(ちかね・名倉なくら、国学者) N 2 8 1 0  
 弥次兵衛(やじべえ・三宅) → 正武(まさたけ・三宅みやけ、幕臣/和学) S 4 0 8 6  
 弥次兵衛(やじべえ・三宅) → 正邦(まさくに・三宅、正武男/幕臣) S 4 0 8 5  
 やしほの子(やしほのこ) → 紅子(もみこ・小曾根/片野、歌人) E 4 4 9 5
- E4562 **やしま**(八島;組連) ? - ? 江中期四日市(武蔵入間郡?)の雑俳の組連、  
 取次;1737・48「雲鼓評万句合」49「菊丈評万句合」入、  
 取次例;[乳ををしむ気から小児せうにの欲もでき](1737万句合/前句;ほつりほつりと々々)、  
 (のちの東朔軒儘成[片乳房握るが欲の出来はじめ](柳多留;二六)の原型)
- 弥治馬(やじま・荻野) → 朝匡(ともまさ・荻野おぎの/鈴木、藩士/歌) U 3 1 6 1  
 八しま翁(やしまおう) → 丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、戯作/狂歌) C 1 6 0 3  
 八島定岡(やしまていこう;画号) → 丘山(きゅうざん・岳亭、戯作/狂歌) C 1 6 0 3  
 野雀(やじやく) → 湖中(3世こちゅう、岡野、藩士/俳人) D 1 9 3 2  
 野雀(やじやく) → 五道(ごどう・松屋、俳人) N 1 9 2 3
- 4568 **夜舟**(やしゅう) ? - ? 俳人;1689「あら野」1句入;  
 [打ち折りて何れぞにしたき氷柱つらら哉](あら野;五仲冬)
- 野洲(やしゅう・難波) → 義材(よしき・難波なんば、医者/詩歌人) D 4 7 0 6  
 弥十(やしじゅう・青木) → 芳斎(ほうさい・青木/湯浅、蘭方医者) 3 9 8 5  
 弥十(やしじゅう・桑原) → 千町(ちまち・桑原くわばら、国学/歌人) M 2 8 4 8  
 野洲良(やしゅうりょう・榛原) → 野洲良(安良やすら・関岡せきおか/榛原/梅原、能楽装束/歌学) D 4 5 6 3

- 4569 **弥十郎**(やじゅうろう;通称・岩瀬いわたせ)?-? 肥前長崎の通事;阿蘭陀小通詞、  
1808英艦隊長崎港闖入事件;幕府は通詞に英・露語の学習を弥十郎ら6名に命ず;  
英語学習;和蘭商館のプロムホフ門;わが国最初の公式英語学習/1808蛮学稽古世話役、  
1811「諸厄利亜言語和解」を吉雄権之助らと幕府に献上、「嘆咭喇新聞紙」:訳、  
1826和蘭甲必丹スチュルレルの医員シーボルトを伴い江戸参府に随行  
弥十郎(やじゅうろう・東郷)→ 重位(ちゅうい・東郷/瀬戸口、藩士/兵法家) H 2 8 1 8  
弥十郎(やじゅうろう・立花)→ 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9  
弥十郎(やじゅうろう・木村)→ 高敦(たかあつ・木村毅斎、幕臣/巷談研究) C 2 6 4 9  
弥十郎(やじゅうろう・田中/鎬木)→ 梅溪(ばいけい・鎬木/田中、絵師) B 3 6 0 3  
弥十郎(やじゅうろう・田中/加藤)→ 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆) G 2 1 0 5  
弥十郎(やじゅうろう・中山)→ 業智(なりさと・中山なかやま、幕臣/平曲) H 3 2 3 5  
弥十郎(やじゅうろう・熊野屋)→ 有秀斎蘭亭(ゆうしゅうさいらんてい、山本直秀/絵師) C 4 6 3 2  
弥十郎(やじゅうろう・津田/高林)→ 利直(としなお・高林、幕臣) N 3 1 1 1  
弥十郎(やじゅうろう・三宅)→ 正武(まさたけ・三宅みやけ、幕臣/和学) S 4 0 8 6  
弥十郎(やじゅうろう・大堀)→ 守雄(もりお・大堀おほり、藩士/国学者) F 4 4 1 8  
弥十郎(やじゅうろう・荒井/勝田)→ 半斎(はんさい・勝田、幕臣/儒/詩) H 3 6 6 6  
弥十郎(やじゅうろう・高井)→ 八穂(やつほ・高井/常磐井、国学/歌人) D 4 5 7 9  
弥十郎(やじゅうろう・梅沢)→ 西郊(せいこう・梅沢うめざわ、幕臣/漢学者) B 2 4 4 4  
弥十郎(やじゅうろう・安武)→ 巖丸(いずまる・安武やすたけ、藩士/儒者) F 1 1 7 3  
弥十郎(やじゅうろう・植田)→ 景賢(かげかた・植田うえだ、儒者) K 1 5 8 4  
弥十郎(やじゅうろう・村士)→ 淡斎(たんさい・村士すぐり、儒者/茶人) I 2 6 1 2  
弥十郎(やじゅうろう・渥美)→ 忠直(ただなお・高山/渥美、幕臣/和算) Q 2 6 2 4  
弥十郎(やじゅうろう・村上)→ 徐暁(じよぎょう・村上むらかみ、俳人) M 2 2 2 7  
弥十郎(やじゅうろう・岡内)→ 幸盛(ゆきもり・岡内おかうち/平、医者/歌) G 4 6 7 0  
弥十郎(やじゅうろう・赤井)→ 直矩(なおのり・赤井あかい、幕臣/歌人) K 3 2 7 6  
E4575 **夜章**(やしやう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「若みどり」入、  
[追従ついで様の様さまより意味のあるめの字](若みどり/お世辞の「様」より愛の「こいつめ」)  
4570 **野松**(やしやう・工藤くどう、名;祐孝)1752-181867 羽後秋田藩士;藩の仕立方、  
久保田城下檜山恵比寿堂住/俳人:1793五明門、1803「俳哲五明集」編、「小夜砧」著、  
「とも雀」「松の臚」「細橋筆記」「和詩双紙」著、一茶と交流、  
[野松(;号)の通称/別号]通称;紋右衛門/庄左衛門、別号;是胆斎/落笠/睡鷗閑人  
法号;法庵野松居士  
4571 **野松**(やしやう・富峯観) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃武州吉見の俳人:  
玄武坊門か?、莊丹と交流、「俳諧初門」著  
野松庵(やしやうあん) → 郁賀(いくが・野松庵、俳人) F 1 1 2 8  
野相公(やしやうこう) → 篁(たかむら・小野・野宰相、廷臣/詩歌) 2 6 1 9  
野松亭(やしやうてい) → 雪芝(せつし・広岡ひろおか、商家/俳人) E 2 4 4 1  
4572 **夜食時分**(やしよくじぶん・本名不詳)?-? 江前期大阪の浮世草子作者/俳人/小咄を嗜む、  
1696「好色万金丹」「座敷咄」/1702「好色敗毒散」、好色万金丹登場人物の紫竹堂鶯栖説あり、  
[一寸の光陰は沙裏しりの金かねもうけ取りはづす事ぞや]  
(沙裏の金は砂の中の金きん;好色敗毒散)  
屋職堅丸(やしよくのかたまる)→ 千首楼堅丸(せんしゅうろうかたまる、狂歌作者) M 2 4 4 8  
埜処軒(やしよけん) → 元政(げんせい、日政、日蓮僧/詩歌) 1 8 2 3  
矢代(やしよ→しだい) → 矢代(しだい、俳人) D 2 1 0 8  
4573 **彌四郎**(やしろう・四野宮しのみや)?-? 江前期万治-延宝1658-81頃;金平浄瑠璃作者、  
岡清兵衛と同時代か、「四天王」著  
4574 **彌四郎**(やしろう・但見ただみ)? - ? 江中期大坂豊竹座の浄瑠璃合作者、  
1746-7頃浅田一鳥らと活動、1746「花筏巖流島」/47「裙重紅梅服」「万戸將軍唐日記」著、  
仙鶴と同一か? → 仙鶴(せんかく・但見、浄瑠璃作者) F 2 4 0 4  
弥四郎(やしろう・陸奥) → 時茂(ときしげ/ときもち・北条、武将/歌人) J 3 1 1 7



弥四郎(やしろう・長谷場)→ 宗純(そうじゅん・長谷場はせば、武将/記録) H 2 5 9 0  
 弥四郎(やしろう・平沢) → 了佐(りょうさ・古筆こひつ、平沢、古筆家祖) H 4 9 5 6  
 弥四郎(やしろう・浜田/本居)→ 内遠(うちとお・本居もとおり、国学者) 1 2 7 4  
 弥四郎(やしろう・海野) → 紫瀾(しらん・海野うんの、藩士/儒者) M 2 2 9 5  
 弥四郎(やしろう・木村) → 鐘成(かねなり・暁、商家/戯作/絵師) C 1 5 9 3  
 弥四郎(やしろう・金子) → 国信(初世くにのぶ・歌川、絵師/草双紙) B 1 7 5 8  
 弥四郎(やしろう・青地) → 兼山(けんざん・青地あおち/あおち、藩士/儒者) B 1 8 9 4  
 弥四郎(やしろう・小松) → 言彦(ことひこ・小松こまつ、国学者) N 1 9 3 4  
 弥四郎(やしろう・田中/加藤)→ 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆) G 2 1 0 5  
 弥四郎(やしろう・山城屋)→ 大蘇(たいそ・高橋、商家/俳人) B 2 6 8 0  
 弥四郎(やしろう・橘屋) → 大巢(たいそう・高橋/平井、商家/俳人) K 2 6 5 4  
 弥四郎(やしろう・両口屋)→ 帯梅(たいばい・村瀬、商家/暮雨巷3世/俳人) C 2 6 0 6  
 弥四郎(やしろう・兵庫屋)→ 大阜(だいふ/たいふ・村瀬、商家/俳人) K 2 6 9 9  
 弥四郎(やしろう・二村) → 秋主(あきぬし・二村ふたむら、国学者) I 1 0 3 8  
 弥四郎(やしろう・岩堀) → 氏応(うじまさ・岩堀いわほり、藩士/国学) E 1 2 5 5  
 弥四郎(やしろう・西村) → 清臣(きよおみ・西村にしむら、藩士/歌人) U 1 6 0 5  
 果楽(からく・都筑) → 弥厚(みつあつ・都筑つづき、酒造業/用水路開削) J 4 1 7 6  
 弥四郎(やしろう・木下) → 相幸(すけただ・木下きのした、医/絵師/歌) I 2 3 3 4  
 弥四郎(やしろう・長田) → 美年(よしとし・長田ながた、藩士/歌人) N 4 7 8 4  
 弥四郎(やしろう・山岡) → 綏忠(よしただ・山岡やまおか、和算家) E 4 7 3 0

F4510 弥二郎(やじろう・品川しながわ、弥市右衛門男) 1843-1900 58 母;池田六左衛門女まつ、長州萩藩士、萩郊外の松本村川端の生/1857吉田松陰の松下村塾入学;尊王攘夷運動に参加、高杉晋作・久坂玄瑞らと英国公使館焼討参加/桂小五郎・山県有朋・伊藤博文らと国事奔走、薩摩藩士と交流;倒幕、1870-78欧州留学;組合制度など研究/帰国後;殖産興業を推進;日本農会・大日本森林会を組織/日本郵船会社設立/のちドイツ駐在大使・内務大臣、晩年は京都に尊攘堂を設置;維新関係資料を蒐集、「品川弥二郎手記」「品川弥二郎日記」著、[弥二郎(;通称)の名/字/別通称/号/変名]名;日孜、字;思父、別通称;省吾/弥吉、号;扇洲/苦談楼/念仏庵主/苞子/春狂/五明州/花月楼/露山荘主人/尊攘堂主人、変名;橋本八郎/松本清熊、法号;至誠院

弥二郎(やじろう・由美) → 希賢(まれかた・由美ゆみ/稲富、儒者/詩) K 4 0 2 3  
 弥二郎(やじろう・金沢) → 北周(ほくしゅう・葛飾かつしか、絵師) D 3 9 3 8  
 弥二郎(やじろう・菅原) → 貞継(さだつぐ・菅原すがわら、神職/国学) O 2 0 6 9  
 彌次郎(やじろう・観世) → 長俊(ながとし・観世、能役・作者) 3 2 1 1  
 弥次郎(やじろう・岡部) → 長盛(ながもり・岡部おかべ、城主/歌/連歌) G 3 2 1 1  
 弥次郎(弥二郎やじろう・里村)→ 昌休(しょうきゅう・里村、連歌師;家祖) S 2 2 0 3  
 弥次郎(弥二郎やじろう・里村)→ 昌叱(しょうしつ・里村、南家の祖/連歌師) 2 2 2 6  
 弥次郎(やじろう・桜井) → 基佐(元佐もとすけ・桜井さくらい、連歌) 4 4 1 3  
 弥次郎(やじろう・土肥) → 範平(のりひら・土肥とい、神職/連歌) G 3 5 4 8  
 弥次郎(やじろう・安島/戸田)→ 信立(のぶたつ・安島あじま、家老/藩政改革) B 3 5 8 7  
 弥次郎(やじろう・久田) → 宗也(そいや・久田;4世、不及斎、茶人) C 2 5 4 2  
 弥次郎(やじろう・松前/蠣崎)→ 波響(はきょう・蠣崎かきさき、藩家老/絵師) C 3 6 4 6  
 弥次郎(やじろう・幸若) → 直包(ちよくほう・幸若こうわか、舞曲大夫) K 2 8 3 3  
 弥次郎(やじろう・坂井) → 茂喬(しげたか・坂井さかい、藩士/詩人) R 2 1 2 1  
 弥次郎(やじろう・山崎) → 籍侃(よりただ・山崎やまざき、藩士) I 4 7 9 7  
 弥次郎(やじろう・田中) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
 弥次郎(やじろう・布施) → 山手白人(やまてのしろひと、布施胤致たねよし、幕臣/狂歌) E 4 5 1 4  
 弥次郎(やじろう・釜屋) → 好友(よしとも・北野きたの、名主/国学) M 4 7 4 8  
 弥次郎(やじろう・伊部) → 義成(よしなり・伊部いべ、藩士/歌人) F 4 7 4 3  
 弥次郎(やじろう・今泉) → 千秋(ちあき・今泉いまいづみ、歌人/史家) M 2 8 1 0  
 弥次郎(やじろう・竹内) → 経成(つねなり・竹内たけうち/葛城/日野、藩士/勤王) F 2 9 9 7

- 弥次郎右衛門(やじろうえもん・藤川)→ 整斎(せいさい・藤川、剣道/故実) I 2 4 2 7
- 4575 **八代女王**(矢代女王やしるのおおきみ)?-? 奈良期;737(天平9)正五上/のち従四下、聖武天皇先帝に寵愛を受けていたのに没後志を改めたため758(天平宝字2)位記剥奪、万葉歌人;四626、新古1376、  
[君により言の繁きを故郷ふるさとの明日香の川にみそぎしに行く](万葉;四626)、  
(下三句;竜田越え三津の浜辺にみそぎしに行く/寵愛を妬む噂で身が穢れたので)
- 野仁(やじん;変号) → 杜国(とこく・坪井つばい、商家/俳人) L 3 1 7 1  
野人(やじん・加藤) → 致隆(むねたか・加藤かとう、医者/国学者) D 4 2 7 0
- 4504 **陽春**(やす・麻田あさだの連むらじ、初名;答本とうほん/たほ陽春ようしゅん)?-?(56歳) 奈良期の百濟渡来系廷臣、724(神亀元)正八位;麻田連を賜る/729(天平初年)頃正七上筑前大宰府大典;731頃従六上、739外従五下/のち石見守、詩歌人、詩;懷風藻1首入、歌;万葉集;短歌4首、  
万葉:730大伴旅人の帰京餞別歌;四569-570/大伴熊凝への挽歌;五884-885、  
[韓人からひとの衣染そむといふ紫の心に染しみて思ほゆるかも](万;四569/蘆城駅での送宴)、  
(紫根染色法は朝鮮から渡来;衣服令で紫服は三位以上/ここで紫服着用者は旅人のみ)
- H4510 **泰明**(やすあき・度会たらい、)?-? 鎌倉南北朝;伊勢外宮権禰宜、  
歌人:1334度会朝棟亭八月十五夜歌会参加(3首)、  
[わきて猶今宵光をさし添へて月も明石の浦やさやけき](朝棟亭歌;67)、  
[偽りの人の心はしらねども頼めしままの暮ぞ待たるる](同;68)
- 4577 **康顕**(やすあき・中原なかはら、康富やすとみ男)?-? 室町戦国期廷臣;1447頃隼人正/正五上/権大外記、1488出家、1474(文明6)「中原康顕叙位任官口宣案」著、康友の父
- 4578 **泰昭**(やすあき・大谷おおたに)?-? 歌人;鳥居経厚門、  
1522鳥居経厚より古今伝授を受:「古今集聞書」著
- 4579 **安証**(やすあき・桜井さくらい、通称;八右衛門)?-? 安桃江前期;慶長・寛文1596-1673頃仙台の能楽師、代々能楽シテ方;百五十石、1610奈良で金春翁太夫門、伊達正宗配下で能楽を催行、1668「古八右衛門様大坂御陳並勤功書」著
- E4557 **安明**(やすあき・塚口つかぐち)?-? 江前期撰津俳人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入、1691不角「二葉之松」1句入、  
[突く羽の空より落おる数よりも恋ぞ積りて思ふ小姫子こひめご](古今夷曲集;七恋)  
(本歌「筑波嶺の峰より落る男女の川」の陽成院の歌、幼女から娘への変身)
- E4567 **安明**(やすあき・渋谷しぶや)?-? 江前期大阪の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[秋風にはやりくわんとんの柳かな](手鑑/流行の間島柳條かんとうじま)
- G4508 **康明**(やすあき・鈴木すずき、号;秋月)1659-171961 伊予今治藩士、和学者/歌人
- 4580 **安明**(やすあき・会田あいだ/鈴木、初名;重松、会田重兵衛男)1747-181771 羽前山形七日町の和算家:  
1762岡崎安之門、69江戸で旗本鈴木清左衛門の養子;鈴木彦助名で幕臣御普請役、  
1787罷免;会田に復姓、数学研究に専念/地歴・天文にも興味、1765「無極演段集」、  
1766「大極天元記」81「諸雑算集」82「算法一百題」94「算法変式術」99「算用手引草評林」、  
1804「換式法」07「算法伝書索引」、「円率之真術」「算題求源集」「自在漫録」外著書多数、  
[安明(;名)の字/通称/号]字;子貫/安旦、通称;算左衛門/彦助、号;自在亭、法号;数学院
- F4526 **保秋**(やすあき・井上いのうえ、)?-1821 伊予宇和島の国学者/歌人;本居内遠、  
[保秋(;名)の別号/通称]別号;美稲(うましね?)、通称;平馬/平蔵
- 4581 **保章**(やすあき・橋爪はしづめ、通称;新八)?-? 江後期江戸牛込中御徒町の関流和算家;藤田嘉言門、  
1817(文化14)「所懸于東都芝明神宮標額」著
- 4582 **保明**(やすあき・田口たぐち、通称;膳八)1804-9289 武州入間郡の国学者;塙保己一門、澤田泉山の師、  
「言葉のしるべ」「源氏物語註釈」「百人一首註釈」「皇朝治乱」著
- 4583 **康晟**(やすあき・大脇おおわき、六郎左衛門男)1830-7041 加賀金沢藩士、「言葉のめはえ」著、  
[康晟(;名)の通称]康八/直良
- G4502 **安明**(やすあき・諏訪すわ、)1834-189663 近江野洲郡赤野井村淀藩領の大庄屋の家、  
維新後;大津県/滋賀県に出仕/初代野洲郡長、神職/歌人;[鳩のうみ]入、  
息子安敬やすたかも玉津村長、  
[安明(;名)の通称/号]通称;大輔、号;湖洲

- 4584 **保章**(やすあき・賀茂かも/幸徳井、保源やすもと男)1847-? 江後期陰陽家/暦学者、1855越前守、  
「慶応二年(1866)七曜暦」著
- G4598 **泰明**(やすあき・山本やまも、) ? - 1893 江後期;信濃水内郡戸隠神社祠官、  
東京住/国学;井上頼囿門;神習舎に修学、雄弁家、九州の霧島神社禰宜/神宮教入信、  
郷里長野県で神宮教上田本部の創立に関与
- 安明(やすあき・竹内) → 東門(とうもん・竹内たけうち、儒者/医者) H 3 1 4 6  
 休明(保明やすあき・鷺見) → 休明(保明やすあき・鷺見すみ、藩士/歌) 4 5 8 8  
 保章(やすあき・杓掛) → 芑乎(みんこ・杓掛くかけ、農家/俳人) G 4 1 7 9  
 保明(やすあき・柳沢) → 吉保(よしやす・柳沢/源/松平、藩主/歌) H 4 7 7 5  
 保明(やすあき・柳沢) → 保光(やすみつ・柳沢、藩主/諸芸) D 4 5 1 6  
 泰明(やすあき・葛西/佐藤) → 一清(かずきよ・佐藤/葛西、和算家) M 1 5 1 8  
 泰秋(やすあき・大江) → 経親(つねちか・大江/毛利、廷臣/歌人) C 2 9 4 9
- H4513 **康詮**(やすあきら・松平まつだいら/家名;松井/本姓源、源太郎康納男)1701-6868 幕府の御使番/新番頭、  
西丸御小性組番頭/御留守居、従五下、内匠頭、歌人;冷泉家門、1768広通[霞関集]初撰;入  
[さまざまに過ぎしを夢になしてしも思ひ出づるや夜半の手枕たまくら](霞関初撰;思往事)、  
[康詮(;名)の通称]源太郎(父の称)/主馬、法号;泰翁
- 4585 **安卿**(やすあきら・長谷川はせがわ/本姓藤原、別号;安郷やすさと、田中邱隅男)1719-7961 長谷川安貞養嗣子、  
幕臣;1760家督嗣/小普請/65御書物奉行、歌;冷泉家門;江戸冷泉門の主要人物/和文家、  
「夏野の草」、1770「安郷集」「安郷詠草」著、  
1763磯野政武催「遊角筈つのはずの別荘記」入(17首/詩2編)/1798刊広通「霞関集」入、  
[浅緑なびく煙も一しほの松より霞む春の山の端](霞関;春23)、  
[立ちぬるゝ雨もうからずふり出でばなほ色そはむ木々のした陰](遊角筈別荘記)、  
[安卿/安郷(;名)の通称/法号]通称;主馬/帯刀、法号;仁諦院
- 4586 **保明**(やすあきら・水原みずはら/本姓源、幸田高成2男)1722-9271 母;高柳行氏女、幕臣水原保氏の養嗣、  
1743保氏の遺跡継嗣;小普請/組頭/1766腰物奉行/76禁裏付、82加増され禄計4百俵、  
1791御先鉄炮頭/従五下/撰津守/近江守、歌人;武者小路家門、  
1786「鳳闕年中行事」著/89「禁中恒例年中行事」編/「禁中恒例行事略」著、  
[保明(;名)の通称/号]通称;善次郎、号;澹斎、法号;道教
- 4587 **保暁**(やすあきら・賀茂かも/幸徳井こうとく、保篤男)1730-180273 実は近衛家諸大夫今大路孝道2男、  
母;小川則三津女、陰陽暦学者、廷臣;暦博士/能登守/1754陰陽頭/59主計頭/77刑部大輔、  
1802従三位、  
1743(寛保3)「寛保四年具注暦」編/「賀茂具注暦明和元年(1764)」「明和六年御暦」著
- 4588 **休明**(保明やすあきら・鷺見すみ、慶具男)1749-180759 因幡鳥取藩士;1775家督嗣;  
伯耆米子組士筆頭役、1779病で致仕/89復職/94鳥取東館新田藩主池田仲雅付人/98藩用人、  
文化政策;好学を高揚、漢学;安藤箕山門/歌・歌学;父母門、米子歌壇を振興、  
鳥取で衣川長秋と交流、紀行・歌日記著/能書家、  
「鷺見慶明詠草」「孝経大意」著/「鷺見翁家集」(1820息子安歎編)、「鷺見休明遺稿」、  
[休明(保明;名)の別名/字/通称/号]別名;慶明、字;子休、通称;新助/権之丞、  
号;淡成舎/忘言亭、安歎やすよの父
- 4589 **保明親王**(やすあきらしんのう、名;崇象、醍醐天皇皇子)903-923早世21 母;穩子/904皇太子、  
911改名;保明、歌;  
「帯刀陣歌合」主催[;保明親王春宮坊(904-923頃)護衛の帯刀達がその陣で開いた歌合]、  
(坂上葛亮・伴のとしざね等参加):この歌合は景物歌題の完全な形の最古の純粹歌合
- 4590 **保篤**(やすあつ・賀茂/加茂かも/幸徳井、友親男)1702-4847 廷臣;天文暦学;彦根藩士平石時光門、  
1729陰陽助/32暦博士/43従四上/47和泉守、1729「祓祭文集」編、「仮名暦註」著、  
1743(寛保3)「寛保四年具注暦」編
- F4565 **泰温**(やすあつ・加藤かとう、泰統やすむね長男)1716-174530 母;中川久通女、伊予大洲藩江戸藩邸の生、  
伊予大洲藩5代藩主;1727(享保12)父没;家督継嗣、1732(享保17)大飢饉で餓死者多数、  
さらに城下町火災や幕府の公役・参勤交代で財政窮乏;儉約令で緊縮財政策・文教政策、  
国学修学、正室;土岐頼稔女の智峰院/加藤泰武の父、養子泰衡やすみちが跡を継嗣、



[泰温(；名)の別名/通称/号]別名;泰古/泰見、通称;隼人/遠江守、  
号;山月堂/養魚舎/千扇、法号;太心院

※大洲藩歴代藩主

貞泰(初代)・泰興・泰恒・泰統<sup>ひね</sup>・泰温<sup>あつ</sup>・泰衛<sup>みち</sup>・泰武・泰行・泰候<sup>とき</sup>・泰濟・泰幹・泰祉・泰秋

- 4591 **恭厚**(<sup>やすあつ</sup>・菅野<sup>かんの</sup>) 1730-1810<sup>81</sup> 陸前仙台藩の茂庭家の家臣/儒者;荒井滄州門、  
のち江戸に遊学、帰郷後茂庭家の学館大成館の学頭、晩年は国学も修学、  
「東門詩集」「東門文集」「菅薦」著、  
[恭厚(；名)の字/通称/号]字;子敦、通称;亀六、号;東門
- H4503 **安斐**(<sup>やすあや</sup>・脇坂<sup>わきさか</sup>、伊勢津藩主藤堂高猷4男) 1839-1908<sup>70</sup> 播磨龍野の脇坂安宅の養子、  
1862(文久2)養父隠居;家督嗣;龍野藩10代藩主、譜代のため佐幕派;摂津国の海防警備、  
1864(元治元)一次長州征討に参加/二次には病氣理由に出征辞退、  
1868戊辰戦争には新政府軍に恭順;会津戦に参加、1869-71龍野藩知事、歌人/茶人、  
廢藩後;東京住/錦鶏間祇侯、御歌所に出仕/茶道宗偏の家元を預る/謡曲・鼓を嗜む、  
[安斐(；名)の初名/通称/号]初名;安岑、通称;鎮三郎/淡路守、号;香山/霞廼屋/力圀齊
- H4515 **安居**(<sup>やすい</sup>・尾張<sup>おわり</sup>、) ? - ? 平安前中期廷臣;近衛将監、舞樂の家か?、  
965(康保2)桜花の宴に紫宸殿軒廊<sup>こんろう</sup>にて呂律の舞を奉仕(袋草紙入)
- 4520 **野水**(<sup>やすい</sup>・岡田<sup>おかだ</sup>、名;幸胤[行胤]) 1658-1743<sup>86</sup> 尾張名古屋大和町の呉服商、  
岡田家は名古屋城下で清須越と称される旧家;代々目見<sup>めみ</sup>町人、之水も惣町代を務める、  
茶人;宗和流、俳人;初め貞門派横船・流水門/1684芭蕉門、芭蕉没後は茶道に専念、  
1676季吟「続連珠」入/84「冬の日」興行参加;34句入、89「曠野」98句/91北枝「卯辰集」2句入、  
1693荷兮「曠野後集」入/94「猿蓑」13句入、  
[峰の雲すこしは花もまじるべし](あら野;一花)、  
[野水(；号)の通称/別号]通称;佐次右衛門、別号;宜齋(；茶人号)/転幽(；隠居号)
- E4574 **野水**(<sup>やすい</sup>) ? - ? 江前期甲斐鶴瀬の俳人;雑俳、  
1691不角「二葉之松」1703「広原海<sup>わたつみ</sup>」入、  
[身を責めに外より来たる鬼はなし](二葉之松;126/身を責めるのは良心の呵責)
- E4559 **野睡**(<sup>やすい</sup>) ? - ? 江戸の俳人;1691不角「二葉之松」4句入、  
[猿ならで母の夢くふ乳房の子](「二葉之松」;462/乳呑子は夢を見るひまくれない)
- 4593 **野水**(<sup>やすい</sup>・砂川<sup>すながわ</sup>) ? - ? 江中期享保1716-36頃阿波の郷土/農学家、  
農事の研究;歳時記や農業全書に漏れた農具・作物等を著す;1724「農術鑑正記」著
- 4594 **安居**(<sup>やすい</sup>・橋本<sup>はしもと</sup>、安慶男) 1752-95<sup>44</sup> 伊勢度会の神職/国学者、西河原住、  
1788(天明8)「神都雑事記」編、実盛<sup>さねもり</sup>の父、  
[安居(；名)の字/通称]字;礼郷、通称;金太夫/内記
- |                          |   |                                      |           |
|--------------------------|---|--------------------------------------|-----------|
| 野水( <sup>やすい</sup> ・浅野)  | → | コ斎(コ齋 <sup>こさい</sup> ・浅野/小川、俳人)      | C 1 9 5 7 |
| 野水( <sup>やすい</sup> ・山口)  | → | 履齋(りさい・山口 <sup>やまぐち</sup> 、藩士/儒者)    | B 4 9 0 7 |
| 康家( <sup>やすいえ</sup> ・源)  | → | 資茂(すけしげ・すけもち・源、神祇伯/歌人)               | C 2 3 2 2 |
| 保一( <sup>やすいち</sup> ・成田) | → | 道欽(みちうや・成田 <sup>なりた</sup> 、藩士/歌人)    | K 4 1 0 0 |
| 野水( <sup>やすいん</sup> ;号)  | → | 晃全(こうぜん・版橈 <sup>はんじょう</sup> ;道号、曹洞僧) | F 1 9 2 6 |
- 4595 **安家**(<sup>やすいえ</sup>・多<sup>おほ</sup>) ? - ? 平安期;大歌師、  
981「琴歌譜」を安樹より貸り伝写[奥書]
- G4579 **安屋**(<sup>やすいえ</sup>・三島<sup>みしま</sup>、本姓;越智) 1691-1763<sup>73</sup> 伊予越智郡大山祇(積)神社祠官;大祝/国学者、  
[安屋(；名)の通称]大祝<sup>おほはり</sup>
- G4509 **安宅**(<sup>やすいえ</sup>・瀬尾<sup>せのお</sup>、号;楸園) ?-1865 備中浅口郡の海運業、国学/歌人;木下幸文<sup>たかのみ</sup>門
- |                             |   |                                    |           |
|-----------------------------|---|------------------------------------|-----------|
| 康家( <sup>やすいえ</sup> ・白川)    | → | 業資(なりすけ・白川、神祇伯)                    | H 3 2 4 5 |
| 野水狂生( <sup>やすいきやうせい</sup> ) | → | 鳥道(ちようどう・広部 <sup>ひろべ</sup> 、藩儒/教育) | J 2 8 5 7 |
- 4597 **安一**(<sup>やすいち</sup>・三島<sup>みしま</sup>) ?-1720 伊豆三島の医者;盲人/鍼術;杉山和一門;  
師の医術を継承し杉山流として拡張、江戸近郊ほか45箇所<sup>か</sup>に講堂増設、1691幕府医官、  
1706法印、1694-1709江戸惣検校を勤める、島浦和田一の師、  
「真伝流表巻中巻」「真伝流秘密巻」「別伝三関法」著、



[安一(；通称)の号] 元眞院、法号；元興院

安都(やすいち) → 水雲子(すいいうんし；号、俳人) 2 3 3 0

野水堂(やすいどう、野水軒) → 白鷗(はくおう・野水堂、俳人) C 3 6 7 1

安井尼(やすいのあま) → 夕霧(ゆうぎり)・中院右大臣家、女房/歌)

4598 泰氏(やすうじ・平たいら) ? - ? 廷臣；五位/歌：続千載1490、  
[今ははや待ちならひこし夕暮を昔になしてぬるる袖かな](続千載；恋1490)

康氏(やすうじ・藤原) → 康光(やすみつ・藤原、廷臣/歌) D 4 5 1 2

安海(やすうみ・沖) → 安海(やすみ・沖)

F4538 安浦(やすうら・宇都宮うつのみや、渡部大蔵千足2男)1807-? 伊予宇和島の生、  
1832(天保3)宇都宮安一の養子/42上京；神道修学、神職；大洲新谷社の社家頭、  
東久米村字長谷の南山神社の神職、歌人、鏡男がみおの父、  
[安浦(；名)の通称/号]通称；民部、号；大洲/吾田/千入/梅窓

安宇理(やすうり・文屋；狂歌名) → 基定(もとさだ・辻本、書肆/狂歌) C 4 4 5 1

安恵(やすえ・戸川) → 安清(やすすみ・戸川とがわ、幕臣/書/歌人) B 4 5 7 6

保恵(やすえ・矢部) → 騰谷(とうこく・矢部、儒者) E 3 1 1 2

保衛(やすえ・中寺川) → 獲斎(かくさい・中寺川、俳人) G 1 5 5 1

4599 安右衛門(やすえもん・牧野まきの)?- ? 江前期肥後山鹿郡の惣庄屋/1665熊本藩士に拔擢、  
藩主細川綱利に出仕/山鹿湯町に定住；郡奉行役、1675郡方役/77郡頭；81病で致仕、  
1685隠居、1793(寛政5)「井地要略」、「田地正利之覚」著、  
肥後隈部氏の重臣の牧野主殿の末裔

安右衛門(やすえもん・板倉) → 瑣溪(こうけい・板倉いたくら、儒者) E 1 9 9 7

安右衛門(やすえもん・前原) → 勝吉(かつよし・前原まはら、神職/俳人) N 1 5 9 7

安右衛門(やすえもん・吉田) → 秀元(ひでもと・吉田、藩士/藩主系譜) D 3 7 9 9

安右衛門(やすえもん・松永) → 良弼(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士) D 4 7 7 8

安右衛門(やすえもん・菊谷) → 三惟(三以さんい・菊谷、俳人) E 2 0 0 9

安右衛門(やすえもん・井筒屋) → 佐越(さえつ・伊藤いとう、俳人) B 2 0 2 0

安右衛門(やすえもん・武嶋) → 茂道(もちみち・武嶋/菅原/丸橋、幕臣) B 4 4 7 2

安右衛門(やすえもん・中村) → 新斎(しんさい・中村なかむら、儒者) O 2 2 5 1

安右衛門(やすえもん・近田) → 八束(やつか・近田ちかだ、庄屋/国学/歌) D 4 5 7 6

安右衛門(やすえもん・吉田) → 安年(やすとし・吉田、商・農業/国学) C 4 5 2 2

安右衛門(やすえもん・河合) → 加陪仲塗(かべのなかぬり、大工/狂歌) F 1 5 8 0

安右衛門(やすえもん・岡部) → 政長(まさなが・岡部おかべ/賀茂、藩士/歌) F 4 0 2 5

安右衛門(やすえもん・松本) → 月痴(げち・松本、蔵書/窮民救済) H 1 8 2 5

安右衛門(やすえもん・榎舎/石塚) → 竜麿(たつまる・石塚、国学/歌人) 2 6 3 8

安右衛門(やすえもん・堀田) → 憲之(のりゆき・堀田ほつた、酒造業/歌人) J 3 5 9 4

安右衛門(やすえもん・近田) → 永潔(ながきよ・近田ちかだ/矢野、庄屋/国学) N 3 2 8 7

安右衛門(やすえもん・峯) → 下蔭(したかげ・峯みね、国学者) Z 2 1 3 9

安右衛門(やすえもん・菊池) → 信近(のぶちか・菊池きくち/大塚、国学者) I 3 5 1 8

安右衛門(やすえもん・加藤) → 安彦(やすひこ・加藤かとう、藩士、国学/歌) F 4 5 6 3

保右衛門(やすえもん・三田村) → 定虎(さだとら・三田村、藩士/弓術) I 2 0 9 5

保右衛門(やすえもん・木原) → 正直(まさなお・木原きはら、庄屋/儒者) P 4 0 1 4

保右衛門(やすえもん・村上) → 貞之(さだゆき・村上むらかみ、神道家/国学) P 2 0 5 6

易右衛門(やすえもん・中西) → 信慶(のぶよし・中西/秦、神道/国学) D 3 5 8 4

B4500 安雄(やすお・紀き) 822 - 886 65歳 平安前期漢学者/詩文、大学寮助教

B4501 安雄(やすお・仲野なかの、孫左衛門勝能男)1694-1778 85 淡路三原郡伊賀利・阿那郡賀浦両村の庄屋、  
儒学；阿波藩士妻木貞彦門/歌・神道；渡辺長易門、1752名字帯刀を許可、  
1755市組8か村の与頭庄屋に就任、山水を好み遊歴；諸国海辺を視察、1730「淡路常磐草」、  
1761「東鑑典故」著/「めくみ草」「鴟の茎」「阿波淡路孝義伝」「雑々腐説」「弁道掌故」著、  
「物子大学解」「物子中庸解」「新猿楽記解」「庭訓臆断」「辨異編」「出定後語附解」外著多数、  
[安雄(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；慶之助/孫総/喜総、字；近義、通称；広助、

号;修竹/修竹廬/宜々叟/宜風/雲十

- G4566 **安雄**(やすお・松井まつい、安運やすゆき2男) 1791-1864<sup>74</sup> 筑前遠賀郡若松村の里正、和学、  
[安雄(;名)の通称/号]通称;仁四郎/一内、号;古溟
- B4502 **定雄**(やすお・宮負みやおい、定賢男) 1797-1858<sup>62</sup> 下総香取郡松沢村名主/国学;宇井包教かねのり門、  
国学;1826平田篤胤門、農政に尽力/1833凶作で名主を辞し出奔/江戸付近を放浪、  
1851帰郷;著術活動、  
1826「農業要集初編」28「五穀果実並竹之男女考」/31「国益本論」「民家要術」、  
1838「五穀野菜撰種録」46「吾孀めぐり」「野夫拾遺物語」「下総明抄図絵」、  
1854「古今名筆文書」55「地震道中記」56「奇談雑史」58「貧富正論」、「農事窮理考」著、  
[定雄やすお(;名)の通称/号]通称;門蔵/佐平、号;弓道人/亀齡道人
- B4503 **寧雄**(やすお・細井ほそい) 1802- 1873<sup>72歳</sup> 絵図師の家の生;家業に従事/絵師、  
1836和算家:中西流飯島惣太郎門/師の勧めで和田寧門;高弟、1834飯島塾を継承、  
土御門家直門として暦学を修学、寧利の父、大村一秀・遠藤利貞の師、1867「見題免許」著、  
「六題解」「五題解」「算題三子解」「重心術并軌跡術」「関流坪割」「細井雑解」「細井草稿」著、  
[寧雄(;名)の通称/法号]通称;留吉/源太郎/若狭、法号;寿算信士
- F4501 **安雄**(やすお・菅沼すがぬま、) ? - ? 江後期;歌人、菅沼斐雄あやおの一族?  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[君が代のながきためしに引くならし千世の名におふつるぶちの駒]、  
(大江戸倭歌;秋830/駒迎)
- G4526 **安緒**(やすお・玉置たまおき、通称;狭島)?-? 江後期:紀伊熊野の神職;熊野本宮神官、  
国学・歌;本居大平(1756-1833)・内遠(1792-1855)・加納諸平もろひら(1806-57)門
- B4504 **泰夫**(やすお・島田/嶋田しまだ、豊後森藩士横山定斎男) 1826-90<sup>65</sup> 儒;幼時豊後日出で帆足万里門、  
医学:1853備前岡山の難波抱節門/備中倉敷で開業;産科/賀川玄悦を崇拝、島田に改姓、  
のち勤王家の森田節斎門;維新の頃は森藩で活躍/維新後;諸官職歴任、1615「産論修飾」注、  
[泰夫(;名)の字/号]字;猪ちよ、号;玖川/仲府
- F4579 **保雄**(やすお・木内きうち、保旧やすふる長男) 1835-81<sup>47</sup> 下総香取郡木内神社祠官家の生、  
国学者/歌人;父門
- F4519 **保夫**(やすお・荒尾あらお) 1849- 1876<sup>自刃28</sup> 肥後熊本託磨郡の郷士、国学者;保田校で子弟教育、  
1876敬神党;神風連の乱に参加、自刃、  
辞世;[あめつちはかみよながらにあるものをなにかはらめや大和魂]  
安男(やすお・文屋) → 文屋安男(ふんやのやすお・狂歌) G 3 8 5 5  
安雄(やすお・多賀たが) → 一蝶(初世いっちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8  
安雄(やすお・渡/亙) → 忠秋(ただあき・渡/亙わり/鳥居、歌人) E 2 6 7 8  
泰夫(やすお・海老名) → 義恭(よししたか・海老名えびな、役人/連歌) E 4 7 0 6  
泰雄(やすお・新木/山本) → 以南(いなん・山本、名主/俳人/良寛父) B 1 1 7 9  
康夫(やすお・堀) → 菅岳(管岳かんがく・堀ほり、豪農/儒者) Q 1 5 0 9
- G4531 **安興**(やすおき・名倉なくら、通称;茂右衛門)?-? 江中期;遠江浜松の商家;住吉屋、  
国学者;賀茂真淵(1697-1769)門
- F4556 **保興**(やすおき・岡本おかもと、) 1776-1826<sup>51</sup> 山城愛宕郡賀茂神社社家、  
[保興(;名)の通称] 延太郎/近江権介/安房介
- B4505 **保居**(やすおき・玄々堂、姓;松本、通称;儀平/鴨川儀平) 1786-1867<sup>82</sup> 京の数珠製造業6代目;  
宮家御用、絵師/銅板画;精密画、「地球万国全図」「銅版極細図」著
- F4559 **安興**(やすおき・奥野おくの、) 1810-1877<sup>68</sup> 武蔵熊谷の鍛冶屋、  
国学・歌;武蔵忍藩士黒沢翁満門、安行やすゆきの父  
[安興(;名)の通称] 伝四郎/臘八
- B4506 **保興**(やすおき・北きた、通称;蕃五郎、彦坂ひさか鶴翁5男) 1820-? 1860<sup>存</sup> 幕臣の北蕃五郎の養嗣子、  
1854家督継嗣;幕臣/田安殿奥詰/近習番助次席/1860(万延元)近習番格奥詰、歌人、  
「大嶋当流槍術」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[朝ぐもり花よりはれて出づる日も桜に匂ふ春の山の端](大江戸倭歌;春255)
- B4507 **易興**(やすおき・神野じんの/かんの)?- ? 江後期紀伊和歌山藩士/国学者;1838本居内遠門、

地誌、1851「紀伊国名所図会後集」共編(加納諸平と)、

[易興(；名)の通称/号]通称；蔀/歌築、号；鶴所

- B4508 **寧気**(やすおき・御船みふね/神職矢部家の2男)1821-? 1881存 備前上道郡玉井村の神職；  
岡山酒折宮神官、国学者；医者上田及淵きむら(1819-79)門、皇典に精通、  
古楽に通じ吉備楽の祖岸本芳秀に修学、歌人、維新後岡山県内の神社調査、  
「をしへのすみなは」編
- F4554 **保興**(やすおき・太田おた/本姓；源、保好2男)1837-190569 信濃伊那郡竹佐村の生/儒；養壽院入、  
師の跡継嗣；子弟教育/曾我耐軒門、歌人；原信好・岩崎長世門、国学；平田鉄胤・師岡正胤門、  
維新後；筑摩県第二中学区取締/二十大区長/所得税調査委員/県会議員歴任、  
1879(明治12)第百十七銀行設立に尽力；初代頭取に就任、  
[保興(；名)の別名/通称/号]別名；畝夫/八十喜、通称；吉太郎/伝蔵、号；田螺
- G4530 **安居**(やすおき・十市とおち、) ? - 1897 豊後杵築藩士、絵師；父門/田能村竹田に私淑、  
南画；長崎の臨濟画僧鉄翁てつとう祖門そもん門、国学/歌；物集もづめ高世門、  
[安居(；名)の通称/号]通称；中/錫/左衛士、号；王洋  
康起(やすおき・白川) → 雅冬(まさふゆ・白川/源、神祇伯/記録) H 4 0 3 0
- B4509 **保臣**(やすおみ・真木まき/本姓；平、左門旋臣長男)1813-64自刃52 母；中村柳子、  
筑後久留米水天宮神官/弓術家、1823家督嗣、1832大宮司/従五下/和泉守、妻；睦子  
国学/歌；宮崎信敦(三島神社神職)門、漢学；宮原国綸門、勤王；水戸会沢正志斎思想を受、  
帰国後同志と天保学連結成；藩政刷新推進/守旧派の巻返し；1852家督を次男佐忠に譲渡、  
弟大鳥居信臣宅に蟄居/11年間謹慎；1852(嘉永5)-62(文久2)家を[山樞窩さんしか]と称す、  
吉田松陰没後は尊王攘夷派の先達とされる/1862尊攘討幕論を掲げ脱藩；薩摩外各地奔走、  
寺田屋事件に捕縛；久留米に護送/赦免；1864(元治元)禁門の変に敗北/天王山で自刃、  
「討幕論」「何傷録」「昔々物語」「魁殿物語」「国体策」「大夢記」「自在かぎ」「千年舎歌稿」、  
「天保甲辰日記」「南遷日記」/1862「文久壬戌日記」/63「文久癸亥日記」「経緯愚説」外著多数、  
「紫灘遺稿」「真木保臣遺稿」、樋口小棹おさお(歌人)の父、井上元春の師、  
[大山の峯の岩根に埋めにけりわがとしつきの大和魂](辞世)、  
[保臣(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；湊/外記、字；興公/定民、通称；久寿/鶴臣/和泉守、  
号；紫灘じだん/霜江/山樞窩/泉州、変名；浜忠太郎/浜忠太夫/甲斐眞翁、  
直人なおと・大鳥居信臣の兄
- F4516 **安臣**(やすおみ・朝見あさみ、安彦3男)1833-9260 尾張春日井郡渋川神社の祠官  
国学；植松茂岳・山田千疇門、  
[安臣(；名)の別名/通称]別名；春江、通称；九郎太夫
- G4580 **安臣**(やすおみ・三村みむら、)1837-189256 常陸笠間藩士、国学者、維新後；宮内省に出仕、  
1889「言葉の爾比にひ鏡」著
- F4545 **保臣**(やすおみ・浦うら/旧姓；後藤/羽山、)1847-7630 肥後熊本藩士/錦山神社神職/神風連に参加、  
1876太田黒惟信邸襲撃隊に加わる、  
[保臣(；名)の通称]楯記  
康臣(やすおみ・高宮) → 元雄(もとお・高宮たかみや/柿原、藩医) K 4 4 4 2
- B4510 **安宅**(やすおり・脇坂わきさか、安董やすただ2男)1809-7466 播磨竜野藩主/1839淡路守/41(天保12)家督嗣、  
遺知5万1千石/1843奏者番/45寺社奉行加役/51侍従・京都所司代/1857(安政4)老中、  
従四下中務大輔/1860老中辞職/62老中再任；外交；同年辞職隠居、歌人；加藤千浪門、  
1844「賜観余藻」編/45「内寄合帳」、「脇坂安宅日記」「神武天皇御山陵ノ記事」著、  
遺詠「藤のうら葉」(養嗣子安斐の編刊)、  
[安宅(；名)の幼名/別名/号]幼名；友吉/織部、別名；安炳、号；揖水/松濤/天圭、  
諡号；安宅彦命  
安蔭(やすかげ・荒巻) → 利蔭(としかげ・荒巻あらまき/黒田/本居、歌人/邦楽) U 3 1 0 1
- B4511 **泰和**(やすかず・神保じんぼ/しんぼ)?- ? 江後期越後船越の生/代々三根山藩大割元を務む、  
和算家/地誌家、1814幸田重一と越後一宮弥彦神社に和算奉額、  
1820(文政3)「北越略風土記」23「佐渡風土記稿本」、「古城跡」著、  
[泰和(；名)の別名/通称]別名；泰通、通称；伊三郎



- B4512 **寧一**(やすかづ・南小柿みなぎ/修姓;南、要仙男)1785-1825<sup>41</sup> 江戸の医者、1799(9歳)家督継嗣、医;桂川国瑞門/外科を修学、山城淀藩医;御医師並9石4人扶持、天文・地理に通ず、1801桂川甫周より[甫祐]名貰う、画;父方伯父竹沢養浜門、1811禄50石/18禄百石、1823(39歳)百30石;異例の加増、日本橋西住;自宅を楚蘭堂と称し解剖学を講義、11825(文政8)病没、息女;ミキ、  
「解剖存真図」画(刑屍解剖の実見で完成;当時の最優秀図;シボルトも驚嘆)、大槻玄沢「重訂解体新書銅版全図」附図の原画制作(没後出版)、次郎の兄、[寧一(;通称)の幼名/名/字/別通称/号]幼名;芳太郎、名;良祐、字;清人、別通称;甫祐、号;西崖
- F4507 **寧一**(やすかづ・郷ごう) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[かれがれに見ゆる朽木にやどる木のたのみすくなき恋もするかな]、  
(大江戸倭歌;恋1576/寄宿木恋)  
保和(やすかづ・荒木) → 又衛門(またえもん・荒木あき、剣客) J 4 0 3 2
- F4532 **泰風**(やすかぜ・今泉いまげみ、通称;吉兵衛)1824-95<sup>72</sup> 常陸新治郡高浜村の国学者;  
1861(文久元/38歳)平田鉄胤門
- B4513 **泰方**(やすかた・大中臣おおなかとみ、泰長男)?-? 鎌倉期神職;春日社神主/四位、  
歌:1312(正和元)成立「玉葉集」;2778、  
[みかさ山神はすてじと思ふこそうき身に残る頼みなりけり](玉葉;神祇2778)
- G4595 **安固**(やすかた・山口やまぐち、治兵衛重晴[翠巖]3男)1692-1771<sup>80</sup> 若狭小浜藩士/1705儒;伊藤黙齋門、  
1711(正徳元)父隠居;家督継嗣、先手馬廻170石/屋敷内長屋[臥雲亭]で藩士子弟を教育、  
1718(享保3)藩の京屋敷加番/京で崎門学;若林強齋門、国学;芝山重豊門、  
1726(享保11)御使者番役(表取次)/28大坂城代の藩主酒井忠音から大坂での用人役、  
知行2百石/藩主の老中就任;小浜帰藩/熊川奉行/敦賀奉行/1739(元文4)小浜藩用人役;  
総奉行;財政担当;藩政再建/讒言;1746社倉惣奉行用人格/48大坂御先御用/大坂公用人役  
;隠居;小浜住、妻;若林強齋女、重遠・正固・兼清・重貞の父、1771(明和8)没、  
父翠巖と「仰高録」編、「強齋先生雑話筆記」「熊川十景」1761「雑話続録」/63「続風葉集説」著、  
重遠著[余慶編](安固の一代記)あり、  
[安固(;名)の初名/通称/号]初名;重固、通称;団次郎/庄右衛門(代々の称)/莊右衛門、  
号;春水/良齋/退齋?
- B4514 **康賢**(やすかた・東儀とうぎ/本姓;太秦、初名;兼代かねよ、兼治男)1707-72<sup>66</sup> 廷臣;楽人;1729右近衛将曹、  
1744佐渡守/59従四上、「東儀康賢筆記」著
- F4592 **安堅**(やすかた・近藤こんどう、旧姓;進藤)1726-1815<sup>長寿90</sup> 伊予周布郡の国学者/歌人、  
[安堅(;名)の通称]岩之介/義右衛門
- F4575 **処方**(やすかた・梯かけはし、通称;新平)1774-1946<sup>73</sup> 筑後久留米藩士;側監、江戸藩邸住、  
国学・歌人;橋守部・桂谿けいけい門
- F4520 **泰賢**(やすかた・有馬ありま、)1791-1850<sup>60</sup> 筑後久留米藩家老、国学/歌;宮崎信敦・樺島公礼門、  
妻;萩原員幹かずもと女(歌人)、  
[泰賢(;名)の通称/号]通称;雄吉/内蔵助/播磨、号;豊水/顧齋
- F4505 **泰固**(やすかた・本郷ほんごう、泰久男)?-? 旗本/母;水野政勝女、1813(文化10)家督継嗣、  
幕臣;石見守?/1837(天保8)御側衆/42(天保13)千石/45(弘化2)2千石/51(嘉永4)7千石、  
1857(安政4)若年寄/加増され1万石の大名;駿河川成藩主/従五位下/丹後守、藩財政困窮、  
妻;銚/鍵子(かぎこ/歌人)?、1858(安政5)5千石没収;若年寄罷免改易;旗本に戻る、  
罷免の表向理由;職務怠慢の為;実は將軍継嗣問題に絡むか、その後の動静は不明、  
[泰固(;名)の幼名]弥三郎
- G4536 **保固**(やすかた・長沢ながさわ、通称;嘉六)?-1862 陸奥盛岡の国学者・歌人;三輪家入門
- F4555 **安賢**(やすかた・岡おか、)1810 - 1869<sup>60</sup> 伊勢津の魚問屋、国学;佐々木弘綱門  
岡安定の兄/のち安定を養嗣子、  
[安賢(;名)の通称/号]通称;嘉平治、号;竹外



- 懐方(やすかた・ト部) → 懐方(兼方かねかた・やすかた・ト部うらべ、神職) C 1 5 7 2  
 保固(やすかた・松本) → 勝雄(かつお・古瀬、狂歌) C 1 5 4 1  
 安方(やすかた・水足) → 博泉(はくせん・水足みずたり、儒者) D 3 6 5 1  
 安方(やすかた・吹上) → 吹上氏かわずの介安方(ふきあげうじかわずのすけやすかた、評判記)
- F4521 **泰賢妻**(やすかたのつま・有馬ありま、萩原員幹かづもと女) 1800-8384 京生/筑後久留米藩家老有馬泰賢の妻、歌人
- B4515 **康勝**(やすかつ・伊丹いたみ、康直3男) 1575-165379 母;岡部常慶女、駿河清水の幕臣;  
 1586(天正14)徳川秀忠に出仕、大坂冬夏の陣等に從軍/1624家光に出仕;從五下/播磨守、  
 1633甲府城を預る;知行1万2千石/勘定奉行を兼任/のち佐渡支配/金山奉行を歴任、  
 1639剃髪/留守居役、1650辞職、「順齋問答」著、  
 [康勝(;)名の通称/号]通称;喜之助、号;順齋、法号;長仙院
- B4516 **安勝**(やすかつ・藤田ふじた、藩士安教2男) 1640-172485 加賀金沢藩士;1654前田利常に召され奥小姓、  
 大将頭/馬廻頭歴任/1709世子前田吉徳の傳、人持組に列す;知行2千石/1732頃致仕、  
 1715「藤田家譜」著/20「微妙公御直言覚」編、「窈姫様御道具御用并被為人候時分之留等」著、  
 [安勝(;)名の通称/号]通称;三十郎/平兵衛/内蔵允くらのすけ、号;意楽、恭安の父
- F4596 **安勝**(やすかつ・重松しげまつ、安兼やすかね男) 1690-173142 伊予松山の神職;味酒神社神職、  
 国学・歌人;鈴木重信門、  
 [安勝(;)名の通称]通称;安之丞/主膳/右京/左京亮
- B4517 **保勝**(やすかつ・武田たけだ) 1797- 185357 陸前仙台の暦算家、天文暦算:秋保盛弁門、  
 和算;松木清直門、1842(天保13)改暦の際藩主伊達慶邦の命で土御門家で新暦法を伝受、  
 測量垂揺球なども贈られる、藩天文局の新測器設置時仙台の北極高度西経経度を測定、  
 1830「平方零約術附録」37「新暦交蝕規範」、「仙台北極高度考」、「五星伏見表」、「八線表解」、  
 「新暦五星百算表」「清蒙気差表」「垂揺球象限儀測日月食術」外著多数、  
 [保勝(;)名の通称]司馬
- 安克(やすかつ・矢口) → 養達(よしたつ・斎藤さいとう/矢口、藩医) B 4 7 4 5  
 康勝(やすかつ・蘆田/依田) → 宗月(そげつ・加藤/依田/松平/蘆田、武将) H 2 5 0 2
- G4571 **康門**(やすかど・松平まつだいら、康明男) 1667-174781 江戸の幕臣;御小姓組番士、和学者、  
 [康門(;)名の通称]半之助/宇右衛門(父の称)/利右衛門
- F4547 **安門**(やすかど・遠藤えんどう、牧右衛門和胤の長男)?-1854 信濃飯田藩士;弓術家;父門、御側御用人、  
 山奉行、国学者/歌人、中村茂樹/中山篤則/松井美澄/潮田藻莉/村沢徳成らと交流、  
 [安門(;)名の初名/通称]初名;昌胤、通称;為之助/奥右衛門、法号;賢周院
- B4518 **康圭**(やすかど・松平まつだいら、康任やすとう3男) 1821-6242 母;松平康定女、兄康爵の養嗣子、  
 1854兄致仕;家督嗣;磐城棚倉藩主/從五下左近将監/周防守、藩政安定;文化政策尽力、  
 機業・瓦焼・蒔菫栽培・放牧などを奨励、室;内藤政成女、長男康泰が嗣、  
 歌人、家集「夏草」、「康圭公百首」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」13首入、  
 [つららみし懸樋かけひの水の音づれて一筋かよふ春の初風](大江戸倭歌;40春風水解)、  
 [谷陰に朽ちてかたぶくうつほ木のむなしき名をば立てじとぞ思ふ](同;雑1870)、  
 [康圭(;)名の通称]哲之丞/左近、松井左近/左近将監/周防守
- B4519 **やすかぬ**(高階泰兼か?)?- ? 平安前期廷臣/歌人;  
 977(貞元2)三条左大臣殿(藤原頼忠)前裁合に参加;3首、  
 [水の面おもに浮べる月は影をあさみそらはすぐとも流れざらなん](前裁合;58)  
 高階泰兼なら;泰仲男/筑前守/玄蕃助/正四下、重仲(中宮権大進近江守)の弟/資泰の父
- F4597 **安兼**(やすかね・重松しげまつ/本姓;藤原、通称;蔵人)?-? 江前中期;伊予松山の神職;味酒神社神主、  
 神道・国学;味酒社講学大山為起門、安勝(1690-1731/神職/国学)の父
- B4520 **保謙**(やすかね・仁科にしな、景信男) 1749-182880 信濃伊那郡大草村北林の豪農の生、  
 旗本近藤家支配地の庄屋;苗字帯刀を許可、歌人;天明1781-89頃飯島本郷の桃沢夢宅門、  
 1796澄月門、「山家愚詠」「ちり塚」著、  
 [保謙(;)名の別名/通称/法号]別名;保慶、通称;惣蔵、法号;真如院
- F4574 **安周**(やすかね・柿崎かきざき、)?- ? 陸奥青森の善知鳥神社神官、国学者  
 安宿王(やすかべおう→あすかべ) → 安宿王(あすかべのおおきみ、長屋王男、廷臣/歌) B 1 0 1 1

- 安宿媛(やすかべひめ) → 光明皇后(こうみょうこうごう、仏教興隆/歌) 1921
- B4521 安河(やすかわ・賀島かしま/本姓;藤原)?-? 江後期阿波徳島藩士/国学者:本居大平・内遠門、1833(天保4)「かなしみの百うた」著、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌「梅園の鶯」・短歌入、[千早振神のみまへのゆふは川かはづ妻呼ぶ川よどにして](八十浦;834河蝦)、[安河(;名)の通称/号]通称;清五郎、号;橋垣内
- E4570 やすき(藤原安城か?) ?-? 平安前期廷臣、歌人、898(昌泰元)亭子院御時女郎花合に参加、[女郎花秋の野を分け折りつれば宿荒れぬとてまつ虫ぞ鳴く](女郎花合35)藤原安城なら;百城ももき男/従五下豊後介越後掾/安主の兄/統行むつら・益人の父
- 4576 やすき(・橘) ?-? 平安前期保明親王の帯刀/歌;904-23頃「帯刀陣歌合」入[いまこむとたれたのめけむ秋の夜をあかしかねつつ松虫のなく](帯刀陣歌合;左)→ 亭子院女郎花合の「やすき」(E4570)と同一?
- E4571 安樹(やすき・多おの) ?-? 平安期大歌師/前丹波掾、981琴歌譜を安家に貸与、琴歌譜(古代歌謡集)は多おの家に伝わる大歌人教育の教本と考えられる
- G4576 泰樹(やすき・松本なまつもと、号;千代舎)?-1817 讃岐高松の国学者/歌人、歌;木下幸文たかぶみ(1779-1821)門
- G4549 安材(安機やすき・平松ひらまつ、安通男)1777-1837<sup>61</sup> 備中浅口郡玉島の商家;塩飽屋三郎右衛門家、歌人;木下幸文・香川景樹門、末彦の父、[安材(;名)の通称/号]通称;三郎右衛門(代々の称)、号;磯の舎、屋号;塩飽屋
- G4524 泰樹(やすき・橘たちばな、旧姓;山本、橘[山本]由之よしゆき男)1789-1831<sup>43</sup> 越後出雲崎の国学者;父門、歌人;大村光枝・香川景樹門、能書家、山本以南の孫/良寛・橘香の甥、父由之が訴訟で敗訴;家財没収されたが田畑・屋敷は残り継嗣、井鼻村の里正を継嗣、[泰樹(;名)の別名/通称/号]初名;泰濟、通称;右馬之助うまのすけ/左門、号;眺島齋/北渚、神諡;智光雄命
- F4533 保樹(やすき・長谷川はせがわ/旧姓;宇都宮)1809-90<sup>82</sup> 周防岩国藩士/国学者;岩政信比古門、歌人;二条家入門、賀茂真淵と香川景樹両派を折衷した歌風、今田佳保よしやすの師、[保樹(;名)の通称/号]通称;理平、号;寿山/桜戸主人
- 泰樹(やすき・松居) → 安国(やすくに・松居/松井まつい/源、国学) E 4 5 8 5
- B4522 康吉(やすきち) ?-? 江前期山城の俳人、1660季吟「新続犬筑波集」入/61季吟と両吟百韻(64「両吟集」上所収)
- B4523 保吉(やすきち・川原/河原かはら、通称;左右平)?-? 江後期文化1804-18頃の和算家、会田安明と交流、「精要算法諺解」「精要算法下之巻解」著
- 保吉(やすきち・万屋) → 保吉(やすよし・万屋よろづや、俳人) D 4 5 5 6
- 安吉(やすきち・堀田) → 安政(やすまさ・脇坂わかさか/堀田、藩主/歌) H 4 5 0 5
- 安吉(やすきち・小津) → 桂窓(けいそう・小津おづ、国学/詩歌) 1 8 8 2
- 安吉(やすきち・森) → 信処(のぶさだ・森、儒/国学/記録) B 3 5 4 8
- 安吉(やすきち・会沢) → 正志斎(せいしさい・会沢あいざわ、儒者/尊攘) B 2 4 9 1
- 泰吉(やすきち・鶴沢) → 清七(3世せいしち・鶴沢、義太夫三絃) B 2 4 9 4
- 泰吉郎(やすきちろう・玉乃) → 五竜(ごりゅう・玉乃たまの/枝えだ/桂かつら、儒者) N 1 9 9 6
- B4524 康清(やすきよ・小松こまつ、秀清)?-? 備中小田神戸山城主/歌人正徹の父
- H4509 安清(やすきよ・藤原ふじわら、越中守淳清男)?-? 鎌倉南北期;廷臣;正五下/伊豆守、基清の兄/忠清父、歌人;1320「八月十五日夜月十首和歌」入、[ゆふべより雲をばよもにふきはらふ嵐もいまや月をまつらむ](十五夜十首;41)[ふけゆけば野辺のちくさのすゑばまでおきそふ露をみがく月影](同上;46)
- B4525 安清(やすきよ・佐阿彌/左阿彌さあみ、日吉四郎次郎)1383-1458<sup>76</sup>(二百十番謡目録) 室町期能役作者、「殺生石」「橋弁慶」「藤」「望月」作;自家伝抄
- B4526 康清(やすきよ・萩野はぎの) ?-? 戦国期武術家;馬術に秀でる/弓馬故実精通、1549小島与吉に手綱の式法を伝授;1549「一流手綱口伝書」「馬庭乗」「手綱五十首注」著、[康清(;名)の通称/号]通称;弥六、号;萩野屋
- B4527 安清(やすきよ・和田わだ、清元3男)1627-1707<sup>81</sup> 岩代二本松藩士;1646藩主丹羽光重の近侍、

徒士頭/用人;継嗣問題を善処の功で1661家老に列す、和漢学を修学;詩文に長ず、  
熊沢蕃山・高泉性激・高野山の雲堂と交流、1690致仕、  
1674「南朝夢野跡」、「枇糠集」「丹羽家御家譜」(;歴代藩主の記録)著  
[安清(;名)の通称/号]通称;弥一右衛門、号;性水、法号;海量院

- G4585 **安清**(やすきよ・武藤むとう、)1681-1747 67 江戸の幕臣;西城勤務、和学者/歌人、  
[空にたつ磯屋の煙一すぢはうづみ残せる雪のうちかな](茂睡[鳥の迹]冬507)、  
[安清(;名)の通称]三之介/五郎兵衛/吉兵衛
- B4528 **安清**(やすきよ・中村なかむら、号;竜谿) ?-? 江中期和算家:入江東阿門、1739「探玄算法」校訂
- B4529 **保清**(やすきよ・朝田あさだ) ? - ? 尾張の文人;石川雅望と親交、  
1805雅望の断本「しみのすみか物語」跋文(1804執筆/保清が永楽屋東四郎に持込み出版)
- B4530 **安精**(やすきよ・新藤しんどう) ? - ? 江後期三河吉田藩士、文筆家、  
「参考島原記」編/「閑際筆記抄評」著、  
[安精(;名)の通称]右兵衛
- G4590 **安清**(やすきよ・森山もりやま、通称;栄太郎) ?-? 江後期;筑後久留米藩士;十石三人扶持の徒士から、  
庄島中ノ丁住/国学者;小川好幸よしゆき(柳/1811-81)門、江碕済わたる(1845-1926/漢学者)の父  
安清(やすきよ・戸川) → 安清(やすきよ・戸川とがわ、幕臣/書/歌人) B 4 5 7 6  
安清(やすきよ・岩崎) → 求斎(きゅうさい・岩崎いわさき、儒者) M 1 6 5 9  
安清(やすきよ・多紀) → 元簡(もとやす・多紀たき、幕臣/医者) E 4 4 4 9  
保浄(やすきよ・高田) → 松亭(しょうてい・高田たかた、藩士/儒者) K 2 2 9 8  
康清(やすきよ・今泉) → 千春(ちちはる・今泉、歌人) F 2 8 1 8
- B4531 **安国**(やすくに・藤原ふじむら、連永男) ?-? 979存 平安前期廷臣;916頃木工助/六位蔵人、  
917(延喜17)従五下/大蔵少輔/左(右)衛門佐、忠国の従兄弟or兄弟、  
醍醐天皇の更衣鮮子の兄弟、歌;後撰集173、  
[あふと見し夢にならひて夏の日の暮れがたきをも歎きつる哉](後撰;夏173)
- G4532 **安国**(やすくに・中井なかい、通称;与右衛門) 1577-1649 73 近江佐和山の歌人;[彦根歌人伝・続寿]入
- B4532 **泰邦**(やすくに・土御門つちみかど/本姓;安倍、土御門泰福やすとみ3男) 1711-84 74 土御門泰連の養嗣子、  
泰誠・泰連の弟、陰陽家/廷臣;1722陰陽頭/50従三位治部卿/56天文博士/71正二位兵部卿、  
幕府天文方より改暦の実権を取戻し宝暦の改暦を作業、1737「天経或問正義」著、  
1754「暦法新書」編/55「新暦法」60「東行話説」80「大史日策」著、「甲戌元暦太陰立成人」著、  
「甲戌元暦太陽立成地」「安氏暦法稿」「彗星勘文」「漏刻緯」「土御門泰邦卿御記事」外著多数
- B4533 **保国**(やすくに・橋たちばな、守国男) 1717-92 76 大阪の絵師:父門、法眼、養嗣子保春が画法を継承、  
1755「絵本野山草」画/57「画志」著/79「絵本詠物選」画、  
[保国(;名)の通称/号]通称;大助、号;秋筑堂/後素軒
- E4585 **安国**(やすくに・松居松井まつい/本姓;源) 1754-1811 58 近江彦根藩士;藩老、国学;本居宣長門、  
詩歌;大菅圭(中養父)門、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;2首入、[彦根歌人伝・亀]入、  
[まちがてにわが思へりし橘の花のさかりになりけるかも](八十浦;478/橘)  
[安国(;号)の別名/通称/号]別名;邦/安邦/泰樹やすき/泰幹、通称;正平、号;茅舎
- B4534 **泰州**(やすくに・富田とみた/本姓;源) 1792-1840 49 近江彦根藩士/国学・歌;村田泰足門、  
致仕後上京/歌:香川景樹門、京の蛸薬師富小路東に歌道塾を開く、天文学にも通ず、  
1827「星土計」著、  
[泰州(;名)の通称/号]通称;甚右衛門/右衛門、号;千秋館
- H4501 **居州**(やすくに・横道よこみち、)1832-1899 68 周防岩国の国学者/歌人、  
[居州(;名)の通称/号]通称;藤吉郎/三輔、号;坐志/琴斎  
懐国(やすくに・藤原) → 懐国(かねくに・もとくに・藤原、廷臣/歌人) C 1 5 7 4  
安国(やすくに・佐久間) → 華邨(かそん・佐久間さくま、儒者/詩人) M 1 5 8 6  
安国(やすくに・飯田) → 伴雄(ともお・太田黒・大野・飯田、神職/神風連頭首) U 3 1 5 6  
康邦(やすくに・岡崎) → 良梁(りょうりょう・岡崎おかざき、兵法家) J 4 9 6 5
- B4535 **弥助**(やすけ・松田まつた) ? - ? 京の断家/大阪舌耕芸復活・大阪落語隆盛の端緒、  
得意;尽しもの・洗濯所の訴書、「おかしいはなし」著、門弟に弥七・弥助2世・弥六ら  
弥助(やすけ・日夏) → 繁高(しげたか・日夏ひなつ、藩士/兵学者) C 2 1 3 0



- 弥助(弥亮やすけ・竹田/斎藤)→ 野坡(やば・志太じだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2  
 弥助(やすけ・下平) → 次房(つぎふさ・下平しもだいら、藩士/砲術/歌) 2 9 5 8  
 弥助(やすけ・中山) → 美石(うまし・中山、藩士/国学/歌) 1 2 8 6  
 弥助(やすけ・加藤) → 千浪(ちなみ・加藤/藤原、国学者/歌人) F 2 8 1 0  
 弥助(やすけ・古賀) → 精里(せいり・古賀、幕府儒官) 2 4 1 5  
 弥助(やすけ・岩田) → 紐(ちゆう・岩田いわた、采女男) F 2 8 6 9  
 弥助(やすけ・井筒) → 四郎(しろう・三升屋みまさや、歌舞伎作者) N 2 2 0 4  
 弥助(やすけ・近藤/川崎) → 道義(みちよし・川崎/近藤、儒者/救民) C 4 1 8 7  
 弥助(やすけ・津田つだ) → 典(てん・津田つだ、国学者) E 3 0 9 0  
 弥助(やすけ・山田) → 重秋(しげあき・山田やまだ、漢学/大肝煎) a 2 1 0 2  
 弥助(やすけ・久米) → 通礼(みちひろ・久米くめ、庄屋/国学/歌) I 4 1 9 2  
 弥助(やすけ・中山) → 繁樹(しげき・中山なかやま、藩士/国学/歌) Q 2 1 9 2  
 弥助(やすけ・加茂屋) → 瓢六(ひょうろく・辻鼻つじはな、俳人) F 3 7 4 0  
 屋助(やすけ・成田/是守/性) → 久助(2世きゆうすけ・福森、歌舞伎作者) C 1 6 0 7  
 矢助(やすけ・片桐) → 春一(はるいち・片桐かたぎり、国学者/軍学) F 3 6 9 8  
 安袈裟(やすげさ) → 季安(すえやす・伊地知いちぢ、藩士/記録) F 2 3 7 2
- B4536 泰子(やすこ・高陽院かやのいん、藤原忠実女) 1095-1155 61 母;源師子、鳥羽天皇皇后、  
 歌:1115頃源俊頼より歌学書「俊頼髓脳」を贈られる(父忠実の命)
- 4521 安子(やすこ・柳原やなぎわら、初名;登岐子、正親町三条実同女) 1784-1866 83 京の歌人、  
 大納言柳原均光なおみつの妻/隆光の母、  
 歌;香川景樹・熊谷直好門、桂門3才女の1、法号;桂峰院/桂芳院、  
 「月桂一葉」、「柳原安子詠草」「ゆく雁」著、「桂芳院遺草」(;信綱編)
- F4511 安子(やすこ・安達あだち/旧姓;山内、加賀藩士山内信一女) 1835-1913 79 安達幸之助の妻、教育者、  
 維新後;1872(明治5)石川県令の命で金沢に女学校を創立、1892東京女子高等師範教諭  
 のち慈愛女学校校長に就任
- G4587 安子(やすこ・毛利もより、初名;銀姫、長府藩主毛利元運2女) 1843-1925 82 母;欽子(土屋彦直女)、  
 江戸上屋敷の生、1851(嘉永4)宗家当主毛利慶親の養女、1858(安政5)定広(元徳)を婿、  
 夫定広(元徳)は徳山藩主毛利広鎮男で慶親の養子;桜田江戸上屋敷で婚儀、  
 (長門萩藩主毛利元徳もとり(1839-96)の正室);元昭(1865-1938)・五郎(1871-1925)の母、  
 1862萩入/63下関戦争に家内を激励/養父や夫が国務多忙のため率先し藩内対応に尽力、  
 国学・歌人、維新後;婦人教育・慈善活動に尽力/1890大日本婦人教育協会会長/日赤要職、  
 [なき君をしのぶ涙もこぼる夜にいとゞ身にしむ木がらしの風]([萩の歌人]入)
- 穩子(やすこ・藤原) → 穩子(おんし・藤原、醍醐天皇中宮/歌) B 1 4 2 6  
 廉子(やすこ・源) → 廉子(れんし/きよこ・源みなもと、彰子女房/歌) B 5 1 1 1  
 安子(やすこ) → 安子(あんし、村上天皇皇后/歌人) C 1 0 1 1  
 安子(やすこ) → 安子(あんし、歌合参加歌人) G 1 0 0 7  
 恬子(やすこ) → 恬子内親王(てんし/やすこないしんのう)  
 保子(やすこ・高野) → 房子(ふさこ・高野たかの、女官) C 3 8 0 4  
 綏子(やすこ) → 綏子(すいし・藤原、尚侍) 2 3 3 5
- B4537 康子内親王(やすこないしんのう、醍醐天皇皇女) 920-957 38 藤原師輔の室、  
 956藤原師輔が自邸に迎え前栽歌合「坊城右大臣殿歌合」を催
- C4537 保子内親王(やすこないしんのう、村上天皇皇女) 949-987 39 女三宮、  
 規子内親王[女四宮949-986]の異母姉、歌人;「齊宮女御集」入、  
 [隔てけるけしきを見れば山吹の花心はなごころともいひつべきかな](齊宮女御集)、  
 (異母妹の規子内親王への贈歌)  
 参照 → 規子内親王(きしないしんのう、女四宮) 1 6 1 5  
 柔子内親王(やすこないしんのう) → 柔子内親王(じゆうしないしんのう、歌人) H 2 1 6 0  
 怡子内親王(やすこないしんのう) → 怡子内親王(いしないしんのう、伊勢物語モデル) L 1 1 0 1  
 恬子内親王(やすこないしんのう) → 恬子内親王(てんしないしんのう) D 3 0 6 8  
 安五郎(やすごろう・谷) → 東堤(とうてい・谷たに、絵師) G 3 1 6 0



- 安五郎(やすごろう・林) → 秋告(あきのり・林、通称、国学者/歌人) D 1 0 7 7  
 安五郎(やすごろう・松平) → 寒松(かんしょう・松平、藩家老/詩歌) H 1 5 6 8  
 安五郎(やすごろう・松平) → 康成(やすなり・松平、寒松男/藩家老/国学) C 4 5 4 8  
 安五郎(やすごろう・鈴木) → 完鷗(かんおう・鈴木、俳人) Q 1 5 0 0  
 安五郎(やすごろう・鈴木) → 松什(しょうじゅう・鈴木、俳人) S 2 2 9 7  
 安五郎(やすごろう・和田) → 国鶴(初世くにつる・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 9 2  
 安五郎(やすごろう・服部) → 高保(たかやす・服部はつとり、国学者/歌学) D 2 6 9 5  
 安五郎(やすごろう・山口屋/森本) → 端山(たんざん・大口、商家/国学/歌) I 2 6 7 6  
 安五郎(やすごろう・山田) → 方谷(ほうこく・山田/源、商家/藩儒者) F 3 9 2 4  
 休五郎(やすごろう・中村) → 沢斎(たくさい・中村なかむら、儒者/教育) N 2 6 9 8  
 安左衛門(3代目やすざえもん・塩川) → 久貞(ひささだ・塩川しおかわ、藩士) B 3 7 0 4  
 安左衛門(やすざえもん・石田) → 一鼎(いつてい・石田いしだ、儒者/詩文) H 1 1 6 4  
 安左衛門(やすざえもん・壺井) → 義知(よしちか・壺井つばい、故実家) 4 7 1 9  
 安左衛門(やすざえもん・小林) → 如泥(じよでい・小林こばやし、指物師) M 2 2 7 0  
 安左衛門(やすざえもん・諏訪) → 頼室(よりやす・諏訪すわ、幕臣/詩人) J 4 7 9 0  
 安左衛門(やすざえもん・加部) → 琴堂(きんどう・加部かべ、名主/俳人) R 1 6 4 8  
 安左衛門(やすざえもん・近藤) → 甫寛(ほかん・近藤こんどう、儒者/俳人) C 3 9 8 1  
 安左衛門(やすざえもん・松本) → 正羽(まさのぶ・松本まつもと/藤原、藩士/歌) S 4 0 7 6  
 安左衛門(やすざえもん・市村) → 保光(やすみつ・市村いちむら、商家/国学) F 4 5 3 0  
 安左衛門(やすざえもん・金田) → 智義(ともよし・金田かねた、}国学者/地誌) Q 3 1 9 5  
 保作(やすさく・栗原) → 保定(やすさだ・栗原くりはら/源/長坂、国学/歌) F 4 5 8 7
- B4538 **安定**(やすさだ・小泉こいずみ、安治男)?-? 江前期;寛永1624-44頃の会津藩士、歌;山本春正しゅんしょう[1610-82]門/歌;岡本宗好そうこう・日野弘資ひろすけ[1617-87]門、歌人/書家、「南陽紀行」「角鹿紀行」「玉津島千首」著、[安定(;名)の通称/号]通称;太郎兵衛/仁左衛門、号;一抱子/易軒
- B4539 **安貞**(やすさだ・宮崎みやざき、広島藩士宮崎儀右衛門2男)1623-97/75 安藝広島の子/農学者:1647筑前福岡藩主黒田忠之に出仕/間もなく致仕、諸国を巡遊;農業の研究、筑前志摩郡女原で農業に従事;村人指導、貝原益軒と交流;中国農書・本草学を修学、農業技術改良に尽力、私財を投じ女原・徳永の耕地[宮崎開]を開拓、1697刊「農業全書」、「教草」著、[安貞(;名)の通称/法号]通称;文太夫、法号;真如院
- G4519 **保定**(やすさだ・高梨たかなし、号;左仲太)?-1713 播磨佐用郡幕府(龍野藩)佐用領代官、国学者
- B4540 **泰定**(やすさだ・西野にし、通称;松衛門)?-1731 江中期常陸水戸藩士;1715進士、「西野松衛門筆記」著
- G4577 **安貞**(やすさだ・三浦みづら、杉原十太夫利守2男)?-1750 近江彦根藩士三浦安晴の養子、和学/歌人、禄300石/1745(延享2)母衣;江戸藩邸藩主側近/1750(寛延3)江戸に病没、安相が家督嗣、歌;[彦根歌人伝・亀]入、[安貞(;名)の初名/通称]初名;新蔵、通称;十左衛門(代々の称)
- B4541 **安定**(やすさだ・高島たかたけ、高島定久の養子)1688-1763/76 加賀金沢藩士;1711家督嗣/御近習番士、大小将横目/御小姓頭、「足軽取捌一卷」著、通称;善太夫
- B4542 **保貞**(やすさだ・神谷かみや、通称;貞吉)?-? 江中期和算家;池部清真門、1745「開承算法」著
- B4543 **安貞**(やすさだ・佐野さの、字;原泉)?-? 江中期讃岐の医者:大阪日向町住;医業、1760(宝暦10)「非蔵志」著;(山脇東洋「蔵志」を非難)、60「上池水」、「舌鑑弁正」「脈解」著
- G4592 **安々**(やすさだ・あんあん・矢倉やぐら、)1723-1789/67 京の商家;1747(延享4)兄より財産分与;大坂住、商売に成功し裕福/諸芸を修得;歌・連歌・笛・琴・茶・香・画など、[安々(;名)の字/通称/号]字;文思/仲遷、通称;鍵屋半右衛門、号;楽芳庵/霞爛
- B4544 **安貞**(やすさだ・多賀谷たがや、安命男)1734-1804/71 上州の医者;父門/親戚・貧困者のみ診療、江戸に出て幕府銃隊与力となる、「腹疹秘訣」著、向陵(;書家)・酔雪(;絵師)の父、[安貞(;名)の通称/号]通称;源蔵、号;楽山、法号;祐法禅定門、
- 4523 **康定**(やすさだ・松平まつだいら、前田房長3男)1747-1807/61 母;青木直有女、石見浜田藩主松平康瑞養子、

のち1768松平康福やすしの養子;1789(寛政元)遺領嗣;石見浜田藩主、従五下左京亮/周防守、1795奏者番;98寺社奉行兼任、国学;本居宣長に私淑、藩校長善館を開校、歌・画に長ず、1807(文化4)没、養子康任やすとう(松平康道男)が家督嗣、1787和歌索引「弥重太多美やえだみ(八重疊)」、「伊勢詣日記」「旅のすさみ夏」「国歌八論評」、「松平康定詠草」(40首)著、「松平康定侯家集」著、大平「八十浦の玉」上巻末入(読人不知)、[康定(;名)の幼名/通称/法号]幼名;吉五郎、通称;周防守、法号;清崇院 [つつみなく病ひあらず朝よひにはぐくみやらな他の国びと](八十浦;263、

(石見益田大浜浦に韓国船漂着し医者永田公達に高麗人を肥前に送らせる時に詠)

- B4545 **安貞**(やすさだ・高戸たかと、守屋勘兵衛男)1749-1815<sup>67</sup> 備中下道郡箭田村の生、備中浅口郡鴨方の醤油業高戸源兵衛正俱の養嗣;正俱女の婿、後妻;高戸冑方女、家業醤油業に専念;隠居後楽山と号す/歌人:木下幸文門、高橋残夢と交流、詠歌7-8千首、家集「楽山翁集」、「しのぶぐさ」著、善平(孝善/母;正俱女)・智高(母;冑方女)の父、[安貞(;名)の通称/号]通称;楚平、号;幽芳亭/楽山
- H4514 **安定**(やすさだ・長谷川はせがわ、通称;信之丞)?-? 江中後期;幕臣、歌人?、1788(天明8)幕臣の成島衡山(峰雄)の駿河旅に餞歌;「富士日記」入の[安定]と同一?、[朝夕に置く霜さむき旅衣かさねていとへ道の行く末](富士日記/重ね;日数と気配り)
- B4546 **安定**(やすさだ・野井のい)1757-99<sup>43</sup> 伊予八幡浜の醸造業[油屋]の4代目主人、母;智慶(歌人)、国学:近藤春彦・荒木田久老門、1796本居宣長門、万葉周研究、南伊予の国学の先駆者の1、梶谷守典・野田広足・二宮正禎と共に南伊予[宣長四門]、「野井安定詠草添削」(歌稿)著、[山の端にしばしにほひて出るよりかげさやかなる秋の夜の月](歌稿入) [安定(;名)の通称/屋号/法号]通称;七郎兵衛、屋号;油屋、法号;徳樹軒貫道一以居士
- B4547 **安貞**(やすさだ・藤田ふじた、北川久兵衛4男)?-1818 藤田恭安の養子/加賀金沢藩士;1746養父継嗣;遺知2千石、奏者番/石動等支配/1775算用場奉行、1785閉門/87御免、魚津在住/公事場奉行、世子前田斉広御附を歴任;1801致仕、1792(寛政4)「当用申送帳」著、安処やすずみの父、[安貞(;名)の通称/号]通称;牛之助/弾正/兵部/求馬、号;閑翁
- B4548 **保定**(やすさだ・宇野うの、通称;八兵衛)1771-1843<sup>73</sup> 有職故実に通ず/武芸;関重秀門、算学:本多利明門、1826(文政9)「本多利明先生行状記」、「官位相当略記」著、「位署体並官職諭略辨」編
- F4573 **保定**(やすさだ・楓井かえでい)1771-1850<sup>80</sup> 伊勢津藩士/医者、国学;富樫広蔭門、妻;幾保子(歌人)、[保定(;名)の別名/通称/号]別名;常松/文安、通称;享庵、号;梅園/二方庵
- B4549 **保定**(やすさだ・姓不詳) ? - ? 江後期歌人/1842(天保13)頃「保定家集」総数71首
- B4550 **安定**(やすさだ・長沼ながぬま) ? - 1864 信州小諸の和算家;小林忠良門、のち上田の植村重遠・上州の岩井重遠門、浦野幸盈門;清水流規矩術を修学、安忠の父、「地方発起集」1846「公暇録」38「球欠斜截解義」50「量軽重術詳解」52「軽重量題解術」、1855「浅問抄員中累円解」、「湾背解」「極数算梯解」「問題術愚解」「湾背解」「兵要録」外著多、[安定(;名)の別名/通称/号]別名;安順、通称;広之助/宗右衛門/丈太夫、号;隴山/蘭斎
- B4551 **安定**(やすさだ・藤田ふじた、安処やすずみ男?)?-1869 加賀金沢藩士;1832家督継嗣/49公事場奉行、1850-1863(嘉永2-文久3)世子前田慶寧の御部屋住之内御附御用、寺社奉行/1864若年寄、慶寧の藩主襲封後;近習御用/68隠居、1851-60(嘉永4-万延元)「藤田左衛門日記」著、1860「藤田求馬手留」63「藤田求馬日記」著、[安定(;名)の通称] 求馬/左衛門
- F4599 **保定**(やすさだ・島地しまじ、藩士島地宥左衛門五六男)1805-1874<sup>70</sup> 信濃飯田藩士、歌人;父門歌学;桜井春樹門、小木曾おぎぞ常春の兄、[保定(;名)の通称/号]通称;衡平/保権/惣助、号;楽叟/蓋松堂 弟 → 常春(おはる・小木曾おぎぞ、藩士/歌人) F 2 9 3 6
- B4552 **安定**(やすさだ・岡おか) 1810 - 1874<sup>65</sup> 伊勢国津の魚問屋;兄安賢を継嗣、伊勢津藩御勝手用達を継承/本草学:山本亡羊門/塵・歴史・詩歌・俳諧・舞曲に長ず、嘉永1848-54年間の凶作には窮民救済と救荒食料知識の普及を図る、私塾勸善舎を兄と開塾;町民を教化、1851「救荒野菜凶説」59「品物名彙」、「本草質問記」著、[安定(;名)の字/通称/号]字;子遷、通称;恵三郎/嘉平治、号;/寿樸斎

- F4564 **保定**(やすさだ・加藤かとう、) 1814-1882 69 大坂の商家/国学・歌人;加藤景範門、景範と同族、  
[保定(;名)の通称/屋号]通称;右一郎、屋号;小川屋
- F4587 **保定**(やすさだ・栗原くりはら/本姓;源、旧姓;長坂) ?-? 江後期;甲斐巨摩郡穴山村の国学者、  
栗原保信(穴山村の名主、生方正方門)の弟か?、  
1844(天保15)生方正方の「碑銘落成井十七回忌追善和歌兼題」に保信と出詠;  
[袖ひぢててみることはのをしへ子が昔息ひて立てる石ふみ]、  
1857(安政4)頃より堀秀成ひでなり(1819-87)門、保定の支援で秀成は穴山村の城濠院で開塾、  
1850詠草「嘉永三歳次庚戌秋八月倭我郎詠集」の草稿あり、  
[散るもみち庭に錦はこのれども秋の日数はとまりやはせじ];  
(詠草;8月20日駒井亭和歌会)、  
[保定(;名)の通称/号]通称;(長坂)保作/菜作、号;青松軒
- B4554 **保定**(やすさだ・越智おち) ? - ? 江後期国学者、  
沼田順義ゆきよしの説(級長戸風しなとかぜ;本居宣長の論を非難)に反駁:「科戸風端書辨妄」著
- B4555 **泰貞**(やすさだ・源みなもと) ? - ? 江戸期詩歌人、  
「古題物名歌」「六集ろくしゅう古哥抄」編
- G4569 **安定**(やすさだ・松田まつだ、) 1827-1864 自決 38 筑前福岡藩士、筑前怡土郡雉子琴きこと宮祠官、  
尊攘派;1864(元治元)吉田太郎と謀り佐幕派藩老牧市内を暗殺;脱藩し長門萩藩に逃亡、  
長州藩士に参加;禁門変に敗北;真木和泉らと天王山で自決、  
[安定(;名)の初名/通称/変名]初名;徳則、通称;久我鞆負/中原出羽守/五六郎、  
変名;松尾貞八/福崎八郎
- G4555 **康貞**(安貞やすさだ・文室ぶんや、) 1830-1899 70 近江愛知郡押立神社社司、国学者;平田鍊胤門、  
[康貞(;名)の通称/号]通称;伊織/大内蔵/大庫おくら、号;菊雄
- F4591 **安定**(やすさだ・籠手田こてだ、桑田安親長男) 1840-1899 61 肥前平戸藩士;藩主松浦詮あきらの近習、  
国学・歌;服部春樹門、剣術;山岡鉄舟門、1873頃籠手田姓を名乗る、幕末;藩の京都探索掛、  
維新後;1868大津県判事試補/78滋賀県令/84元老院議官、島根、新潟、滋賀の県知事を歴任  
1907貴族院議員、鉅鹿敏子著[県令籠手田安定]あり、  
[安定(;名)の通称] 源之丞
- 保定(やすさだ・安倍) → 貞治(ていじ・安倍/安部、和算家) B 3 0 0 5  
 保定(やすさだ・森) → 鷗村(おうそん・森もり、儒者/教育) C 1 4 5 8  
 保定(やすさだ・垣内/菊池) → 海荘(かいそう・菊池/垣内、詩人/窮民救済) 1 5 8 5  
 保定(やすさだ・中村) → 金水(きんすい・松亭しょうてい、人情本) 1 6 6 3  
 保定(やすさだ・大友) → 久米満(くめまる・大友おおとも、歌人) D 1 7 4 7  
 保定(保貞やすさだ・内島) → 玄貞(げんてい、内島うちしま、医者) L 1 8 5 9  
 保定(やすさだ・富山) → 方亭(ほうてい・富山とみやま、医者/詩人) C 3 9 3 5  
 保定(やすさだ・田川) → 才助(さいすけ・田川、経世家/藩に上申) G 2 0 8 2  
 保貞(やすさだ・岡) → 平保(ひらやす・岡おか、神職/国学) F 3 7 4 2  
 安貞(やすさだ・石川) → 香山(こうざん・石川いしかわ、儒者/詩人) G 1 9 3 5  
 安貞(やすさだ・柳沢) → 吉里(よしさと・柳沢/源/松平、藩主/歌) D 4 7 4 1  
 安貞(やすさだ・須賀) → 亮斎(りょうさい・須賀すが、藩儒) H 4 9 6 0  
 安定(やすさだ・山口) → 履斎(りさい・山口やまぐち、藩士/儒者) B 4 9 0 7  
 泰定(やすさだ・菅原) → 豊直(とよなお・菅原すがわら、神職) R 3 1 3 6  
 泰定(やすさだ・加藤) → 泰済(やすずみ・加藤かとう、藩主/詩歌人) B 4 5 7 9  
 泰貞(やすさだ・安部) → 健臣(たけおみ・安部あべ、藩士/国学) U 2 6 9 9
- B4556 **康貞女**(やすさだのむすめ・平たいら) ?- ? 平安後期歌人:  
金葉2首:551(病氣治療に西海の塩湯浴に行き都にいる娘に海松みるを添え贈歌)/702、  
[磯菜いそな摘む入江の波の立ちかへりきみ見るまでの命ともがな](金葉:雑551)
- B4557 **康貞女の女**(やすさだのむすめのむすめ・平たいら) ?-? 平安後期歌人:金葉;552(:母に返歌)  
[ながみする海人あまのしわざと見るからに袖のうらにもみつ涙かな](金葉:雑552)
- F4552 **泰郷**(やすさと・佐藤さとう、) 1828-1901 74 飛騨吉城郡古川の国学者・歌;田中大秀門、  
大坪泰年の兄、



- [泰郷(；名)の通称/号]通称；彦六郎/彦左衛門、号；董菜園きんさいえん  
 安郷(やすさと・長谷川) → 安卿(やすあきら・長谷川、幕臣/歌人)  
 泰都(やすさと・加藤) → 文麗(ぶんれい・加藤かとう、幕臣/絵師) G 3 8 8 0
- B4558 康実(やすざね・堀河ほりかわ/本姓；藤原、冬輔男)1741-9656 母；滋野井公澄女、廷臣；1769従三位、  
 1775左京大夫、92参議/従二位、「衣服知新集」「色日記」「色目類抄」「五重」「堀河殿色目」著、  
 「色目部類」編、法号；得解脱院観道明恵
- B4559 保実(やすざね・高松たかまつ/本姓；藤原、公祐3男)1817-7862 兄季実の養子；廷臣/1853台膳権大夫、  
 1858従三位/62正三位、幕末の外交措置に関し公家側の中心的役割を果たす、  
 「高松保実歌道消息」著  
 保実(やすざね・藤原) → 友実(ともざね・藤原ふじわら、廷臣/詩人) P 3 1 5 2  
 安眞(やすざね・竹内) → 東門(2世とうもん・竹内、儒者) H 3 1 4 8  
 康真(やすざね・蘆田/依田) → 宗月(そうげつ・加藤/依田/松平/蘆田、武将) H 2 5 0 2  
 安三郎(やすさぶろう・常松) → 菊畦(きくけい・常松つねまつ、大庄屋/詩文) K 1 6 0 7  
 安三郎(やすさぶろう・豊島) → 洞斎(とうさい・豊島てしま、儒者/勤王) E 3 1 3 5  
 安三郎(やすさぶろう・森) → 尚員(ひさかず・森もり、国学者) M 3 7 0 7  
 泰三郎(やすさぶろう・久世) → 道空(どうくう・久世くぜ/源、幕臣/典礼/歌) T 3 1 2 3  
 泰三郎(やすさぶろう・近藤) → 浩斎(こうさい・近藤こんどう、藩士/儒者) I 1 9 9 2  
 保三郎(やすさぶろう・土屋) → 英直(ひでなお・土屋つちや、藩主/歌人) D 3 7 3 9
- B4560 遜志(やすし・郡山こおりやま) ? - 1781 薩摩鹿兒島藩士、儒；郡山員雄門、理学に通ず、  
 御記録奉行/御使番/のち喜界島代官、「薩藩諸家調抄」「島津世家」著、  
 [遜志(；名)の別名/通称/法号]初名；員中、通称；次郎左衛門、法号；自了院
- G4552 靖(やすし・藤井ふい、旧姓；木村)1778-183962 京の絵師/書画・詩；皆川淇園門/墨竹を能くす、  
 後藤家を嗣、1807(30歳)頃仏門/剃髮；敬阿弥雪堂と号す、  
 木屋町二条南から聖護院村に移住；隠居、1839(天保10)没(溶東常念寺に葬)、  
 [靖(；名)の字/通称/号]字；不及、通称；五兵衛、号；即声庵/雪堂(敬阿弥雪堂)
- B4561 寧(やすし・和田むね) 1787 - 184054 播磨三日月藩士/のち浪人し江戸へ、  
 関流和算；日下誠の家塾入門、芝増上寺の寺侍/京の土御門家の算学棟梁となる、  
 安島直円の円理を発展；曲線・曲面の求積に[和田の円理表]を創作、細井寧雄の師、  
 1806「極数題変商題」18「応率八象表」24「応率六神表」27「円理算法」29「六約算法」著、  
 1829「招差偏究算法」編、32「算法便覧極数之題解義」著、36「逐術極数起源本術」編、  
 「円理四象表」「円弧率海」「開方通義精表」「求積中心周」「関流開平全書」「湾背解術」外著多、  
 [寧(；名)の字/通称/号]字；子永、通称；豊之進、号；算学/円象/香山/豁通/馬束、  
 初称；香山直五郎政明、法号；積算明信士
- B4562 綏(やすし・志賀しが/本姓；大伴、延胸男)1795-184652 紀伊藩士；伊勢白子の代官、  
 国学者；本居大平門、書・南画；野呂介石門、「枕詞八重疊」「西園賜観集」著、延年のぶとの父、  
 大平撰「八十浦の玉」下巻；長歌[枯野]入、  
 [花に見し秋の百くさ枯れはてて霜置きわたす冬野さぶしも](八十浦；841反歌)、  
 [綏(；名)の別名/字/通称/号]初名；延綏、字；子福、通称；栄吉郎/弥三左衛門、  
 号；如山/思永堂
- B4563 愷(やすし・石原いしはら) ? - ? 江戸末期播磨の本草学者、1845「蘭薬手引草」
- F4548 靖(やすし・尾崎おさき) 1842 - 1864斬首23歳 江戸の生/肥前島原藩士；江戸詰、儒；藤森天山門、  
 国学；平田鉄胤門/剣術；斉藤弥九郎門、1862上京；勤王志士と交流；島原で尊攘を主唱、  
 1863脱藩；長州藩の異国船打払いに参加/上洛し天誅組に参加；五条で戦闘；捕縛され斬首、  
 [靖(；名)の通称]铸五郎ちゅうごろう/清五郎  
 安(やすし・会沢) → 正志斎(せいしさい・会沢あいざわ、儒者/尊攘) B 2 4 9 1  
 靖(やすし・林) → 読耕斎(どこうさい・林はやし、幕府儒官) O 3 1 4 8  
 靖(やすし・安井/市野) → 天籟(てんらい・市野/安井、藩士/儒者) E 3 0 5 5  
 靖(やすし・丸山) → 貝陵(はいりょう・丸山、儒者) C 3 6 2 5  
 靖(やすし・杉田) → 恭卿(きょうけい・杉田すぎた、蘭学者) N 1 6 6 2  
 靖(やすし・豊田) → 香窓(こうそう・豊田とよだ、藩士/儒者) G 1 9 3 8



靖(やすし・森) → 樅堂(しょうどう・森もり、儒者) R 2 2 6 3  
 靖(やすし・栗栖) → 天山(てんざん・栗栖くるす、藩士/漢学者) D 3 0 6 1  
 靖(やすし・宇津木) → 静斎(せいさい・宇津木うづぎ、儒者) I 2 4 3 1  
 靖(やすし・高木) → 宗矩(むねのり・高木たかぎ、藩士/国学/歌) D 4 2 9 6  
 靖(やすし・原田) → 竜山(りゅうざん・宇都宮/原田、儒者/教育) E 4 9 2 3  
 綏(やすし・桂) → 周水(しゅうすい・桂かつら、藩士/儒者) H 2 1 7 6  
 寧(やすし・星野) → 良悦(りょうえつ・星野、医/身幹儀製作) G 4 9 5 2  
 泰(やすし・茅根) → 寒緑(かんにょく・茅根ちのね、藩士/儒者) R 1 5 8 2  
 泰(やすし・勝原/小田) → 済川(さいせん・小田/勝原、藩校儒/医者) G 2 0 8 6  
 泰(やすし・礪はざま) → 師古(しこ・礪はざま、絵師) T 2 1 2 9  
 泰(やすし・宮河/塩田) → 順庵(じゅんあん・塩田/宮河、幕臣/医者) J 2 1 2 0  
 泰(やすし・鈴木) → 泰平(やすひら・鈴木すずき、医者/歌人) G 4 5 0 7  
 泰志(やすし・中島) → 九華(きゅうか・中島なかじま、儒者) M 1 6 3 5  
 耶須士(やすし・松山) → 高吉(たかよし・松山まつやま、国学/牧師) Z 2 6 6 4  
 泰二(泰次やすじ・鏡味) → 敬義(甲鵬たかよし・鏡味かがみ、神楽座楽人) N 2 6 7 4  
 保二(やすじ・森本) → 端山(たんざん・大口、商家/国学/歌) I 2 6 7 6  
 保二(やすじ・土肥) → 徳経(のりつね・土肥どひ、国学/歌人) J 3 5 2 8

- B4564 **定成**(やすしげ・和気わけ、貞相男) 1123-8866 医官/医家和気氏を再興、  
後白河即位の宇佐使を務める、1166近江権大掾/68正四下因幡介/備中介/71織部正、  
1173典薬頭、81「合薬方」共著(5人の1)、名医と称される、定長さだなが・時成の父
- B4565 **泰重**(やすしげ・土御門つちみかど/本姓;安倍、法名;靈光、久脩男) 1586-166176 母;細川伊豆守女、  
陰陽家、廷臣;1635(寛永12)従三位/44左兵衛督/49従二位天文博士、  
家学の陰陽道・天文道のほか暦道に精通、「泰重卿記」、1618・22「和漢聯句」参加
- F4550 **安重**(やすしげ・大形おおかた、通称;豊三郎) 1607-4842 伊勢度会郡の度会延佳の臣、  
近江彦根河原町に住;飛脚業、小川智将門;皇朝の道を修学/歌人、  
よく上京し東伏見里羽倉信常の集いに参加
- B4566 **安重**(やすしげ・荻野おぎの、彦左衛門2男) 1613-9078 上州白井の砲術家;種子島流砲術を修学、  
遠江の本多家に出仕;1644致仕/弟小左衛門正辰と共に正木流などの砲術12流を極める、  
荻野流を創始、1667備前岡山藩主池田光政に出仕;2百石、  
致仕後播磨明石藩松平直明に出仕;3百石、荻野越後守安定の末裔、  
「百ヶ条極意論」「鉄炮式法」著、1677「荻野流古流法式」著、「往来相図巻」伝、  
[安重(;)名]の通称/法号]通称;六兵衛、法号;禅徹/全徹
- B4567 **易重**(やすしげ・左右田そうだ、藩士綱俊男) 1664-172966 尾張名古屋の生/重武の弟、  
1686藩命で召され鈴木伊予守の同心/兵法家:八田智義門;円明流兵法を修得;印可、  
門人多数、「兵法備忘譜」著、  
[易重(;)名]の別号/通称/号]初名;邦俊、通称;源蔵/九平/武助、号;水哉、法号;水哉軒
- G4525 **安殷**(やすしげ・谷たに、) 1669-172153 和泉堺の商家(;)豪商)、歌人;平間長雅ながまさ門、  
幕府の貨幣制度改革の際に新井白石に意見書提出;正徳金銀の発行に至る、  
[安殷(;)名]の通称/号]通称;長右衛門、号;中正斎
- F4576 **易重**(やすしげ・春日かすが/本姓;藤原、紀重のりしげ男) 1752-181059 出雲神門郡古志村比布知神社祠官、  
国学;広瀬春信・芝山持豊門、「官社参詣記」編、  
春日家は忠重-延重のぶしげ-紀重のりしげ-易重やすしげと続く、  
[易重(;)名]の別号/通称/号]別名;延尹のぶただ/信風のぶかせ、  
通称;友太/織部/由尾よしお/由緒/真澄/益躬ますみ、号;知来/春融舎(父の称を嗣)
- B4568 **安重**(やすしげ・向井むかい) ? - ? 江後期大阪天満の儒者、  
1789(寛政元)「忠孝類説」著、  
[安重(;)名]の字/通称]字;堅固、通称;健次郎/健二郎
- 安重(やすしげ・磯野/宮沢) → 欽斎(きんさい・宮沢みやざわ、儒者) I 1 6 9 9  
 泰重(やすしげ・加藤) → 泰済(やすずみ・加藤かとう、藩主/詩歌人) B 4 5 7 9

- 泰繁(やすしげ・北条) → 元氏(もとうじ・北条ほうじょう、旗本/軍学) L 4 4 2 2  
 誼茂(やすしげ・玉虫たまむし) → 誼茂(やすしげ・玉虫たまむし)  
 誼茂(やすしげ・玉虫) → 誼茂(よししげ・玉虫たまむし/荒井、藩士/儒者) D 4 7 6 8  
 泰重(やすしげ・中川) → 千町(ちまち・宝田、中川、藩士/合巻) F 2 8 4 2  
 泰成親王(やすしげしんのう) → 泰成親王(やすなりしんのう・後村上天皇皇子/南朝歌人) C 4 5 5  
 保七(やすしち・桂/樋口) → 東里(とうり・樋口ひぐち、医/儒者) I 3 1 0 9  
 H4511 恭品(泰品やすしな・石原いしはら、初名;安吉/法号;宗閑) 1628-90 63 江前期幕臣/御家人;270石、  
 石奉行/廩米2百俵加増、歌人;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、  
 [暮かゝる山は霞にうづもれて雲よりもるゝ入相の鐘](若むらさき;199鐘)  
 泰十郎(やすじゅうろう・久保、幕臣) → 文々舎蟹子丸(初世ぶんぶんしやかにこまる、狂歌) G 3 8 3 8  
 F4503 泰女(やすじょ) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [吹きはらふ嵐の山に降る雪を梢の花の散るかとおもふ](大江戸倭歌;冬1303)  
 安四郎(やすしろう・間島) → 正盈(まさみち・間島まじま、藩士/歌人) H 4 0 5 5  
 B4569 保次郎(やすじろう・西山堂)? - ? 江戸後期書肆:老泉(1769-1822)門、「旧刊書目」編、  
 「西山堂ゆうざんどう筆記」の作者説あり(一般説は旗本大久保忠寄1733-1801著)、  
 → 西山堂(ゆうざんどう) C 4 6 0 5  
 保次郎(やすじろう・橋本) → 稲彦(いなひこ・橋本、国学者) D 1 1 9 2  
 保次郎(保二郎やすじろう・鈴木/亀田) → 鶯谷(おうこく・亀田かめだ、儒者) C 1 4 1 3  
 保次郎(やすじろう・梶原) → 景毅(かげよし・梶原かじわら、藩士/歌) L 1 5 5 1  
 保次郎(やすじろう・大久保) → 忠寄(ただより・大久保、幕臣/蔵書家) G 2 6 1 3  
 保次郎(やすじろう・高山) → 慶孝(よしたか・高山たかやま、商家/行政/歌) N 4 7 7 6  
 保次郎(やすじろう・堀) → 直雄(なおかつ・堀ほり、藩士/歌人) O 3 2 6 7  
 安次郎(やすじろう・志賀) → 武左衛門(ぶざえもん・鹿野しかの、噺家祖) 3 8 0 5  
 安次郎(やすじろう・田丸屋/稻掛) → 棟隆(むねたか・稻掛/山口、商家/国学/歌) B 4 2 4 8  
 安次郎(やすじろう・浜田/本居) → 内遠(うちとお・本居もとおり、国学者) 1 2 7 4  
 安次郎(やすじろう・宮寺) → 一貞(かずさだ・宮寺みやでら、幕臣/和算家) M 1 5 2 2  
 安次郎(やすじろう・榊屋) → 勘定外成(かんじょうのほかなり、狂歌) R 1 5 9 3  
 安次郎(やすじろう・堀田) → 憲之(のりゆき・堀田ほった、酒造業/歌人) J 3 5 9 4  
 安次郎(やすじろう・歌川) → 国安(初世くにやす・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 0 0  
 安次郎(やすじろう・磯崎) → 種栄(たねひで・磯崎いそざき、本陣勤務/歌) V 2 6 6 4  
 安次郎(やすじろう・猪飼) → 敬所(けいしよ・猪飼いかい、儒者/教育) 1 8 7 3  
 安次郎(やすじろう・松崎/長谷川) → 宗右衛門(そうえもん・長谷川/松崎、藩士/勤王) G 2 5 3 0  
 安次郎(やすじろう・山内) → 伊明(これあき・井手いで/山内、藩士/歌人) Q 1 9 2 8  
 安次郎(やすじろう・伊藤) → 重義(しげよし・伊藤いとう、商家/歌人) N 2 1 3 4  
 安二郎(やすじろう・横須賀) → 静斎(せいさい・横須賀よすか、儒者/教育) I 2 4 3 4  
 安二郎(やすじろう・田沼) → 意元(おきもと・田沼たぬま/源、歌人) D 1 4 7 4  
 安治郎(やすじろう・木下) → 頼裕(よりひろ・木下きのした、商家/国学) M 4 7 3 6  
 泰次郎(やすじろう・吉井/貫名) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1  
 泰次郎(やすじろう・玉乃) → 五竜(ごりゅう・玉乃たまの/枝えだ/桂かつら、儒者) N 1 9 9 6  
 泰次郎(やすじろう・木村) → 忠良(ただよし・木村きむら、神職/歌人) W 2 6 6 9  
 廉次郎(やすじろう・伊部) → 義成(よしなり・伊部いべ、藩士/歌人) F 4 7 4 3  
 B4570 保季(やすすえ・藤原ふじわら;北家末茂流、大宰大貳藤原重家男) 1171-? 1222存 母:藤原家成女、  
 叔父宮内卿藤原季経の猶子、廷臣;左馬権頭/従三位/1221病により出家;法名寂賢、  
 歌人;六条家の一員、六条家家宝人麿影供を藤原成実に相伝、  
 1195民部卿経房家歌合/1200院当座歌合・若宮社歌合/01千五百番歌合/04春日社歌合参加、  
 1205元久詩歌合/13内裏歌合/18-9道助法親王家五十首に参加、万代・秋風・夫木抄入集、  
 1222光通?「続歌仙落書」評入(寂賢名)、  
 勅撰7首;新古今(213/1285/1549)続古(1169)玉葉(2466)新続古(1213/2090)、  
 [過ぎにけり信太の森の郭公ほとぎすたえぬ雫を袖に残して](新古;夏213/杜間の郭公)、

(楠の千枝で有名;千枝より落ちる雫;長い待機と感動)

- B4571 **安季母**(やすすえのはは・藤原?)?- ? 平安期歌人;1058藤原公基歌合参加(;丹波で)、  
[むらどりはいかかきくらんたかはみつ狩場の小野のすずむしのこゑ](小鷹狩;公基歌合)
- F4557 **保助**(やすすけ・岡本おかもと、)1653-172169 山城愛宕郡の神職/上賀茂神社攝社大田社の禰宜、  
歌;武者小路実陰門、  
[保助(;名)の通称]通称;辰千代/肥前守
- B4572 **保佑**(やすすけ・戸板といた/本姓;多々良/修姓;多、保之男)1708-8477 代々陸前仙台藩士、和算家、  
中西流算術;青木長由門/天文曆術;遠藤盛俊(黄赤子)門;印可を受、1731藩天文生、  
1753上京;土御門家の安倍泰邦の改曆作業に助力;新曆[宝曆甲戌元曆]を作成、  
関流算術;山路主住門;一子相伝の免許を受、1758帰藩;藩主伊達重村より加増;禄150石、  
1743「起元法則伝」47「塚暈伝」56「奇偶段数考」65「算梯弧内円解」68「関流算術綱領伝」著、  
1773「八線表解」76「奥州仙台七十二侯之記」78「零約本術解」著、1782「天文秘書」編、外著多、  
[保佑(;名)の別名/字/通称/号]初名;重豊、字;植/茂蕃、通称;善太郎、  
号;格九/取譬しゅひ/黄海/統天斎、法号;英光院
- G4583 **安弼**(やすすけ・宮崎みやざき、)1735-181682 筑前秋月藩家老、皇学者/歌人、1816(文化13)没、  
歌集あり、1811(文化8)政変[織部崩れ]の家老宮崎織部舒安のぶやす(姫島流罪)の一族、  
[安弼(;名)の通称/号]通称;織部、号;秋燈
- B4573 **保敞**(やすすけ・野口のぐち) ? - 1814 信濃高井郡往郷村の和算家/宮城流;藤沢近行門、  
関流算学;小林高辰門、門人多数;越後まで及ぶ、郷里の水穂神社・長福寺に算額を奉納、  
「野口保敞算草」著、  
[保敞(;名)の幼名/通称/号]幼名;宗三郎、通称;惣右衛門、号;湖竜
- B4574 **保祐**(保佑やすすけ・田中たなか)?- ? 江後期江戸高輪の歌人;富樫広蔭門、  
1849(嘉永2)「高輪明鑑」編、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[すみれ咲く野中の道に行きくれぬ雲雀の床や一夜からまし](現存百人一首;58)、  
[保祐(;名)の通称/号]通称;権左衛門/捨左衛門、号;輪海
- G4506 **泰輔**(やすすけ・鈴木すずき、旧姓;水野)1800-5455 伊予の商家番頭用人、国学者/歌人、  
[泰輔(;名)の通称]幸左衛門/右馬之助/錠之助/金之助/幸右衛門
- E4597 **泰助**(やすすけ・高橋たかはし、名;止織)?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[真菰まこも草まだうら若き沢水にひととまじる杜若かな](大江戸倭歌;春334/杜若)  
[浮き雲は旅行くわれに似たるかな夕べの空に跡もとどめず](同;雑1839/羈中晩風)
- F4537 **泰翼**(やすすけ・宇津木うつき/本姓;平、泰交やすとも2男)1821-9878 近江彦根藩士;直弼の御側役、  
泰響の弟、分家して2百石/槍術に長ず/歌人、直弼没後は直憲に出仕;重臣;69致仕、  
学問;江戸在任中に安積良斎・大橋訥庵・井上文雄門、晩年は茶道師範となる、  
[泰翼(;名)の別名/通称]別名;景翼かげすけ/翼つばさ、字;子詹しせん、通称;幹之進/庄三郎/兵庫、  
号;棟溪
- G4596 **泰輔**(やすすけ・山崎やまざき、号;桃門)1840-9859 遠江豊田郡の医者/国学者
- |                  |   |                        |           |
|------------------|---|------------------------|-----------|
| 安助(やすすけ・渡辺)      | → | 為親(ためちか・渡辺わたなべ、商家/国学)  | 2 7 3 9   |
| 綏介(やすすけ・小宮山)     | → | 南梁(なんりょう・小宮山、藩儒/史学)    | J 3 2 6 7 |
| 泰輔(やすすけ・菊池)      | → | 三馬(さんば・式亭、滑稽本作者)       | 2 0 5 5   |
| 泰輔(やすすけ・石原)      | → | 馬年(ばねん・石原いしはら、藩士/俳人)   | F 3 6 5 2 |
| 泰輔(やすすけ・小村)      | → | 英庵(えいあん・小村こむら、医/鉱泉研究)  | C 1 3 5 0 |
| 泰輔(やすすけ・牧野)      | → | 鉅野(きよや・牧野まきの、儒/詩人)     | Q 1 6 3 6 |
| 泰輔(やすすけ・菊池)      | → | 三馬(さんば・式亭しまてい、戯作者)     | 2 0 5 5   |
| 泰輔(やすすけ・中村)      | → | 政善(まさよし・中村なかむら、酒造業/歌人) | M 4 0 0 3 |
| 泰輔(やすすけ・藤林)      | → | 普山(ふざん・藤林、医者/蘭学)       | C 3 8 3 3 |
| 泰輔(やすすけ→たいすけ・藤林) | → | 普山(ふざん・藤林、医者/蘭学)       | C 3 8 3 3 |
| 泰輔(やすすけ・仙石)      | → | 隆明(たかあき・仙石せんごく、藩士/尊攘)  | X 2 6 8 3 |
| 泰佐(やすすけ・安倍/阿部)   | → | 完堂(かんどう・安倍/阿部、儒者/詩人)   | R 1 5 5 6 |
| 泰助(やすすけ・林)       | → | 鳳谷(ほうこく・林、幕府儒官/大学頭)    | F 3 9 2 5 |



泰助(やすすけ/たいすけ・山田)→ 清房(きよふさ・山田やまだ、和算家) Q 1 6 2 7  
 泰助(やすすけ・宮原) → 竜山(りゅうざん・宮原みやはら、藩儒) E 4 9 1 9  
 泰助(やすすけ・高野) → 余慶(よけい・高野たかの、藩儒/藩政) B 4 7 7 7  
 泰助(やすすけ・小沢) → さゝを(ささお・小沢/山川、藩士/俳人) H 2 0 4 5  
 泰助(やすすけ・十河) → 一貞(かずさだ・十河そごう、藩士/国学/歌) U 1 5 8 5  
 康資(やすすけ・太田) → 資宗(すけむね・太田/源、藩主/系図編纂) D 2 3 1 2  
 保右(やすすけ・加藤) → 琵琶彦(びわひこ・便々館べんべんかん、商家/狂歌) 3 7 3 1  
 保介(やすすけ・近藤) → 忠行(ただゆき・近藤こんどう、庄屋/歌人) R 2 6 1 6  
 保介(やすすけ・妹尾) → 浴風(よくふう・妹尾せのお/佐上、藩士) N 4 7 5 1  
 保輔(やすすけ・斎藤) → 磐根(いわね・齋藤さいとう、村長/国学) K 1 1 2 9  
 保輔(やすすけ・山内) → 繁憲(しげのり・山内やまうち、商家/国学/神職) Z 2 1 9 4  
 保輔(やすすけ・菅) → 良史(よしふみ・菅すが/菅原、家老/国学) N 4 7 4 2  
 保資(やすすけ・広橋) → 益良(ますよし・東坊城/菅原/広橋、廷臣/日記) 4 0 7 3

- H4516 **康資王**(やすすけおう、神祇伯延信王男) 1041-90<sup>50</sup> 母; 四条宮筑前(高階成順[乗蓮]女)、  
 1045以後に父没; のち母は藤原基房と再婚、1058右京権大夫/59(康平2)神祇伯/従四上、  
 1090(寛治4)没、妻; 藤原隆方女、源頼康・頼朝王・源仁子(典侍)の父、
- 4522 **康資王母**(やすすけおうのはは、高階成順[乗蓮]女) ?-? 1106存; 90余歳 母; 伊勢大輔、女房歌人、  
 後冷泉天皇皇后四条宮寛子(藤原頼通女)に出仕、神祇伯延信王の妻; 神祇伯康資王を産む、  
 延信王没後; 藤原基房と再婚/夫が常陸守の時共に下向、郁芳門安藝(基房の孫)を養女?  
 筑前乳母・源兼俊母の姉、中古三十六歌仙の1、歌人; 1094関白師実賀陽院歌合で活躍、  
 1102内裏艶書合参加、家集「康資王母集(伯母はくぼ集)」、寂超「後葉集」・続詞花・雲葉集入、  
 勅撰39首; 後拾(9首525/581/726以下)金(122/300/599)詞(18/20)千(2首)新古(4首)以下、  
 [月はかく雲居なれども見るものをあはれ都のかゝらましかば](後拾遺集; 九羈旅525)、  
 (常陸下向のときの詠/都も月同様に遠くからでも見えたなら)、  
 [康資王母の通称] 四条宮筑前、伯母はくぼ、  
 女 → 安藝①(あき・郁芳門、藤原忠俊女) 1 0 4 0  
 後夫 → 基房(もとふさ・藤原ふじわら、朝経男/歌) E 4 4 1 9
- B4576 **安清**(やすすみ・戸川とがわ、安論[安倫]長男) 1787-1868<sup>82</sup> 幕臣; 従五下大隅守/播磨守、1802小納戸、  
 1803小姓/36長崎奉行/40勘定奉行/42西丸留守居/58宰相付小姓組番頭格奥勤、  
 書: 持明院基政門; 東部門流管轄の許可/歌人、「戸川安恵詠草春夏」「戸川安清詠艸」著、  
 1811-68(文化8-慶応4)「戸川家日記記録」39「景光山観音寺縁起」44「吹上御苑観桜詩歌」著、  
 1865「奉納二荒山二百五十首歌」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [夕日影匂へる桃の花の色は赤地におれる錦なりけり](大江戸倭歌; 春312/桃)  
 [安清(;名)の幼名/別名/字/号] 幼名; 雄三郎、初名; 安恵、字; 興、号; 蓮庵/蓬庵/蓮仙、  
 法号; 荷心院
- G4572 **康済**(やすずみ・松平まつだいら、康盛4男) 1632-1708<sup>77</sup> 江戸の幕臣; 1651召出; 綱重付/小普請、和学者、  
 祖父康親が家康から偏諱を受; 以降[康]の字を使用、父は下総・三河の領地1100石小姓組、  
 初代福釜康済家、康次・康俊・康兼の弟/康末・康行の兄、康共の父、康共-康棟-康淳と続く、  
 [康済(;名)の初名/通称] 初名; 康経、通称; 権十郎/伝次郎/三郎左衛門、法名; 常英  
 ☆[福釜康済家] 康済-康共-康棟-康淳-康珍と続く
- B4577 **安澄**(やすずみ・平野ひらの) 1753- 1811<sup>59歳</sup> 阿波徳島藩領洲本城代付き画図師、「淡州志」著、  
 [安澄(;名)の通称/号] 通称; 松屋井之助、号; 不一房/松花
- B4578 **泰純**(やすずみ・山方やまがた) ? - ? 江後期羽後秋田藩士、泰通の父、  
 「秋田藩紀年」「佐竹御系譜」編、「国典類抄」著
- B4579 **泰濟**(やすずみ・加藤かとう、泰候やすときの長男) 1785<sup>or81</sup>-1826<sup>42or46</sup> 母; 知貞院、  
 1787(3歳)父遺跡継嗣; 伊予大洲藩10代藩主; 6万石、遠江守/従五下、財政再建に着手、  
 儉約令・家臣の知行削減; 1818(文政元)頃財政安定、文武奨励・商業統制実施、  
 正室; 老中松平定信女の保寿院、加藤泰幹・松浦曜正室・中川久昭正室の父、  
 国学・儒学; 常磐井巖戈いかしほに門/詩歌文に長ず、  
 「文竜館集」「温史抄」「韓魏公詩句抄」著、「文竜館遺稿」、長男泰幹が家督嗣、



[泰濟(；名)の幼名/別名/号]幼名；作内、別名；泰重(；初名)/泰定、号；文竜/文竜館  
法号；文竜院

※大洲藩歴代藩主

貞泰(初代)・泰興・泰恒・泰統むね・泰温あつ・泰衛みち・泰武・泰行・泰侯とき・泰濟・泰幹・泰祉・泰秋

- B4580 **安処**(やすずみ・藤田ふじた、安貞男) ?-1834 加賀金沢藩士；1801家督嗣/奏者番/魚津在住、公事物奉行/藩主前田斉泰付近習御用/1828若年寄；34致仕；没、安定の父か？、1824「藤田平兵衛を以申上置控」著、  
[安処(；名)の通称/号]通称；弾正/五郎/求馬/平兵衛、号；意楽、
- G4562 **安純**(やすずみ・牧野まきの、通称；善庵/号；赤禱舎せきとうしゃ) 1816-8873 飛騨下呂の医者、  
国学・歌；植松茂岳しげおか門、のち神職；住吉神社・久津神社祠官  
康純(やすずみ・松平) → 寒松(かんしょう・松平康純、儒者/詩人) H 1 5 6 8
- B4581 **保蔵**(やすぞう・近松ちかまつ) ? - ? 江中期浄瑠璃作者；  
1786「彦山権現誓助剣ちかいのすげだち」著(梅野下風と合作)  
安蔵(やすぞう・江守) → 国清(初世くにきよ・歌川、幕臣/絵師/流罪) C 1 7 7 2  
安蔵(やすぞう・小橋) → 静学(せいがく・小橋こばし、儒者/医者) H 2 4 7 9  
安蔵(やすぞう・小橋) → 香水(こうすい・小橋こばし、藩士/儒/尊攘) J 1 9 9 7  
安蔵(やすぞう・浅野) → 高蔵(こうぞう・浅野、文筆家/歌謡・料理) F 1 9 2 7  
安蔵(やすぞう・児玉) → 北溟(ほくめい・児玉こだま、医/詩人/商家) D 3 9 9 9  
安造(やすぞう・山田) → 義忠(よしただ・山田やまだ、国学者) P 4 7 8 8  
保三(やすぞう・横山) → 由清(よしきよ・横山よこやま、国学者/歌) D 4 7 2 0  
保三(やすぞう・清水) → 雅見(まさみ・清水しみず、国学/歌人) Q 4 0 0 9  
保三(やすぞう・森) → 尚員(ひさかず・森もり、国学者) M 3 7 0 7  
保蔵(やすぞう・丹羽) → 長国(ながくに・丹羽にわ、藩主/歌人) K 3 2 2 5  
泰造(やすぞう・大橋) → 長広(ながひろ・大橋おおはし、国学/歌人) F 3 2 5 7  
泰造(やすぞう・中川) → 狂言堂(きょうげんどう・近松、浄瑠璃/図会/雑俳) N 1 6 6 7  
泰蔵(やすぞう・草刈) → 泰彦(やすひこ・草刈くさかり、藩士/歌人) C 4 5 7 0  
泰蔵(やすぞう・川治) → 南山(なんざん・川治かわじ、儒者/詩) J 3 2 1 1  
泰蔵(やすぞう・恒川) → 樸巖(ぼくがん・恒川つねかわ、藩士/儒者) D 3 9 0 0
- B4582 **康高**(やすたか・大須賀おおすが/本姓；平) 1528-8962 三河洞里の武将；徳川家康の家臣、  
1575(天正3)長篠合戦で先鋒として活躍/1578命で遠州横須賀城を修築；是を守る、  
1580家康の高天神城攻撃に戦功/81横須賀城主/84長久手合戦に戦功、平を賜姓、  
「参河徳川歴代」編/「康高覚書」著、[康高(；名)の通称] 五郎左衛門
- F4518 **康隆**(やすたか・天野あまの、) ? - 1663 江戸の幕臣/歌人、  
[康隆(；名)の別名/通称]初名；康豊、通称；三左衛門/三郎兵衛
- F4529 **泰隆**(やすたか・磯谷いそがや/加藤、) ?-1727 江前中期；幕臣；大番、国学者、  
[泰隆(；名)の別名/通称]初名；染之、通称；源兵衛/三郎兵衛
- B4583 **安崇**(やすたか・伴部ともべ、三省男) 1667-174074 父は伊予今治藩士、江戸品川の生、  
儒；山中久右衛門門/崎門学；矢野拙斎・佐藤直方門、垂加神道家；跡部良頭門、  
神道；正親町公通門、終生仕官せず垂加神道の研究；江戸四谷に学舎を開設；神道を教授、  
1706「肉親論」10「和漢問答」14「敬義内外考」32「神道野中の清水」35「日知の説」、  
1737「神道度会の橋」「霊夢講之記」、「神武紀葵草」「日本書紀巻返」「倭漢問答」「神道問答」、  
「神道禁秘」「安鎮本紀」「講学日記」「自從抄佛草」「神儒同旨」「安崇先生学話」、外著多数、  
[安崇(；名)の通称/号]通称；武右衛門、号；止定斎/八重垣翁、神号；八重垣霊社
- 4505 **康棟**(やすたか・松平まつだいら/本姓；源、康共男) 1696-175257 母；戸田直祐女、福釜松平康濟家3代、  
幕臣；1724小姓組番士、御納戸頭/西丸御歩頭を歴任/1746寄合/1751(宝暦元)致仕、  
歌人；烏丸家入門、家集「露葉集」著、広通「霞関集」入(息子康誠やすなりと共に入)、  
1739芥川寸艸「飛鳥山十二景詩歌」入(滝野川夕照たきのがほのせきせう)、  
[花も知れ松の木がくれ咲き初そめて月にもまさる心づくしを](霞関；春119/松間花)  
[夕日さす滝野の川はよそめにもげにいとしろき水の一すぢ)、  
(十二景歌/滝野川；武蔵石神井川の飛鳥山北麓の急流の呼称)、

[康棟(；名)の通称/法号]通称；釜次郎/伝次郎、法号；常潔、康淳・康誠の父

☆[福釜松平康済家] 康済-康共-康棟-康淳-康珍と続く

☆飛鳥山十二景 → 榴岡(りゅうこう・林はやし) D4978

G4581 康高(やすたか・三宅みやげ、康徳の長男)1710-1791<sup>82</sup> 母；華香院(野村家)、江戸生/1726従五下備前守、1745(延享2)父隠居；家督嗣；三河田原藩4代藩主/田原藩三宅家7代、財政再建を着手；相次ぐ火災や日光祭礼奉行・江戸門番等の公役でさらに逼迫；再建ならず隠居、婿養子の従弟康之が家督嗣、隠居後剃髪し巢鴨下屋敷に居住；茶人；南坊流10世宗匠、諸大名の茶の師匠として活動、正室；松平忠喬女(秋江院)/継室；松平信庸女(法林院)、勝(三宅康之正室)・藤太郎・康寿・里・虎五郎・蜂・為・鍋・好・仲・勇などの父、養子；康之、1791(寛政3)没、

[康高(；名)の幼名/通称/号]幼名；藤太郎、通称；襖右衛門/備前守、号；了閑/吟雪庵  
法号；寂巖院

E4582 安敬(やすたか/やすよし・前田まへだ/本姓；菅原、通称；左兵衛)?-? 幕臣；表右筆組頭/歌；冷泉家門、1798刊広通「霞関集」入、安敬の曾孫、

[雲かへる片山林むら鳥の声よりくるる木々の下陰](霞関；雑981)

B4585 保考(やすたか・賀茂かも/岡本おかもと、賀茂保起男)1749-1817<sup>69</sup> 賀茂世保の養子/神職；賀茂社祠官、一条家諸大夫を兼任/正四下/甲斐守/書博士；大師流書法；岡本邦氏・花山院常雅門、歌；慈延門、「岡本保考天明二年(1782)日記」「岡本保考天明五年日記」「世尊寺略系図」著、「岡本保考七天明七年日記」/1806「前田隆寿追悼」、「勅撰後賀茂県主和歌集」著、

[保考(；名)の幼名/通称/号]幼名；房千代/弁之介、通称；薩摩介/肥後守/甲斐守、  
号；方円齋(□○齋)/淪読齋(りんどくさい)

B4586 保喬(やすたか・伊藤いとう) ? - ? 江後期肥後熊本の和算家；藩師範牛島盛庸門、1794(寛政6)刊「算学小筈」校訂

B4584 保敬(やすたか・小泉こいずみ/初姓；坂上)1798-1852<sup>55</sup> 山城乙訓郡小倉神社神職小泉土佐守の養子、神職を義子に譲り三条西家に出仕、天保1830-44頃讃岐高松で友部方升と藩の皇学振興、国史編纂のため孝信閣に出勤、国学・歌；本居大平門、1849高松学習所の初代国書読師、1828「伊途乃屋雑抄」31「鰐口鉦考」38「神祇拾要」、「讃岐国名義考査」「湯津爪櫛考」、「元長神器動座私考」「保敬随筆」著、大平撰「八十浦の玉」下巻入(大江保敬名)、

[桜花咲くなるなへに百千鳥なれも遊ぶか此やまのへに](八十浦；727)、  
[保敬(；初名)の別名/通称/号]後の名；康敬(やすたか)、通称；土佐/将曹、号；榊院(さかきのいん)  
初め；並河帯刀真船(本姓；大江)と称す

E4598 居敬(やすたか・やすよし?・西山にしやま)?-? 江後期；歌人、

歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[刈る人の姿もそれとわかぬまで夏野は草の生いしげりつつ](大江戸倭歌；夏563)

F4506 居敬(やすたか・やすよし?・宮原みやはら)?-? 江後期；歌人、

歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[逢坂あぶさかはまだ遙かなりみるめなき涙はにほの湖うみと見つれど](大江戸倭歌；恋1548)

B4587 康爵(やすたか・松平まつだいら、康任やすとう男)1810-68<sup>59</sup> 母；松平康定女、1835父致仕；石見浜田藩主、従五下/左近将監/周防守、1836藩の密貿易が幕府に発覚；磐城棚倉に転封；塾居、1854隠居/弾正少弼?；武蔵川越に病没、弟康圭(やすかど)を養嗣とす、歌人・「春秋雑詠」著/1842「松井家歌会和歌」編、49「旅中唸」著、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[春雨のやや晴れゆけば片岡の草の緑の色ぞまされる](大江戸倭歌；春164/雨後春草)、

[風寒く鳴海の浦の小夜千鳥とこわびしらに妻恋ひて鳴く](同；冬1205/浦千鳥、

常侘びしらに；いつもわびしように)、

[康爵(名)の字/通称/号]字；時仲/時中、通称；弥三郎、号；誠園/晴軒、法号；寛隆院

F4512 保高(やすたか・青木あおき)1812 - 1894<sup>83</sup> 下野都賀郡の酒造業、儒；鈴木石橋(せつきょう)門、歌人、幸躬(さちみ)の父

G4553 居敬(やすたか・藤本ふじもと)1815-1867<sup>53</sup> 讃岐高松の国学者、

[居敬(；名)の字/通称/号]字；仲簡、通称；達助、号；遁齋/不繫舟庵

- B4588 **保孝**(やすたか・原田はらだ) ? - ? 幕末期和算家;川北朝鄰門、洋算にも通ず、1877東京数学会社(のちの日本数学物理学会)創立に参画、「数理問答録」、ロビンソン円錐截面術を訳す、  
[保孝(名)の字/号]字;順風、号;瀾山/有則
- G4520 **保万**(やすたか・高橋たかはし) ? - ? 江後期;陸奥胆沢郡水沢邑主伊達家の家臣、和学;本田春雄門、太田有富(1823-1907)と同門、  
[保万(;名)の通称/号]通称;万右衛門、号;水廻舎みずのや
- 保孝(やすたか・落合) → 重郷(しげさと・落合おちあい、藩士/剣術/史家) C 2 1 2 1  
 保孝(やすたか・岡本) → 況斎(きょうさい・岡本、儒/国学者) I 1 6 7 9  
 保孝(やすたか・井口) → 菊二(きくじ・井口、俳人) K 1 6 0 8  
 保喬(保高やすたか・大口) → 樵翁(しょうおう・大口おおくち、茶人/香道) H 2 2 3 7  
 保高(やすたか・松野) → 保高(ほこう・松野まつ、儒者) E 3 9 1 3  
 安孝(やすたか・竹内) → 東門(とうもん・竹内たけうち、儒者/医者) H 3 1 4 6  
 泰高(やすたか・毛利) → 壺邱(こきゅう・毛利/膝、儒/詩文) F 1 9 5 3  
 泰高(やすたか・加藤) → 文麗(ぶんれい・加藤かとう、幕臣/絵師) G 3 8 8 0
- B4589 **保武**(やすたけ・藤林ふじばやし、通称;左武次) ?-? 江前期伊賀の武芸者:  
伊賀忍者藤林堡の藤林長門守の曾孫、伊賀甲賀の忍術書集成、1676「万川まんせん集海」編のちに甲賀の大原数馬が幕府に提出(1789)
- G4560 **康桓**(やすたけ/やすつね・本多ほんだ、河内西代藩主忠統たむね[猗蘭いらん]長男) 1714-69<sup>56</sup> 河内西代藩の生、儒/詩;父門、近江膳所藩主本多康敏の養嗣子;康祖に改名/従五下隠岐守/下総守、1747(延享4)養父没;家督嗣;膳所藩7代藩主;康桓に改名、1765隠居;2男康政が家督嗣、病がち;1769(明和6)没、詩歌人、  
[康桓(;名)の初名/通称/号]初名;忠邦/康祖、通称;恒弥/兵部/号;退翁
- F4514 **保武**(やすたけ・浅野あさの) 1790-1857<sup>68</sup> 讃岐高松の歌人、俳諧・華道・茶道・箏箏を嗜む、  
[保武(;名)の通称/号]通称;覚兵衛、号;自閑/酔樵
- 泰武(やすたけ・佐成) → 千尋(ちひろ・佐成さなり/藤原、藩士/歌) M 2 8 6 0
- B4590 **恭忠**(やすただ・たかただ・菅野すがの) 1719<sup>頃生</sup>-? 1779(60余歳)存 加賀金沢の国学者、音韻学者;田中朋如ともゆき(定顕さだあき/1707-70)門;音韻説修学(39年間)、謠曲発声の理に応用;1779(安永8/60余歳)「謡要律」著
- B4591 **安董**(やすただ・脇坂わきさか、安親2男) 1768-1841<sup>74</sup> 母;上田義当女、播磨竜野藩主;1784襲封、1785従五下/淡路守/1790奏者番/91寺社奉行兼任;僧徒破壊の弊害を摘発、1894美作三郡内の幕府領2万3千余石を預けらる/1804従四下中務大輔/13讒言で辞職、1829再任/35但馬出石藩の仙石騒動を糾明;褒賞を受/36西丸老中格/侍従、37本丸老中、1841在職中急逝、狂歌;鹿都部真顔社中で活動、1790「安元公御歌」編/98「烈祖垂統編」著、1814「易地聘使録」35「仙石一件記」、「歌日記」、「楓山御成巻懐私鑑」著、安宅やすおりの父、  
[安董(;名)の幼名/号]幼名;亀吉、号;蒼竜軒/汐留しおどめ亭丸々、法号;蒼竜院
- B4553 **安忠**(やすただ・長沼ながぬま、通称;半之丞、安定やすさだ男) 1837-1913<sup>77</sup> 和算家;父門、西岡信義門;「容術解義」を受、1854「中容解義」著
- 保忠(やすただ・塙) → 忠韶(ただつぐ・塙はなわ、国学者) F 2 6 3 1
- 4506 **保胤**(やすたね・慶滋よしげ/修姓;慶、本姓;賀茂、陰陽家賀茂忠行2男) 913?-1002(70余歳没) 廷臣、漢学;天暦947-57頃文章院西曹で菅原文時門、946発足の勸学会中心的人物とし活躍、高丘相如と並称、近江掾・内記/984内御書所覆勘兼任/従五下/大内記、浄土信仰;986出家、源信・具平親王と信仰で交流;源信は保胤「日本往生極楽記」と自著[往生要集]を宋に贈る、藤原道長受戒の師、詩人、963(応和3)-77善秀才宅詩合・969(安和2)粟田左府尚齒会詩参加、歌;977(貞元2)三条左大臣家歌合参加、982(天元5)「池亭記」/984「日本往生極楽記」、986出家/1002京東山如意輪寺に没、家集「保胤集」、「探訪極楽世界十六想観画賛」著、「報賽並諸供養等願文」著、詩文;和漢朗詠集・新撰朗詠集・和漢兼作集入/歌;拾遺集1330、  
[憂き世をばそむかば今日もそむきなん明日もありとは頼むべき身か]、(拾遺:哀傷1330/出家の時の書置)、  
[保胤(;名)の字/別名/通称]学生字;茂能、唐名;定潭、法名;心覚(;初)/寂心、



通称;内記上人/内記入道

兄 → 保憲(やすのり・賀茂、陰陽家) 4 5 2 7  
弟 → 慶滋保章(文章博士)・慶滋保遠(陰陽博士)  
甥 → 為政(ためまさ・慶滋、廷臣/漢学/詩歌) H 2 6 4 0

F4523 康民(やすたみ・淡川あわか、) 1776-1842 67 京の徳大寺家諸大夫、歌人;香川景樹門、  
[康民(;名)の通称] 土佐守/伊勢守/陸奥守/右京亮うきょうのすけ

B4593 泰胤(やすたね・土御門つちみかど/本姓;安倍、泰栄やすなが男) 1782-? 江後期廷臣;1797(寛政9)従四下、  
左衛門佐、1798辞職/位記を返上、1793-98「泰胤朝臣記」著

B4594 安民(やすたみ・藤原ふじわら) ? - ? 江戸の和文/狂歌作者;太田南畝門、  
1806南畝「ひともと草」入

F4539 保民(やすたみ・内池うちいけ/旧姓;今村) ?-1858 近江蒲生郡八幡町の商家/歌人(;鳩の海入)

B4595 安民(やすたみ・秋元あきもと/本姓;藤原、一時野々口、秋元右源次包菊2男) 1823-62 40 播磨姫路藩士、  
国学・歌;野々口(大国)隆正門;一時その養子;離縁、伴信友門、姫路藩国学寮教授、  
江戸出役中に洋式帆船を研究;その建造を進言、藩の勤王の首唱者、  
1853(嘉永6)「伊勢の浜荻」「類題青藍集」著、「嘉永三十六歌撰」「安政三十六歌仙」編、  
「近世三十六歌撰」「万語叢」「活語範」「生国考」「大伴遠祖伝」「海外名所歌集」「例語部類」、  
「こころおきて」「国学六家手翰」「道祖神」「宇宙起源」「古語拾遺異本考」外著多数、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[岨そばつたふ雲やうきよをへだつらん尾上の月の神さびにける](大江戸倭歌;秋865)  
[安民(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;岩次、字;正朔、通称;正一郎/正蔭/逸民/御民、  
号;空室、法号;徹心院

F4500 安民(やすたみ・高島たかしま、) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[けふもまた結ぶ板井の水のうへに落ちて一葉の秋ぞうかべる]、  
(大江戸倭歌;秋702/初秋落葉)

安民(やすたみ・平山) → 敬忠(よしただ・平山らやま/黒岡、幕臣/神道) O 4 7 8 0

康民(やすたみ・牧野) → 康済(やすなり/やすまさ・牧野/源、藩主/詩) C 4 5 5 0

保民(やすたみ・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7

保民(やすたみ・中川) → 希雲(きうん・中川なかがわ、醸造/歌・俳人) U 1 6 9 0

保為(やすたみ・大口) → 樵翁(しょうおう・大口おおぐち、茶人) H 2 2 3 7

安太夫(保/康-やすだゆう・前田) → 正虎(まさとら・前田、藩士/書家) E 4 0 8 6

安太夫(やすだゆう・阿部) → 時庸(ときつね・阿部あべ、神職) T 3 1 8 8

B4596 泰足(安足やすたり・村田むらた) 1749-1823 75歳 近江彦根藩士/1769(明和6)祖父武兵衛を継嗣;  
旗宰領/のち作事門改役/作事方元締改証判役を歴任、国学:大菅中養父門、

1799本居宣長門/99藩校稽古館創設時に和学教授、小林義兄よしえと交流、  
「淡海三郡録」「三七歌集」「凝烟舎詠草」著、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;2首入、  
[萩の花にほはす秋はわが園にかく来てあそべみやびをのとも]、  
(八十浦;528/萩盛りの時人々たずね来て歌詠む/雅男;風流士)、

[泰足(;名)の通称/号]通称;新太郎/新次郎/大輔/大介/大助、号;凝烟舎すのや

B4597 安足(やすたり・土屋つちや) 1757- 1819 63 紀伊和歌山藩士/奥右筆大番格、

国学者;本居宣長門;名代を務める/のち本居大平門、「ゆめのたゝち」著、

[安足(;名)の別名/通称]初名;充、通称;惣五郎/総五郎

保太郎(やすたろう・水本) → 成美(なりよし・水本みずもと、儒者) I 3 2 4 1

保太郎(やすたろう・奥村) → 邦秀(くにひで・奥村おくむら/橘、国学/茶人) E 1 7 0 8

保太郎(やすたろう・奥村) → 邦光(くにみつ・奥村おくむら/橘、神職/歌人) E 1 7 0 9

保太郎(やすたろう・武田) → 車龍(しゃりゅう・武田たけだ、歌人) Z 2 1 3 8

保太郎(やすたろう・西村) → 正保(まさやす・西村にしむら、国学) R 4 0 4 0

保太郎(やすたろう・団井) → 忠毅(ただよし・団井まるい、藩士/国学) Z 2 6 6 6

安太郎(やすたろう・林) → 秋告(あきのり・林、国学者/歌人) D 1 0 7 7

安太郎(やすたろう・上田/源) → 未生斎(2世みしょうさい・広甫こうほ、華道家) 4 1 8 8



安太郎(やすたろう・浅井) → 幽清(ゆうせい・浅井あさい、国学者) D 4 6 0 1  
 安太郎(やすたろう・加藤) → 安彦(やすひこ・加藤かとう、藩士、国学/歌) F 4 5 6 3  
 安太郎(やすたろう・津田) → 安平(やすひら・津田つだ、藩士/国学者) G 4 5 2 8  
 安太郎(やすたろう・島村) → 紀孝(のりたか・島村しまむら、商家/国学) I 3 5 7 0  
 安太郎(やすたろう・松川) → 庸興(つねおき・松川まつかわ、神職/国学) G 2 9 3 7  
 泰太郎(やすたろう・山崎) → 弘泰(ひろやす・山崎やまざき、国学者/歌) H 3 7 5 7  
 泰太郎(やすたろう・安井) → 吉家(よしいえ・安井やすい、神道家/歌人) P 4 7 7 6

- B4598 **安親**(やすちか・藤原ふじわら、中正男/母:伊勢守源友貞(友時?)女) 932-996<sup>65</sup> 平安前期廷臣;  
 朱雀院藏人、961民部少輔/962従五上大和守/969春宮権大進/従四下相模守/972伊勢守、  
 984春宮亮、986藏人头/修理大夫/正四上/987参議/991正三位/993備前守、  
 時姫(兼家室)の兄弟、  
 歌人:960内裏歌合(:息守仁と女房和歌合に参加)/966内裏前裁合参加(:息時清と)  
 [秋の花かざらずにほふよろづよをのどけき月の影にみるかな](内裏前裁合;19)
- B4599 **泰親**(やすちか・安倍あべ、泰長男) 1110?-1183?<sup>74?</sup> 平安後期廷臣;陰陽博士/天文博士:正四上、  
 1182(寿永元)陰陽頭兼大膳権大夫、占卜に長ず;藤原頼長・九条兼実に重用される、  
 1166「陰陽頭安倍泰親朝臣記」著、法号;念仏
- C4500 **康親**(やすちか・中山なかやま/本姓;藤原、宣親男) 1485-1538<sup>54</sup> 母;法印兼寿、廷臣;藏人头/1511参議、  
 1512従三位/16権中納言/26正二位権大納言/1532出家(法名;祐清)、孝親の父、  
 「貫主要記」、1507-11(永承4-8)「康親卿記」/07「康親卿貫通首拝賀次第」著、  
 1522「叙位白馬記」「白馬節会外辨要」著
- C4501 **安親**(やすちか・西松にしまつ) ? - ? 安桃期天正1573-92頃美濃の連歌作者、  
 1575・2月2日紹巴安親等「山河百韻」参加
- E4583 **保親**(やすちか・服部はっとり) 1711-1766<sup>56</sup> 江戸幕臣;;小普請/一橋宗尹(小五郎)の近習番、  
 一橋家の小十人頭/のち富士見宝蔵番頭、歌人;石野広通「霞関集」入、  
 [一声を松の戸ぼその明がたに聞くはめづらし山ほととぎす](霞関;夏227/山家郭公)、  
 [安親(;名)の通称]藤五郎/新五兵衛
- C4502 **安親**(やすちか・河田かわた、安節男) 1759-1849<sup>長寿91</sup> 陸前仙台藩士:勘定奉行/郡奉行/町奉行歴任、  
 歌人:畑中盛雄門、香川景樹・橘千蔭・北村季文と交流、富小路貞直より歌を激賞、  
 「五心集」「日鼠集」「四季文章」著、  
 [安親(;名)の通称/号]通称;四兵衛、号;了我/自楽翁、安尚やすひさの父
- G4527 **寧親**(やすちか・津軽つがる、著高長男) 1765-1833<sup>69</sup> 母;黒田直純女、陸奥弘前藩分家黒石領主の生、  
 1778(安永7)旗本交代寄合;黒石領4000石と黒石津軽家の家督を継嗣、1782寧親に改名、  
 1787(天明7)本所深川火事場見廻役/1791(寛政3)本家の藩主信明没;養嗣子となる、  
 弘前藩9代藩主/従五下出羽守、1796(寛政8)藩校稽古館を創設/97法令[寛政律]制定、  
 1805-08(文化2-12)蝦夷地警備/功により従四下・10万石、1809支藩黒石藩を立藩、  
 格式出費・蝦夷警備で財政窮乏;領民重税で1813一揆勃発、1820(文政3)侍従/右京大夫、  
 1821(文政4)盛岡藩より家格上昇のため盛岡藩関係者による相馬大作事件(テロ)発生、  
 1825(文政8)家督を2男信順に譲り隠居;向陽館・広州と号す、俳諧を嗜む、  
 正室;福姫(杉浦正勝女)、側室;5名、典暁・信順の父、  
 [寧親(;名)の初名/字/通称/号]初名;征方、字;子考、通称;和三郎/出羽守/越中守、  
 号;向陽館/広州/俳号;如山・栖鶴・琴亭
- G4512 **安隣**(やすちか・摂津せつ、初名;保隣/通称;源兵衛) 1773-1842<sup>70</sup> 伊予八幡浜の国学者/歌人、  
 国学・歌;本居大平門
- C4503 **康親**(やすちか・堀河ほりかわ/本姓;藤原、初名;親孝、萩原員幹2男) 1797-1859<sup>63</sup> 堀河親実の養嗣子、  
 江後期廷臣;1833従三位/56従二位、58日米条約勅諭改訂を要請した八十八卿に参加、  
 1859権中納言、1854「備忘日誌」、「御献奉行備忘之記」著、親賀・岩倉具視の父
- C4504 **保親**(やすちか・宮永みやなが、神官伊藤道保長男) 1819-86<sup>68</sup> 筑前遠賀郡中間村の生、  
 筑前夜須郡上秋月八幡宮祠官宮永家の養子:祠官を嗣/従五下周防守、  
 国学・神道:伊勢の足代弘訓門・筑前鞍手郡の伊藤常足門、画;日田の千原夕田門、  
 書・歌に通ず;宮中詠進歌入選、秋月藩主黒田長元と歌を詠ず;長元に日本書紀を進講、

1867私塾敬神塾を開く；子弟教育、  
「足代先生著述目録」編/「和歌稀言作例」著/1867「拾葉和歌集」編  
[保親(；名)の通称/号]通称；栄太郎/大炊助、号；鳩山きゅうざん

- C4505 **康嗣**(やすつぐ・刀利とり) ? - ?(81歳没) 奈良期漢学者；渡来系廷臣、710(和銅3)従五下、  
刀利宣令みりの父説あり、大学博士、懐風藻；1首入(五言「宴の侍す」、  
760-62「家伝」下巻武智麻呂伝に「釈奠せきてん文」入
- E4558 **安継**(やすつぐ・椎名いな) ? - ? 下総の住人/狂歌作者；1666行風「古今夷曲集」1首入、  
[樽のはらふる酒きけばかすかなる三かさも飲まばやがてつきかも]、  
(夷曲集；九724/酒宴半ばに使用人が樽の酒[ありやなしや]と言うので詠む)
- F4540 **保承**(やすつぐ・内池うちいけ) 1743-181977 近江八幡町仲屋上の商家；内池家五代、  
国学・蹴鞠に通ず/歌人；伴蒿蹊こうか門、羽倉信美と交流、八幡町総年寄職、  
保教(；女婿)が家督嗣、  
[保承(；名)の通称/号]通称；甚兵衛、号；等室
- C4506 **保紹**(やすつぐ・服部はつとり、保教男) 1771-184878 幕臣；父は早く没/1794祖父保春の継嗣、小納戸、  
徒頭/西丸目付/留守居番/先手鉄砲頭、1797「遠州安間氏家蔵御器図」著、  
[保紹(；名)の通称] 鑰之丞りんのじょう/式部/一郎右衛門
- G4544 **康次**(やすつぐ・浜田はまだ) 1783-184866 陸奥仙台藩士；小姓/奥小姓/小納戸役、  
1830(天保元)小姓頭、江戸番頭/1838(天保9)出入司/44(弘化元)再度小姓頭；禄百石、  
典故・槍術(風伝流)・居合(一宮流)・書・笛に通ず、1848(嘉永元)没、  
[康次(；名)の初名/字/通称/号]初名；玉民、字；子恭、通称；進/縫殿ぬい、号；松廬/梅園
- F4583 **安統**(やすつぐ・菊池きくち、旧姓；常磐井、通称；撰津守) ?-1859 伊予大洲の生、国学者/歌人、  
伊予風早(宇和)郡多田村の神官菊池隆善の養子、伊予風早郡宮内村の三島神社神官  
安次(やすつぐ・山下/越智) → 正勝(まさかつ・越智おち/山下/津田/久保、神職) C 4 0 1 0  
安禪(やすつぐ・重野) → 成斎(せいさい・重野しげの、藩士/儒/史学) B 2 4 6 5  
康嗣(やすつぐ・立入) → 康善(やすよし・立入たてり、廷臣) D 4 5 4 9
- C4507 **保綱**(やすつな・源みなもと、深津[深栖]三郎源光重男) ?-? 平安末鎌倉期の廷臣；従五下/美作守、  
左京大夫/上西門院(統子内親王1126-89)の蔵人、歌人；新続古今集1327/1577、  
[ながめやるそなたの空はつれなくて独りしぐるるさ夜の中山](新続古；恋1327)
- C4508 **泰綱**(やすつな・宇都宮うつのみや/本姓；藤原、頼綱男) 1203-6159 母；北条(平)時政女、武将；宇都宮城主、  
鎌倉幕府評定衆、正五下/下野守/修理亮、建長1249-56頃美濃の守護職、蹴鞠・歌に長ず、  
宇都宮歌壇で活躍、1258-9為氏「新和歌集」42首入(；父頼綱・息景綱らと入集)、  
勅撰5首；続後撰(1070)続拾遺(515/682)玉葉(1489)新千載(577)、  
[こよひとやかかねて嵐のはらふらん空に雲なき山の端の月](続後撰；雑1070)、  
[泰綱(；名)の幼名/法号]幼名；源三郎、法号；順蓮、景綱・盛綱の父
- C4509 **康綱**(やすつな・中原なかはら、源重尚男) 1290-133950 鎌倉南北期廷臣；徳治(1306-08)頃中原に改姓、  
1316権大少外記/18少外記/34(建武元)権大外記/正六上、徒然草101段；機転の逸話入
- G4510 **安綱**(やすつな・関口せきぐち、通称；源兵衛) 1592-164756 駿河の生/近江彦根藩士、  
歌人；[彦根歌人伝・続寿]入
- G4545 **保綱**(やすつな・林はやし) 1808 - 187669 下総香取郡の酒造業、歌人；神山かみやま魚貫なつら門、  
「葛廼舎集」著  
[保綱(；名)の通称/号]通称；茂之輔/伝兵衛/忠三郎/忠之進、号；葛廼舎つたのや/静遠/聴雨
- G4591 **安綱**(やすつな・八木原やぎはら、通称；左近) ?-? 江後期；京の国学者/歌人；香川景樹(1768-1843)門
- C4510 **泰綱**(やすつな・沢田さわだ/本姓；荒木田、菌田守約3男) 1830-191687 伊勢宇治神職；沢田泰登の養子、  
1833(天保4；4歳)伊勢内宮権禰宜/63禰宜/正四位/71改革により位記返上；退職、  
1878神宮主典/禰宜；致仕、神典国学；八羽光徳門/歌に長ず、「稻廼屋集」著、  
[泰綱(；名)の別名/通称]別名；約治、通称；良丸/河内/頼母/右京/日向  
康綱(やすつな・岡部) → 長盛(ながもり・岡部おかべ、城主/歌/連歌) G 3 2 1 1
- E4572 **安経**(やすつね) ? - ? 室町期；尾張熱田神宮の神職、  
連歌；1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、  
[里かあらぬか松のひとむら](熱田法楽；賦山何二裏6/あの松のひとむらはやつと里か、

前句;宮寿丸;末遠き野を分けごろも日も入りて)

- F4566 **泰恒**(やすね・加藤かとう、泰義2男) 1657-1715 59 母;太田資宗女の奈辺、延宝2(1674)家督継嗣、伊予大洲藩3代藩主、従五下遠江守、財政悪化;1681家臣への給与を知行から蔵米とする、1683(天和3)儉約・綱紀肅正、画;狩野常信門/歌人;清水谷実業門、能書家、痢疾で没、正室;脇坂安政女の左牟/継室;大老酒井忠清女の以津、泰統・泰都・泰広の父、[泰恒(;)名)の別名/通称/号]別名;泰経/泰常、通称;五郎八/遠江守、号;乗軒へいけん、法号;英久院、家督は次男泰統やすむねが嗣
- ※大洲藩歴代藩主  
貞泰(初代)・泰興・泰恒・泰統むね・泰温あつ・泰衙みち・泰武・泰行・泰候とき・泰済・泰幹・泰祉・泰秋
- E4579 **遂庸**(やすね・阿部あべ、通称;鍬次郎てつじろう、法号;日潤、遂良やすよし男) 1720-91 72歳 幕臣;本丸書院番、歌;中院家入門・のち冷泉家に入門、1798刊広通「霞関集」入、[千代の春ここにや摘まん住む鶴たづもなるる田面の若菜たづねて](霞関;春41/若菜)
- H4500 **祇庸**(やすね・湯浅あさ、進良のぶよし男) 1785-1860 76 加賀金沢藩士;書物奉行、国学者、「北藩秘鑑」「藩国官職考」「本藩御譜」著、[祇庸(;)名)の字/通称/号]字;子恒、通称;弥左衛門、号;弦斎/温知斎
- G4541 **保常**(やすね・服部はつとり、) 1830-1911 82 三河吉田の国学者・歌;竹尾正久門、[保常(;)名)の通称/号]通称;弥八/弥吉、号;春叢しゅんそう/豊水  
泰恒(やすね・山県) → 棠園(とうえん・山県、儒者) B 3 1 4 6  
康経(やすね・松平) → 康済(やすずみ・松平まつだいら、幕臣・和学) G 4 5 7 2
- E4587 **安積**(やすみ・石川いしかわ、字;忠吉) ?-? 出羽(羽後)秋田藩士、国学者;本居大平門、歌;大平「八十浦の玉」下巻入、[み吉野の山の鶯をちこちに櫻咲けとや鳴きわたるらむ]、(八十浦;731/2月9日吉野山に鶯の鳴くを聞く)
- G4593 **安連**(やすつら・柳沢やなぎさわ、) 1619-1670 52 江戸の幕臣;新番、和学者、安利やすとしの兄、[安連(;)名)の初名/通称]初名;信安、通称;長九郎
- G4534 **安連**(やすつら・中村なかむら、) 1681-1750 70 遠江敷智郡将監名村の庄屋、国学者、浜松諏訪神社下神主を務める
- C4511 **泰連**(やすつら・土御門つちみかど/本姓;安倍、泰福やすとみ2男) 1685-1752 68 陰陽家、兄泰誠やすのぶの名跡継嗣、廷臣;1698陰陽頭/1722従三位治部卿/47従二位、1700-25(元禄13-享保10)「泰連卿記」著
- C4512 **保行**(やすつら・藤木ふじき/本姓;賀茂、大田社祝播磨守寿保男) 1787-1842 56 藤木保備の養子/神職、廷臣;1793院の北面/従卯四下、「北面記」「葵祭注進奉行記」著、[保行(;)名)の幼名/通称]幼名;太丸/元丸、通称;伊豆守/河内守
- C4513 **保行**(やすつら・賀茂かも/幸徳井、山城笠置の郷士の男) 1808?-? 1855存 陰陽大允賀茂保孝の養子、大乘院門跡家司原若狭守の猶子、廷臣;陰陽家、1835権暦博士/1849正五下/近江守、「嘉永八年(1855)具注暦」編  
安貫(やすつら・奥野) → 安行(やすゆき・奥野おくの、国学/神職) F 4 5 6 0
- C4514 **安照**(やすてる・庄田しょうだ、安村男/本姓;平) 1590-1656 67 徳川家康家臣/大坂陣に従軍、1615祖父を継承/幕臣;目付使番/1632普請奉行;芝増上寺秀忠霊屋・日光東照宮造に参加、1642「日光山東照宮造営帳」著、[安照(;)名)の通称/法号]通称;小左衛門/外記、法号;善眞
- C4515 **安照**(やすてる・脇坂わきさか、安政2男) 1658-1722 65 播磨竜野藩主;1678従五下淡路守/83願譜代、1684家督継嗣;襲封/1701浅野長矩封地没収による赤穂城請取の正使を勤める、1709致仕、1702「播磨国郷帳」編、安清の父、[安照(;)名)の幼名/号]幼名;甚之助、号;幽水、法号;玄要院
- G4578 **安輝**(やすてる・三浦みづら、安知男) 1782-1827 46 近江彦根藩士、和学/歌人、禄180石/1801辻着到役、歌;[彦根歌人伝・亀]入、[安輝(;)名)の通称/号]通称;十左衛門(代々の称)/才記、号;松舎  
保光(やすてる・源) → 保光(やすみつ/やすてる・源、中納言/歌人) D 4 5 1 0  
泰輝(やすてる・加藤) → 泰候(やすとき・加藤かとう、藩主/焼物/書) F 4 5 6 7



- 保人(やすと・片山) → 行義(ゆきよし・片山かたやま or 片田、藩儒) G 4 6 7 5
- E4554 **安任**(やすとう・大祝おほほうり、安高男)?-? 伊予大山祇神社(三嶋社)宮司;  
1577(天正5)河野通直より大祝職に安堵(大祝家35代)、大山祇法楽連歌の連中;  
1590(天正16)千句/93(文禄2)千句・百韻などに参加
- C4516 **康任**(やすとう・松平まつだいら、浜田藩士松平康道の長男)1780-1841<sup>62</sup> 母;五嶋盛道女、  
石見浜田藩主松平康定の養子;1807遺領継嗣;浜田藩主襲封/従四下左京亮/侍従/周防守、  
下野守、奏者番兼寺社奉行/大坂城代/京都所司代を歴任/1826老中、35老中辞任/致仕、  
致仕後に藩の密貿易が露見;蟄居/江戸に没、康爵やすたか・康圭やすかど・達子の父  
万葉集の研究に業績、「万葉六帖」著、1824「木綿牒」編、「由布太多美」著、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入(息女達子と共に入集)、  
[一夜だに隔てはつらき中なるに逢はぬ日数のうらめしきかな]、  
(大江戸倭歌;恋1473/ひごろへだてたる)、  
[康任(;名)の幼名/法号]幼名;岩吉郎/軍次郎、法号;寛裕院
- E4594 **泰任**(やすとう・浅岡あさおか/本姓;藤原)?-? 江後期;歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[たち渡る野辺の霞や鶯の今朝鳴く声の匂ひなるらん](大江戸倭歌;春91/霞中鶯)
- C4520 **安任**(やすとう・広沢ひろさわ、庄助2男)1830-91<sup>62</sup> 岩代会津藩士;若松の生/藩校日新館に修学、  
儒者;江戸昌平塾修学、1862藩主松平容保の京都守護職に随従し上京;公用人として活動、  
戊辰戦争で藩主の忠誠心を奥羽鎮撫総督府に上訴;投獄、のち赦免;陸奥斗南藩少参事、  
陸奥北部へ移住;旧会津藩士の救済・子弟教育・原野開拓に尽力、  
廃藩置県後英国人を雇用;奥羽の荒蕪地に洋式牧場を経営;日本の牧畜事業の先駆者、  
1862-3「鞅掌録」著、「源正之略伝」編、「因中八詩演義」「近世盲者鑑」「開牧五年記事」外著多、  
[安任(;名)の字/通称/号]字;季重すえしげ/秀重ひでしげ、通称;富次郎、  
号;得岳/淡煙/牧老人/六十九種草堂主人/眠鴨みんおう、安連の弟
- C4518 **保遠**(やすとお・平たいら、時経男、貞文の孫)?-? 平安前期廷臣;相模守従五上、  
歌;960(天徳四年)「内裏歌合」の女房和歌合左方人に参加、
- C4517 **懷遠**(やすとお・藤原ふじわら、別名;懷平やすひら、斉敏男)953-1017<sup>65</sup> 母;藤原尹文女、実資の兄、  
平安前中期廷臣;967右衛門少尉/974少納言/983修理大夫/986従三位非参議;懷平に改名、  
998(長徳4)参議/999播磨権守/1003正三位春宮権大夫/04左兵衛督兼任/06伊予権守兼任、  
1011従二位/13権中納言/15正二位;右衛門督・皇后宮大夫、16役職辞任;17没、  
歌;977(貞元2)「三条左大臣頼忠殿前裁合」に参加、  
[よろづよにあせずすむべきみづなればやどるつきひものどけかりけり](前裁合;69)
- C4519 **保遠**(やすとお・賀茂かも、岡本宣保男)1824-89<sup>66</sup> 江後期廷臣;従五下/図書/紀伊介、  
1853家督嗣;神職、1885隠居、「賀茂年鑑」編、  
[保遠(;名)の幼名/別名]幼名;秀太郎、別名;崇保みつやす
- 4526 **泰時**(やすとき・北条ほうじょう/本姓;平、義時の長男)1183-1242<sup>60歳</sup> 鎌倉の武将;正四下、  
武蔵守/左京権大夫、  
1221承久乱に大軍を率い叔父時房と上洛し鎮圧;初代六波羅探題(北方)、  
1224(元仁元)父を継嗣;鎌倉幕府三代執権;幕府の刷新安定を図る;  
権補佐のため連署・評定衆の設置、1232武家法典「御成敗式目(貞永式目)」の制定など、  
高弁(明恵)に帰依;1242(仁治3)出家;法名観阿、同年没、  
歌;將軍源実朝歌会に参加、明恵上人歌集4首入、万代・秋風・雲葉集(3首)入、  
勅撰22首;新勅(569/1152/1260)続後撰(1059/1074/1150)続古(5首652/865/1612以下)、  
続拾(81/539/1176)新後撰(1370)玉(1897)続千(490)続後拾(685)新千(2首)新拾(1首)、  
[ちはやぶる神世の月のさえぬればみたらし河も濁らざりけり]、  
(新勅撰;神祇569/駿河の富士宮参拝詠)、  
[泰時(;名)の幼名/初名/通称/法名]幼名;金剛、初名;頼時、通称;江馬[江間]太郎、  
法名;観阿、朝時・重時・政村の兄、時氏の父
- C4521 **安辰**(やすとき・長谷川はせがわ/本姓;藤原、安卿長男)1753-? 江戸の幕臣;1779父を継嗣/93表御右筆、  
のち奥御右筆、田安御目付を務める、1799「大成殿上梁の私記」著、歌;1798広通「霞関集」入、

[よる波はおよばぬ程も浦松うらまつの梢にかかる藤の花房](霞関;春195/浦藤)

[安辰(;名)の通称] 弥太郎/弥左衛門/勘兵衛

- F4567 **泰候**(やすとき・加藤かとう、泰衙やすみち4男)1760-87**早世**28 伊予大洲藩江戸藩邸の生、国学/能書家、兄泰行やすゆきの跡継嗣;伊予大洲藩9代藩主、従五下/遠江守、藩財政再建に尽力;俟約令施行/1775(安永4)砥部焼を創始、正室;藤堂高豊女の栄性院/継室;松平容章女の春洞院、泰済やすずみ・泰倫・松平信志室の父、書;法華寺の「護国」・見性庵の[願王殿][龍澤山]の木額など、[泰候(;名)の別名/通称/法号]別名;泰輝、通称;辰千代/次郎四郎/遠江守、法号;憲章院
- ※大洲藩歴代藩主  
貞泰(初代)・泰興・泰恒・泰統むね・泰温あつ・泰衙みち・泰武・泰行・泰候とき・泰済・泰幹・泰祉・泰秋
- F4594 **安時**(やすとき・猿丸さるまる、)1804-1880**77** 摂津兎原郡芦屋村の庄屋;18か村総代庄屋、国学者/歌人、芦屋の水争い解消のため1841(天保12)から20余年かけ1863奥池築造、芦屋神社奉納梅樹の歌碑;  
[万代のぬさとと梅を植ゑ置かば花咲くごとに神やめづらん]、  
[安時(;名)の通称] 又吉/藤四郎/又左衛門
- G4554 **保時**(やすとき・古島ふるしま、通称;九郎右衛門)1807-68**62** 越後沼垂たりに郡の国学者
- G4594 **安利**(やすとし・柳沢やなぎさわ、)?- 1683 江戸の幕臣;大番、和学者、安連やすつらの(1619-70)弟、  
[安利(;名)の初名/通称]初名;信花、通称;四兵衛
- F4541 **保考**(やすとし・内池うちいけ、)? - 1734 近江蒲生郡八幡町仲屋上の商家[九良屋]2代、歌人(;鳩のうみ入)  
[保考(;名)の通称]甚兵衛
- C4522 **安年**(やすとし・吉田よしだ、)1790-1855**66** 紀伊有田郡宮原の素封家;商業農業を営む、国学:本居大平門、「言葉のみをつくし」著  
[安年(;名)の通称]貞蔵/安右衛門
- G4522 **保利**(やすとし・鷹見たかみ、南条利愛男)1809-62**54** 摂津兵庫の福岡藩浜本陣鷹見保具没後の養子、代々の屋号;絵屋、国学;入江珍づ門/歌人、  
[保利(;名)の別名/通称/号]別名;保満/金平、通称;直吉/右近右衛門、号;渚屋
- C4523 **泰聡**(やすとし・倉橋くらはし/本姓;安倍、泰行男)1815-81**67** 母;西洞院信庸女、廷臣;1845従三位、1850治部卿/51正三位、58(安政5)日米条約勅許奏請を阻止する八十八卿に参列、1868大蔵卿;天皇元服に参仕、「二尊教院縁起絵」書/「議奏加勢備忘」著
- C4524 **安利**(やすとし・多湖たこ、通称;昌蔵)?-? 江後期信州松本藩士、1848「浅間の記」著
- C4525 **泰利**(やすとし・小林こぼやし) ? - ? 江後期信州伊那の和算家・1854「鉤股勾配伝」著
- C4526 **康哉**(やすとし・牧野まきの/本姓;源、牧野貞幹2男)1818-63**46** 信濃小諸藩主牧野康命の養嗣子、1831遺領継嗣;小諸藩主/従四下/遠江守、1845奏者番/西丸若年寄/本丸若年寄歴任、大老井伊直弼を補佐、藩政にも尽力;種痘法を実施、1831「牧野康哉詩草」32「牧野康哉詩稿」著、  
[康哉(;名)の別名/通称/号]初名;貞明、通称;徳橋/修橋、号;子良、法号;篤信院
- G4556 **泰俊**(やすとし・星野ほしの、御典医星野真省男)1829-89**61** 美濃本巢郡西郷村の物部神社社司、長屋神社社司兼任、国学・歌人;富樫広蔭門、北方の大井神社成立記を著、  
[泰俊(;名)の通称]通称;三省
- F4553 **泰年**(やすとし・大坪おつほ/旧姓;佐藤、通称;条二郎)1830-78**49** 飛騨吉城郡古川町の国学者、国学;田中大秀門、佐藤泰郷の弟
- C4527 **泰歳**(やすとし・伊藤いとう/本姓;中臣、八洲刀士、朝野泰平男)1840-1919**80** 下総香取の国学者、伊藤末則の養子、国学・歌;伊能穎則門、1864尚古館創設;文武の道を鼓吹、明治維新に尚古隊を組織;譴責を受ける、1872香取神宮禰宜/正七位、「祭典旧儀下調書」著、  
[泰歳(;名)の幼名/通称/号]幼名;泰次郎、通称;大学、号;八洲刀士/天保耄士てんぽうもうし
- E4502 **寧利**(やすとし・細井ほそい、寧雄やすお男)1847-1918**72** 和算家;父門/父の家塾嗣、1865「愛宕山額面解義」、「社盟温知抜解」、「尾州観音堂額面解」、「雑題解集」著、

「異形同術解義集」編、  
[寧利(；名)の通称] 政次郎/政二郎

保俊(やすとし・武野) → 保俊(ほしゅん/やすとし・武野たけの、俳人) E 3 9 2 5

保俊(やすとし・広岡) → 雪芝(せつし・広岡ひろおか、商家/俳人) E 2 4 4 1

C4528 康富(やすとみ・中原なかはら、英隆男) 1400-5758 室町期廷臣；鷹司家の家司/隼人正/日向守、  
権大外記/のち中務権少輔兼任/1457正五下、儒；清原良賢門/有職故実に通ず；廷臣を補佐、  
伏見宮家・花山院家の子弟に故実を講ず、康頤の父、歌・連歌会参加、詩1446文安詩歌合参、  
「石清水放生会記」「除目外記局文書要抄」「改元記」「例幣記」「康富記」/1430「大嘗会記」著

C4529 泰福(やすとみ・土御門つちみかど/本姓；安倍、泰広男) 1655-171763 陰陽家/廷臣；1682陰陽頭、  
1683諸国の陰陽師を支配し免許する勅許を得る、貞享の改暦に渋川春海と観測に当る、  
1698従三位/1714従二位、神道；闇齋門、家伝の土御門神道を大成、  
「貞享暦」「貞享暦推歩」「貞享暦推歩及立成」「貞享暦秘書」校訂、1676-1707「泰福卿記」著  
泰誠(やすのぶ・泰連やすつら・泰邦やすくに)の父

安富(やすとみ・紀) → 盛家(もりいえ・紀き、廷臣/歌人) F 4 4 1 4

安富安藝入道(やすとみあきにゅうどう) → 宝城(ほうじょう；法諱、僧/歌) B 3 9 7 4

安富左衛門督(やすとみさえもんのかみ) → 盛家(もりいえ・紀き、廷臣/歌人) F 4 4 1 4

安富周防入道(やすとみすおうにゅうどう) → 宝密(宝蜜ほうみつ；法諱、宝城の兄/僧/歌人) C 3 9 5 1

C4530 泰朝(やすとも・塩谷・塩屋しおや/本姓；藤原、親朝ちかとも[?-1250]男) ?-? 鎌倉期の武家；左右衛門尉、  
兵衛尉、歌人；宇都宮歌壇、新和歌集入、勅撰2首；続拾遺1113/玉葉2034  
[和歌の浦にむかしをしのぶ浜千鳥あとと思ふとてねをのみぞなく](続拾遺；十六1113)

C4531 泰朝(やすとも・秋元あきもと、秋元越中守長朝男) 1580-164263 父は上州総社藩主、徳川家康に近侍；  
大坂両陣に活躍/家康没後；東照宮造営奉行、1622父を継嗣；総社藩主1万5千石、  
1633(寛永10)甲斐谷村藩主に転封1万8千石、従五下但馬守、1633・41にも日光造営に参画、  
1642「日光山東照宮造営帳」著、  
[泰朝(；名)の幼名/通称/法号]幼名；牛坊、通称；孫七郎/茂兵衛、法号；照尊院

G4573 康共(やすとも・松平まつだいら、康済やすずみ長男) 1669-174678 2代福釜松平康済家2代、幕臣；御書院番、  
和学者、妻；戸田直祐女、康棟やすたか(1696-1752)の父、  
[康共(；名)の通称]伝次郎/三郎左衛門、法名；常古  
☆[福釜松平康済家] 康済-康共-康棟-康淳-康珍と続く

C4532 保具(やすとも・鷹見たかみ、成親なりちか男) 1709-8476 代々摂津兵庫の福岡藩浜本陣/歌人；冷泉為村門、  
「冷泉為村卿和歌」編/「筑紫紀行」著、家集、  
[保具(；名)の通称/号]通称；金之助/右近右衛門、号；謙齋、屋号；絵屋、保利の父

E4581 安知(やすとも・前田まえだ/本姓；菅原、) ?-1725? 幕臣；右筆/歌；中院家門、剃髮号；水雲、  
1798刊広通「霞関集」入、養子の信安；1725(享保10)家督嗣/この頃没か、安敬の曾祖父、  
[みよし野や水上遠く雲分けて花の木の間を落つる滝つ瀬](霞関；春132/滝辺花)  
[安知(；名)の通称] 新五左衛門/三大夫/左兵衛

C4533 康伴(やすとも・本多ほんだ/本姓；藤原、庄内藩主酒井忠寄5男) 1740-7132 近江膳所藩主本多康政養嗣、  
1765(明和2)膳所藩主襲封/66従五下/隠岐守、1769「選續録」著、  
[康伴(；名)の別号/号]幼名；万之助、初名；忠矩、号；士游、法号；通香院

F4536 泰交(やすとも・宇津木うつき/本姓；平、久純[昆岳]長男) 1785-186076 近江彦根藩士；代々家老職、  
1794(寛政6)中老/士大将；家芸の砲術の師、歌人、泰翼やすすけの父、  
[泰交(；名)の字/通称]字；子同、通称；兵庫/下総/大炊/対馬

G4589 泰友(やすとも・森もり、通称；出雲守) 1828-190881 伊勢朝明郡の羽津村志氏で神社祠官、  
国学；富樫広蔭門、維新後；権少講義

保友(やすとも・梶山) → 保友(ほゆう/やすとも・梶山かじやま、商家/俳人) E 3 9 7 8

靖共(やすとも・小塚/内田) → 恒助(つねすけ・内田/小塚、藩士/文筆) C 2 9 3 0

安朝(やすとも) → 水雲子(すいんし；号、俳人) 2 3 3 0

G4582 保豊(やすとよ・水野みずの/本姓；藤原、) 1828-8154 信濃佐久郡落合村虎ヶ原・諏訪大明神神主、  
国学；1867平田鍊胤門、沢宣嘉のぶよし(廷臣；国事参与；攘夷論/1835-73)に出仕  
[保豊(；名)の通称] 勇士/丹波/内蔵介/大助



- 安豊(やすとよ・豊島) → 金雄(かなお・中尾なかお、神職/国学) V 1 5 1 6  
 康豊(やすとよ・天野) → 康隆(やすたか・天野あまの、幕臣/歌人) F 4 5 1 8
- C4534 安直(やすなお・里見さとみ) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃武州の故実家、  
 上京し廷臣たちと親交、1697(元禄10)「官職知要」著
- G4515 保尚(やすなお・園村そのむら、) ? - 1812 江中後期;土佐高知藩士;御納戸役、国学者、  
 [保尚(;名)の通称/号]通称;斧平/庄助、号;小田守
- C4535 保直(やすなお・百竹ももたけ) 1768-1833 66 越後村上の商家肥前屋主人:  
 文政1818-30頃出羽秋田に茶葉販売;巨利を得る、若くして好学;儒学・書道・国典を修学、  
 晩年に書信にて斎藤彦磨・足代弘訓門、  
 1830-33「蝦夷考」(師の藺田[荒木田]守良の序跋)、「松島紀行」「大折峠考并伝」著、  
 [保直(;名)の通称/号]通称;長兵衛(;初世)、号;泉の廬
- F4551 安直(やすなお・大杉おすぎ/日下部) 1770-1845 76 但馬朝来郡栗鹿村の国学者;吉田家神学館教授、  
 栗鹿大社に出仕、  
 [安直(;名)の通称]主水/能登/漢生
- C4536 康直(やすなお・三宅みやげ、姫路藩主酒井忠実6男) 1811-93 83 三河田原藩主三宅康明の養嗣子、  
 1828田原藩主襲封、従五下/土佐守、質素儉約により財政再建;文学・武芸を奨励、  
 1836(天保7)大凶作の飢饉に対処;幕府より褒詞を受/1841奏者番、軍備に尽力;  
 西洋筒の鑄造・大筒台場の築造等、1846異国船の赤羽根沖出現には藩兵を出陣、1850隠居、  
 1830「帝鑑間席直書日記」/33「日光御祭礼奉行留」著、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [かなしさのやるかたなさにかきおこし昔をしのぶねやの埋火](大江戸倭歌;雑1899)、  
 [康直(;名)の幼名/号]幼名;稲若、号;王春/巴翁、法号;偕楽院
- F4502 泰脩(やすなお・富田とみた) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [池のおもに散れるもみぢやをし鳥の夜のふすまの錦なるらん](大江戸倭歌;冬1225)、  
 名;やすなが?・やすさね?・やすのぶ?・やすみち?・やすはる?・やすよし?・やすのぶ?
- G4539 易直(やすなお・波多はた) 1836 - 1883 48 越中砺波郡の国学者、  
 [易直(;名)の通称/号]通称;庄兵衛、号;梅性
- 安直(やすなお・水足) → 屏山(へいざん・水足みづたり/水、藩儒) 2 7 3 8  
 泰直(やすなお・岡) → 直廬(なおり・岡おか、神職/国学/歌人) O 3 2 0 8  
 康直(やすなお・松平) → 乘良(のりよし・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 6  
 易直(やすなお・佐々きさき) → 鶴城(たづき・佐々、神職/国学) P 2 6 0 1
- F4546 居中(やすなか・江田えだ、) ? - ? 寛政1789-1801頃没 安藝広島藩士/歌人;飛鳥井家入門、  
 松宮知馨尼の師、  
 [居中(;名)の通称/号]通称;佐左衛門、号;常山
- F4531 安仲(やすなか・五辻いつじ、高仲男) 1845-1906 62 父の養子五辻継仲の養子、廷臣;五辻家31代当主、  
 1864(元治元)禁門の変に長州藩士のため画策;参朝停止処分/67赦免、68三職書記御用掛、  
 新政府官僚;参与・内国事務局判事加勢/判事/弁事/弾正大弼/弁官事/神楽長/式部助、  
 少納言/侍従、1871(明治4)岩倉使節団に随行;欧米視察/1873父高中の隠居で家督継嗣、  
 宮内省御用掛/華族局主事/大膳大夫歴任;子爵
- 泰仲(やすなか・五辻/源) → 政仲(まさなか・五辻いつじ/源、廷臣/歌) F 4 0 0 8
- C4538 康長(やすなが・石井いひ/本姓;平、法号;彝鳳いほう) ?-? 1480存 室町幕臣;内蔵允、評定衆?、  
 1480御伽草子「筆結の物語」著、[見聞諸家家紋]に石井家の家紋あり
- F4597 康永(やすなが・鈴木すずき、) 1679-1739 61 江前期伊予今治藩士/弓の名手、歌人、  
 今治藩主3代松平定陳(1667-1702)・4代定基(1687-1759)に出仕、  
 [かくぞとも知らで心を尽しぬる今宵の月の影のさやけさ](今治夜話入)、  
 辞世[春秋を幾代へぬらん山陰の苔むす石の下にかくれて](今治夜話入)、  
 [康永(;名)の通称]助太夫/助左衛門、今治藩士鈴木康明(1659-1719)と同族?
- C4539 保長(やすなが・杉本すぎもと) ? - ? 江中期武道家;加治盈亮門、1758「本朝甲劍録」編
- C4540 泰榮(やすなが・土御門つちみかど/本姓;安倍、倉橋有儀男) 1758-1806 49 外祖父土御門泰邦の養嗣子、  
 陰陽家/廷臣;1775陰陽頭/90従三位/1804従二位/05天文博士/06正二位、

「泰栄卿記」著/「暦法新書」校訂、泰胤・晴親の父

- C4541 **康永**(やすなが・中条ちゅうじょう、近江大溝藩主分部わけ光命男)?-1824 尾張藩城代中条東四郎康隆養子、尾張藩城代を継嗣/武術に秀づ;狂気の猪を乗り伏せ[今仁田]と称さる、大砲の一種を發明/狩野派画を嗜む、「尾張家上使御礼留」著、[康永(;名)の通称/号]通称;多膳、号;勲章、法号;康永院
- C4542 **保永**(やすなが・高橋たかはし) ? - ? 江後期江戸の和算家;子弟に教授、「経済論」「勝手経済録」著
- G4513 **恭壽**(やすなが・千本松せんぼんまつ/本姓;菅原、通称;恒右衛門) 1779-? 下総海上郡国学者;平田篤胤門
- F4576 **息長**(やすなが・神風かみかぜ、旧姓;村木むらき/川村) 1790-1876 出羽能代の回船問屋村木家9代目、国学;平田篤胤門、神風姓を名乗り能代で開塾;能代国学派の祖、淳城栄和・坂本勇翁・安濃恒生の師、[息長(;名)の通称/屋号]通称;新三郎、屋号;伊勢屋
- G4586 **安長**(やすなが・向井むかい、明祥あきよし男) 1799-1867 伊勢度会郡の農業;榎柄たしからの大庄屋、国学者;本居春庭門(父明祥は本居宣長門)、[安長(;名)の通称/号]通称;作兵衛/元菴、号;春荘/筍荘
- G4546 **泰長**(やすなが・氷室ひむろ、熱田神宮大官司千秋家の2男) 1811-55 神道/国学/歌人、尾張海東郡津島神社神主氷室長翁の長女と結婚;婿養子、津島社神主を継嗣、養父母(養母は陳子のぶこ)ともに歌人、[泰長(;名)の通称/号]通称;将監、号;楽山
- F4534 **息長**(やすなが・今村いまむら、鹿子田かのこた清広男/平沢) 1812-74 今村玄庵の養子;武蔵川越藩士、鹿子田清龐きよたかの弟/国学;1836(天保7)平田篤胤門(清龐の紹介で入門)、[息長(;名)の通称]自仙
- F4572 **養長**(やすなが・狩野かのう、旧姓;木原) 1815-75 肥後熊本の狩野派絵師;狩野勝川門、熊本藩御次絵師、国学;長瀬真幸まさき・林有通・中島広足門、木原楯臣(藤園とうえん)の弟、[養長(;名)の別号/通称/号]別号;楯雄/元象/信象、通称;次郎/藤太、号;登雲堂/凌霄/花斉/就山/樵夫
- F4598 **泰長**(やすなが・宍戸ししど、通称;莊三郎) 1820-66 陸奥信夫郡の国学者;平田鍊胤門
- G4540 **安長**(やすなが・服部はつとり、) 1840-1909 尾張海東郡の大井神社祠官、国学;平田鍊胤門、[安長(;名)の通称]茂左衛門/久太郎/茂一郎  
安長(やすなが・多紀) → 元簡(もとやす・多紀たき、幕臣/医者) E 4 4 4 9  
安長(やすなが・野村) → 信我(しんが・野村のむら/本姓;源、俳人) N 2 2 5 7
- C4543 **安永檢校**(やすながけんぎょう、安永勾当やすながこうとう)?-? 江中期京の音曲家;地唄(上方歌)歌い手、三弦;深草檢校門/早崎流の三味線を修学、1750(寛延3)「琴線和歌の糸」(松川勾当と共編)、1795「新曲糸の節」(津山・瀧長檢校と共編)
- C4544 **安成**(やすなり・藤原ふじわら、別号;成信、成光[1111-80]男) 1159-? 平安末鎌倉期廷臣;文章博士、式部大輔、歌人;1200院当座歌合参加?/05元久詩歌合;詩参加?;成信名、
- C4545 **安成**(やすなり・桜井さくらい、初姓;西川、桜井安証やすあきの養嗣)?-? 陸前仙台の能楽師、能楽;大蔵庄右衛門門、桜井家を継嗣;伊達綱宗・綱村に侍す、1685「桜井八右衛門伝書」著
- C4546 **康済**(やすなり・松平まつだいら、康満男) 1713-1783 加賀金沢藩士;1729(享保14)家督嗣、定火消・江戸御留守居・公事場奉行を歴任/1754若年寄;61家老職兼務、1777(安永6)致仕、1777「江戸御留守中之儀伺等之一巻」著、[康済(;名)の通称]通称;市正いちのかみ/大膳/玄蕃/大忒
- C4547 **康哉**(やすなり・茶室ちやしつ) 1757?- ? (70歳までは存) 京の暦算家、歌人;香川景樹(1768-1843)門、京の室町御池住/のち四条柳馬場住、1815(文化12)刊景樹判歌合「うすごほり」に参加、「茶屋暦算」「符天暦再編」「将来一周暦」著/1804「本朝暦象成約編」30「本朝暦象考成」編、「新編百分八線表」編、外編著多数、[康哉(;名)の別号/字/通称]別号;実寿さねひさ、字;旭松、通称;金四郎
- C4548 **康成**(やすなり・松平まつだいら、康純[寒松]男) 1773-1839 近江彦根藩士;家老、漢学・国学;父門、軍法にも通ず/歌・画を嗜む康宗の父、「松平康成書簡」著、

[康成(；名)の通称/号]通称;安五郎/倉之助、号;体翁

- C4549 **倫成**(やすなり・西河にしかわ、号;文偉)?-? 江後期絵師:岡村鳳水[1770-1845]・松下文偉門、  
「承安元年(1171)遷宮調達進太神宮装束之図」
- E4591 **康哉**(やすなりorやすとし・高本たかもと)?-? 江後期歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
1871伊能穎則ひでのり「穎則宅歌会集(千種園雑録)」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[夕されば草の袂も露けきをわが袖のみと思ひけるかな](大江戸倭歌;秋759)、  
[竹田人としある秋にあふこもてになふ重荷や嬉しかるらん](現存百人一首;71)
- F4588 **保成**(やすなり・小島こじま、通称;備源)?-? 紀伊和歌山藩士;代官、  
国学者;本居内遠うちとお(1792-1855)門、内遠編「新撰紀伊国名所歌集」の書写?
- C4550 **康済**(やすなり/やすまさ・牧野まきの/本姓;源、康哉やすとし男)1841-82<sup>42</sup> 信濃小諸藩主(1863遺領継嗣)、  
江戸の生/従五下/内膳正/周防守/遠江守、1869版籍奉還後藩知事、詩人、  
「三鏡堂詩文集」「牧野康済詩稿」著/「雑録」編、  
[康済(；名)の別名/通称/法号]別名;康民(維新後の名)、通称;隼人、法号;清徳院  
康誠(やすなり・松平) → 康誠(やすのぶ・松平まつだいら、幕臣/歌) E 4 5 7 8  
泰済(やすばり・山本) → 泰樹(やすき・橋たちばな/山本、里正/歌) G 4 5 2 4
- C4551 **泰成親王**(やすなり/やすしげしんのう・後村上天皇皇子)1360?-? 母;嘉喜門院?、後龜山天皇の弟、  
摂津住吉行宮に生、南朝の太宰帥/のち皇太弟、1371(建徳2)鎮西に下向、  
南北朝合一後は嵯峨大覚寺に隠棲、連歌作者、歌人;新葉集5首(19/183/368/457/886)、  
[消えそむる雪まを分けて生ひいづる野辺の若菜も今や摘むらし](新葉;春19)
- C4552 **安庭**(やすにわ・久世くげ/深田/水原)1806-87<sup>82</sup> 伊勢松阪の神官、国学・歌;本居春庭・大平門、  
紀伊藩士となる、1851(嘉永4)「花信」、「花信暦」「二百番歌合」著、  
[安庭(；名)の別名/通称]別名;庭民、通称;弥一郎/弥市郎/達蔵/準介/準助  
保之丞(やすのじょう・古森) → 痴雲(ちうん・古森こもり、書家/俳人) 2 8 4 1  
保之丞(安之丞やすのじょう・中根) → 彦循(げんじゆん・中根、暦算家) J 1 8 7 9  
安之丞(やすのじょう・山本) → 桃谷(とうこく・山本やまもと、絵師) S 3 1 8 9  
安之丞(やすのじょう・伊地知) → 季安(すえやす・伊地知いちぢ、藩士/記録) F 2 3 7 2  
安之丞(やすのじょう・重松) → 安勝(やすかつ・重松しげまつ、神職/国学/歌) F 4 5 9 6  
安之丞(やすのじょう・松村) → 元綱(もとつな・松村まつむら、通詞/地理) D 4 4 1 3  
安之丞(やすのじょう・成田) → 道欽(みちあや・成田なりた、藩士/歌人) K 4 1 0 0  
安之丞(やすのじょう・板倉) → 勝行(かつゆき・板倉いたくら、藩主/国学) T 1 5 6 9  
安之進(やすのしん・鈴木) → 榎林(えいりん・鈴木すずき、儒者) C 3 6 2 8  
安之進(やすのしん・原田) → 無関(むかん・原田はらだ、医者/鍼術) 4 2 3 5  
安之進(やすのしん・高橋/小樽こぐれ) → 賀前(かぜん・山本、和算家) M 1 5 7 2  
安之助(やすのすけ・宮崎) → 畏斎(いさい・宮崎みやざき、幕臣/儒者) F 1 1 4 6  
安之助(やすのすけ・今大路) → 暘谷(ようこく・今大路いまおおじ、医;典薬頭) 4 7 8 4  
安之助(やすのすけ・長谷川) → 夜白(やはく・長谷川はせがわ、商家/俳人) D 4 5 9 6  
安之助(やすのすけ・四方) → 龍文(りゆうぶん・四方よも、鋳物工) M 4 9 1 9  
安之助(やすのすけ・檜垣) → 常代(つねよ・檜垣ひがき/度会/久志本、神職) G 2 9 2 0  
安之助(やすのすけ・長谷川) → 邦淑(くによし・長谷川はせがわ、商家/国学) E 1 7 4 2  
安之助(やすのすけ・鈴木) → 重臣(しげおみ・鈴木すずき、藩士/国学) Z 2 1 0 6  
安之輔(やすのすけ・末田) → 眞穂(まほ・末田すえだ、神職/国学) Q 4 0 3 2  
安之允(やすのすけ・衛藤) → 実厚(さねあつ・衛藤えとう、国学) O 2 0 0 1  
安之介(やすのすけ・森脇) → 惟久(これひさ・森脇/吉川、神道/歌人) R 1 9 2 3  
泰之助(やすのすけ・角南) → 国秀(くにひで・角南、歌人) D 1 7 9 4  
保之助(やすのすけ・真島) → 幸庵(こうあん・真島まじま、医者/農政) H 1 9 2 0
- 4507 **康信**(やすのぶ・三善みよし、法名;善信)1140-1221<sup>82</sup> 平安鎌倉期武将・明法家;従五下/中宮属、  
1181頃出家、1184鎌倉下向/大江広元らと源頼朝の政務を補佐、  
1191鎌倉幕府の初代問注所執事、1207二条院讃岐の伊勢の所領の件の解決に尽力;  
讃岐との歌の贈答;玉葉集2076、  
[をはただのいたただの橋のとだえしをふみなほしても渡る君かな](玉葉;2076)、



(讃岐が訴訟に下向し本意叶い帰京の折に贈歌)、  
(讃岐の返歌;朽ちぬべきいただの橋のはしつくり思ふままにも渡しつるかな)

- C4553 **安信**(やすのぶ・脇坂むささか、安治3男)?(1584以後生)-1637 徳川家康の臣:武将、美濃1万石を受、  
従五下主水正、秀忠上洛に随従;大阪陣に戦功、備中松山藩主継嗣の内紛に連座;領地没収、  
歌を嗜む、沢庵和尚・烏丸光広と交流、「詠二百首」著、安元やすむとの弟、  
[安信(;)名]の幼名/法名]幼名;甚九郎、法名;蔵水
- C4554 **安信**(やすのぶ・狩野かのう/本姓;藤原、右近衛将監狩野孝信3男)1613-8573 狩野探幽・尚信の弟、  
絵師;兄探幽・尚信門、狩野家7代左近貞信の養子;1623貞信の遺跡継嗣;狩野家八世襲名、  
1662治部卿/法眼、1675禁裏造宮に紫宸殿賢聖の襖絵、幕府奥絵師;江戸城の絵画を画く、  
幕府より江戸中橋に屋敷拝領;狩野宗家の中橋家の祖、山水・人物・花鳥・仏像画を画く、  
古画鑑定に長ず、参禅;隠元門;示偈を受;のち黄檗僧の賛を加えた画多し;  
大徳寺玉林院襖絵「竹林七賢・四愛図」など、「東海道図」「山水花鳥図」「楽音寺縁起」画、  
1680「画道要訣」、「琴棋書画図」「古筆印判集扣帳」著、外画多数、  
[安信(;)名]の幼名/通称/号]幼名;源四郎/四郎次郎、通称;右京、  
号;永眞/牧心齋/静閑子/了浮齋、法号;長源院
- C4555 **泰誠**(やすのぶ・土御門つちみかど/本姓;安倍、陰陽家泰福やすとみ長男)1677-91夭逝15歳 江前期廷臣;  
1689従五上弾正少弼、1691(元禄4)「泰誠朝臣記」著、泰連やすつら・泰邦やすくに(共に陰陽家)の兄
- C4556 **安信**(安宣やすのぶ・寺島てらしま、通称;嘉右衛門)?-1722 尾張鳴海宿の根古屋;業言はくげんの分家、  
俳人;芭蕉門、鳴海六俳仙の1人、1687(貞享4)11月自邸で芭蕉が「星崎の」の句吟、  
1679知足「尾陽鳴海俳諧喚続よびつぎ集」に3吟入、
- E4578 **康誠**(やすのぶ・やすなり・松平/本姓;源、康棟やすたか[1696-1752]2男)?-? 康淳(福益松平家10代目)の弟、  
幕臣の家;刑部卿一橋宗尹家に出仕、11798刊石野広通「霞関集」入(父康棟と共に入集)、  
[弾く琴の音ねに誘はれて来鳴くらし小簾こすの外と近くなるる鶯](霞関;春39/鶯声和琴)、  
[康誠(;)名]の通称]佐左衛門
- F4581 **保信**(やすのぶ・紀きの、) ? - 1794 近江日野の綿向神社神主、国学者
- C4557 **尉信**(やすのぶ・長島ながしま、小泉吉則男)1781-186787歳 常陸小田村の農政家、  
本家小泉新右衛門宅に設立の尽心舎で石門心学を修学/1801(享和元)長島尉明の養子、  
1808小田村の名主/江戸で暦数・測量術修学/帰郷;1825息子尉敏に家督譲渡;農政に専念、  
1838水戸藩に士分格で出仕;検地に従事/1843土浦藩士;土木測量掛;64致仕、歌を嗜む、  
色川三中と交流、「己亥雑集」「田法大意」「長島尉信筆記」「負暄談」「不算得失」「瓶囊拙工」、  
「むべ園雑記」著、1836「郁子園雑録」56「おだまき」58「長島氏農書」著、外編著多数、  
[尉信(;)名]の字/通称/号]字;祐卿、通称;三太郎/治左衛門/二左衛門/仁左衛門、  
号;郁子園/二洲/二斎/三村山人
- C4558 **安宣**(やすのぶ・別府べつぷ/べふ)1791-186373 土佐高知藩士;世子付/勘定奉行など歴任、  
国学者;宮地仲枝・鹿持雅澄門、師雅澄「万葉古義」の編纂に参加、  
1824「訂正万葉集」(朝風と共撰)、書に長ず、  
[安宣(;)名]の別号/通称/号]初名;信栄/安信、通称;隆平/寿太郎、号;寒水
- F4586 **保信**(やすのぶ・栗原くりはら/本姓;源/長坂、伝左衛門信利男)?-? 甲斐巨摩郡穴山村の名主、  
国学・歌;同村穂見神社神主の生山正方まさた(1764-1830)門、栗原(長坂)保定の兄か?、  
父の代からの家塾[松の舎]を経営;国学・歌を指導、1843矢崎好貫の上方の旅に同行、  
1844(天保15)生方正方の「碑銘落成井十七回忌追善和歌兼題」に保定(長坂保作)と出詠;  
[水茎の跡をし見すばなき人のしらぬ昔をしたはぎらまし]、  
のち息子信敬に家督を譲渡;松の舎経営に専念、  
[保信(;)名]の通称/号]通称;伝之進、号;松の舎
- C4559 **泰信**(やすのぶ・武田たけだ) ? 1885存 周防三田尻の武芸者;萩藩小船頭武田泰義の裔、  
河井流泳法;1825御園生長右衛門門/のち武田流泳法を興す、萩藩に出仕;水術引立掛、  
1850家督継嗣;中船頭、門人多数、「鈴録論」「練水要訣」「游泳童論」著、  
[泰信(;)名]の通称]松之助/要平
- C4560 **安信**(やすのぶ・松尾まつお) ? - ? 江後期和算家;奥村城山門/最上徳内門?、  
測量術に長ず、1847(弘化4)「廻船宝富久呂術式解」著、

[安信(;名)の通称/号]通称;仁兵衛、号;一貫

- F4504 **康信**(やすのぶ・西村にしむら) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[いぶせくもなりまさるかな夕まぐれ恋しき人をほの見てしより]、  
(大江戸倭歌;恋1501/薄暮恋)
- F4589 **安延**(やすのぶ・小山こやま、)1804-7976 備前津高郡吉備津彦神社の社家、  
古学・歌;平賀元義門、親頼ちかよりの父、  
[安延(;名)の別名/通称]初名;繁樹、通称;笹之丞/数馬/相模
- E4589 **安信**(やすのぶ・小沢おざわ、定平/京増七平)1820-7960歳 京の菅原氏の末裔;初め京増きょうます姓、  
先祖が下総国印旛郡尾上村住;1703(元禄16)佐倉城主より小沢定平を賜姓;以後小沢姓、  
尾上村の役人;1837(18歳)父早逝により家督嗣;佐倉藩鳥見役、歌人;1847神山魚貫つら門、  
寺子屋で子弟教育、駒詰事件(土地争い)に村役人代表として奔走;京増七平を名告る、  
「邊田廬へんたる叢書」「尾上小誌」「京増氏記録」「菅廼舎すげのや家林短歌集」「駒詰事記」著、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入/三橋鶴彦・伊能穎則編「麻葉和歌集」入、  
1860鋤柄助之「現存百人一首」入  
[夕立はよそになりけり風過ぐる木々の梢に音を残して](大江戸倭歌;夏609/夕立)、  
[身にそはぬものと心ぞ成りにける遠山桜咲きそめしより](菅廼舎家林短歌集)、  
[安信(;名)の号/別名]号;菅廼舎すげのや/永寿軒/定平定信/菅原定平、  
維新後の別名;京増きょうます七平
- C4561 **保信**(やすのぶ・村山むらやま/修姓;村)1830-1922長寿93 越後刈羽郡茨目の縮布行商、  
和算家;植木彦古門、のち小千谷の佐藤解記門;その高弟、  
1866茨目の領主伊勢桑名藩主から苗字帯刀を許可、行商の傍ら飛騨高山などで子弟教育、  
1868小千谷県に出仕/69柏崎県に出仕;教育・測量・調査等に当る、佐久間象山と交流、  
1863「通機算法」、「算学道法則写」著、  
[保信(;名)の通称/号]通称;禎治、号;雪斎
- |               |   |                       |           |
|---------------|---|-----------------------|-----------|
| 安信(やすのぶ・松川/奥) | → | 半山(はんざん・松川まつかわ、絵師)    | H 3 6 8 2 |
| 安信(やすのぶ・西川)   | → | 国安(初世くにやす・歌川うたがわ、絵師)  | B 1 7 0 0 |
| 安信(やすのぶ・楠瀬)   | → | 清蔭(きよかげ・楠瀬くすのせ、藩士歌人)  | T 1 6 9 8 |
| 安信(やすのぶ・堀)    | → | 通緒(みちお・堀ほり、国学者/歌人)    | K 4 1 4 1 |
| 安信(やすのぶ・舟木)   | → | 伝内(2世でんない・舟木、料理人)     | D 3 0 3 6 |
| 安暢(やすのぶ・山本)   | → | 簡斎(かんさい・山本/館たち、医者/本草) | Q 1 5 7 0 |
| 泰信(やすのぶ・山本)   | → | 香(かおる・橋たちばな/山本、儒者)    | V 1 5 0 3 |
- C4562 **安則**(やすのり・大中臣おおなかとみ/中臣、大中臣道雄男)?-928 神職;894伊勢神宮祭主/896神祇大副、  
918神祇伯/921伊勢権守兼任、925従四上、延喜式編纂に参加;906日本紀竟宴に歌詠進、  
906「延喜本系帳」編
- 4527 **保憲**(やすのり・賀茂かも、忠行男)917-97761 父は陰陽博士;家学;陰陽家、暦博士・天文博士、  
廷臣;延喜改元勘文、962陰陽頭;来る応和四年(964)が甲子革命に当るといふ勘文を提出、  
974(天延2)造暦の功で従四下、実子光榮に暦道を相伝/高弟安倍清明に天文道を相伝、  
今昔に逸話、「増補暦の抄」「暦林」著、慶滋保胤の兄、  
参照 兄 → 保胤(やすたね・慶滋、紀伝道/詩歌) 4 5 0 6  
女 → 保憲女(やすのりのむすめ・賀茂、歌人) 4 5 2 4
- H4517 **泰憲**(やすのり・藤原ふじわら、泰通男)1007-8175 平安中後期廷臣;民部卿/正二位/権中納言、  
歌人;歌は不伝、殿上歌会に歌を出さない逸話(袋草紙;頭輔の話/古今著聞・八雲御抄入)
- C4563 **安則**(やすのり・稲員いながせ、安次の長男)1633-170775 筑後久留米藩上広川の太庄屋;1651家督継嗣、  
近隣の土地整備・新塘・道路の開築など土木工事を計画・監督し完成、  
1686藩主有馬頼元より褒賞、1691隠居;土木改修事業を継続推進、安全の父、  
1707(宝永4)「稲員家記」著、  
[安則(;名)の通称] 清七郎/孫右衛門/斎右衛門(;隠居号の通称)
- C4564 **安範**(やすのり・森川もりかわ/上月/本姓;源、通称;忠次郎)1665-173066 播磨田野村生の国学・神道家、  
若くして大阪に住、両部神道の伝授を受/儒・神道に通ず/武芸に長ず、任侠で有名、  
飲光おんこう(慈雲/真言僧)の父、

1718「大祓解」、「大祓略示」著、

飲光(おんこう) → 慈雲(茲雲じうん;字、飲光;法諱、真言僧) 2 1 0 2

- G4588 **保教**(やすのり・桃井ものい、初名;種包たねかね/通称;左内)?-1730 江前中期;信濃諏訪郡の神職、神道;吉川よしかわ惟足これたる(1616-94);吉田神道修学/古典;荷田春満あずまる(1669-1736)門、諏訪神社下社の大禰宜
- C4565 **安代**(やすのり・真野まの、元彦男)?-1764 江中期尾張名古屋藩士;1738船手同心、1747町方同心/58歳奉行、武家故実に通ず、「武具故伝」「甲冑故実奥儀」、「真野家伝甲冑故実初授聞書」「真野家伝甲冑古実着用伝書」著、[安代(;名)の通称/号]通称;与市左衛門、号;三才
- E4573 **康伯**(やすのり・古沢、康綱男)?-1792 陸中盛岡藩士;1737家督/御駕籠頭・沢内代官、御勘定頭/奥側奥使、宝蔵院流下石派槍術家、「秋月集」「邦内貢賦記」、[康伯(;名)の通称/法号]通称;理三郎/長作/清左衛門/清右衛門、法号;円覚院
- C4566 **保教**(やすのり・渡辺わたなべ/本姓;源) 1718-? 大阪の商家;富商/歌人:中村良臣・藤井高尚門、1830(文政13)「よし野の山つと」/31(天保2)「うめのはつ花」著、[保教(;名)の通称/号]通称;弥平次、号;篠舎、屋号;藍屋
- F4542 **保教**(やすのり・内池うちいけ、旧姓;西田) 1771-1837<sup>67</sup> 近江蒲生郡の生、八幡町仲屋上の商家内池保承やすつぐの女婿、八幡町総年寄職、歌人;伴蒿蹊こうけい門(養父と同門)、[保教(;名)の通称]甚兵衛(内池家代々の称)/甚蔵
- C4567 **保徳**(やすのり・竹内たけうち、富蔵男) 1807-67<sup>61</sup> 幕臣;父を継嗣;勘定所出仕/勘定吟味役、ペリー来航後;台場普請掛/1854箱館奉行・下野守/61勘定奉行・外国奉行兼任、開市開港延期交渉・日露国境交渉;正使として渡欧;外交に活躍/1864兼帯御免;閑職、1862「唐太境界談判始末」著、[保徳(;名)の通称]清太郎
- C4568 **恭讓**(やすのり・田上たがみ、通称;寛蔵)?-? 幕末期幕臣/御勘定/1864(元治元)代官、和算家、1850「割円八線表起源」編
- 保教(やすのり・池田) → 継政(つぐまさ・池田いけだ、藩主/歌人) 2 9 8 5
- 保教(やすのり・田中) → 其成(きせい・菊屋太兵衛、書肆) B 1 6 3 7
- 保教(やすのり・小尾) → 鳳山(ほうざん・小尾おび、戸主/文筆家) B 3 9 1 0
- 泰徳(やすのり・山根) → 南溟(なんめい・山根やまね、藩士/儒者) J 3 2 5 9
- 徳規(やすのり・よしのり・中島) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
- 4524 **保憲女**(やすのりのむすめ・賀茂かも、賀茂女かもじよ)?-? 平安中期歌人、993疱瘡罹患、息女;二条関白教通の侍女監げんの君(出家;縁妙)、家集;993-8「賀茂保憲女集」、勅撰3首;風雅549/1031・新続古今1259、[秋の夜の寝覚のほどを雁がねの空にすればや鳴き渡るらん](風雅;秋549)
- 康八(やすはち・大脇) → 康晟(やすあき・大脇おおわき、藩士) 4 5 8 3
- 安八郎(やすはちろう・中村) → 為一(いち/いつ・中村なかむら、儒者/詩) D 1 1 3 0
- 安八郎(やすはちろう・三宅) → 高炳(たかあき・三宅みやけ、絵師) Z 2 6 7 0
- H4504 **安治**(やすはる・脇坂わかさか、田附源[孫]左衛門男) 1554-1626<sup>73</sup> 近江浅井郡脇坂庄の生、脇坂安明の養子/浅井長政に出仕;主家滅亡後織田家の家臣/明智光秀の与力、羽柴秀吉の家臣;軍功;1576(天正4)150石/1583(天正11)賤ヶ岳七本槍の1、山城3千石の武将、小牧長久手で戦功;1585撰津能勢郡1万石/大和高取2万石、淡路洲本藩主3万石、水軍衆の指揮官;九州・小田原・朝鮮出兵に従軍;戦功で3万3千石、関ヶ原の戦いで息子安元やすもとと東軍に寝返る;所領安堵、1609(慶長14)伊予大洲藩5万3,500石に加増移封/大坂陣では安元が出征し戦功、1615(元和元)家督を安元に譲渡;隠居/京西洞院住;剃髪号;臨松院、歌人;西洞院時慶門? 正室;玄昌院(西洞院時当女)/安元(1584-1653)・安総・安忠・安信・安重・安成の父、[安治(;名)の通称/号]通称;甚内/中務少輔、剃髪号;臨松院
- G4563 **安春**(やすはる・牧野まきの、旧姓;加藤) 1764-1841<sup>78</sup> 飛騨下呂の医者、国学;本居大平・田中大秀門、[安春(;名)の通称/号]通称;善庵、号;菊園/幾久能垣内



- F4585 **保春**(やすはる・栗橋くりはし、) 1819-9476 常陸水戸の国学者;平田鉄胤門、  
[保春(;)名)の通称/号]通称;宗左衛門、号;栗園
- C4569 **易治**(やすはる・高橋たかはし、岡おか蔵治3男) 1828-9164 高橋久平の養嗣子、仙台藩士/詩書を嗜む、  
「高橋易治手記」著、  
[易治(;)名)の通称/号]通称;伊兵衛/伊平、号;白山
- G4535 **保治**(やすはる・永瀬ながせ、通称;彦惣) 1828-191285 播磨山崎藩士;近習、のち伊和神社禰宜  
安治(やすはる・河村/川村) → 瑞軒(ずいけん・河村、材木商/土木) 2 3 5 0  
安治(やすはる・神屋) → 立軒(りっけん・神屋かみや、儒者/藩出仕) B 4 9 7 1  
泰春(やすはる・加藤) → 泰広(やすひろ・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 8
- G4568 **保彦**(やすひこ・松木まつき、通称;采女) 1741-7636 伊勢度会郡の神職;外宮権禰宜、和学者
- C4570 **泰彦**(やすひこ・草刈くさかり、初名;胆) 1779-? 1839存 周防山口住の長門萩藩士;大組、  
歌人/探古の趣味、  
1821「要集録」27「岩淵孝報集」著/「草舎年表」編(防長の故事;上古~天保10[1839]まで)、  
[泰彦(;)名)の通称/号]通称;泰蔵/藤次、号;草の屋/草舎/草/種丸
- F4515 **安彦**(やすひこ・朝見あさみ、号;躑躅園つづじのその) 1794-184148 尾張春日井郡渋川神社の祠官  
国学;植松有信・市岡猛彦門、安臣やすおみの父
- G4548 **愷彦**(やすひこ・平野ひらの、甚十郎元季もとすえ[1782-1855]男)?-1894 出羽庄内藩士;御弓師、和学  
[愷彦(;)名)の通称] 勘十郎
- F4563 **安彦**(やすひこ・加藤かとう、) 1820-189879 尾張犬山藩士、歌人  
歌・国学;植松茂岳・八田知紀・上田仲敏門、儒;角田春策、のち東京住、  
家集「松廼のしたたり」著、  
[安彦(;)名)の別名/通称/号]初名;重郷しげさと、通称;安太郎/左源太/内記/安右衛門、  
号;松園
- C4571 **泰彦**(やすひこ・朝野あさの) 1826- 190277 下総佐原の国学者;伊能穎則門、香取神宮の禰宜、  
小教正、小学新撰童子通」著、  
[泰彦(;)名)の別名/通称]別名;和義/田守、通称;辰之助/和吉/四郎
- F4525 **安彦**(やすひこ・井上いづえ/旧姓;本庄) 1839-190971 尾張春日井郡の国学者;平田鉄胤門、  
尾張知多郡常滑の海相うずぎ神社神主、  
[安彦(;)名)の初名/通称]初名;光浮、通称;右京  
安彦(やすひこ・黒田) → 親足(ちかたり・津軽つがる/黒田、藩主/歌) L 2 8 4 0  
八洲彦(やすひこ・松田) → 内直(うちなお・松田まつだ/賀茂、神職・歌) D 1 2 0 9
- 4528 **保久**(やすひこ・賀茂かも、成久男)?-? 平安期神職/歌人;1182重保撰「月詣和歌集」入、  
[あさゑする夏野なつもの草の深ければ鹿に心をかけているかな](月詣;五450/夏狩の心)  
資保すけやすの父
- C4572 **保永**(やすひこ・賀茂かも/山本、幼名;乙千代、賀茂保韶4男) 1760-183273 山本和直の嗣、神職;正四下、  
対馬守/寛政享和1789-1804頃に賀茂社沙汰人を務める、  
「精進頭年中日記」「年中定例遣方沙汰人勘定帳」著
- G4529 **泰壽**(やすひこ・寺村てらむら、) 1769-183264 近江坂田郡の医者/歌人:[彦根歌人伝・亀]入  
[泰壽(;)名)の字/通称]字;本了、通称;俊良/俊了としよし
- C4573 **保久**(やすひこ・賀茂/加茂かも)?-? 江後期文政嘉永1818-54頃肥前草野庄玉嶋の易学者、  
大坂過書町心齋橋東に住、1820「方家図説」、「家相天地人之巻」「安産福録」著、  
[保久(;)名)の字/通称/号]字;伯岳、通称;丹後、号;峨山
- C4574 **保旧**(やすひこ・木内きうち) 1810or1816?-187566or60 下総香取郡木内神社祠官、歌人/国学者、  
1831平田鉄胤門、1874小見川藩校の国学教授、少講義、保雄の父、  
「筑波紀行」「ねさめねさめの記」著、神山魚貫・伊能穎則と交流、  
[保旧(;)名)の別名/通称/号]初名;茂久、通称;文蔵/伊織/伊豆守、号;竹籬ちくり
- C4575 **安尚**(やすひこ・河田かわだ、安親やすちか男) 1814-1907長寿94 陸前仙台藩士/歌人:1845「奥陽名数」著、  
[安尚(;)名)の通称/号]通称;縫殿介ぬいのすけ/瀬織、号;舒嘯じょしょう
- F4580 **保久**(やすひこ・木庭きば、) 1845- 192682 筑前宮崎宮司、国学;平田鉄胤門、  
肥後熊本の敬神党に参加、神風連の乱で高島中佐襲撃に参加;敗北後法廷で陳述;自首、

のち竈門神社宮司/神宮主典/皇学館教授/八代神宮宮司、「丙子變動記」著、  
[保久(;名)の通称] 嘉助/次夫

安久(やすひさ・金子) → 久助(初世きゆうすけ・福森、歌舞伎作者) 1 6 2 7

4525 康秀(やすひで・文屋ぶんや、字;文琳、文屋宗于むねゆき男、朝康父) ?-? 平安期860刑部中判事/879縫殿助、  
歌人・六歌仙、893是貞親王歌合参、古今下6首;古8/249/250/445/846・後撰1245  
[吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風をあらしといふらむ](古今249)

C4576 安英(やすひで・武広たけひろ) ? - ? 江後期陸中一関藩士/刀工:川部正秀門、  
奥州一の名工と称される、1812-20「刀劔実用論」編、双童子玉英の師、友英(刀工)の父  
[安英(;名)の通称] 与右衛門

G4564 保秀(やすひで・牧野まきの、通称;若狭守) 1766-1825 60 尾張愛知郡の成海神社神主、  
国学・歌;植松有信門

C4577 安秀(やすひで・歌川うたがわ、通称;多吉) ?-? 江後期絵師:歌川国安門、  
1818-35頃草双紙挿絵を描く、1828「忠臣狸七役」/30「武勇水陸伝」「金儲花盛場」画、  
1831「傾城外八文字」「旅路の春雨」32「二ツ鷹羽有馬藤」外画多数

C4578 保秀(やすひで・丸山まるやま) 1796-1868 73 信州安曇郡成相新田村の庄屋、  
狂歌;鹿都部真顔門/1836上京;歌;香川景樹門/飛鳥井雅経門、孝明天皇より称讃、  
安曇歌壇の重鎮、内山真弓・萩原貞起と交流、「筑紫道記」「芳野紀行」著、  
[保秀(;名)の通称/号]通称;市之助、号;青葉あおば/青葉岡老樵/青葉岡のあるじ/勝久

保英(やすひで・木津/服部) → 土芳(とほう・服部、俳人) 3 1 5 7

安秀(やすひで・大村/大森) → 賀ト(かたかほく・大村/大森、刀工) P 1 5 3 7

安秀(やすひで・山口) → 重春(しげはる・柳斎・梅丸斎・滝川・烽山/山口、絵師) C 2 1 8 6

懐仁(やすひと) → 一条天皇(いちじょうてんのう、詩人) B 1 1 2 3

C4579 穩仁親王(やすひとしんのう・八条宮/桂宮、後水尾天皇皇子) 1643-65 早世 23 歌人:  
「穩仁親王詠草」「山落葉歌」著

慶仁親王(やすひとしんのう) → 中御門天皇(ななかみかどてんのう、歌人) F 3 2 8 5

泰姫(やすひめ・徳川) → 光圀室(みつくにのしつ・徳川尋子、歌人) D 4 1 3 5

溶姫(やすひめ・前田) → 諧子(けいこともこ・前田まえた/徳川、溶姫) W 3 1 4 4

C4580 康衡(やすひら・三善みよし、雅衡男) 1241-1315 75 鎌倉期廷臣;正四下/右京大夫/算博士、  
西園寺家の家司、春衡の父、歌人;1317洞院公守(1317没)家歌会に参加、  
西園寺実兼(1249-1322)家歌会参加、勅撰2首;玉葉(1848)続千載(1339)、  
[跡とほきそばのかけ道たえだえに霞をつたふ春のやま入]、  
(玉葉;雑1848/入道前太政大臣実兼家にて山路霞)

C4581 安平(やすひら・林はやし) ? - ? 江前期武術家;林流柔術の祖、南紀に没、  
「林流柔術或問」著、  
[安平(;名)の通称/号]通称;六郎左衛門/六郎右衛門、号;鵬翼

G4528 安平(やすひら・津田つだ、通称;安太郎/平一郎) 1778-1821 44 出羽山形藩士/国学者;平田篤胤門

C4582 保救(やすひら・賀茂かも/幸徳井、保敬3男) 1791-1852 62 兄保孝の嗣;陰陽家/1812暦博士/15陰陽助、  
1848(嘉永元)従四上、1811「客星出現勘申」著/16「文化十四年具注暦」編/28「頒暦略註」著

G4507 泰平(やすひら・鈴木すずき) ? - 1869 紀伊日高郡出身の医者/歌人、国学;本居内遠門、  
国学・歌道;加納諸平・熊代繁里門、紀伊田辺住、歌;[類題和歌清渚集]入、  
[泰平(;名)の初名/通称/号]初名;泰、通称;玄朴、号;玄斎/文斎/南峰  
☆田辺の国学者鈴木重任(しげとう・玄朴/熊代繁里門)と同族?

C4583 泰平(やすひら・山田やまだ) ? - ? 江後期京の歌人:香川景樹(1768-1843)門、  
「調の直路しらべのただし辨」著(;八田知紀「調の直路」への反駁書)、  
[泰平(;名)の通称/号]通称;新兵衛、号;千秋館

G4504 安平(やすひら・杉本すぎもと) 1817-1896 80 甲斐都留郡の国学者、  
[安平(;名)の号] 常盤軒/杉夕さんせき

F4593 居平(やすひら・坂井さかい) 1842-1877 36 信濃伊那郡久米村の庄屋、国学/歌;平田鉄胤門、  
[居平(;名)の通称/号]通称;富太郎/醇之助、号;米村/粹蘆/素色

F4527 安平(やすひら・井手いで/変姓;松宮) 1844-66 23 暗殺 周防熊毛郡の生/萩藩の大野毛利家家臣、

一時変名し松宮相良を名乗る;1863(文久3)攘夷戦争後に九州諸藩の情勢探索、奇兵隊に参加;義勇隊に転ず/1864(元治元)久坂玄瑞に属して鷹司邸に戦う、藩内の俗論党の忌まれ1852(慶応元)10月23日刺客に殺害;贈;従五位、国学者/歌人  
[安平(;)]の変名/通称]変名;松宮相良、通称;孫太郎

G4523 **衡平**(やすひら・館川たちかわ、旧姓;小島)1844-67**斬首**24 武蔵大里郡の生/佐野日向守殿内、国学;根岸友山(信輔)・権田直輔・平田鏡胤門、同郷の師権田直輔らと尊攘運動;  
1867(慶応3)川越藩に捕縛/斬首

[衡平(;名)の初名/通称]初名;依直、通称;直次郎

安平(やすひら・森) → 信処(のぶさだ・森、儒/国学/記録) B 3 5 4 8

安平(やすひら・河内) → 公明(きみあき・河内かわうち、医者/国学/詩歌)M 1 6 0 0

安平(やすひら・坂部) → 政幹(まさもと・坂部さかべ/渡辺、商家/国学)P 4 0 9 8

安平(やすひら・渡辺) → 為門(ためかど・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 3 7

保平(やすひら・仙田) → 正敏(まさとし・仙田せんだ、藩士/勤王派)E 4 0 5 1

懐平(やすひら・藤原) → 懐遠(やすとお・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 4 5 1 7

C4584 **保衡女**(やすひらのむすめ・平たいら、介内侍)?-? 大江雅致の妻・和泉式部の母、  
令泉天皇皇后昌子の女房

C4585 **康広**(やすひろ・小笠原おがさわら、元統男)1531-97**67** 武将;北条家の家臣;北条氏康・氏政に出仕、  
妻は北条氏康女、1574父の領知相模飯泉・矢畑を継嗣/武者奉行、  
1580北条家没落;主君氏直に随い高野山へ、氏直没後;1592徳川家康に出仕、  
「小笠原家古書拔書」著、

[康広(;名)の幼名/通称/法号]幼名;孫増、通称;六郎/剃髪後;播磨入道、法号;宗有

C4586 **泰広**(やすひろ・松前まつまえ、公広3男)1627-80**54** 蝦夷福山城に生/氏松の弟、1641(15歳)江戸出府、  
1642將軍家光に謁;幕臣、47扶持米千俵/48小姓組、69蝦夷乱に松前藩家老蠣崎広林と出兵、  
鎮圧平定/1670加増5百石/72松前御目付/75御使番;禄千百石、連歌;1673昌陸と2度百韻、  
[泰広(;名)の幼名/通称]幼名;竹松丸/甚五郎、通称;八左衛門

F4568 **泰広**(やすひろ・加藤かとう、泰恒やすつね7男)1709-85**77** 母;山田氏(法心院)、1724従兄泰貫の養子、  
1727(享保12)養父嗣;伊予新谷藩(大洲藩支藩)4代藩主、従五下、駿府城加番、  
歌人;烏丸光栄みつひで門、藩の子弟教育に尽力、正室;大関増恒女、  
泰宦・高力直道・安西政泰・近藤用常正室の父、1756(宝暦6)泰宦に家督を譲渡;隠居、  
[泰広(;名)の別名/通称/号]別名;泰春、通称;右京/織部正/出雲守/山城守、  
号;笑翁/拈花ねんか院

※新谷藩歴代藩主;直泰(初代1623-82)泰觚(1682-1716)泰貫(1716-27)泰広(4代1727-56)、  
泰宦(5代1756-71)泰賢(1771-1810)泰壽(1810-31)泰理(1831-62)泰令(9代1862-71)

F4522 **泰寛**(やすひろ・有馬ありま、)1743-1804**62** 筑後久留米藩江戸家老、国学者/歌人、  
[泰寛(;名)の別名/通称]初名;嘉董、通称;内蔵助

C4588 **安泰**(やすひろ・宮井みやい)1760- 1815**56** 代々加賀金沢藩士村井家に出仕、和算家、  
三池流算法;村松秀允門、天文地理に通ず、1785金沢藩定番歩士に抜擢、  
1792以後明倫堂算学師範となる、1778「段数伝解」82「規矩元法図解」83「測量術解」著、  
1786「規矩元法別集」「算法可秘」1803「算類凡例」、「三公随筆夜話」「種囊」著、外編著多数、  
[安泰(;名)の通称/号]通称;柳之助、号;南畝

C4589 **保泰**(やすひろ・柳沢やなぎさわ/本姓;源、保光2男)1782-1838**57** 大和郡山藩主;1811家督継嗣/従四下、  
美濃守/甲斐守/侍従、文武の振興;1835藩校稽古所を移転改築;教育の充実、  
「信玄入道二百五十回忌祭文」著、

[保泰(;名)の幼名/別名/法号]幼名;勝三郎/右八郎、別名;信近/光雄、法号;峻徳院

C4587 **安寛**(やすひろ・鈴木すずき) ? - ? 江後期江戸浅草の歌人/歌学者、「まどの雪」著、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[ときのまにうつろひはてし朝貌にふれし袂の露ぞひがたき](大江戸倭歌;恋1564)、

[安寛(;名)の字/通称/号]字;栗卿、通称;市郎兵衛、号;東軒

G4551 **保泰**(やすひろ・服戸ふくと、)1827-1898**72** 但馬出石郡の国学者



- [保泰(；名)の通称/号]通称；弥五兵衛/青嶂、号；青天白日舎主人  
 康弘(やすひろ・亀田) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5  
 康寛(やすひろ・加藤) → 宗月(そうげつ・加藤/依田/松平/蘆田、武将) H 2 5 0 2  
 C4590 やすふ(平たいら) ? - ? 平安期保明親王の帯刀/歌；904-23頃「帯刀陣歌合」参加、  
 [秋風は吹かずもあらなむをみなへし知るも知らぬも思ふ心は](女郎花；帯刀陣歌合)  
 G4557 保房(やすふさ・堀内ほりうち、) 1821-1876 山城愛宕郡上賀茂神社祠官、国学者、  
 「賀茂規則問答」著、  
 [保房(；名)の別名/通称]別名；巳生若、通称；勘解由/左衛門丞/越後介  
 保房(やすふさ・清閑寺) → 熙房(ひろふさ・清閑寺せいかんじ、廷臣/故実) H 3 7 0 3  
 E4586 安船(やすふね・荒瀬あらせ、別名；鳴海/通称；仁吉) ?-1855 周防佐波郡三田尻の商家；屋号；綿屋、  
 荒瀬真纒まさでと同族；真纒の妻百合子(歌人)は妹、国学/歌；本居大平門、  
 大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
 [むかつをの松の雪だに消えなくに野のへは春の霞立つ見ゆ](八十浦；690早春)  
 C4591 恭文(やすふみ・細田ほそだ、細田谷右衛門の養子) 1792-1854 信濃伊那郡春近村上殿島の農業、  
 のち奥州で養蚕を修得；帰郷後近隣に伝達・奨励、和算；信州高遠藩の石川子温門、  
 1844免許を得て近郷の神社仏閣に算額を奉納、相撲好きで伊勢海五太夫に入門；勇駒名、  
 [恭文(；名)の通称] 徳兵衛、恭武の父  
 安不美(やすふみ・金本) → 摩斎(まさい・金本かなもと、儒者/詩) B 4 0 2 4  
 保旧(やすふる・木内) → 保旧(やすひさ・木内きうち、神職/国学) C 4 5 7 4  
 安平(やすへい・貝原) → 和軒(わけん・貝原かいばら、儒者/詩文) 5 3 2 0  
 安平次(やすへいじ・森田/橘屋) → 豊香(とよか・森田もりた、歌人) R 3 1 0 7  
 C4592 安兵衛(やすべえ・武蔵むさし/本姓；藤原、義之の長男) 1757-1827 陸中盛岡の商人；盛岡藩御用達、  
 呉服・太物を扱う；初代高島屋権八と称す、華道；京の池坊専定門；高弟/生花会頭、  
 1810正五位/法橋；養心齋号を受、奥州六国総会頭、1799「池坊生花堂室秘録」著、  
 1822「家元御流生百花式」伝、弟景福を養嗣子とす、  
 [安兵衛(；通称)の名/別通称/号]名；公政、別通称；高島屋権八、号；高安/養心齋、  
 法号；安常、  
 安兵衛(やすべえ・中山/堀部) → 武庸(たけつね・堀部、赤穂浪士/討入) O 2 6 4 8  
 安兵衛(やすべえ・清水) → 長年(ながとし・清水、藩士/紀行) E 3 2 8 4  
 安兵衛(やすべえ・田丸屋/稻掛) → 棟隆(むねたか・稻掛/山口、商家/国学/歌) B 4 2 4 8  
 安兵衛(やすべえ・朝日奈) → 南麟(なんりん・田辺/旭堂、講釈師) J 3 2 6 9  
 安兵衛(やすべえ・栗田) → 逸斎(いつさい・栗田あわた、儒/詩人) H 1 1 1 7  
 安兵衛(やすべえ・石王) → 塞軒(そっけん・石王いしおう、儒者) E 2 5 0 2  
 安兵衛(やすべえ・高橋/小樽) → 賀前(かぜん・山本、和算家) M 1 5 7 2  
 安兵衛(やすべえ・羽田/今井) → 墨芳(ぼくほう・羽田、俳人) D 3 9 9 0  
 安兵衛(やすべえ・由比) → 演徴(のぶあきら・由比ゆい、藩士/歌人) 3 5 8 6  
 安兵衛(やすべえ・由比) → 演義(のぶよし・由比、演徴男/藩士/歌) E 3 5 0 6  
 安兵衛(やすべえ・井上) → 永俊(ながとし・井上いとうえ、商家/歌人) L 3 2 0 3  
 安兵衛(やすべえ・山中) → 弘道(ひろみち・山中やまなか、役人/国学者) M 3 7 2 3  
 安兵衛(やすべえ・木村屋) → 桂まゆずみ(かつらまゆずみ、木村屋、狂歌) H 1 5 8 7  
 安兵衛(やすべえ・平野屋) → 五木(ごぼく・島津、商家/俳人) N 1 9 6 6  
 安兵衛(やすべえ・岩井屋) → 公效(きみのり・永沢ながさわ、神職/国学) U 1 6 9 3  
 安兵衛(やすべえ・田本) → 安丸(やすまる・田本たもと、歌人) G 4 5 1 8  
 安兵衛(やすべえ・徳永) → 芳園(よしぞの・徳永とくなが、商家/国学) O 4 7 0 3  
 易兵衛(安兵衛やすべえ・窪田) → 紫蘭(しらん・南陀伽・窪俊満、絵師/狂歌/戯作) 2 2 1 5  
 保兵衛(3世やすべえ・木地屋) → 風律(ふうりつ・木地屋、俳人) B 3 8 0 9  
 保兵衛(やすべえ・横田) → 柏園(はくえん・横田よこた、儒者/詩人) C 3 6 6 6  
 保兵衛(やすべえ・手塚) → 躬保(もとやす・手塚てつか、藩士/農政) E 4 4 5 0  
 保兵衛(やすべえ・渋川屋) → 文藻(あやも・小宅おやけ、商人/国学/画) F 1 0 1 6

- 保兵衛(やすべゑ・眞山) → 迂堂(うどう・眞山まやま、儒者/地理) D 1 2 2 0  
 保兵衛(安兵衛やすべゑ・鈴木) → 重愛(しげあか・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 1 0
- E4564 **安万**(やすま・越田おだ) ? - ? 奈良期絵師;  
 文屋真人智努ちぬの命で平城京禪院の仏足石を写す/石手某麻呂が刻す(;薬師寺仏足石)
- 4508 **保昌**(やすまさ・藤原ふじはら、致忠男/母;源元明女) 958-1036 79 廷臣;大和守/左馬頭/丹波守/摂津守、  
 従四下、武将;四天王の1、道長家の忠実な家司、和泉式部の夫、  
 1028大和金峰山僧百余人が内裏陽明門で保昌の非法を訴える、後拾遺448  
 [かたがたの親の親どち祝ふめり子の子の千代を思ひこそやれ](後拾遺;七賀448、  
 孫の袴着に祖父たちが集う様子を見て詠む)
- C4593 **康政**(やすまさ・榊原さかきばら、長政2男) 1548-1606 59 三河上野の武将;父と共に徳川家康の家臣、  
 1590上野館林城主10万石襲封、正四位式部大輔、家康四天王に1;武功、関ヶ原以後は隠棲、  
 「榊原康政自筆消息」「榊式部大輔康政書状」「清政江康政より返書」著、  
 妻;松平五郎左衛門康高女、  
 [康政(;)の幼名/通称/法号]幼名;亀丸、通称;小平太、法号;養林院
- C4594 **保政**(やすまさ・服部はつとり) ? - ? 寛永1624-44頃の武家;忍者の家の生/半蔵の末裔、  
 1624(寛永元)「伊賀者火術秘書」編(秘伝書)
- H4505 **安政**(やすまさ・脇坂わきさか、佐倉藩主堀田正盛2男) 1633-94 62 母;あぐり(酒井忠勝女)/江戸の生、  
 1640(寛永17)信濃飯田初代藩主脇坂安元(1584-1653)の養子;51(慶安4)従五下中務少輔、  
 1654(承応3)養父没;家督嗣;2代飯田藩主;5万3千石、江戸城本丸修営/大坂城加番、  
 1672(寛文12)播磨龍野藩に転封(初代藩主);荒廃していた城や城下を再建・産業奨励、  
 薄口醤油の生産など藩の発展に尽力;[龍野の殿様]と慕われる、  
 正室;松仙院(松平康映女)/側室;月光院(今井総十郎女)、安村・安照・世伊・左牟の父、  
 1678嫡子問題、1684(貞享元)5男安照に家督譲渡;隠居(号;如水)、歌人;二条家入門、  
 [安政(;)の初名/通称/号]初名;安吉、通称;三四郎/甚太郎/中務少輔、号;如水
- G4570 **甫昌**(やすまさ・松平まつだいら、昌勝男) 1658-1702 45 江戸の幕臣;大番、和学者、  
 [甫昌(;)の通称]五郎八郎/伊右衛門/次郎右衛門/源四郎/織部/五郎兵衛、法号;理圓
- G4542 **保昌**(やすまさ・服部はつとり) 1671-1743 73 江戸の幕臣;小姓組、和学者、養嗣子;山名保教、  
 [保昌(;)の通称]作之進/三郎兵衛
- C4595 **安昌**(やすまさ・戸川とがわ、堀利雄男) 1699-1785 87 幕臣戸川安村の養嗣子;1729家督嗣/35使蕃、  
 1736(元文元)石見津和野等に赴き国政を監す/1746西丸持筒頭/54小普請組支配、64致仕、  
 1745「戸川安昌談角田好要記」著、  
 [安昌(;)の別名/通称/法号]別名;村由(;)初名)/利章/利栄/隆利/長昌、  
 通称;友之助/隼人/左門/五左衛門、法号;日徳
- C4596 **泰雅**(やすまさ・吉尾よしお、号;桂月園) ?-? 青山流華道家;園基衛門、江戸に青山流を広める、  
 江戸京橋住;近世青山流の事実上流祖、「口伝譜」「容譜聞書」、1789「青山御流活花図大成」、  
 1800「青山御流活花手引種」、「青山御流草木水揚養方保様之事」著/外伝書多数
- C4597 **安昌**(やすまさ・小島こじま) ? - 1837 幕臣;1813御賄吟味役/御賄調役/36表御台所頭、  
 「柳営系譜略記」「嘉定私記」著、  
 [安昌(;)の通称/号]通称;翁助、号;竹裏亭
- G4561 **安正**(やすまさ・真下ましも、号;一六) 1813-81 69 上野邑楽郡の薬種商、和学;生田万よろ(国秀)門、  
 国学・歌;黒沢翁満おきなまる門
- F4584 **安雅**(やすまさ・北村きたむら、雅尚まさひさ男) 1815-63 49 讃岐高松の国学者;友部方升まさのり門  
 [安雅(;)の通称/号]通称;莊之助、号;翠竹
- C4598 **康正**(やすまさ・松平まつだいら、松平久兵衛7男) 1823-64 自刃 42 加賀金沢藩士松平康職の養子、  
 1854(安政元)家督嗣;小松城番/御算用場奉行歴任/1863家老職、尊攘派重臣として活動、  
 禁門の変後;藩の責任を背負って自刃/没後7百石加録;従四位を追贈、  
 1863-4「公私日録」/64「京都詰中内状等留」、「松平大弐留帳」著、養嗣子;康蕃、  
 [康正(;)の通称/号]通称;鉄吉郎/玄蕃/大弐、号;義齋
- C4599 **安昌**(やすまさ・会田あいだ) 1832- 1895 64 国学者・歌人;維新後;宮内省御歌所に出仕、  
 「歌抄」「風葉集類字抄」「紀貫之家集第二正調考」著

- E4590 **泰昌**(やすまさ・佐々木ささき、会津藩士佐々木源八3男)1833-68.36 親戚旗本佐々木矢太夫の養子、  
 剣術;神道精武流を修得;剣客/小大刀の名手/幕府講武所の剣術師範、  
 1862(文久2)旗本として浪士組結成のため上京、幕府旗本京都見廻組与頭、64禁門変参戦、  
 1867坂本竜馬の刺客7人の1、1868(慶応4)鳥羽伏見戦参戦し被弾;敗走中紀三井寺に没、  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [清見瀉夕立すらし風早の三保の松原雲きほふなり](大江戸倭歌;夏610)、  
 [泰昌(;名)の通称] 只三郎/唯三郎たださぶろう
- H4502 **安理**(やすまさ・吉成よしなり、本姓;清原)1840-1900.61 豊後国東郡の神職;若宮八幡神社大宮司、  
 国学者;平田鍊胤門/歌人;物集高世門、  
 [安理(;名)の通称] 縫殿介
- |                |   |                      |           |
|----------------|---|----------------------|-----------|
| 康済(やすまさ・牧野)    | → | 康済(やすなり・牧野/源、藩主/詩)   | C 4 5 5 0 |
| 康将(やすまさ・高木)    | → | 竹妓(ちくぎ・高木、俳人)        | C 2 8 8 2 |
| 安正(やすまさ・藤田)    | → | 帛川(はくせん・藤田ふじた、藩士/詩人) | D 3 6 5 5 |
| 安正(やすまさ・高島/浅見) | → | 綱斎(綱斎けいさい・浅見、医/儒者)   | 1 8 0 3   |
| 安正(やすまさ・綾部)    | → | 綱斎(けいさい・綾部あやべ、儒者/詩歌) | E 1 8 6 6 |
| 安松(やすまつ・瀬見)    | → | 為善(ためよし・瀬見せみ、国学者)    | X 2 6 7 4 |
- G4518 **安丸**(やすまる・田本たもと、)1812-1889.78 信濃伊那郡の歌人、  
 [安丸(;名)の通称/号]通称;彦助/安兵衛、号;九五/春雨之舎
- 4509 **安万呂**(安万侶やすまる・太/多おの朝臣、多品治男?)?-723 奈良期715(霊亀元)従四下/民部卿、  
 711-2(和銅4-5)元明天皇の詔で「古事記」編纂選録、「日本書紀」編纂にも参与?、  
 721(養老5)「日本紀私記」著、  
 父?の多品治は壬申乱の天武天皇方武将
- 4510 **安麻呂**(やすまる・大伴おとも宿禰、長徳[馬飼]6男?)?-714 大和奈良期廷臣;672壬申乱に天武方参戦、  
 701(大宝元)従三位・中納言/705(慶雲2)大納言/708(和銅元)正三位/714(和銅7)大將軍、  
 没後;贈従二位、御行・兄麻呂・古麻呂の兄弟、旅人・田主・宿奈麻呂・坂上郎女らの父、  
 歌人;万葉三期3首;101/299/517、通称;佐保大納言卿、家持の祖父、  
 [玉葛たまがづら実み成らぬ木にはちはやぶる神そつくといふ成らぬ木ごとに]、  
 (万葉集;二101/巨勢郎女をよぼう時の歌)
- D4500 **安麻呂**(やすまる・板氏ばんじ、板茂連いたもちのむらじ?)?-? 廷臣;万葉三期歌人(;五831)、  
 730年大伴旅人の梅花宴に参加:壱岐守(従六位下?)、  
 板茂連安麻呂;能書家(725書学生の貢進に当り安麻呂らの筆跡を基準;令集解学令)、  
 735;安倍帯麿に殺害された同族の訴えを右弁官が不裁理したための罪に連座;赦免、  
 (続紀;天平7年9月/安麻呂は太政官右弁局大史;従六位下)、  
 738以降に皇后宮職および金光明寺(東大寺)の写経司に出仕;長官となる、  
 [春なればうべも咲きたる梅の花君を思ふと夜眠いも寝なくに](万葉;831/梅花宴)
- 安麿(やすまる・秦;変名) → 三平(さんぺい・美玉みたま、高橋、尊攘派) M 2 0 7 4
- D4501 **安海**(やすみ・沖/澳おき、本姓;源)1783-1857.75 伊勢白子の染型紙販売業、国学・歌:本居大平門、  
 漢学;清水雷首門、海防に関心;蝦夷地図作製、嘉永三十六歌仙の1、  
 1841「那古能記」/52「伊勢両宮心之御柱之事」「河曲小山宮考」、「黄金山考」著、  
 「陸奥南部年中行事記」著、「伊勢白子領答書」著(;弘賢「諸国風俗問状答」入)、外著多数、  
 大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[早苗][松之浦島]・短歌入、  
 [国づくり堅めなしけむ神の代の天の沼銚ぞあやにたふとき](八十浦;896銚)、  
 [安海(;名)の別名/字/通称/号]別名;就将、字;公熙、通称;正蔵/荘蔵しょうぞう、  
 号;清渚山人/甕栗おうりつ
- E4596 **保躬**(やすみ・長尾ながお、通称;代助?)?-? 江後期;歌人、幕臣?  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [散る時の別れををしと知りながらこりずも花になれにけるかな](大江戸倭歌;春250)
- G4567 **八澄**(やすみ・松井まつい、通称;富士吉/秀助)1810-? 美濃方県郡の国学者;富樫広蔭門
- G4500 **保躬**(やすみ・下沢しもざわ、)1838-1896.59 陸奥弘前津軽藩士、歌/神学;長利おさき仲聴なかあきら門、  
 国学者;平田鍊胤門、維新後;修史局に出仕/帰郷;岩木山神社禰宜、「津軽旧記類纂」編、



- [保躬(；名)の通称/号]通称；八三郎、号；閑雲/鏡湖楼花蔭/玄風
- D4502 **安見児**(やすみご) ? - ? 采女；出身地など不明、  
万葉二95題詞：鎌足が天智から安見児を得た喜びの歌
- D4503 **泰通**(やすみち・藤原ふじわら、為通男)1147-121064 母；源師頼女、大叔父大納言藤原成通の養子、  
廷臣；1183参議/従三位/97正三位/99権大納言/1202辞退し按察使となる、  
後白河・後鳥羽両院の別当/1208(承元2)出家、1208「蹴鞠譜六次第」著  
歌人；言葉集入(中宮の女房への歌)
- D4504 **康道**(康通やすみち・越智おち)?- ? 室町幕臣/歌人；  
1503-5頃「武家歌合」参加(10首詠/大館[源]尚氏1454-1546・松田[平]頼亮らと)、  
[見渡せばいり海くらく立ちこめて霞に残るよさの松原](武家歌合；四番右)
- D4505 **康道**(やすみち・二条にじょう/本姓；藤原/一字名；藤・東、九条幸家男)1607-6660 二条昭実の養嗣子、  
廷臣；1615従三位/21内大臣/29右大臣/左大臣/35撰政/39従一位；47致仕、  
後水尾天皇の信任を受、歌・連歌・俳諧を嗜む、「寛永御譲位記」「節会部類」/63「寛文記」、  
1666「新院御月次」、「三節次第」「節会問答」「有職御問答」「康道公記」外著多数、  
連歌；1635「寛永十二年正月百韻」39「寛永十六年何路百韻」64「寛文三年山何百韻」など、  
俳；没後1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入；[作り木や庭にも滝の糸櫻](手鑑；藤名)、  
歌；[ましてしばし相坂あふさか越えて行空も花にかへらんみやこ路の春]、  
(烏丸光広[春の曙の記]入2/江戸紀行；花の盛りには帰京するので待てよ)、  
[康道(；名)の号] 千丸/花の本/銅駄老人/後浄明珠院
- D4506 **泰術**(やすみち・加藤かとう、旗本加藤泰都[文麗]長男)1728-8457 母；谷口正次女心涼院；  
母は元江戸城奥女中、江戸の生、学問；芝増上寺僧因静いんせい門、1744徳川家重の小納戸役、  
1775小姓、1745(延享2)本家大洲藩主加藤泰温やすあつ没；その養嗣子/伊予大洲6代藩主襲封、  
従五下/出羽守/左近将監；6万石、藩財政再建尽力；儉約令施行・藩士家禄削減など、  
しかし幕命の朝鮮通信使接待・勅使の接待役などで出費；農民重税により内ノ子騒動勃発、  
川田半太夫雄琴(三輪執斎門)を登用；学制整備/1747藩校明倫堂開校、上野介/のち加賀守、  
正室；先代藩主加藤泰温女の津礼、喜連川恵氏・泰行・溝口直英・泰候・泰豊・泰周・増業の父、  
加藤家史料「北藤録」20巻編纂、1762(宝暦12)隠居；養子泰武が家督嗣、  
[泰術(；名)の通称/号]通称；亀之助/藤馬/出羽守/左近将監/上総介/加賀守、  
号；揚雀/喩月堂/挙扇、法号；寛厚院
- D4507 **安通**(安道やすみち・真野まの、安代やすのり男)1746-9752 尾張故実家；父の学修学/江戸の伊勢貞丈門、  
武家故実の真野流を創始、門弟指導/甲冑製作、「甲冑製作全書」「糸打方図註秘訣」著、  
「古実真野家伝布帽考」「真野家伝甲冑故実」「古伝甲冑故実」著、  
[安通(；名)の通称/号]通称；七郎/小七郎/文左衛門、号；是翁
- D4508 **泰通**(やすみち・山方やまがた、泰純やすずみ男)?-? 文政1818-30頃羽後秋田藩士/歌人、  
「月花集」「拾穂録」著
- G4537 **安道**(やすみち・野井い、旧姓；矢野)1808-6356 伊予八幡浜の醸造業[油屋]の養嗣子；継嗣、  
国学；二宮昌禎まさただ・本居内遠門、  
[安道(；名)の通称]善三郎
- E4566 **綏猷**(やすみち/すいゆう・田中たなか、小森正造2男)1815-62斬殺48 但馬出石郡香住村の医者の子の生、  
儒；出石藩儒井上静軒門、山本亡羊・摩島松南門、中山忠能の家士；諸大夫/田中綏長の養嗣、  
河内介/六位、勤王家；1861(文久元)位記を返上；浪士として討幕運動参加、  
伏見寺田屋事件に関与し捕縛；薩摩に護送中に舟中で斬殺、  
[百とせの齢よはひをつるのますの数ちよとはかれば万世のかめ]、  
[綏猷(；名)の字/通称/号]字；士徳、通称；賢次郎/河内介、号；恭堂/臥龍/臥龍窟
- D4509 **安道**(やすみち・堀ほり/賀陽/香屋、堀安忠男)1829-7547 備中賀陽郡総社の国学者；池上義知門、  
歌；小野務・近藤芳樹門/詩文；三島毅[中洲]門、家督を弟の安郷に譲渡；文筆活動に専念、  
維新後倉敷県総社祝師/小講義、「大祓抄」「記紀抄」「総社記」「青蠅日記」著、  
[安道(；名)の通称/号]通称；和助、号；六友居
- 懐通(やすみち・藤原、業尹男) → 懐通(かねみち・藤原、歌人) D 1 5 0 8  
泰道(やすみち・林) → 泰道(たいどう・林、俳人) B 2 6 9 3

泰道(やすみち・山県) → 東原(とうげん・山県やまがた、藩士/儒者) D 3 1 4 6  
 泰通(やすみち・神保) → 泰和(やすかず・神保じんぼ、和算/地誌家) B 4 5 1 1  
 泰通(やすみち・遠藤) → 鶴州(かくしゅう・遠藤、藩士/儒者) H 1 5 2 9  
 泰通(やすみち・堀江) → 眞清(まさか・堀江ほりえ、国学者) S 4 0 4 6  
 保道(やすみち・永淵) → 有武(有竹ありたけ・永淵ながぶち、藩士/歌人) F 1 0 3 9  
 保道(やすみち・村井) → 白扇(はくせん・村井、商家/俳人) D 3 6 5 2  
 安道(やすみち・松浦) → 大麓(だいろく・松浦まつうら、医者/詩) C 2 6 4 2

D4510 **保光**(やすみつ/やすてる・源みなもと、代明親王2男) 924-995 醍醐天皇の孫/平安中期廷臣; 970参議、  
 988中納言、985円融院子の日の御幸・986大井川御幸に参加/995従二位、詩歌人、  
 詩; 959「天徳闕詩」左方頭参加、歌; 966内裏前裁合参加; 清涼殿西の小庭で詠歌、  
 972白河院の遊宴に参加/992山城愛宕郡に松崎寺(円明寺)建立、万代集入/新続古384、  
 [年ごとに祈るなかにも七夕のこよひは殊に心あるらし](新続古今; 秋384)、  
 [保光(;名)の通称] 桃園中納言

D4511 **泰光**(やすみつ・源みなもと; 村上流、師光男) 1167-? 1249 存 廷臣; 兵部権少輔/紀伊守/加賀守、  
 1248従三位/49(建長元)出家、具親ともちかの弟/澄覚・後鳥羽院宮内卿くなくさの兄、俊平の父、  
 歌人; 1200石清水若宮歌合参加、万代集・現存六帖・秋風集・雲葉集入、  
 勅撰6首; 新古今(596)新勅撰(1102)続後撰(202/872)続古今(1326)玉葉(2724)、  
 [定めなくしぐるゝ空のむら雲にいくたび同じ月を待つらん](新古; 冬596)、  
 [泰光(;名)の初名] 俊信

兄弟 → 具親(ともちか・源、歌人) P 3 1 7 5  
 → 尋恵(じんえ、天台僧/歌人) V 2 2 8 2  
 → 澄覚(ちようかく、天台僧/歌人) N 2 8 9 7  
 → 宮内卿(くなくさ・後鳥羽院、歌人) 1 7 0 5

D4512 **康光**(やすみつ・藤原ふじわら、後名; 康氏、康業男) ?-? 鎌倉期廷臣; 大膳亮/左衛門権尉/従五下、  
 1213内裏詩歌合参/15内裏名所百首入、16内裏七首歌合/内裏百番/18順徳院中殿御会参加、  
 1221佐渡へ順徳院に供奉、続後撰集1115、雲葉集2首入、法名; 乘念、康継/家盛の父、  
 [里遠き野中のいほの月影になきて夜深き鳥の声かな](続後撰; 1115/1215内裏歌合)、  
 [降りつみし雪げの水の音羽河いかなる春の色に出づらん](名所百首; 12/山城音羽河)

D4513 **泰光**(やすみつ・安倍あべ、有弘男) ?-? 南北朝廷臣; 正四下/穀倉院別当/雅楽守、  
 大監物、長親の弟/泰輔・有俊の父、歌人; 1359成立「新千載集」入; 1473、  
 [衣衣きぬぎぬの袖の別れにいまこんといひし契や命なるらん](新千; 恋1473)

D4514 **保光**(やすみつ・土御門つちみかど/本姓; 藤原、柳原資明3男) 1334-1402 69 廷臣; 1361従三位治部卿、  
 1382権大納言/95従一位; 6月足利義満出家に従い出家、法名; 陬寂すうじやく、  
 1374「保光卿記」著

D4515 **綏光**(やすみつ・広橋ひろはし/本姓; 藤原、兼賢男) 1616-54 39 母; 正親町季康女、江前期廷臣;  
 1643参議/左大弁/従三位/48正三位/50権中納言、賀茂伝奏・神宮奉行、  
 1643「明正院御讓位列書」44「白馬節会儀」49「慶安三年朔旦冬至記」、「綏光卿記」著

D4516 **保光**(やすみつ・柳沢やなぎさわ/本姓; 源、信鴻のぶとき男) 1753-1817 65 大和郡山藩主; 1773家督継嗣、  
 従四下、造酒正/甲斐守/侍従、1811致仕、諸芸を嗜む、  
 茶; 石州流片桐宗幽門・千家流千宗且門、茶陶赤膚焼を興す/松平不昧と親交、  
 書; 御家流/歌; 日野資枝門/俳諧も嗜む、  
 河内高貴寺の慈雲飲光門; 菩提戒を受; 師を城中に招き法を聴く、  
 「四疊楼記」「堯山公詠歌集」792「蘇明漫筆」著、「慈雲大和上御歌」編、1798広通「霞関集」入、  
 [摘みやるは此の武蔵野の初若菜あづまの春を思ひこせとて]、  
 (霞関; 春42/石野広道が佐渡奉行として佐渡にいる時に若菜を贈るとて)、  
 (広道の返歌; わけなれし雪ふる里の初若菜君が恵みに此の春も見つ)、  
 [保光(;名)の幼名/別名/号] 幼名; 久菊、別名; 安信/保明、  
 号; 堯山/飲明居士/嶽乘庵/米徳/八百庵、法号; 止観院

F4530 **保光**(やすみつ・市村いちむら、通称; 安左衛門) 1753-? 信濃高井郡の商家/須坂藩御用達、  
 国学/歌; 荒木田久老門、1807(文化4)本居宣長「美濃の家づと折添」筆写

- D4517 **葆光**(やすみつ・松波まつなみ/本姓;藤原、光興男)1756-1810<sup>55</sup> 京官人;1765従六下/76従六上/丹後守、1787左衛門大尉/1806正五下、「膝酌齋先生詩集」編  
 酌齋は父の号 → 光興(みつおき・松波、詩人) D 4 1 1 4
- E4508 **能光**(やすみつ・三室戸むろど/本姓;藤原、光村男)1769-1850<sup>82</sup> 母;大僧都静如の女、廷臣;  
 1777従五上大蔵大輔/97従三位/1800宮内卿/02正三位/24(文政7)参議/25従二位、  
 1826参議辞任/32権中納言;辞任、43正二位/48(嘉永元/80歳)権大納言;辞任、  
 「南殿記」著/1824「繫子贈皇后宣下雜記」32「五位蔵人頭拝賀次第」著
- G4517 **保満**(やすみつ・田村たむら、)1822-1891<sup>70</sup> 出羽山形藩士、国学;長尾名鳥門/歌;服部春樹門、  
 維新後;近江大津に住;東浅井郡長、  
 [保満(;)名]の通称/号]通称;五百代、号;華月楼
- G4597 **葆光**(やすみつ・山村やまむら、通称;源太夫)1839-1916<sup>78</sup> 筑後久留米の国学者  
 保満(やすみつ・鷹見) → 保利(やすとし・鷹見たかみ/南条、商家/歌) G 4 5 2 2  
 泰光(やすみつ・酒井) → 晦堂(かいどう・酒井さかい、藩士/儒者) H 1 5 1 9  
 康光(庸光やすみつ・日野西) → 国豊(くにとよ・日野西ひのし、廷臣/記録) C 1 7 9 9  
 葆光(やすみつ・児玉) → 美穂(よしほ・児玉こだま、国学者) H 4 7 8 6  
 安岑(やすみね・脇坂) → 安斐(やすあや・脇坂わかさか/藤堂、藩主/歌) H 4 5 0 3
- D4518 **休**(やすむ・大菅おおすが、町医者森下松亭男)1801-34<sup>34</sup> 漢学者大菅南坡なんばの養子;1815家督継嗣、  
 1824近江彦根藩儒;養父を嗣ぐ/詩文に長ず、「大菅三世雜文」著、  
 [休(;)名]の字/通称/法号]字;承卿、通称;新太郎、法号;修文承卿
- D4519 **康宗**(やすむね・紀き、光宗男)?- ? 1191<sup>存</sup> 廷臣;六位/雅楽允/歌人:  
 1175大宰大貳重家歌合/権禰宜重保男女房歌合/91若宮歌合参加、千載集;2首417/1016、  
 [あか月の寝覚にすぐる時雨こそもらでも人の袖ぬらしけれ](千載;冬)
- D4520 **泰宗**(やすむね・宇都宮うつのみや/本姓;藤原、景綱男)?-1327 武将;常陸介・三河守、歌人、  
 勅撰15首;新後撰(336/432)玉(1937)続千(5首161/232以下)続後拾(2首)新千(4首)以下、  
 [霧深きみ山の郷さとの柴の戸にさせどもうすき夕陽影かな](新後撰集;秋336)、  
 [泰宗(;)名]の別号/法号]別名;盛宗、法号;蓮恵、貞宗・時綱・貞泰の父
- G4558 **康致**(やすむね・堀河ほりかわ/本姓;藤原、大納言鷲尾隆尹男)1679-1719<sup>41</sup> 堀河康能の養嗣子、  
 廷臣;中務大輔/従四上/歌人、康行(1707-1728)の父、  
 [康致(;)名]の別号]降世/康慶/康知
- F4569 **泰統**(やすむね・加藤かとう、泰恒やすつね2男)1689-1727<sup>39</sup> 伊予大洲の生/1715(正徳5)父没;大洲4代藩主、  
 従五下出羽守、歌人;武者小路実陰門、正室;中川久通女の厚岸院、泰温の父、  
 度重なる風水害・城下町火災で藩財政窮乏;税制改革・藩債発行・御用金供出なども効果無、  
 困難な中で没;長男泰温やすあつが継嗣、  
 [泰統(;)名]の通称/法号]幼名;巳之助、通称;左門/隼人/出羽守、法号;顕徳院  
 ※大洲藩歴代藩主  
 貞泰(初代)・泰興・泰恒・泰統むね・泰温あつ・泰衙みち・泰武・泰行・泰候とき・泰済・泰幹・泰祉・泰秋
- D4521 **安致**(やすむね・吉岡よしおか) ? - ? 江後期加賀金沢藩士:「神器涉筆」著、  
 [安致(;)名]の通称/号]通称;皆右衛門、号;西台
- F4571 **保村**(やすむら・狩野かのう、)1810-1866<sup>57</sup> 上総長柄郡の一松神社祠官、国学者;平田篤胤門、  
 [保村(;)名]の通称/号]通称;求馬/平学/伊豆守、号;松洞/一松舎/流泉堂賜溪  
 安村検校(やすむらげんぎょう) → 頼一(よりいち・安村やすむら、音曲家;筑紫琴) I 4 7 4 2  
 安村検校(やすむらげんぎょう) → 頼起(よりおき・安村やすむら、頼一男/箏曲家) I 4 7 4 6  
 陽春廬(やすむら) → 清矩(きよのり・小中村こなむら、国学者) H 1 6 5 1
- D4522 **保望**(やすむら・賀茂かも/岡本、保成男)1538-1630<sup>長寿93</sup> 神職;岡本家の祖、従四下/宮内少輔、  
 1583(天正11)「岡本保望記」、「賀茂社興立覚書」著、  
 [保望(;)名]の幼名]千夜丸
- D4523 **康保**(やすむら・松平まつだいら、幕臣前田清長6男)1782-1861<sup>80</sup> 幕臣/1794石見浜田藩主松平康定養子、  
 従五下修理亮/左京亮、1799(寛政11)病気のため隠退;剃髪、歌人・「松平康保詠草」著、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [立ち寄ればよそに知られぬ秋風の通ふも涼し衣手のもり](大江戸倭歌;夏640)、



[康保(；名)の幼名/号]幼名；熊吉、号；蘭齋

- D4524 **泰基**(やすもと・後藤ごとう/本姓；藤原、基頼男) ?-? 武家/五位/歌人；鎌倉後期歌壇出詠、  
勅撰2首；新後撰(1038)玉葉(1892)、  
[逢ふことをなほや頼まんかた糸のくる夜まれなる契なりとも](新後撰；恋1038)
- D4525 **安元**(やすもと・斎藤さいとう) ? - ? 武家；駿河今川家家臣、  
連歌；1509連歌催(；宗長張行「東路のつと」入)
- D4526 **安元**(やすもと・脇坂わきさか、中務少輔の脇坂甚内安治男) 1584-1653 山城の武将/豊臣秀吉の臣、  
1600(慶長5)従五下淡路守、関ヶ原の戦で父と共に東軍に寝返る/家康に謁す、  
1609父の転封に伴い伊予大洲に移住；1615襲封；大洲藩主/17信濃飯田藩主に転封；  
大阪陣に戦功、安信やすのぶの兄、儒；林羅山門/歌人；飛鳥井家に修学；「正木葛」に入集、  
寛永1624-44頃諸侯の連歌会の常連として活躍、蔵書家；没後竜野文庫(散佚)、  
1867「在昔抄」、「八雲藻」、「八雲愚藻」、「下館日記」著、養子；安政やすまさ(堀田正盛2男))  
[安元(；名)の幼名/別名/号]幼名；甚太郎、別名；亨、号；八雲軒(；室号)、  
法号；八雲院藤亨安元
- D4527 **安本**(やすもと・御粥おかゆ) 1794- 1862 尾張藩に出仕/和算家；菊間直之門/日下誠門、  
和田寧の円理豁術を修学、尾張の和算第一人者、1825「側円解義」著/40「算法浅問抄」編、  
1857「奉納箸隻先生算題九条」64「続神壁算法解義」、「隔斜懐円整数術」著/外編著多数、  
[安本(；名)の字/通称/号]字；君修、通称；猪之助/猪之介/甚八、号；箸隻ちよせき/太液、  
法号；曦山華翁居士、村瀬孝養の師
- D4528 **泰幹**(やすもと・加藤かとう、泰濟やすずみ男) 1813-53 伊予大洲藩主；1826襲封；遠江守/従五下、  
父の遺業「韓魏公伝録」を完成；「韓魏公集」刊行、詩文を嗜む；「簡齋詩集」「乙酉詩稿」著、  
「簡齋文集」「丙戌詩稿」「簡齋紀行」著、  
[泰幹(；名)の幼名/号]幼名；泰仁/作十郎、号；簡齋/岳竜、法号；濬良しゅんりょう院
- D4529 **保源**(やすもと・賀茂かも/幸徳井、保救やすひら2男) 1816-72 母；賀茂平成女/廷臣；陰陽家・暦学者、  
1825播磨守/陰陽権助/45正五下/52陰陽助/54暦博士/1869従b四上、「嘉永八年具注暦」著、  
保固(やすもと・松本) → 勝雄(かつお・古瀬、幕臣/狂歌) C 1 5 4 1  
保固(やすもと・根岸) → 凉宇(りょうう・根岸ねざし、商家/俳人) G 4 9 2 8  
安元(やすもと・多湖) → 貫斎(かんさい・多湖たこ、儒者) Q 1 5 6 3  
安本(やすもと・檜原) → 国徳(くにのり・檜原ならはら、藩士/歌人) E 1 7 3 9  
泰幹(やすもと・松居) → 安国(やすくに・松居/松井まつい/源、国学) E 4 5 8 5
- D4530 **泰盛**(やすもり・安達あだち、義景よしかげ3男) 1231-85 母；甲斐源氏伴野(小笠原)時長の娘、  
武将；鎌倉幕府執権北条時宗の外戚、弓馬の名手(吾妻鏡・徒然草185段)  
1247三浦氏と執権時頼の対立；宝治合戦に先鋒として参戦；時頼政権の重臣、  
1253(建長5)父没；秋田城介を継嗣；一番引付衆、56引付頭人/評定衆、  
異母妹(覚山尼/朝音院)を養女とし1261時宗(時頼男)に嫁がす；北条得宗家と関係強固、  
1264越訴頭人/68蒙古襲来に執権時宗を支持/74文永役；御恩奉行；将軍惟泰親王を護衛、  
高野山に帰依；高野板開版、「御将来録」著、  
1284(弘安7)時宗没；追隨し出家(号；覚真)、執権に時宗男の貞時(朝音院の子)、  
泰盛は時宗死後に幕政主導弘安徳政による幕政改革(弘安改革)；内管領平頼綱と対立；  
頼綱は泰盛男の宗景が将軍への野心ありと執権貞時に讒言；泰盛討伐の命；霜月騒動、  
1285(弘安8)の合戦で一族と共に滅ぼされる；平頼綱が幕府の実験を把握、  
兄弟；頼景・大室三郎・泰盛・時盛・重景・顕盛・長景・時景・公義・長井宗秀妻・宇都宮景綱妻・  
北条朝直妻・覚山尼(養女とす/朝音院；霜月騒動で一族滅亡後に安達家再興に尽力)、  
妻；北条重時女の藤岡、子供；宗景・盛宗・千代野、  
[泰盛(；名)の通称/法名]通称；城九郎/陸奥入道、法名；覚真
- E4565 **康盛**(やすもり・松平まつだいら、康親男) 1601-71 母；石川春重女、幕臣；幼時より徳川家康に近侍、  
大坂の陣に随従/1617三河碧海郡福釜の遺領を継嗣/御小姓組に列す、  
1640江戸城修築の勞で黄金を受/従五下/右京亮/讃岐守/筑後守、康俊の父、  
「寛永八年(1631)西丸御地鎮一件記録」著  
[康盛(；名)の通称/法号]通称；三郎次郎、法号；誠滅

- G4559 **保盛**(やすもり・本所ほんじよ、旧姓;木戸)1640-1721<sup>82</sup> 近江彦根藩老横地家家臣、国学者/歌人、  
歌:[彦根歌人伝・鶴]入、  
[保盛(;)名)の通称/号]通称;五平、号;岱山<sup>たいざん</sup>
- D4531 **泰護**(やすもり・山方<sup>やまがた</sup>、真崎広房5男)1662-1720<sup>59</sup> 羽後秋田藩士山方家の養子/番頭、  
幼君の師傅、1705寺社奉行兼大番頭/13秋田藩家老;秋田と江戸を往来、  
藩政に重用/江戸藩邸に病没、歌人、「秋田拾穂録」著、  
[泰護(;)名)の通称/法号]通称;造酒/民部/太郎左衛門、法号;海容院
- D4532 **鎮衛**(やすもり・根岸<sup>ねがし</sup>、安生定洪3男)1737-1815<sup>79</sup> 母;河野通達女、1754幕臣根岸衛規の養子、  
1754家督継嗣;幕臣;勘定役/従五位肥前守、1784佐渡奉行/87勘定奉行・98江戸町奉行、  
禄千石、1801「土井大炊頭外六名建議」、「耳囊」/1809「続耳囊」、「近世根岸談」著、  
[鎮衛(;)名)の通称/法号]通称;鍊蔵<sup>てづらう</sup>/九郎左衛門/藤原守信/藤原守臣、法号;善篤院
- D4533 **泰盛**(やすもり・豊島<sup>とよしま</sup>/本姓;平、号;竹堂、茂文男)1822-63<sup>42</sup> 有栖川宮家臣;父継嗣/1830正六下、  
勤王;諸国志士と交流/1858水戸藩密勅事件連座、有栖川宮熾仁親王攘夷策上表文起草;  
逮捕/1859赦免/1861従四上大宰少弐、戸田忠至・谷森善臣らと山陵修復に尽力、  
「諸陵補任」「諸陵寮補任」著
- G4550 **康守**(やすもり・深田<sup>ふかだ</sup>、号;耐堂、)1848-1914<sup>67</sup> 陸奥会津藩士/国学者、康算<sup>やすかず</sup>の父  
安守(やすもり・殿村) → 篠斎<sup>しょうさい</sup>(殿村/大神、商家/国学者/歌) J 2 2 0 4
- D4534 **康行**(やすゆき・藤原<sup>ふじわら</sup>、右衛門尉藤原頼貞男)?-? 鎌倉末期廷臣;六位?/  
歌;1384成立「新後拾遺集」入(;)1344)、  
[のがれいるかひやなからむ山郷も心にそむくうき世ならずは](新後拾;十六雑1344)
- D4535 **康之**(やすゆき・松井<sup>まつい</sup>/本姓;源、正之2男)1550-1612<sup>63</sup> 母;荒川澄宣女、武将;足利義昭に出仕、  
のち細川藤孝(幽斎)の家臣;信長の畿内平定・秀吉の小田原攻め/朝鮮出兵に出陣;軍功、  
関ヶ原戦で細川忠興下の東軍に属し豊後杵築城を守備、細川家筆頭家老;藩政に関与、  
豊前小倉に没、連歌;1571藤孝興行「大原野千句」参加/76「夢想百韻」参加、茶人;千利休門、  
[康之(;)名)の幼名/通称/法号]幼名;甚介、通称;胃介/新介、法号;春光院
- E4577 **安之**(やすゆき・早川<sup>はやかわ</sup>) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第十仏名発句入、  
[仏名やとのふ世界の南坊](生玉万句;仏名発句/万句は生玉社の南坊での催、  
仏名会;12月19日より3日間宮中や寺院で三千仏の仏名を修する/とのふ;唱える)
- D4536 **安之**(やすゆき・玉置<sup>たまおき</sup>) ? - ? 紀伊熊野本宮神職;御師/俳人;西鶴・のち遠舟門、  
1694(元禄7)「熊野からす」南水と共編
- H4507 **安之**(やすゆき・伊<sup>い</sup>?)、) ? - ? 江前期京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]哀傷2首入、  
[身まかりける人のわざつとめ侍る比時鳥のなくを、  
郭公なく音なそへそはかなさをしたふ袂の露もひなくに](麓の塵;哀傷557)  
[一年の内につま子三人うせたりけるに、  
思はずよなれにし床の形見ともみたりの数におくるべしとは](麓の塵;哀傷563)
- G4584 **泰之**(やすゆき・宮崎<sup>みやざき</sup>)、)1672-1712<sup>41</sup> 江前期;幕臣;大番、和学者、  
[泰之(;)名)の通称]清三郎/助作
- D4537 **保之**(やすゆき・奥村<sup>おくむら</sup>、通称;曾部右衛門)?-? 三河吉田藩士;1751-64頃藩主松平信礼の側用人、  
1752(宝暦2)「明律口伝」編/59「事語継志録」著
- F4543 **保行**(やすゆき・内池<sup>うちいけ</sup>、通称;八十郎、3代甚兵衛男)1743-59<sup>夭逝17歳</sup> 近江蒲生郡の商家の生、  
歌人/将来を嘱望されたが17歳にて夭逝
- D4538 **保敬**(やすゆき・賀茂<sup>かも</sup>/幸徳井、保篤<sup>やすあつ</sup>2男)1744-1819<sup>76</sup> 陰陽家・暦学者、賀茂保暲<sup>やすあきら</sup>の嗣、  
廷臣;1759陰陽助/99近江守/1814従三位、「明和六年(1769)御暦」、1811「客星出現勘申」著  
[保敬(;)名)の別号]初名;保延
- G4565 **安運**(やすゆき・松井<sup>まつい</sup>、通称;久五郎/号;可元)1752-1836<sup>85</sup> 筑前遠賀郡蛸住村の里正、和学者、  
隆暢<sup>たかのぶ</sup>・安雄の父
- D4539 **安之**(やすゆき・谷<sup>たに</sup>、麓谷<sup>ろくこく</sup>男)1770?-1814<sup>45?</sup> 江戸の書家;沢田東江門、「崑山片玉集」編、  
谷文晁の弟/文啓の兄、  
[安之(;)名)の字/通称/号]字;文行、通称;駒次郎、号;東隄<sup>とうてい</sup>/謙斎

☆蜂屋光世「大江戸倭歌集」入集の[文行]と同一?

[よどみなく月日流れて飛鳥川けふに暮れ行く老の白浪](大江戸倭歌;冬1366)

- G4543 **保行**(やすゆき・服部はつとり、)? - ? 文政1818-30頃伊勢鈴鹿の菓子商;深川屋経営、  
銘菓[関の戸]が東海道通行の大名間で評判;京の御室御所(仁和寺)御用達菓子司となる、  
1830(天保元)光格上皇より陸奥大掾むだじょうを賜る、歌人;加藤千蔭・賀茂季鷹門、  
[保行(;名)の通称/号]通称;吉右衛門/陸奥大掾、号;甘林軒/随阿
- D4540 **泰行**(やすゆき・倉橋くらはし/本姓;安倍、有儀男)1779-185880 母;愛宕通貫女、廷臣;1809従三位、  
1813刑部卿/1858正二位;没、陰陽道の家学を伝承/歌人;「倉橋二位泰行卿詠草」、泰聡の父
- D4541 **安之**(やすゆき・栗田くりた、通称;新蔵)?-? 江中期幕臣;幕府御天守番/和算家;山路主住門、  
関流和算を修学;主住四伝の1、「鉤股連円術」著、古川氏清(至誠賛化流の祖)の師
- D4542 **保之**(やすゆき・木間このま/きま、本姓;藤原or源)1789-185466 京の国学歌人;伴蒿蹊・本居宣長門、  
京御幸町に私塾を開、1808「歌学古今論」/32「豊秋津洲伝」「眞直号」「百人一首言靈抄」、  
1839「言靈舎広吟万玉集」、「万葉檜清蔭」「源氏物語綱要」「言靈舎活躰文集」外著多数、  
[保之(;名)の通称/号]通称;順次/順治、号;言靈舎/英舎、法号;神嘗保之言壺居士
- D4543 **保之**(やすゆき・森川もりかわ)? - ? 江後期京の絵師;読本挿画・合羽摺役者絵など、  
保一の師、1823「女訓三の道」25「絵本孝勇譚」28「大和物語」29「檀風物語」30「出雲物語」画、  
1831「永代節用無尽蔵」32「大日本年中行事大全」34「女風月往来」35「西海浪間月」画外多数、
- F4577 **安之**(やすゆき・川名かわな)1815- 189884 日向延岡藩士、国学者;小倉随時・佐藤直翁門、  
[安之(;名)の通称/号]通称;金蔵、号;梅屋/箭岳せんがく
- D4544 **安之**(やすゆき・柏かしわ) 1820 - 188061 常陸水戸の史家;水戸弘道館管庫、  
「文天間記」編、1856「常陸名勝図絵」著、  
[安之(;名)の通称/号]通称;左一兵衛、号;竹斎
- F4561 **靖之**(やすゆき・奥野おくの、弘光の長男)1828-9669 近江大津の円満院宮家士;近習/賄方、  
1870家督嗣、歌人;父門、父と共に[鳩のうみ]入、  
[靖之(;名)の通称]長太郎/斎宮
- E4588 **保之**(やすゆき・坪内つぼうち)? - ? 幕臣;1852(嘉永5)駿府城代/将軍側近;  
1858御側御用、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[降り積みしきのふの雪は消えなくに春来にけりとかすむ空かな](大江戸倭歌;17早春)、  
[保之(;名)の別名/通称]別名;栄吉/定保、通称;左京/伊豆守/安房守/河内守
- F4560 **安行**(やすゆき・奥野おくの、安興男)1833-8755 武蔵熊谷の鍛冶屋の生/国学・神道;堀秀成ひでなり門、  
下野宇都宮の神職/神祇省宣教使/日光東照宮祠官、  
[安行(;名)の別名/通称]別名;直道/安貫、通称;貢太郎
- G4533 **泰行**(やすゆき・中野なかの、)1833-191583 豊後杵築の若宮八幡神社祠官、  
国学・神道・歌;物集もずめ高世門、維新後;権大教正、「曾我兄弟」著、  
[泰行(;名)の通称/号]通称;源吾/河内正、号;正木園
- 安之(やすゆき・山崎) → 以仙(いせん・山崎やまさき/高滝、俳人) B 1 1 0 3  
安之(やすゆき・小宅) → 処斎(しよさい・小宅おやけ、藩士/儒者) M 2 2 3 3  
安之(やすゆき・常松) → 菊畦(きくけい・常松つねまつ、大庄屋/詩文) K 1 6 0 7  
保行(やすゆき・藤木) → 保行(やすつら・藤木、北面武士)  
保行(やすゆき・源) → 素寂(そじやく、和学者/「紫明抄」著/歌人) D 2 5 7 9  
保行(やすゆき・賀茂) → 保行(やすつら・賀茂/幸徳井、暦博士)  
保行(やすゆき・瀬見) → 為善(ためよし・瀬見せみ、国学者) X 2 6 7 4  
泰行(やすゆき・鹿山) → 野月(やげつ・鹿山、俳人) 4 5 5 5  
泰行(やすゆき・吉井) → 正周(まさかね・毛利もうり/吉井、藩士/華道) T 4 0 1 6  
泰之(恭之やすゆき・中島) → 竜橋(りゅうきょう・中島なかじま、藩士/儒者) D 4 9 3 6
- 4511 **安世**(やすよ・良岑/良峯よしみね、桓武天皇皇子)785-83046 母;飛鳥部奈止麿女の女孀百濟永継、  
冬嗣の同母弟/遍昭の父、少年時;狩・武術・伎芸を好む/[孝経]に触れ学問に開眼、  
漢詩文に長ず、802良峯を賜姓/809従五下;右近少将・雅楽頭兼任、811蔵人頭/816参議、  
819「日本後記」(;兄冬嗣らと編纂/没後840完成)、821従三位中納言/「内裏式」撰集参加、  
823正三位;右大将・春宮大夫兼任/827勅命で「経国集」編纂、828大納言/簿次正二位追贈、



詩; 凌雲集2篇/文華秀麗4篇/経国集7篇(賦1篇)入

安世の息子 → 遍昭(遍照へんじょう・良岑宗貞、歌人) 2705

- D4545 **安世**(やすよ・上田うた) ? - ? 江後期安藝広島藩士; 大江流小笠原系の兵学者、1818(文政元)「大江流兵書」
- G4599 **泰世**(やすよ・山本やまと/本姓; 橘、泰樹男) 1810-1863<sup>54</sup> 越後三島郡出雲崎の代々名主の家、祖父由之(良寛の弟)の時敗訴し家没落/父は井鼻村の里正、国学/歌人; 父・祖父門、能書家; 良寛の墓碑の揮毫者、妻; 山本蝶子、  
[泰世(;名)の通称]新左衛門
- G4501 **泰世**(やすよ・進藤しんどう) 1835- 1918<sup>84</sup> 伯耆倉吉の菓種商、国学・歌; 飯田年平・俊子門、国学・歌; 富永芳久(楯津じゅんしん)・本居豊穎とよかい門  
[泰世(;名)の別名/通称/号]別名; 為邦、通称; 孫右衛門/与八郎、号; 檀園
- 懐世(やすよ・藤原) → 懐世(かねよ・藤原、廷臣/歌人) D 1 5 1 6  
安世(やすよ・良村) → 良村安世(よしむらのやすよ、狂歌) H 4 7 6 4  
安世(やすよ・阿久津) → 政房(まさふさ・阿久津あくつ、藩士/詩人) H 4 0 1 3  
安世(やすよ・板倉) → 瑛溪(こうけい・板倉いたくら、儒者) E 1 9 9 7  
安よ(やすよ・下井) → 家壽(かぜ・下井しめい/城子、歌人) U 1 5 7 7  
保世(やすよ・松尾) → 雪庵(せつあん・松尾まつお、藩医/詩人) K 2 4 6 6
- D4546 **康能**(やすよし・藤原ふじわら、通称; 六条宰相、資能男)?-1295 鎌倉期廷臣; 1290(正応3)参議/従三位、1291正三位民部卿、東宮(伏見天皇)近侍、「弘安源氏論義」右方筆頭、歌; 勅撰2首; 続古今(1581)玉葉(2660)、  
[よそにゆく雲井の雁のなみださへ袖にしらるる秋の夕暮](続古今; 雑1581)
- D4547 **保能**(やすよし・星野ほしの/本姓; 藤原、忠能男)?-? 尾張の武家; 熱田大宮司の一族/五位三河守、刑部少輔/鎌倉幕府の推挙で昇殿; 廷臣、1338天竜寺臨幸勤仕、永能の父、歌人/勅撰5首; 続千載(1766/1912)続後拾遺(583)新千載(1720/2022)、  
[見るまに光もよそに成りにけり葛城山の有明の月](続千載; 雑1766)
- D4548 **泰義**(やすよし・姓不詳) ? - ? 連歌; 1588「了意千句」入(; 「山河追加」参加)
- D4549 **康善**(やすよし・立入たり、宗継男) 1567-1627<sup>61</sup> 戦国江前期廷臣; 禁裏御倉職/従五下、1584秀吉より山城岡崎の55石を安堵/1600河内守、「文案集」編、  
[康善(;名)の幼名/初名/法号]幼名; 与市郎、初名; 康継、法号; 雲岸康善居士
- D4550 **保可**(やすよし・岡本おかもと、幼名; 亀千代、保意男) 1625-83<sup>59</sup> 京の神職; 上賀茂神社禰宜/1675正禰宜、神主/社司の筆頭、「加茂別雷太神宮神事次第」著/「加茂社本縁秘録」(伝)
- G4511 **安義**(やすよし・関口せきぐち、守綱男) 1628-53<sup>31</sup> 近江彦根藩士、歌人; [彦根歌人伝・続寿]入、  
[安義(;名)の通称]甚之丞/源兵衛、関口安綱やすつな(1592-1647)の一族?
- F4582 **泰義**(やすよし・加藤かとう、泰興やすおき長男) 1629-68<sup>40</sup> 母; 岡部長盛女の吉、伊予大洲藩江戸藩邸の生、神道; 山崎敬義もりよし(闇斎)門、1652(承応元)2代藩主泰興嫡子として叙任; 従五下/美作守、妻; 太田資宗女の奈辺、泰觚・泰恒・泰孝・泰実・小出有敬・池田長久室の父、家督を継ぐことなく1668(寛文8)没; 2男泰恒が家督嗣、  
[泰義(;名)の通称/法号]通称; 亀之助/右馬助/美濃守/美作守、法号; 実相院
- D4551 **康兆**(やすよし・松平まつだいら/本姓; 源、水戸藩士松平康兼男) 1657-95<sup>39</sup> 母; 水戸藩主徳川頼房女、伯父の幕臣松平康俊の養子; 1682遺跡継嗣; 幕臣小普請/御書院番/1692小姓組組頭、「源斐民文稿」著、  
[康兆(;名)の通称/号]通称; 四郎三郎/三郎次郎、号; 斐民はいみん、法号; 定源
- E4580 **遂良**(やすよし・阿部あべ、井田治左衛門男) 1688-1767<sup>80</sup> 阿部重常の養嗣子、幕臣; 大番/1736(元文元)組頭、歌人; 中院家入門・のち烏丸家入門、1739芥川寸艸[飛鳥山十二景詩歌]入(; 豊島川帰帆としまがはのきはん)、  
[追ひ風に数そふを見る豊島川なみも静かにかゆる友舟](十二景歌/かゆる; 帰るの詠)  
[春風に匂ひぞあまる咲く花はまだき盛りの庭のこのもと](霞関; 春122/花漸盛)  
[遂良(;名)の初名/通称]初名; 重救、通称; 八郎五郎/三郎右衛門、法号; 日翁  
☆飛鳥山十二景 → 榴岡(りゅうこう・林はやし) D 4 9 7 8

- D4552 **康福**(やすよし・松平まつだいら、康豊の長男)1719-8971 石見浜田藩主;1736(18歳)遺領を継嗣、1759奏者番兼寺社奉行/62西丸老中/64本丸老中;下総古河・三河岡崎に転封、69浜田再封、従四下/周防守/侍従、1785(天明5)老中首座;88致仕、儒;徂徠学を修学、茶器・画に通ず、「茶器名鑑」「戸越日記」「竹のくれ竹」「松平康福侯たびのすさび」「論語復古撰」「禅箴」著、[康福(;名)の幼名/法号]幼名;弥三郎/団之助、法号;自通院
- F4517 **泰珠**(やすよし・大野おの、)1719- ? 江中期;出雲松江藩士;藩老、和学・歌;芝山持豊門/歌;小豆沢勝興門、[泰珠(;名)の通称/号]通称;舍人、号;是誰ぢい/釣月/観時庵
- D4553 **安美**(やすよし・松本まつもと、定好男)1722-6443 安藝広島堀川町陶器商/儒者;父門、家業と共に子弟教育、毛詩・韻律に通ず、「観潮楼集」著、広島藩儒香川南浜による小伝あり、[安美(;名)の字/通称/号]字;子純、通称;伊万里屋平蔵、号;観潮楼、
- D4554 **保義**(やすよし・桜井さくらい) ? - ? 江中期播磨姫路藩士、「於幾那草」著
- D4555 **泰好**(やすよし・宮田みやた) ? - ? 江中期下総相馬郡文間庄の蛟蛸神社祠官、幼時より諸国の神社巡拝の志を抱き陸奥より遠州までの記録を残す、1764「巡礼旧神祠記」、「武蔵国中延喜式内神社考」「陸奥国式社順拝記」著
- D4556 **保吉**(やすよし・万屋よろづ、通称;半兵衛)1760-84早世25 江中期江戸の俳人;白雄門、「保吉句集」龍耳編、「保吉句集」松宇編、白門八弟子の1
- E4584 **保好**(やすよし・近藤こんどう/本姓;藤原、秋野保章男)1720-9374 近藤威興の養嗣子/幕臣;西丸表御台所頭、のち小普請、孟卿たかあきらの父、歌人;冷泉家入門、石野広通「霞関集」入、1763磯野政武催[遊角管別荘記つのはずのべっそうにあそぶのき]参加18首入、[たぐへつる軒の松風そのままに音もかはらで時雨きにけり](霞関;冬560)[三十みそぢあまり昔の秋を思ひ出でて今も袂にひろふもみぢ葉](遊角管記)、[保好(;名)の別名/通称/号]初名;保由、通称;元次郎、剃髪号;芳山
- G4575 **泰温**(やすよし・松元まつもと、)1764-183370 薩摩鹿兒島の儒者;鹿兒島藩侍読、歌人、1832(天保3)造士館教授の松元仙蔵泰温は同一or息子?、1833(天保4)没、[泰温(;名)の通称/号]通称;九右衛門、号;愚園
- D4557 **安良**(やすよし・山口まぐち、四郎左衛門男)1782-186584 下野鹿沼の醤油醸造業/名主;父を継嗣、儒学;同郷の鈴木石橋・柿沼広運門/国学;湯沢眞竜の道別舎に修学、大田南畝と交流、歌/狂歌を嗜む、晩年は著述に専念、1842「雨夜滴」、「天保秘録」「旅寝の枕」「ふもとの塵」、「押原推移録」「葛の葉物語」「塩原出湯紀行」「浅桑園随筆」「天明太平記」「老人雑話」外著多、[安良(;名)の別名/通称/号]初名;兼永、通称;代助/大助/四郎左衛門、号;浅桑園/浅春庵/散木子/青大将長虫/紀安良/好山
- D4558 **安歎**(安喜/保喜やすよし・鷺見すみ、休明長男)1784-184764 因幡鳥取藩士/儒;家学を受け経史精通、国典;衣川長秋門、1799藩校尚徳館教授助/教授、1808家督継嗣;使番・勤役/江戸・京往復、国学・歌;本居大平門、加納諸平・伴信友と交流/武術・兵法にも長ず、藩内学芸振興に尽力、禄820石、病で一時致仕/再採用;用人・世子傳役/1843隠居、父の遺稿「鷺見翁家集」編纂、1826「旅の道ぐさ」、「糸巻太刀図」「軍配団扇」「宝劔伝」「那須与一宗高太刀之図」著、「東行日記」「玉の屋会始の歌」「語韻草稿」「杜鵑詠草」「かたこと歌」著、[安歎(;名)の通称] 勘解由、辰三郎の養父
- G4521 **保命**(やすよし・高橋たかはし、本姓;源)1792-187685 豊前上毛郡黒土村の里正、和学/歌、[保命(;名)の通称] 庄兵衛/庄治、庄蔵の父?
- G4503 **安誼**(やすよし・杉江すぎえ、通称;石膳)1804-6057 伊予大洲の歌人;近田八東門
- F4524 **保美**(やすよし・安斎あんざい、希言まれこと男)1808-6760 武蔵川越領93ヶ町村の代々頭取名主;継嗣、歌人;加藤千蔭門、江戸城大奥奉公の北野きく(のち安斎教子のりこ、歌人)と結婚、夫婦ともに号;木綿園ゆうぞの、尾高高雄・井上文雄と交流、[保美(;名)の通称/号]通称;富太郎/伊兵衛、号;木綿園/安斎楽
- F4513 **保腆**(やすよし・浅田あさだ)1817?-6650余歳 讃岐高松藩士;寺社奉行/考信閣(史書編纂所)出仕、歌人、[保腆(;名)の通称]平次/七右衛門
- D4559 **泰吉**(やすよし・朝比奈あさいな)1821-8464 常陸の神職;出羽三山神社宮司、

歌人/徳川斉昭に出仕;歌道を教授、1863「類題衣手集」編、「篠屋集」「諸集佳調鈔」著、  
[泰吉(;名)の通称/号]通称;豊日子、号;篠屋

安良(やすよし・深山) → 陸渾(りくこん・深山みやま、儒者/詩人) 4 9 7 2  
安敬(やすよし・前田) → 安敬(やすたか・前田まへだ/菅原、幕臣/歌) E 4 5 8 2  
安芳(やすよし・勝) → 海舟(かいしゅう・勝かつ、幕臣/海軍) I 1 5 7 1  
安休(やすよし・服部) → 安休(あんきゅう・服部はつとり、藩士/神道) G 1 0 0 2  
安懿(やすよし・三宅) → 瓶斎(へいさい・三宅みやけ、藩士/詩人) 2 7 3 4  
保良(やすよし) → 公遵法親王(こうじゆんほつしんのう、天台僧) J 1 9 6 7  
保慶(やすよし・仁科) → 保謙(やすかね・仁科にしな、庄屋/歌人) B 4 5 2 0

D4560 康頼(やすより・丹波たんば、姓;宿禰、大国男) 912-995<sup>84</sup> 平安期丹波天田郡の医者;丹波宿禰を賜姓、  
渡来人阿智王の後裔か、従五上、左兵衛医師/針博士/医博士を歴任、  
984(永観2)「医心方」、「医心方抄」「丹波康頼吉授」著、  
「康頼本草」「神道衆古秘法方録」著(偽撰か)

D4561 康頼(やすより・平たいら、中原頼季男) ?-? 1200存 平安末期廷臣/武将;1168左衛門尉、74検非違使、  
今様名手、後白河上皇の近臣/1177(安元3)鹿ヶ谷謀議に連座、俊寛らと鬼界ヶ島へ流罪、  
1178赦免帰京(;平家物語に逸話)、帰郷後「宝物集」執筆、平姓を名乗る由来は不明、  
1186頼朝から阿波麻殖保に領地授与、歌人;1191若宮社/95民部卿経房家歌合参加、  
1200石清水若宮社歌合参加、言葉集・月詣集入、  
勅撰6首;千載(4首541/542/1120/1252)玉葉(1140)新統古今(1168)、  
[木をきる時はしきりに斧をくたせ 家に帰らんには 疲れを忘れて歩め](宝物集)、  
[かくばかり憂き身のほども忘られてなほ恋しきは都なりけり](千載;羈旅541/望郷)、  
[康頼(;名)の法名] 性照/沙彌性照、

D4562 泰従(やすより・権太ごんた/本姓;藤原) ?-1861 幕臣;1831御小姓/58西丸徒頭、従五位、備中守、  
歌の研究、1846「武林秀調ぶりんしゅうちょう」撰、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[塵の世をよそにみなして澄む月をおのが心となすよしもがな]、  
(大江戸倭歌;秋903/月前言志)

D4563 野洲良(やすら・関岡せきおか/初姓;榛原/梅原/榎原) 1772-1832<sup>61</sup> 武蔵八王子の豪農榛原家の生、  
江戸富沢町能楽装束師の関岡家の養子;家業継嗣、国学・歌学;高井宣風門/考証に精通、  
地理学も修学、「万葉録」「千草の露」「関岡家集」「花月斎随筆」「仏足結縁記」「八書索引」、  
1825「回国雑記標註」27「仏足結縁集」、29「名所千草の露」「千草の露別記」脱稿後に火災、  
以後筆を絶つ、小山田与清ともきよと親交;「松屋筆記」に記事あり、  
[野洲良(;名)の別名/通称/号]別名;安良、通称;長右衛門、号;花月斎/関亭、  
法号;慶樹芳山居士

F4544 安良(やすら・梅谷うめたに、通称;伝之助) 1846-77<sup>32</sup> 豊前中津藩士、国学者;渡辺重石丸いかりまる門

F4508 燕子(やすらけいこ・小原おはら) 1815or16?-1881or82<sup>67歳</sup> 江戸の国学/歌;加藤千浪[1810-77]門、  
1879(明治12)「明治女用文」著(女子のための消息文の模範集)、歌集「葵の舎集」著、  
[燕子(;名)の号]葵の舎、小原えに女(大江戸倭歌集入集)と同一?

康朗(やすらう・林) → 峨山(がざん・林はやし、神職/案内記) L 1 5 7 3

H4506 安分(やすわき・岡坂おかさか、) ? - ? 江前期;武士/歌人、  
1688浅井忠能[難波捨草]入、

[故郷を思ひ侘びつつ草枕哀雨きく夜半ぞ淋しき](難波捨草;羈旅685/旅宿雨)

D4564 野井(やせい・浅見あさみ、音好おんこう/紙葉軒/泅水庵とうすいあん) 1814-76<sup>63</sup> 武州俳人;逸淵門、狂歌、  
1848「志当門依集」59「渭南集」編/60「山野集」編/61「あさひらき」「春まだき」編、「鳥鳴集」  
野跡(やせき;道風の筆跡) → 道風(とうふう/みちかぜ・小野、能筆) 3 1 2 0

D4565 夜雪(やせつ) ? - ? 江前期駿河府中雑俳点者、1725「万代の巖」編

夜雪庵(やせつあん) → 金羅(きんら・東とう/内田、俳人) J 1 6 4 0

夜雪庵(やせつあん) → 普成(ふせい・服部はつとり、商家/俳人) C 3 8 8 7

野泉(やせん・田中) → 酒人(さかんど・田中たなか、俳人) G 2 0 3 2

E4592 八十(やそ・一柳ひとつやなぎ、陽泉院、真田信弘女) ?-? 播磨小野藩主一柳末栄すえながの後室、  
歌人;1808真田幸弘賀集入



- 八十(やそ・片山) → 豊嶼(ほうしよ・片山かたやま、藩儒/詩人) B 3 9 6 7  
八十(やそ・座光寺) → ハナ(はな・座光寺ざこうじ、為明女/為磧妻/歌人) K 3 6 2 2  
八十(やそ・伊達) → 藤子(ふじこ・伊達だて、藩主女/歌人) I 3 8 4 2  
八十一翁(やそいちおう) → 章(あきら・市村いちむら、国学/歌人) H 1 0 0 0  
八十一峰道人(やそいちほうどうじん) → 峒陽(とうよう・千村/木曾、儒者/詩) H 3 1 8 7  
八十一郎(やそいちろう・野呂) → 深処(しんしよ・野呂のろ、藩儒) O 2 2 8 1  
八十一郎(やそいちろう・宇井) → 可道(よしみち・宇井うい、庄屋/歌/民俗学) L 4 7 7 0  
D4566 野巢(やそう・小林こばやし、玄々男)?-? 常陸水戸藩士/常陸太田に住/俳人:一具門、  
1832(天保3)父玄々(俳人)追善句集「朝顔集」編/1836「済急記聞」43「芭蕉翁略伝附録」編、  
[野巢(;号)の通称/別号]通称;次郎太郎、別号;旦暮庵/西巷  
D4567 野草(やそう・先得亭/野草坊)?-1853 讃岐引田の俳人:芹舎門、  
没号1857刊「玉藻日記」著  
野双(やそう・横井、也有的祖父) → 時英(ときひで・横井、藩士/俳人) J 3 1 8 8  
弥惣(やそう・大塚) → 巴扇堂(初世はせんだう、呉竹世暮気、狂歌) E 3 6 7 4  
弥惣(やそう・宇都宮) → 竜山(りゅうざん・宇都宮/原田、儒者/教育) E 4 9 2 3  
弥三(やそう・江村) → 老泉(ろうせん・江村えむら、藩士) 5 2 3 4  
弥三(やそう・宇多) → 重真(しげさね・宇多うだ、藩士、歌人) N 2 1 4 5  
弥蔵(やそう・樽屋) → 六馬(ろくば、商家/俳人) B 5 2 0 3  
弥蔵(やそう・大塚) → 磯名(いそな・大塚おつか/武田、国学・歌) K 1 1 0 5  
弥惣右衛門(やそうえもん・野田) → 酔翁(すいおう・野田のだ、幕臣/茶人) E 2 3 1 6  
弥惣右衛門(やそうえもん・小山) → 素朴(そぼく・小山こやま、詩人) K 2 5 4 0  
弥惣右衛門(やそうえもん・南条) → 宗経(むねつね・南条なんじょう、藩士/学頭) B 4 2 7 0  
弥惣右衛門(やそうえもん・柄井) → 川柳(2世せんりゅう、川柳点者) 2 4 4 0  
弥惣右衛門(やそうえもん・田所) → 顕周(あきかね・田所たどころ/海野、庄屋/歌) G 1 0 8 5  
弥惣右衛門(やそうえもん・成宮) → 弘平(ひろひら・成宮なるみや、里正/歌) K 3 7 5 1  
弥惣右衛門(やそうえもん・松原) → 弥左衛門(やざえもん・松原、藩士/歌) G 4 5 7 4  
弥三左衛門(やそうざえもん・鈴木) → 大舟(たいしゅう・鈴木、藩士/俳人) K 2 6 1 7  
弥三左衛門(やそうざえもん・柏屋/後藤) → 基邑(もとむら・後藤ごとう、郷土史家) E 4 4 4 1  
弥総左衛門(やそうざえもん・三木) → 半邨(はんそん・三木みき、儒者) I 3 6 3 6  
弥惣左衛門(やそうざえもん・野田) → 酔翁(すいおう・野田のだ、幕臣/茶人) E 2 3 1 6  
弥惣左衛門(弥三左衛門やそうざえもん・赤尾) → 秀澄(ひでずみ・秀實・赤尾あかお、漢学/詩) M 3 7 3 9  
八十氏(やそうじ) → 武士八十氏(ものゝふのやそうじ、狂歌)  
弥三治(やそうじ・石川) → 伯兔(はくと・石川いしかわ、俳人) D 3 6 6 3  
弥惣治(やそうじ・小山) → 春山(しゅんざん・小山おやま/塚田、漢学者) J 2 1 7 8  
弥惣治(やそうじ・渡辺) → 右範(有範ゆうはん・渡辺/各務、俳人) D 4 6 6 0  
弥惣治(やそうじ・新井) → 道英(みちひで・新井あらい、国学/歌人) L 4 1 1 1  
弥惣太(やそうた・齋藤) → 盛喜(もりよし・齋藤さいとう、湯屋/歌人) K 4 4 0 6  
弥惣大夫(やそうだいはつ・早川) → 信道(のぶみち・早川、和算家) D 3 5 4 2  
野草亭(やそうてい) → 舎人(とねり・正木まさき重駕、藩老/歌人) W 3 1 4 5  
野草坊(やそうぼう) → 野草(やそう・先得亭、俳人) D 4 5 6 7  
八十右衛門(やそえもん・石塚) → 竜麿(たつまる・石塚いしづか、国学/歌人) 2 6 3 8  
八十右衛門(やそえもん・有賀) → 豊秋(とよあき・有賀あきが/菅原、国学/歌/俳) U 3 1 0 2  
八十右衛門(やそえもん・大田垣) → 知足(ともたり・大田垣おたがき、歌人) U 3 1 5 5  
弥三右衛門(やそえもん・蔭山) → 可兮(かけい・蔭山かげやま、俳人) K 1 5 7 0  
弥三右衛門(やそえもん・橋本) → 皐鶴(こうかく・橋本、製墨業/歌人) H 1 9 9 6  
弥三右衛門(やそえもん・横井) → 時成(ときなり・横井よこい、藩士/俳人) J 3 1 6 5  
弥三右衛門(やそえもん・高野瀬) → 道甘(道鑑どうかん・高瀬、俳人) C 3 1 3 6  
弥三右衛門(八十右衛門やそえもん・横町屋) → 徳風(とくふう・富田/陸、商家/儒/国学) L 3 1 3 3  
八十翁(やそおう) → 一楽(いちらく・浪速散人、浄瑠璃研究)  
八十翁(やそおう) → 有隣(うりん・大島おおしま、心学者) D 1 2 5 0

- 八十翁(やそおう・近松) → 七五三助(4世しめすけ・奈河、歌舞伎作者) F 2 1 9 0  
八十喜(やそき・太田) → 保興(やすおき・太田おた/源、教育/歌人) F 4 5 5 4  
八十吉(やそきち・中村/清水) → 光房(みつふさ・清水/藤原/中村、国学者・歌) E 4 1 7 8  
八十吉(やそきち・栗田) → 寛(ひろし・栗田、国学者) F 3 7 9 5  
八十吉(やそきち・福地) → 源一郎(げんいちろう・福地/名村、蘭学/幕臣) H 1 8 6 6  
八十吉(やそきち・上田) → 石斎(せきさい・上田うえだ、篆刻家) K 2 4 0 5  
八十吉(やそきち・奥村) → 道賢(みちまさ・奥村おくむら/桜井、陪臣/歌) I 4 1 6 1  
八十吉(やそきち・中柳) → 重方(しげかた・中柳なかやぎ、陪臣/歌人) Z 2 1 5 8  
八十吉(やそきち・川上) → 広樹(ひろき・川上かわかみ/中村、家老/儒/国学/歌) J 3 7 1 3  
也足(やそく;号) → 宗源(しゅうげん;法諱・徹宗;字、臨濟僧) X 2 1 1 2  
也足(やそく・星野) → 六石(りっこく・星野ほしの/土岐、藩医) B 4 9 7 9  
也足軒(やそくけん) → 通勝(みちかつ・中院、歌人/源氏研究) 4 1 0 4  
也足斎(やそくさい) → 岸芷(がし・高木、俳人) G 1 5 3 6  
也足子(やそくし) → 一麟(いちりん;法諱・天祥、臨濟僧) B 1 1 3 0
- D4568 **八十子**(やそこ・原はら、高田法寛女) 1805-65 61 父法寛は信濃松代藩士、松代藩士原昌胤の妻、書・歌;父門/木島菅麿門、琴/茶/武芸にも通ず:[今清少納言]と称される、高田法古のりひさ(1811-66/藩士/国学・歌人)の姉、「ことなし草」著
- G4538 **八十子**(やそこ・野田のだ、旧姓;水沼) 1810-65 56 伊予宇和郡の歌人
- D4569 **八十子**(やそこ・間宮まみや、初名;みを子、久米くめ博高女) 1823-91 69 江戸小石川の水戸藩邸に生、1839(17歳)水戸藩主徳川斉昭に出仕/歌人/文筆、1852間宮永好(国学者)と結婚、諸侯子女に国学や歌を講義、家集「松のしづえ」、「和歌玉石集」「古ろもて日記」著、久米幹文の姉、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(夫と共に入集)、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[あかざりし桜がさねの唐衣けさ卯の花にかへてけるかな](大江戸倭歌;夏387衣更)、  
[衣うつ音ぞ流るるこはた川こは誰が夢をおどろかすらむ](現存百人一首;20)  
[八十子(;名)の通称/法号]通称;久米野、法号;永楽院久、米幹文の義姉  
夫 → 永好(ながよし・間宮まみや、1805-72/国学者) G 3 2 4 7
- 八十五郎(やそごろう・久貝) → 正郷(まささと・久貝くがい/藤原、幕臣/文筆) C 4 0 5 8  
八十五郎(やそごろう・野村) → 匡解(まさとき・野村のむら、藩士/歌人) R 4 0 5 2  
八十左衛門(やそざえもん・田所) → 八悟(はちご・田所たどころ/田、俳人) E 3 6 8 4  
八十左衛門(やそざえもん・石尾) → 洋方(ひろかた・石尾いしお/荒木、藩士/歌) L 3 7 1 8  
弥三左衛門(やそざえもん・鈴木) → 大舟(たいしゅう・鈴木、藩士/俳人) K 2 6 1 7  
弥三左衛門(やそざえもん・志賀) → 綏(やすし・志賀しが、藩士/国学者) B 4 5 6 2  
八十治(やそじ・岡田) → 正期(まさとき・岡田おかだ/大橋、商家/歌) O 4 0 5 6  
八十七翁(やそしちおう) → 丈阿(じょうあ・観水堂、草双紙作者) Q 2 2 7 6  
八十島坊(やそしまぼう・児玉) → 益道(ますみち・児玉こだま、藩士/国学) P 4 0 6 8  
八十女(やそじよ・間宮) → 八十子(やそこ・間宮まみや、文筆/歌人) D 4 5 6 9  
八十二郎(やそじろう・西川) → 吉武(よしたけ・西川にしかわ/平、商家/国学) O 4 7 3 4  
八十次郎(やそじろう・大津) → 清浦(きよら・大津おつ、国学者) T 1 6 7 6  
八十助(やそすけ・嶺琴) → 七五三助(4世しめすけ・奈河、歌舞伎作者) F 2 1 9 0  
八十綱(やそつな・安達) → 舒長(のぶなが・安達あだち、儒/詩歌) C 3 5 5 5  
八十二翁(やそにおう) → 丈阿(じょうあ・観水堂、草双紙作者) Q 2 2 7 6  
八十二翁(やそにおう) → 京山(きょうざん・山東さんとう、戯作者) 1 6 3 3
- E4543 **八十氏人**(やそこのうじひと) ? - ? 狂歌;1785「後万載集」1首入、  
[夜の殿との嫁御はいつかこんこんと待てば甘露のひでり雨哉](後万載;720/狐嫁入)
- 八十之丞(やそのじょう・野村/三河口) → 輝昌(てるまさ・三河口、幕臣/代官/日記) C 3 0 9 3  
八十之介(やそのすけ・小西) → 澹斎(たんさい・小西、藩士/儒者/地誌) I 2 6 1 8  
八十八(やそはち・竹下/榎本) → 其角(きかく・榎本/宝井、俳人) 1 6 0 5  
八十八(やそはち・荒川) → 国周(くにちか・豊原、荒川/大島、絵師) B 1 7 5 5  
八十八(弥三八やそはち・安並) → 雅景(まさかげ・安並やすなみ、国学/歌) B 4 0 7 2

八十八(やそはち・熊谷) → 直好(なおよし・熊谷くまがい、歌人) 3 2 0 4  
 八十八(やそはち・梶山) → 主水(もんど・梶山かじやま、藩家老/和算) I 4 4 3 5  
 八十八(やそはち・石原) → 是山(ぜざん・石原いしはら、造酒業/棋士) K 2 4 5 8  
 八十八(やそはち・森) → 序道頼(ついでのみちより、狂歌作者) 2 9 0 0  
 八十八(やそはち・岡本) → 豊嗣(とよつぐ・岡本わかもと、商家/歌人) U 3 1 6 0  
 八十八(やそはち・藤田) → 秀緒(ひでお・藤田ふじた、藩士/国学) K 3 7 8 5  
 八十八郎(やそはちろう・宇井) → 可道(よしみち・宇井うい、庄屋/歌/民俗学) L 4 7 7 0  
 八十尋(やそひろ・大友) → 親久(ちかひさ・大友おとも/藤原、神職・国学) L 2 8 3 5  
 八十平(やそへい・大田垣) → 知足(とまたり・大田垣おたがき、歌人) U 3 1 5 5  
 八十平(やそへい・谷田) → 貞風(さだかぜ・谷田たにだ、藩士/国学/歌) Q 2 0 9 3  
 八十兵衛(やそべえ・桜井) → 要親(としちか・桜井さくらい、代官/歌人) T 3 1 3 6  
 弥三兵衛(やそべえ・古金屋) → 習軒(しゅうけん・入り、儒者) X 2 1 1 1  
 弥三兵衛(やそべえ・尾崎) → 宍夫(しお・尾崎おさき、国学者/歌人) N 2 1 7 2  
 八十丸(やそまる・香阪/酒井) → 鶯蒲(おうほ・ほう・酒井さかい/香阪、僧/絵師) B 1 4 3 6  
 八十丸(やそまる・津守) → 国福(くによし・津守つり、神職/歌人) D 1 7 3 5  
 八十麻呂(やそまる・宮下) → 正宜(まさよし・宮下みやした、国学者/歌) T 4 0 0 1

F4577 **八十村**(やそむら・蒲がま、正茂まさもち長男) 1812-66 55 飛騨吉城郡の商家小島屋/蒲家6代嗣、  
 1840酒造業再興、国学;田中大秀・本居内遠門、大秀門人四天王の1、  
 大秀が計画し中断の姉小路基綱・濟継の碑建設を八十村が中心になり1887完成、  
 1859八十村中心の大秀門人の高山歌人と古川歌人が山崎弘泰主宰で歌合を開催、  
 河合清魚きよなの師、幸言ゆきのぶ・清民きよたみの父、

[八十村(;名)の通称/号]通称;与三兵衛(父の称)/四兵衛/長右衛門(父の称)、  
 号;三冬磨/清海/田面舎/巨木蔭(父の称)/樅蔭/胡蝶亭、屋号;小島屋

E4595 **八十郎**(やそろう・松平まつだいら/本姓;源、名;勘美[すけよし?]) ?-? 江後期旗本/幕臣、歌人、  
 妻;播磨山崎藩主本多忠敬(1793-1850)女、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [末遠き里の一むら色濃きはみどりに霞む青柳の糸](大江戸倭歌;春158/遠村柳)

八十郎(やそろう・吉田) → 軌中(のりなか・吉田、藩士/文筆) F 3 5 3 1  
 八十郎(やそろう・野村) → 秋足(あきたり・野村のむら、藩士/国学) D 1 0 5 0  
 八十郎(やそろう・沢) → 正博(まさひろ:名・沢さわ、兵法家) G 4 0 9 8  
 八十郎(やそろう・土方) → 勝敬(かつよし・土方ひじかた/源、幕臣/奉行) S 1 5 8 3  
 八十郎(やそろう・大井) → 満郷(みつさと・大井おおい、幕臣/国学) I 4 1 3 2  
 八十郎(やそろう・伊東) → 祐春(すけはる・伊東いとう、藩士/歌人) L 2 3 3 0  
 八十郎(やそろう・勝野) → 正明(まさあき・勝野かつの/平、藩士/国学/歌) O 4 0 8 8  
 八十郎(やそろう・鈴木) → 重野(しげの・鈴木すずき/穂積、神職/国学) Z 2 1 1 5  
 八十郎(やそろう・内池) → 保行(やすゆき・内池うちいけ、商家/歌) F 4 5 4 3  
 八十郎(やそろう・小埜) → 重一(しげかず・小埜おはなわ、藩士/歌人) N 2 1 6 6  
 野禊子(やたいし;号) → 紹滴(しょうてき;法諱・一凍;道号、臨濟僧) L 2 2 0 3  
 野大弍(やだいに) → 好古(こうこ・小野、大弍/歌人) 1 9 0 9  
 野大夫(やだいふ) → 貞樹(さだき・小野、廷臣/歌人) B 2 0 8 0  
 弥太右衛門(やたえもん・新納) → 忠増(ただます・新納にいり、武将/日記) Q 2 6 8 6  
 弥太右衛門(矢田右衛門やたえもん・新納) → 時升(ときます・新納、藩士/儒者) K 3 1 0 6  
 弥太右衛門(やたえもん・吉田) → 臥龍(がりょう・吉田よしだ、藩士/漢学者) P 1 5 7 5  
 弥太吉(やたきち・佐久間) → 長敬(おさひろ・佐久間さくま、幕臣/与力) D 1 4 0 6

E4544 **屋立綿純**(矢立綿純やたてのわたづみ) ?-? 狂歌;1785「後万載集」/87「才蔵集」入;  
 [うら若き中にまじりて踊る身は年をふる手のゑいやっとせい]  
 (才蔵集/やっとせいは盆踊の囃言葉)

D4570 **八田若郎女**(やたのわかいらつめ、応神天皇の皇女) ?-? 異母兄仁徳天皇の妃、  
 石之日売皇后の激しい嫉妬を受ける、石之日売没後に皇后、記紀歌謡詠者

D4571 **弥太夫**(5世やだゆう・竹本たけもと) 1837-1906 70 大坂堀江の浄瑠璃太夫;3世竹本長門太夫門、  
 1850(14歳)小熊太夫を名乗る;子供浄瑠璃の座頭、1850-1901「弥太夫日記」著、



1871-86文楽座/93彦六座櫓下/稲荷座紋下、堀江の大師匠と称される、挿画も得意、  
[5世竹本弥太夫(；号)の別号]別号；小熊太夫/長子太夫、法号；瑠璃院

弥大夫(やだゆう・水野) → 清雄(きよお・水野みずの、国学者) O 1 6 6 2  
弥太夫(やだゆう・若山) → 勝重(かつしげ・若山わかやま、藩士/兵学者) N 1 5 4 2  
弥太夫(やだゆう・岡島) → 冠山(かんざん・岡島おかじま、唐話唐音学) 1 5 5 1  
弥太夫(やだゆう・中村) → 仏庵(ぶつあん・中村、書家) D 3 8 2 4  
弥太夫(やだゆう・内藤) → 碧海(へきかい・内藤ないとう、漢学者/史学) 2 7 8 8  
矢太夫(弥太由やだゆう・白井) → 重行(しげゆき・白井しらい、藩士/儒者) T 2 1 0 3

E4550 矢田良綾丸(やたらあやまる) ? - ? 狂歌；1787「狂歌才蔵集」入；1首、  
[幾度いくたびかかきくどいても薄墨のにじむ返事のうき思ひかな](才蔵：459/寄墨恋)

弥太郎(やたらう・紀) → 行頼(ゆきより・紀き、廷臣/歌人) G 4 6 0 1  
弥太郎(やたらう・大蔵) → 虎清(とらきよ・大蔵おくら、狂言方宗家) R 3 1 7 3  
弥太郎(やたらう・大蔵) → 虎明(とらあきら・大蔵、虎清男、狂言宗家) R 3 1 7 1  
弥太郎(やたらう・平沢) → 了伴(りょうばん・古筆こひつ9世/平沢、鑑定家) J 4 9 3 0  
弥太郎(やたらう・柳沢) → 吉保(よしやす・柳沢/源/松平、藩主/歌) H 4 7 7 5  
弥太郎(やたらう・小林) → 一茶(いっさ・小林、俳人) 1 1 2 1  
弥太郎(やたらう・吉田) → 国甫(こくほ・吉田、俳人) M 1 9 2 1  
弥太郎(やたらう・堺屋) → 芙蓉(ふじやく・永田/太田、俳人) C 3 8 6 8  
弥太郎(やたらう・善波) → 明致(あきむね・善波よしなみ、藩士/歌人) E 1 0 0 0  
弥太郎(やたらう・正村/吉田) → 正直(まさなお・吉田/正村、神道家) F 4 0 0 2  
弥太郎(やたらう・多田) → 海庵(かいあん・多田ただ、儒者/砲術) I 1 5 3 5  
弥太郎(やたらう・後藤) → 黙斎(もくさい・後藤ごとう、藩儒) 4 4 8 3  
弥太郎(やたらう・頼) → 春水(しゅんすい・頼らい、儒者/藩儒/詩人) 2 1 6 0  
弥太郎(やたらう・恵川) → 景之(かげゆき・恵川えがわ、藩士/和算) L 1 5 4 4  
弥太郎(やたらう・恵川) → 景雄(かげお・恵川えがわ、景之男/和算) K 1 5 8 1  
弥太郎(やたらう・宮寺) → 一貞(かずさだ・宮寺みやでら、幕臣/和算家) M 1 5 2 2  
弥太郎(やたらう・幡野) → 忠孚(ただね・幡野はたの、藩士/国学者) P 2 6 5 2  
弥太郎(やたらう・内田) → 五観(ごかん・いつみ・内田うちだ、和算/天文) F 1 9 5 2  
弥太郎(やたらう・熊沢) → 惟興(これおき・熊沢くまざわ、儒者/国学) O 1 9 1 5  
弥太郎(やたらう・羽太) → 政養(まさやす・羽太はぶと、幕臣/箱館奉行) I 4 0 0 6  
弥太郎(やたらう・長谷川) → 安辰(やすとき・長谷川/藤原、幕臣) C 4 5 2 1  
弥太郎(やたらう・橋村) → 正令(まさのり・橋村/度会、神職/和漢学/書) R 4 0 7 2  
弥太郎(やたらう・鈴木) → 牧之(ぼくし・鈴木すずき、商家/随筆作者) D 3 9 3 5  
弥太郎(やたらう・奥野) → 小山(しょうざん・奥野おくの、藩士/儒者) S 2 2 5 5  
弥太郎(やたらう・家長) → 韜庵(とうあん・家長いえなが、儒者/詩文) 3 1 8 5  
弥太郎(やたらう・井上/南宮) → 大湫(たいしゅう・南宮なんぐう/井上、儒者) B 2 6 5 3  
弥太郎(やたらう・橘屋) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4  
弥太郎(やたらう・川北) → 朝鄰(ちようりん・川北かわきた、数学者) K 2 8 1 3  
弥太郎(やたらう・田宮) → 如雲(じょうん・田宮/大塚、藩士/藩政改革) M 2 2 1 5  
弥太郎(やたらう・菊池) → 蔭亭(いんてい・菊池/菊地、藩士/医/貿易) C 5 2 1 9  
弥太郎(やたらう・内藤/川路) → 聖謨(としあきら・川路、幕臣/詩歌) M 3 1 0 2  
弥太郎(やたらう・田中) → 壽豊(ひさとよ・田中、商家/歌人) L 3 7 8 0  
弥太郎(やたらう・武) → 宜長(よしなが・武たけ、商家/歌人) N 4 7 8 1  
弥太郎(やたらう・赤坐) → 正直(まさなお・赤坐あかさ、藩士) N 4 0 0 4  
弥太郎(やたらう・後閑) → 義行(よしゆき・後閑ごかん/源、藩士/歌人) M 4 7 8 7  
弥太郎(やたらう・佐々木) → 高行(たかゆき・佐々木ささき、藩士/国学) X 2 6 1 7  
弥太郎(やたらう・大石) → 円(まどか・大石おおいし、国学/勤王) O 4 0 2 5

D4572 也竹(やちく) ? - ? 俳人；1693酒堂「俳諧深川」8吟歌仙：4句入(芭蕉らと)、  
[あらたに橋を踏みそむる也](深川；八吟歌仙8句目/三代揃って渡り初め)、  
(前句；桐奚/鶏のたま子の数を産みそろへ)

- D4573 **野竹**(やちく・萩野はぎの) ? - 1845 筑前博多の俳人、鳳尾・尾跡の父、  
宇逸・石岱と共に太宰府天満宮境内に芭蕉追慕の夢塚を建立:1843記念集「夢塚集」編、  
3回忌追善集「紙美巢集」  
野竹(やちく・葛飾) → 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師) B 2 6 9 1  
八千種園主人(やちぐさえんしゅじん) → 行道(ゆきみち・速水はやみ、藩士/国学) F 4 6 7 1  
八千種屋(やちぐさや) → 有年(ありとし・花野井はなひ、医/国学/歌) F 1 0 5 0
- D4574 **八千島**(やちしま・秦忌寸はたのいみき) ?-? 奈良期廷臣;746越中大目;大伴家持配下、  
万葉四期歌人、卷十七3951(越中守の館の宴)/3956:大目だいさかん館の宴;室から傍観、  
[奈呉などの海人あまの釣する舟は今こそば舟棚ふなだな打ちてあへて漕ぎ出め](万葉;3956)  
八千穂(やちしほ・本居) → 豊穎(とよかひ・本居、藩士/国学者) R 3 1 0 8  
八千矛神(やちしほのかみ) → 大国主神(おおくにぬしのかみ・大穴牟遲神) 1 4 5 4  
八房(やちぶさ) → 秋鯉(しゅうり・蜂房ほうぼう、絵師/狂歌) I 2 1 3 9  
八千兵衛(やちべえ・木曾) → 義頭(よしあき・木曾きそ/入江、藩士/国学) M 4 7 3 7  
八衢(やちまた・橘、狂歌) → 千蔭(ちかげ・加藤、国学・歌) 2 8 0 3  
八千丸(やちまる・津守) → 国美(くによし・津守つもり、神職/歌学) D 1 7 3 6  
弥仲(やちゅう・後藤) → 東庵(とうあん・後藤ごとう、漢学/教育者) I 3 1 9 5
- D4575 **八千代**(やちよ・村上むらかみ、忠順ただまさ女) 1841-62早世<sup>22</sup> 母;三千代、三河碧海郡堤村の歌人、  
「八千代女詠草」著、  
深見登之野としの(歌人)・鈴木小鈴の妹/忠明(勤王/歌人)・忠浄(ただきよ;医者)の姉  
弥千代(やちよ・松平) → 千代子(ちよこ・松平まつだいら/井伊、藩主室) N 2 8 5 5  
八峰(やつお・山崎) → 久陰(ひさかげ・山崎やまさき/弓削、神職) M 3 7 1 6
- D4576 **八束**(やつか・近田ちかだ、名;永類、永潔男) 1785-1863<sup>79</sup> 伊予宇和郡平野村野田の庄屋の生、  
国学・歌:常磐井守貫門/1806本居大平門、1814(文化11)庄屋を継嗣、  
1816(文化13)師大平と会見;花の宴を催(紀行文「まだ見ぬ花」入)、  
宇和島・大洲地域の歌の指導的存在、1846藩主視察時に本陣役、謡曲を嗜む、冬載ふゆとしの父、  
1816「まだ見ぬ花」著、随筆集「浅沢水」、「四季草花の山ふみ」著、  
「大洲歌あわせ」「四拾伴歌合」判、「藤蔭集」(門人高月政徳編)・「藤の花ふさ」(門人編)、  
歌;村上忠順「河藻集」/本居大平「八十浦の玉」下巻;等に入集、  
[吹きあれし夜半の野分の風の音もうちしめり行く今朝の村雨](;野分)、  
[梅は散り桜はいまだ咲かなくてに匂ひそめたる桃の花あはれ](八十浦;717桃)、  
[八束(;通称)の別通称/号]別通称;隼太/安右衛門、号;藤陰、法号;大竜院
- G4505 **八束**(やつか・鈴木すずき、) 1838- 1920<sup>83</sup> 伊豆田方郡の国学者/歌人、回文を能くす、  
伊豆国学;1859(安政6)竹村茂枝げえ門、歌;中村良顕よしあき門、歌;[大八洲歌集]入、  
[八束(;名)の別名/通称/号]初名;祇宣、通称;健次郎、号;梅廼本/京華亭/皇風/歌風
- G4547 **八束**(やつか・平尾ひろお、) ? - 1905 遠江の国学者・歌;石川依平・本居豊穎とよかい門、東京住  
八束(やつか・藤原) → 真楯(またて・藤原、廷臣/万葉4期) 4 0 2 9  
八束庵(やつかあん) → 荷了(かりよう・中島なかしま、俳人) P 1 5 7 4  
八束園(やつかえん) → 鞆臣(ゆきおみ・山田やまだ、国学者) H 4 6 4 3  
八束軒(やつかけん) → 垂穂(たりほ・石井、藩士/儒/俳諧) N 2 6 5 0  
八束穂(やつかほ) → 稲雄(いなお・北原きたはら、国学者) I 1 1 0 4
- D4577 **やつがれ**(・忍岡しのぶがおか) ?- ? 江戸忍岡の浮世草子作者、1708刊「関東名残の袂」  
飯山錦裳(「風流呉竹男」作)と同一か? → 錦裳(きんしょう・飯山) E 1 6 1 5  
八木(やつぎ) → 八木(はちぼく、江前期俳人) I 3 6 9 4  
八玉彦(やつたまひこ・小町谷) → 常宣(つねよし・小町谷こまちや、神職/国学) F 2 9 6 8
- E4576 **八橋組**(やつはしぐみ;組連、八はし) ?-? 江戸神田三河町の雑俳の組連、  
取次;1739・57「収月評万句合」入、  
のち764「川柳評万句合」64・66「露玉評万句合」66「錦桂評万句合」入、  
取次例;[土産でもその月からは数に入る](1739収月評万句合)、  
(前句;しゅびのよい事々/十月以内に納まる)

取次例;[また的に扇をしるとみことのり](1764露玉評万句合)、  
(前句;迷惑な事々々)、

(1185. 2. 18与一扇の的;同3. 24壇/浦入水/その間にも幼帝が駄々こねたとの穿ち)

D4578 **八橋檢校**(やっはしげんぎょう、名;城秀) 1614-8572 磐城平(or豊前小倉)生、寛永1624-44頃江戸に出、  
箏曲を修学;筑紫箏つくじとの善導寺僧の法水門、1636京で勾当となる;山住勾当を名乗る、  
1639再上洛し檢校;上永檢校城談の名/京に俗箏の流派八橋流創始、三味線・胡弓の名手、  
近世箏曲の祖;のちに生田・山田などの諸流に分れる、  
作曲;組物[八橋十三組];「梅がえ」「菜菔ふき」「心尽」「雲井の曲き」など、  
段物;「六段の調」「八段の調」「乱みだれ」など

[八橋檢校の別号] 山住勾当やまぢみこうとう/上永檢校うえながけんぎょう城談

E4551 **八橋脚手**(やっはしのくもて) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入:473

[そろばんのたまにあふ夜のわりなきを憎し三三がくだかけの声](才蔵;473/寄算盤恋)

八ツ花(やっはな・中里) → 千族(ちえだ・中里なかざと、神職/歌人) N 2 8 1 5

八尋(やっひろ・稲永) → 秋麿(あきまる・稲永いねなが、医者/国学) H 1 0 0 4

D4579 **八穂**(やっほ/やっぼ・高井たかい/常磐井ときわい、高井宣風のりかぜ男)?-? 江後期;化政1804-37頃江戸国学者、  
本居宣長門、歌人、加藤千蔭・村田春海と交流、1817「古詞類題和歌集」18「今古仮字遣」著、  
1837父の家集「春雨集」編、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[染めあへぬ色とみしまに秋暮れてははそ乱るる佐保の山風]、  
(大江戸倭歌;冬1106/山落葉)

[八穂(;名)の通称] 弥十郎/伊十郎

八穂主(やっほぬし・紀) → 尚長(ひさなが・紀きの、神職/国学) J 3 7 2 0

野亭(やてい) → 意斎(いさい、山田案山子、狂歌/浄作/読本) 1 1 8 3

夜庭(やてい・高) → 太初(たいしょ・高こう、俳人) K 2 6 3 2

D4580 **野笛**(やてき) ? - ? 播磨姫路の俳人;1692才麿「椎の葉」入

[鳴くかたに茨を分けん郭公](椎の葉;114)

D4581 **野萩**(やてき) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」5句入、

[里々の姿かはりぬ夏木立](続猿蓑;下夏/繁茂する木立に里も一変)

D4582 **冶天**(やてん・森野もりの、名;富秋) 1691-174757 近江彦根藩士/のち医者/俳人:許六門、  
1615師許六より秘書を相伝、道統を継承;蕉門3世を称す/道統は祇川が継嗣、  
1716許六追善「両部餅祭」編、1717「横平楽」編、「五老井懐旧百韻」著、  
「師弟録」著(;陶巨「昼寝随筆」所収)、

[冶天(;号)の字/通称/別号]字;蚕子さんし、通称;宗兵衛、別号;雲茶店/周拙、法号;森庵道高

D4583 **野兎**(やと・三谷みたに) ? - ? 江中期俳人:完来門、

1775「秋山家あきやまが」76「住吉千句」編、

[野兎(;号)の別号] 朶花房/雪蓑人/朶花房

D4584 **野渡**(やと・野村のむら、名;道喬みちたか?) 1736-181277 伊勢小川の俳人:夜雨亭二曲門、

丘高・椿堂と交流、「瀑禅定」編/1825(文政8)「青蘆庵集」「書拔帖」著、

[野渡(;号)の通称/別号]通称;金太夫/金右衛門、別号;青蘆庵

D4585 **野冬**(やとう) ? - ? 加賀小松の俳人;闌更門、一斧・樗良と交友

D4586 **野童**(やどう、姓名不詳) ? - 1701. 6. 20雷死 京の俳人;芭蕉門、仙洞御所宿直勤務中に落雷死、

1691只丸「小松原」91ノ松べしゅう「西の雲」入/91「猿蓑」93洒堂「俳諧深川」98「続猿蓑」入

[椶櫚しゅろの葉の霰あられに狂ふあらし哉](猿蓑;一冬)

野堂(やどう・武田) → 載周(としちか・武田けいだ、郷土史家) J 3 1 2 9

野堂(やどう・松井) → 之翰(これふみ・松井まとい、藩医/歌人) R 1 9 3 2

弥藤次(やとうじ・中山) → 豊村(とよむら・中山なかやま/多治比、国学) T 3 1 3 0

弥藤次(やとうじ・石原) → 吉清(よしかよ・石原いほら/越智、藩士/歌) L 4 7 5 3

弥藤太(やとうだ・森本) → 一瑞(いちずい・森本もりもと、藩士/軍学) G 1 1 2 8

弥藤太(やとうだ・磯村) → 千春(ちちはる・磯村いそむら、藩士/神職/歌) M 2 8 0 6

弥藤太(やとうだ・毛内) → 宜応(ぎおう・毛内もうない茂肅、藩士/農政) V 1 6 4 6

宿之助(やどのすけ・根津) → 史邦(ふみくに・中村なかむら、医者/俳人) D 3 8 8 5



- D4587 **宿成**(やどなり・雪木庵せつぼくあん)?-? 江後期岩代白河の宿屋業、狂歌作者、  
1806「狂歌千歳集」編、  
[雪木庵宿成(;号)の通称/別号]通称;鶴屋吉五郎、別号;雪木宿成/白鶴房  
宿丸(やどまる・無尽亭) → 無尽亭(初世むじんてい・宿丸、狂歌作者) 4 2 7 5  
宿屋空々(やどやくうくう) → 空々(くうくう・宿屋、琴曲) B 1 7 2 4  
宿屋飯盛(やどやのめしもり、六樹園、狂歌) → 雅望(まさもち・石川、国学) 4 0 2 1  
やどり木(やどりぎ;女房名) → 了然尼(りょうねんに;道号・元聡;法諱、黄檗僧/歌人) J 4 9 2 1  
弥内(やない・入江) → 正雄(まさお・入江いりえ、儒者) B 4 0 3 8  
弥内(やない・小林) → 斐成(あやなり・小林、歌人) B 1 0 6 0  
野内侍(やないし) → 好古女(よしふるのむすめ・小野おの、女房歌人) G 4 7 8 8
- D4588 **柳川検校**(やながわけんぎょう、名;加賀都かがのいち)?-1679 江前期大坂の作曲家;地唄三味線の名手、  
山野井検校の後に登場;八橋検校と並称、三味線組歌の改曲・整理;柳川流の開祖、  
「端手片撥」作曲
- E4560 **やなぎ** ?-? 江前期上州安中の俳人;1691不角「二葉之松」入、  
[殺すとは知らで肥えたり贅にへの牛](二葉之松;32/前句;かはゆがられて暮すなりけり)
- D4589 **柳**(やなぎ・近松ちかまつ/並木、本名;鋸屋かざりや久兵衛) 1762-1803 42 歌舞伎・浄瑠璃作者、  
歌舞伎作者;1789(寛政元)初世並木五瓶などの助作者/1793並木やなぎ名、  
浄瑠璃作者;1791(寛政3)より1802(享和2)まで執筆・添削、  
1791「雕刻左小刀」、92「三拾石艦初」(並木正三助作)/94「日本賢女鑑」/96「歌中山由緒聞書」、  
1796「鬼上官漢土きじょうかんもち日記」、99「絵本太功記」「太功後編の簾颯たいこうごにちのはたあげ」、  
1801「日吉丸稚桜わかきのさくら」02「日吉丸二度清書」著、外著作多数、  
[近松柳の別号]歌舞伎作名;並木柳助[輔](;初号)/並木やなぎ、  
浄瑠璃作名;近松柳作/近松やなぎ/柳助、 近松千葉軒せんようけんの師  
楊(やなぎ;一字名) → 尊勢(尊政そんせい;法諱、一乗院門跡/歌・連歌) F 2 5 1 4  
柳(やなぎ・小川) → 好幸(よしゆき・小川おがわ、神職/国学) L 4 7 7 9
- E4549 **柳枝也**(やなぎのえだなり) ?-? 狂歌;1787「才蔵集」入;  
[偽恋 だまされし此身よりなほかなしきは冥土で君が舌や抜かれん]  
柳風成(やなぎのかぜなり) → 種彦(初世たねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戯作) 2 6 4 3
- E4545 **柳直成**(やなぎのすぢなり) ?-? 上州高崎狂歌;1785「後万載集」3首/87「才蔵集」入  
[とっくりと語る間も夏の夜に早さんずいのとろぞなくなる]
- E4548 **柳すなほ**(やなぎのすなお) ?-? 甲斐甲府の狂歌作者;1787「才蔵集」2首入;  
[甲斐が根に霞の注連しめを引きはへて飾るや雪の不二の裏白](才蔵集;13)  
柳廼舎(やなぎのや) → 直胤(なおたね・正宗まさむね、国学/俳/狂歌) B 3 2 6 2  
柳廼舎(やなぎのや) → 清(きよし・岡田おかだ、藩士/国学/地誌) H 1 6 4 0  
柳の舎(やなぎのや) → 秀麿(ひでまろ・鈴鹿すずか/平佐、神職/歌) J 3 7 9 3  
柳の屋(やなぎのや) → 宣昭(のりあき/のぶあき・長谷川、幕臣/国学) E 3 5 2 2  
柳の屋(やなぎのや) → とゑ(とえ・戸塚とつか種子たねこ、歌人) T 3 1 3 8
- E4556 **柳原竹光**(やなぎはらのたけみつ)?-? 江戸狂歌作者、1787「才蔵集」入、  
[千金の春の光を横たへて霞の太刀や佩はく山のこし](才蔵集;20/太刀・佩く・腰は縁語)
- D4590 **柳原向**(やなぎはらのむこう、中村仙三郎?)?-? 江後期下谷三味線堀の狂歌作者/戯作者、  
伯楽側の判者、「唐来参和名劔徳」著、1787「才蔵集」入/87飯盛編「絵本詞の花」入  
[苦勞して産むはらゝごの育ちからしやくの種ともならん初鮭](才蔵集:194/初鮭)、  
(はららごは鮭の卵/尺[鮭の異名]と癩の種を掛る)、  
[柳原向(;号)の別号] 楊柳亭/春風堂  
柳屋お藤(やなぎやおふじ) → お藤(おふじ・柳屋、評判美人) B 1 4 9 0  
柳屋菊彦(やなぎやくひこ) → 菊彦(きくひこ・柳屋やなぎや、合巻作者) K 1 6 2 2
- D4591 **梁田氏女**(やなだしのむすめ、名不詳)?-? 江戸期土佐藩主の側室、歌人、  
私家集「をたまき集」8巻(歌数約6400首;題詠歌/:1811藩臣松原恕行ひろゆき筆録)  
梁尚(やなひさ・加藤) → 梁守(やなもり・加藤かとう/藤原、神職) F 4 5 7 0
- D4592 **梁満**(梁万呂やなまる・鈴木すずき/本姓;穂積) 1731-1817 87 代々三河渥美郡吉田の神職、

神道;杉浦国満くしまろ門、国学:1768賀茂真淵門/84本居宣長門、  
吉田魚町の安海熊野神社社司/白山神社神主、伊勢守/土佐守、  
京の吉田家の触頭職を利用して金銭問題を起こす;1786宣長より破門、内山眞竜と交流、  
1784「五十良児島美千由幾夫利」1805「農家日用集」、「梁満雑記梁満積善録」著、  
家集「秋の野艸」著、  
歌;村上忠順ただまさ共編「類題三河歌集」入(渥美郡63)

[梁満(;号)の名/通称]名;重房/重安、通称;伊勢/土佐/伊予、重野の父、

F4570 梁守(やなもり・加藤かとう/本姓:藤原、) ?-? 江中期;三河八名郡加茂村大伴神社禰宜、  
国学/神道;杉浦国満くしまろ(1715-66)・賀茂真淵(1697-1769)・鈴木梁満(1731-1817)門、  
[梁守(;名)別名/通称]別名;次美つよし/梁尚、通称;和泉守

D4593 屋主(家主/戸主やぬし/やかぬし・丹比真人たじひのみと、池主男) ?-760 奈良期廷臣;724従五下/大蔵少輔、  
出羽守/因幡守/鑄銭長官/741備前守/745従五上/749左大舎人頭/754従四下、  
万葉四期歌人2首1031/1442、1443題(息子2男の乙麻呂おとまろの歌)

[難波辺なにはへに人の行ければ後おくれ居て春菜摘む児を見るが悲しき](万葉;八1442)

矢之助(やのすけ・吉松) → 正克(まさかつ・吉松よしまつ、国学者) T 4 0 7 2

弥之助(やのすけ・小笠原) → 政登(まさなり・小笠原、幕臣/記録) F 4 0 3 9

弥之助(やのすけ・近藤) → 正也(まさなり・近藤こんどう/藤原、剣術/歌) M 4 0 7 3

弥之助(やのすけ・吉本) → 氏斐(うじあき・吉本よしもと、藩士/国学者) E 1 2 9 5

野内侍(やのないし) → 好古女(よしふるのむすめ・小野おの、女房歌人) G 4 7 8 8

矢野彦(やのひこ・菊池) → 守満(もりみつ・菊池まぐち、神職/国学/歌) J 4 4 8 7

4512 野坡(やば・志太じだ・志田・志多・竹田、斎藤庄三郎男/本姓;信田) 1662-1740 79 越前福井の呉服商、  
幼時江戸越後屋に奉公/両替商手代・番頭、俳諧;其角・1693芭蕉門、  
1694越後屋同僚の孤屋・利牛と「炭俵」共編、1701越後屋辞職/1704大阪住、  
西国を巡遊;各地に門弟多数、大阪に樗木社/高津に浅茅庵を建立、晩年福山に風羅堂創建、  
蕉風の中国・九州地方流布に尽力、1705「枯野塚」/10「俳諧二十一品」17「和便集」26「放生日」、  
1737「六行会」編、「樗庵草結」「俳諧の心術」「袖日記」「許野消息」「俳諧秘伝語録」外多数、  
追善集;「三日之庵」(梅従ら編)、句は「野坡吟草」にまとめられている、

[小夜しぐれ隣の白は挽きやみぬ](炭俵/前書;旅寝の頃)、

[野坡(;号)の幼名/通称/別号]幼名;庄一郎、通称;半次郎/竹田弥助/弥亮やすけ、

別号;野馬・野坡斎・樗木社・樗子・浅茅生庵・浅生庵・紗方・紗方斎・紗帽・紗帽斎・一声舎・

秋草舎・無名庵・無名庵野翁・無名庵高津野々翁こうづのやおう・半醉堂・三日庵・百花窓・蘇鉄庵・

其タン・かゞし庵・当用庵・常用庵・照笛居士・芳士女、法号;寿元居士

D4594 野梅(やばい) ? - ? 伊勢の俳人;樗良門、1776樗良「月の夜」1句入、  
[新畳あらだたみ曇るや軒のはつしぐれ](月の夜;95)

野梅(やばい・西山) → 宗因(そういん・西山/西、俳人/連歌) 2 5 0 3

野梅翁(やばいおう) → 宗因(そういん・西山、連歌/俳人) 2 5 0 3

野梅子(やばいし) → 宗因(そういん・西山、連歌/俳人) 2 5 0 3

夜梅楼(やばいろう・歌川) → 芳梅(よしうめ・歌川うたがわ、絵師) C 4 7 2 3

D4595 弥白(やはく・梅村うめむら) ? - ? 江前期天和・貞享1681-88頃京の書肆、  
寺町通松原上ルに店舗、黄楊板「三重韻」を出版、1684「画引千字文」著

[弥白(;号)の通称/別号]通称;弥右衛門、別号;玉池斎/玉池堂/文徳堂/甘節堂

D4596 夜白(やはく・長谷川はせがわ、名;秀経ひでつね) 1803-45 43 伊勢松阪の商家;長谷川西家の主人、  
富商長谷川次郎兵衛六有(元貞もとさだ)の弟、俳人、国学;本居春庭・殿村安守門、  
天保1830-44頃「みつかげくさ」編、

[夜白(;号)の幼名/通称/別号]幼名;安之助、通称;六郎次、

別号;一夢庵/蝶廼舎/寄生庵、法名;宗心

夜白林(やはくりん) → 其妻(きばく、夜白林、俳人) G 1 6 1 4

D4597 弥八(やはち・中村なかむら) 1703- 1777 75 歌舞伎舞踊家;中村座の振付師

弥八(やはち・細川) → 清氏(きよゆじ・細川/源、武将/歌人) C 1 6 5 3

弥八(やはち・細川) → 和氏(わづじ・細川、武将・歌人) C 1 5 1 5

弥八(やはち・大坂) → 佐渡八(さどはち・三島、歌舞伎役・作者) K 2 0 5 6  
 弥八(やはち・服部) → 保常(やすつね・服部はつとり、国学者/歌) G 4 5 4 1  
 八弥(やはち・渡辺) → 友意(ゆうい・渡辺わたなべ、俳人) 4 6 6 5 4  
 弥八(やはち・引頭いんとう/滝) → 鶴台(かくだい・滝たき、藩士/儒/国史) B 1 5 6 7  
 弥八(やはち・村瀬) → 孝養(こうよう・村瀬むらせ、和算家) L 1 9 5 1  
 弥八郎(やはちろう・今枝) → 重直(しげなお・今枝いまえだ、武将/藩士) N 2 1 4 4  
 弥八郎(やはちろう・本多) → 正信(まさのぶ・本多ほんだ、幕臣/老職) F 4 0 5 4  
 弥八郎(やはちろう・櫛橋) → 岫雲(しゅううん・櫛橋くしはし、連歌作者) W 2 1 6 4  
 弥八郎(やはちろう・朽木) → 尚綱(なおつな・朽木くつき/源、幕臣/歌) K 3 2 1 1  
 弥八郎(やはちろう・浅井/菊池) → 武康(たけやす・菊池さくち/浅井、藩士/国学) W 2 6 7 7  
 弥八郎(やはちろう・打越) → 樸斎(ぼくさい・打越うちごえ、儒者) D 3 9 0 9  
 弥八郎(やはちろう・加倉井) → 松山(しょうざん・加倉井かくらい、医/儒者) S 2 2 5 2  
 弥八郎(やはちろう・綾野) → 義賢(よしかた・綾野あやの/香西、藩士) C 4 7 7 3  
 弥八郎(やはちろう・富田) → 一元(かずもと・富田とみた、藩士/記録) M 1 5 5 2  
 弥八郎(やはちろう・江楯/那珂) → 梧楼(ごろう・那珂なか/江楯、藩士/儒者) G 1 9 5 6  
 弥八郎(やはちろう・小笠原) → 長遠(ながとお・小笠原おがさわら/源、幕臣) K 3 2 3 4  
 弥八郎(やはちろう・神田) → 孝澄(たかすみ・神田かんだ、鑑識/国学) W 2 6 6 5  
 弥八郎(やはちろう・岩室) → 楽々(らくらく・岩室、醸造家/俳人) D 4 8 3 7  
 弥八郎(やはちろう・井上) → 長秋(ながあき・井上いのうえ/藤原、神職/判事) L 3 2 0 4  
 弥八郎(やはちろう・坂部) → 政幹(まさもと・坂部さかべ/渡辺、商家/国学) P 4 0 9 8  
 弥八郎(やはちろう・加世田) → 景国(かげくに・加世田かせだ/折田、藩士/歌) U 1 5 0 5

D4598 **八張棟梁**(やはりのとうりょう) ? - ? 江戸の狂歌四方連、徳和歌後万載集4首入、  
 [雪とよもに残りし去年こそこの借銭もまだ消えやらぬかけ乞の帳](後万載;春46/残雪)

夜半翁(やはんおう) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1  
 野飯翁(やはんおう) → 藍園(らんえん・堀口ほりぐち、商家/漢学者) B 4 8 6 1  
 野盤子(やばんし) → 支考(しこう・各務かがみ、俳人) 2 1 1 9  
 夜半亭(初世やはんてい) → 巴人(はじん・早野、宋阿、俳人) 3 6 1 8  
 夜半亭(二世やはんてい) → 蕪村(ぶそん・与謝、巴人門俳人) 3 8 1 1  
 夜半亭(三世やはんてい) → 几董(きとう・高井、俳人) 1 6 2 3  
 夜半亭(四世やはんてい) → 呂蛤(ろこう・西村、俳人) B 5 2 4 6  
 夜半亭(五世やはんてい) → 無涯(むがい・山田、俳人) 4 2 2 6  
 夜半亭(六世やはんてい) → 呉厓(ごがい・笹山、俳人) C 1 9 2 2  
 夜半亭(七世やはんてい) → 宋路(そうろ・津田、俳人) K 2 5 6 1  
 野美材(やびざい) → 美材(よしき・小野おの、廷臣/詩歌) 4 7 1 0  
 弥兵衛尉(やひょうえのじょう・古藤田) → 俊定(としさだ・古藤田ことらだ、剣術家) M 3 1 4 5

G4514 **八尋**(やひろ・園その、旧姓;衣笠) 1834-1900 67 播磨明石郡の国学者/歌人、  
 摂津難波村八阪神社祠官園清雅の養子、国学・歌;岩崎長世・名和大年門、歌;中村良顕門、  
 大坂阿倍野神社宮司となる、歌;「秋草集」「千種之花」入  
 [八尋(;名)の号] 笹の舎

F4590 **八尋**(やひろ・児島こじま) 1840-1911 72 播磨姫路の国学者、  
 [八尋(;名)の初名/通称] 初名;本立、通称;堅次/曾八

F4578 **八尋**(八広やひろ・菅かん、旧姓;青木) 1846-76 31 肥後熊本藩士、国学;林有通門、敬神党に参加  
 八尋(やひろ・稻永) → 秋麿(あきまる・稻永いななが、医者/国学) H 1 0 0 4

D4599 **野夫**(やぶ・天野あまの、通称;平太夫) ?-? 江前期撰津尼崎藩士(禄2百石)/俳人:重頼門、  
 1663以後重頼・宗因より長点を受、1675頃発句集「隙費」編

E4546 **養父坂押躬**(やぶさかのおしみ) ? - ? 江戸の狂歌作者;1785「後万載集」1首入;685  
 [千金にかへじと思ふ鮎のすしこれもかはせ(川瀬・為替)にのぼり下れば]

藪虎(やぶとら・千里亭) → 千里亭(せんりてい・藪虎;号、書肆/狂歌) G 2 4 8 1

E4552 **藪中道**(やぶのなかみち) ? - ? 下野の狂歌作者;1787「才蔵集」1首入;478  
 [まないたの面瘦おもやせしたる恋の身をきり刻みてもあはんとぞ思ふ]



- E4500 弥平(やへい/弥兵衛やへえ・辻つじ)?-? 江後期尾張藩の鉄砲鑄職/高畑流砲術を伝える、  
1861(文久元)「尾張藩鉄砲右鑄職留」著
- G4516 弥平(やへい・田村たむら、旧姓;池原)1824-8562 越後頸城郡糸魚川の生;池原弥右衛門と称す、  
母に養育;赤貧の生活/薬屋に奉公;母に孝養を尽す、諸子百家を涉猟;皇典に精通、  
本姓田村に復し造酒之助に改名、郷里の子弟教育/国学;平田鍊胤門、勤王を主唱、  
戊辰戦で官軍に参加;転戦、1870東京大学校に出仕/のち筑波神社・香取神社神職、  
1873(明治6)弥彦神社権官司兼中講義/禰宜致仕後も弥彦住;皇典講義所分所長、  
私塾開設;皇典を教授;門弟多数、少教正、弥彦に病没、  
[弥平(;通称)の別通称]弥右衛門/造酒之助みきのすけ
- 弥平(やへい・寺島) → 亀石(きせき・寺島てらしま、俳人) L 1 6 0 9  
 弥平(やへい・青木) → 芳斎(ほうさい・青木/湯浅、蘭方医者) 3 9 8 5  
 弥平(やへい・安井) → 政章(まさあき・安井、藩士/槍術) B 4 0 0 4  
 弥平(やへい・長坂/白井) → 重勝(しげかつ・白井/源/長坂、藩士/儒者) Q 2 1 8 2  
 弥平(やへい・渡辺) → 竜門(りゅうもん・渡辺/源、藩士/随筆) F 4 9 7 8  
 弥平(やへい・池田) → 重安(しげやす・池田いけだ/今村、歌人) N 2 1 3 1  
 弥平(やへい・永沢) → 公效(きみり・永沢ながさわ、神職/国学) U 1 6 9 3  
 爺平(やへい・岡本) → 宣忠(のぶただ・岡本、宣頭の養子/商家/歌) H 3 5 8 4  
 弥平左衛門(やへいざえもん・鍋島) → 左雄(さゆう・鍋島なべしま、家老) N 2 0 4 3  
 八平治(やへいじ・内藤) → 吉之(よしゆき・内藤ないとう/山田、国学) O 4 7 1 2  
 弥平次(やへいじ・今枝) → 近義(ちかよし・今枝いまえだ、家老/国学) C 2 8 1 8  
 弥平次(やへいじ・太田) → 巴静(はじよう・太田おおた、俳人) 3 6 1 3  
 弥平次(やへいじ・向井) → 三鶴(さんかく・向井、兵法家/藩軍師) L 2 0 9 1  
 弥平次(やへいじ・三河屋) → 薫(かおる・蘭奢亭らんじやてい、狂歌/戯作) B 1 5 1 6  
 弥平次(やへいじ・松本) → 文暉菴(ぶんきあん・松本、武州俳人) E 3 8 9 7  
 弥平次(やへいじ・佐藤) → 忠泰(ただやす・佐藤さとう、藩校総裁/国学) X 2 6 2 5  
 弥平次(やへいじ・金井) → 鳳台(ほうだい・金井かない、商家/医/儒者) E 4 5 5 5  
 弥平次(やへいじ・高橋) → 桐陽(とうよう・高橋たかはし、藩士/儒者) H 3 1 8 9  
 弥平次(やへいじ・三宅) → 公禮(きみひろ・三宅みやげ、庄屋/歌人) V 1 6 3 2  
 弥平治(やへいじ・岸) → 御園(みその・岸きし、藩士/国学/歌) I 4 1 8 8  
 弥平次(やへいじ・藍屋/渡辺) → 保教(やすのり・渡辺わたなべ、商家/歌人) C 4 5 6 6  
 弥平治(やへいじ・内海) → 貞倚(さだより・内海うつみ/高橋、名主) O 2 0 0 0  
 弥平四郎(やへいしろう・海野) → 紫瀾(しらん・海野うんの、藩士/儒者) M 2 2 9 5  
 弥平太(やへいた・宇津木) → 久徴(ひさもと・宇津木うつき/平、藩老/歌) I 3 7 5 8
- E4501 弥兵衛(やへえ;通称・坂本さかもと)?-? 江中期幕府の駒場薬園の同心、  
本草家;薬用草木に精通、「駒場御薬園植物目録」編
- E4503 弥兵衛(やへえ;通称・前川まえかわ、号;盛文堂)?-? 江後期1804-30頃江戸の書肆、  
1827「諸国道中独歩行」著
- E4504 弥兵衛(やへえ・大谷おおたに)?-? 1862存 上州の人;1797(寛政9)-1805(文化2)の日記を著、  
1862「一代光陰密録」著
- 弥兵衛(やへえ・加藤) → 重五(じゅうご・加藤かとう、材木商/俳人) H 2 1 2 9  
 弥兵衛(やへえ・副島) → 崑崙(こんろん・副島そえじま、儒者/詩歌) P 1 9 3 1  
 弥兵衛(やへえ・古藤田) → 俊定(としさだ・古藤田ことうだ、剣術家) M 3 1 4 5  
 弥兵衛(やへえ・松平) → 乘良(のりよし・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 6  
 弥兵衛(やへえ・堀部) → 金丸(かなまる・堀部、赤穂浪士/討入) O 1 5 3 1  
 弥兵衛(やへえ・教来寺、書肆) → 信武(のぶたけ・馬場、易/軍談) B 3 5 7 8  
 弥兵衛(やへえ・飯室) → 昌包(まさかね・飯室いむろ/源、幕臣/歌) T 4 0 9 7  
 弥兵衛(やへえ・紅屋) → 宗信(そうしん;号、広岡、俳人) C 2 5 2 0  
 弥兵衛(やへえ・田口) → 藤好(ふじよし・田口たぐち、儒者/詩) C 3 8 7 4  
 弥兵衛(やへえ・水野) → 元朗(もとあきら・水野みずの、家老/儒者) C 4 4 0 2

弥兵衛(やへえ・和田) → 省齋(せいさい・和田わだ、藩儒/暦学/詩) B 2 4 5 3  
 弥兵衛(やへえ・野田) → 本春(基春/最登波留もとはる・野田、書肆/俳人) D 4 4 9 1  
 弥兵衛(やへえ・尼屋あまのや) → 貞右(ていゆう・玉雲齋/雄崎、問屋/狂歌) 3 0 0 2  
 弥兵衛(やへえ・小池) → 内広(うちひろ・小池、国学/神道) D 1 2 1 1  
 弥兵衛(やへえ・田中) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
 弥兵衛(やへえ・内山) → 眞龍(まつ・内山うちやま、国学者) 4 0 3 0  
 弥兵衛(やへえ・美濃部) → 貞休(さだやす・美濃部みのべ/柳沢、幕臣) P 2 0 5 2  
 弥兵衛(やへえ・永田) → 舟泉(しゅうせん・永田ながた、俳人) H 2 1 9 1  
 弥兵衛(やへえ・岡田) → 政経(まさつね・岡田おかだ、藩士/茶/辞書) E 4 0 1 2  
 弥兵衛(やへえ・後藤) → 芝山(しざん・後藤ごとう、藩儒/詩人) 2 1 2 0  
 弥兵衛(やへえ・清水) → 阪桑(阪叟はんそう・清水しみず、俳人) I 3 6 3 1  
 弥兵衛(やへえ・藤屋) → 弘篤(ひろあつ・浅野あさの、大阪書肆) F 3 7 5 2  
 弥兵衛(やへえ・土屋/豊国) → 温齋(おんさい・土屋つちや、和算家) D 1 4 4 4  
 弥兵衛(やへえ・富田) → 一元(かずもと・富田とみた、藩士/記録) M 1 5 5 2  
 弥兵衛(やへえ・下郷) → 鍋盛(かせい・下郷しもさと、商家/俳人) M 1 5 6 2  
 弥兵衛(やへえ・山田) → 蕙逸(けいいつ・山田、商家/俳人) 1 8 3 2  
 弥兵衛(やへえ・山田) → 扶疏(ともしげ・森川もりかわ、絵師/人形師/狂言師) W 3 1 7 2  
 弥兵衛(やへえ・三野) → 象麓(しょうろく・三野みの、漢学者) C 2 2 1 6  
 弥兵衛(やへえ・篠原) → 善富(よしとみ・篠原しのはら、和算家) E 4 7 9 9  
 弥兵衛(やへえ・飯島) → 為仙(ためり・飯島/林、名主/歌人) H 2 6 3 3  
 弥兵衛(やへえ・飯塚) → 久敏(ひさとし・飯塚、国学/歌人/教育) B 3 7 5 3  
 弥兵衛(やへえ・中西) → 常栄(つねひで・中西/出口、国学者) D 2 9 4 4  
 弥兵衛(やへえ・小池) → 信行(のぶゆき・小池こいけ/葛原、歌人) G 3 5 8 0  
 弥兵衛(やへえ・奥) → 猛雅(たけまさ・奥おく、藩士/砲術家) W 2 6 3 4  
 弥兵衛(やへえ・大鐘) → 義鳴(よしなり・大鐘おおかね、藩士/歌文) F 4 7 4 2  
 弥兵衛(やへえ・河田) → 政致(まさむね・河田かわだ、藩士/歌人) H 4 0 7 8  
 弥兵衛(やへえ・小河内) → 殷教(ただり・小河内こごうち、藩士/国学) W 2 6 9 9  
 弥兵衛(やへえ・関谷) → 義卓(よししたか・関谷せきや/源、国学者) N 4 7 5 9  
 弥兵衛(やへえ・油屋) → 宣頭(のぶあき・岡本おかもと、商家/歌人) H 3 5 8 3  
 弥兵衛(やへえ・油屋) → 宣忠(のぶただ・岡本、宣頭の養子/商家/歌) H 3 5 8 4  
 弥兵衛(やへえ・大久保) → 光久(みつひさ・大久保/山中、神道) I 4 1 3 4  
 弥兵衛(やへえ・小池) → 春貞(はるさだ・小池こいけ/佐久間、国学) K 3 6 1 4  
 弥兵衛(やへえ・平野屋) → 包知(かねとも・浅田あさだ/坂野、歌人) H 1 5 6 6  
 弥兵衛(やへえ・田中) → 壽豊(ひさとよ・田中、商家/歌人) L 3 7 8 0  
 弥兵衛(やへえ・大塚) → 磯名(いそな・大塚おつか/武田、国学・歌) K 1 1 0 5  
 弥兵衛(やへえ・熊野) → 弘孝(ひろたか・熊野くまの/清原、国学/茶) J 3 7 4 6  
 弥兵衛(やへえ・佐久間) → 建彦(たてひこ・佐久間さくま/小池/青山、国学) X 2 6 1 5  
 弥兵衛(やへえ・寺田) → 清遠(きよとお・寺田てらだ、歌人) U 1 6 8 0  
 弥兵衛(やへえ・瀬見) → 善礼(よしひろ・瀬見せみ、国学/歌) N 4 7 5 4  
 弥兵衛(やへえ・本多) → 朴民(なおたみ・本多ほんだ/水沢、国学者) O 3 2 7 1  
 弥兵衛(やへえ・三島) → 通庸(みちつね・三島みしま、藩士/官僚) K 4 1 6 8  
 爺平(やへえ・岡本) → 宣忠(のぶただ・岡本、宣頭の養子/商家/歌) H 3 5 8 4  
 野木瓜亭(やぼくかてい→むべい) → 公弼(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家) G 1 6 2 3  
 八穂子(やほこ・菊屋、益谷末春女、末偶妻) 1740-1827 伊勢歌人:「菊下露」

E4505 野暮天(やぼてん・洛東らくとう)?- ? 嘶本作者;山東京伝門、

1797「新話しんばなし違なし」著

柳浦頓馳奇(やぼのどんちき) → 仰山先生(ぎょうさんせんせい・狂詩) G 1 6 7 6

E4506 山陰(山蔭やまかげ・藤原ふじわら、高房男) 824-8865 母:藤原真夏女、平安前期廷臣; 879参議、  
886従三位/中納言/右大弁/民部卿を歴任、貞観859-877頃京神楽岡に氏神吉田社を建立、  
撰津茨木総持寺建立を発願、魚鳥の包丁術に秀づ、料理「御食膳仕立図」著

- 山家広住(やまがのひろずみ/山家人;狂名)→流霞窓広住(りゅうかそうひろずみ、狂歌/読本) D 4 9 2 4  
山家女(やまがのむすめ) → 赤城山人(あかぎさんじん、戯作者) D 1 0 2 7  
山雀庵(やまがらあん・さんじゃく-)→ 舎遊(しゃゆう、俳人) W 2 1 3 6  
山川眞清(やまかわまさや) → 真国(まくに・石橋、国学語学) 4 0 6 8  
山神主(やまかぬし) → 定久(さだひさ・賀茂かも、神職/歌) C 2 0 3 3
- 4513 **山口女王**(やまぐちのおおきみ) ? - ? 奈良期歌人;万葉四期歌、大伴家持の恋人、  
家持への贈歌6首;613-7/1617、勅撰4首;新古今(1378/1479)続後撰(812)玉葉(1639)、  
[物思ふと人に見えじとなまじひに常に思へりありそかねつる](万葉;四613)
- 4514 **山前王**(やまくま/やまさきのおおきみ、忍壁おさかべ親王男)?-723 大和奈良期廷臣;705従四下/刑部卿、  
万葉二期歌人;3首423(石田王の挽歌/人麻呂代作?)反歌424・425(紀皇女への挽歌?)  
詩;懐風藻1首(;侍宴の五言)、葦原王・池原女王の父、  
[こもりくの泊瀬娘子はつせをとめが手に巻ける玉は乱れてありと言はずやも](万葉;424)
- H4512 **山崎檢校**(やまさきけんぎょう、山崎皆一みないち、萩田みつ一)?-1774 江中期享保(1716-35)より活動、  
坊主;師堂派、1756(宝暦6)権威、歌人、1768石野広通[霞関集初撰本]入、1774(安永3)没、  
[人々富士を見侍る所にて、  
月花を目に見ぬうらみ今更に増さりてつらき雪の富士が嶺ね、  
(霞関初撰;目の不自由さゆえのもどかしさ)
- 山郷(やまさと・浅加) → 久敬(ひさたか・浅加あさか、国史・国学・歌) B 3 7 2 1  
耶麻山人(やまさんじん) → 廉斎(れんさい・添川そえかわ、染色/儒者) B 5 1 0 8  
山階左大臣(やましなさだいじん)→ 実雄(さねお/さねかつ・洞院とういん/藤原、歌人) C 2 0 9 1  
山科僧正(やましのそうじょう)→ 行意(ぎょうい、天台園城寺僧/歌人) C 1 6 1 6  
山階大納言(やましなだいなごん)→ 実雄(さねお/さねかつ・洞院/藤原、歌人) C 2 0 9 1  
山階入道前左大臣(やましなにゅうどうさきさだいじん:風雅以下)→ 実雄(さねお・洞院とういん) C 2 0 9 1  
山階入道左大臣(やましなにゅうどうさだいじん:続拾遺など)→ 実雄(さねお/さねかつ・洞院とういん) C 2 0 9 1  
山科宮(やましのみや) → 人康親王(ひとやすしのう、常陸上総太守) E 3 7 2 6
- E4507 **山代**(やましろ・丈部はせつかべ)? - ? 奈良期:755防人/上総国武射郡むざのこおり上丁、  
万葉集4355、  
[よそにのみ見てや渡らも難波瀉雲居に見ゆる島ならなくに](万葉;4355)
- E4509 **山城**(やましろ:通称・大塚おおつか)?-? 江中期常陸茨城郡大洗磯前社の祠官:  
1786(天明6)「大洗磯前明神記」著
- E4510 **山城**(やましろ:通称・磯前いそぎ)?-? 江後期常陸酒列磯前社の祠官:  
「酒列紀事」著
- 山城(やましろ・本多) → 政重(まさしげ・本多/倉橋/直江、藩国老) C 4 0 6 9  
山城(やましろ・横山) → 隆従(たかより・横山よこやま、藩士) N 2 6 8 1  
山城(やましろ・大伴) → 忠男(ただお・大伴、神職) P 2 6 2 4  
山城(やましろ・中西) → 弘令(ひろり・中西なかにし、神職/国学) G 3 7 9 3  
山城(やましろ・島津) → 久光(ひさみつ・島津、領主/藩政実権) C 3 7 0 1  
山城(やましろ・黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7  
山城(やましろ・佐竹) → 義路(よしみち・佐竹さたけ/源、藩士/歌) K 4 7 9 0  
山城(やましろ・為貞) → 櫟(いちい・為貞きためさだ、神職/歌人) J 1 1 7 8  
山城(やましろ・太郎館) → 季賢(すえかた・太郎館たろうだち/荒木田、神職/国学) F 2 3 3 9  
山城(やましろ・明石) → 重富(しげとみ・明石あかし、神職/記録) N 2 1 1 6  
山城(やましろ・中小路) → 宗芳(むねよし・中小路なこうじ/菅原、神職/歌) E 4 2 0 8  
山城(やましろ・佐竹) → 義寛(よしひろ・佐竹さたけ/高倉、藩主/歌) N 4 7 0 9  
山城(やましろ・奥平) → 貞臣(さだおみ・奥平おくだいら、家老/俳人) O 2 0 2 1  
山城(やましろ・朝香) → 文敬(ふみか・朝香あさか/追川、医者/国学) H 3 8 9 1  
山城(やましろ・千家) → 之正(ゆきまさ・千家せんげ、神職/茶・歌人) G 4 6 9 5
- E4511 **山背王**(やましろのおおきみ、藤原ふじわら弟貞、長屋王男)?-763 母;藤原不比等女、奈良期廷臣、  
723父長屋王の変;死を免れる/740従四下/756出雲守として大安寺に派遣/757従四上、  
757.6月但馬守/同月安宿王の謀反を密告;奈良麻呂変、その功で藤原弟貞の姓名を賜う、



757. 7月従三位/760但馬守兼坤宮大弼/光明子没時に装束司/762参議、763礼部卿;没万葉廿4473(756[天平勝宝8]出雲掾安宿奈杵麻呂などまろの上京する際の宴席での詠歌)、[うちひさす都の人に告げまは見し日のごとくありと告げこそ]、(万葉;4473/当時出雲守)

参考 → 安宿王(あすかべのおおきみ、長屋王男、母;不比等女、山背王の兄) B 1 0 1 1

山城守(やましろのかみ・安富) → 盛長(もりなが・安富やすとみ/紀、武将/連歌) G 4 4 1 1  
山城守(やましろのかみ・横山) → 長知(ながちか・横山、武将/藩重臣) E 3 2 2 6  
山城守(やましろのかみ・山中) → 長俊(ながとし・山中、武将/連歌) E 3 2 8 1  
山城守(やましろのかみ・松平) → 信成(のぶしげ・松平/藤原、藩主/歌) G 3 5 6 4  
山城守(やましろのかみ・松平) → 信亨(のぶつら・松平、藩主/歌・俳) C 3 5 2 1  
山城守(やましろのかみ・松平) → 忠国(ただくに・松平まつだいら、藩主/歌人) Z 2 6 5 9  
山城守(やましろのかみ・竜造寺) → 虚庵(きよあん・渋川/板部/万里小路/王、絵師) N 1 6 0 8  
山城守(やましろのかみ・朽木) → 尚綱(なおつな・朽木くつき/源、幕臣/歌) K 3 2 1 1  
山城守(やましろのかみ・大場) → 雄淵(ゆうえん・大場おおば、神職/俳人) 4 6 8 0  
山城守(やましろのかみ・宮崎) → 信生(のぶなり・宮崎みやざき、神職/国学) H 3 5 1 8  
山城守(やましろのかみ・紀) → 歳信(としのぶ・紀きの、神職) U 3 1 9 6  
山城守(やましろのかみ・駒井) → 朝温(ともあつ・駒井こまい、幕臣/歌) T 3 1 7 2  
山城守(やましろのかみ・加藤) → 泰広(やすひろ・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 8  
山城守(やましろのかみ・阿部) → 時庸(ときつね・阿部あべ、神職) T 3 1 8 8  
山城守(やましろのかみ・市川) → 邦教(くにのり・市川いちかわ/藤原、神職/歌) E 1 7 0 4  
山城守(やましろのかみ・倉田) → 有成(ありなり・倉田くらた/桂、神職/国学) M 1 0 4 6  
山城正(やましろのしょう・白玖) → 武文(たけふみ・白玖はく/しらく、神職/歌) V 2 6 1 5

E4512 山住(やまぢみ・清川きよかわ) ? - ? 江後期武州豊島の戯作者:「春笑能楽奇談」著

山住(やまぢみ・鹿野) → 鹿野山住(しかのやまぢみ、狂歌) B 2 1 3 7

山住勾当(やまぢみこうとう) → 八橋検校(やつはしけんぎょう、箏曲/作曲) D 4 5 7 8

山背王(やませおう) → 山背王(やましろのおおきみ・藤原弟貞、長屋王男/廷臣/歌) E 4 5 1 1

F4509 山勢検校(やませけんぎょう、名;松風一) 1791-1859 69 山田流箏曲家、初め越後で修業、1811(21歳)江戸で山田検校門、[山勢]は継承され山田検校直門三家の1(山登、山木と)、平曲家としても活躍、「常磐の栄」「月の鏡」作曲、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(検校松風一名)、

[かきならす玉の小琴にこの宿の千代松風も声あはすらし](大江戸倭歌;雑2034)

山田(やまだ) → 山田法師(やまだほうし、僧/歌人) E 4 5 1 3

山田逸農(やまだいつのう) → 雪柯(せつか・松田、神職/儒/書家) K 2 4 7 7

山田検校(やまだけんぎょう) → 斗養一(とよいち・山田、箏曲/作曲家) R 3 1 0 5

山田赤見皇女(やまだのあかみのひめみこ) → 春日山田皇女(かすがのやまだのひめみこ、紀歌謡) H 1 5 8 4

山田郎女(やまだのいらつめ) → 石川郎女(いしかわのいらつめ e) D 1 1 4 2

山田大娘皇女(やまだのおいらつめのひめみこ) → 春日山田皇女(かすがのやまだのひめみこ、紀歌謡) H 1 5 8 4

山田案山子(耶麻田加々子やまだのかかし) → 意斎(いさい・山田、狂歌/浄作/読本) 1 1 8 3

山田中務(やまだのなかつかさ) → 中務(なかつかさ・山田、女房/歌人)

E4513 山田法師(やまだほうし) ? - ? 平安中期の叡山僧?/親の没後出家、

住吉・石山・熊野に参籠、管絃の遊に耽り師僧の戒めを受ける、

歌人:和歌色葉の[名譽歌仙者]に入、万代・秋風・閑月集入集、家集「山田集(山田法師集)」、勅撰9首;後撰(1299)新古(1837)続後撰(246)玉(2142)続千(1677)続後拾(1039)以下架空人物説あり;古今集1027よ人しらずの歌;

[あしひきの山田の案山子そほおのれさへ我を欲ほしといふ憂れはしきこと]に仮託か、[あしひきの山下響とよみ鳴く鳥も我がごと絶えず物思ふらめや]

(後撰;1299/隠者でありながら恋に悩む姿)

E4514 山手白人(やまてのしろひと、姓;布施、名;胤致たねよし、胤条男) 1737-87 51 幕臣;兄胤将養子/1769勘定職、1771評定所留役、国学者、狂歌:山手連、「木曾路の口すさみ」、1783「万載狂歌集」19首入、1785「徳和歌後万載集」29首・序、87「狂歌才蔵集」1首入、

[につこりと山も笑ふてけさは又きげんよし野の春は来にけり](後万載集;春)、  
(本歌;み吉野は山もかすみて白雪のふりにし里に春は来にけり[新古今;藤原良経])、  
[山手白人(;狂号)の通称/法名]通称;蔵之丞/弥次郎、法名;栄隣

山手馬鹿人(やまてのばかじん)→ 南畝(なんぼ・大田、狂詩歌/洒落本) 3 2 3 3

E4515 大倭(やまと) ? - ? 式部/万葉三四期歌九1736:吉野での歌

大倭宿禰小東人か? → 小東人(おあずま・大倭宿禰やまのすくね、長岡) C 1 4 2 6

E4540 大和(やまと・式部卿敦慶親王家)?-? 平安前期;敦慶親王[887-930]家の女房/歌人、  
新勅撰887/続後撰854

[人知れぬ心のうちに燃ゆる火は煙はたたでくゆりこそすれ]、

(続後撰;恋854/清慎公藤原実頼さねより[900-970]へ贈歌)、

[富士のねの絶えぬけぶりもあるものをくゆるはつらき心なりけり](少将実頼の返歌)

F4558 大和(やまと・奥田おくだ、藩士富永彦兵衛5女) 1836-1920<sup>85</sup> 尾張名古屋藩士奥田常雄の妻、  
国学;山田千疇門/画;喜田華堂門、夫没後;御器所村に住/常に男装し歌詠・書に励む、  
名古屋市内に帰り子弟教育/国風会・二葉会を設立し歌壇で活動、  
[大和(;通称)の名/号]名;艶、号;菟谷

夫 → 常雄(つねかつ・奥田おくだ/橘、藩士/国学/歌/1835-62早世) B 2 9 9 7

大和(やまと、裸子内親王家?女房)→ 大和宣旨(やまとのせんじ)

大和(やまと・直江) → 政重(まさしげ・本多/倉橋/直江、藩国老) C 4 0 6 9

大和(やまと・石川) → 宗弘(むねひろ・石川いしかわ、邑主/治水対策) C 4 2 4 0

大和(やまと・杉村) → 直記(なおき・杉村、家老) B 3 2 0 6

大和(やまと・鹿島) → 則瓊(のりよし・鹿島かしま、神職/国学) G 3 5 3 1

大和(耶馬台やまと・竹中)→ 残口(ざんこう・増穂/十寸穂/藤原/竹中、神道唱導家) F 2 0 7 9

大和(やまと・大久保) → 勇(いさみ・近藤、剣術/新撰組) F 1 1 5 1

大和(やまと・古屋) → 眞章(さねあき・古屋ふるや、神職/国学) H 2 0 1 8

大和(やまと・喜早) → 定中(さだなか・喜早さそ/度会、神職/記録) J 2 0 0 4

大和(やまと・浅野) → 忠敬(ただひろ・浅野あさの/藤堂、藩家老) V 2 6 1 9

大和(やまと・浅野) → 忠(ただす・浅野あさの、藩家老) P 2 6 6 4

大和(やまと・佐竹) → 義遵(よしゆき・佐竹さたけ、藩士;城代) I 4 7 0 0

大和(やまと・佐藤) → 正壽(まさひさ・佐藤さとう/藤原、神職/国学) P 4 0 8 7

大和(やまと・佐竹) → 義村(よしむら・佐竹さたけ/小場、藩所預/国学) N 4 7 1 2

大和(やまと・榊原) → 宣安(のぶやす・榊原さかきばら/藤原、神職) I 3 5 6 4

大和(やまと・井上) → 長秋(ながあき・井上いのうえ/藤原、神職/判事) L 3 2 0 4

大和(やまと・平川) → 正澄(まさずみ・平川ひらかわ/藤原、国学者) S 4 0 1 2

大和(やまと・鳥谷) → 美教(よしのり・鳥谷からすや、神職/歌人) M 4 7 3 1

大和(やまと・関) → 武雄(たけお・関せき/樋口、神職/国学) X 2 6 7 6

大和(やまと・林) → 葉面(のぶつら・林はやし/橘、社僧/歌人) J 3 5 6 8

倭(やまと・鬼島きしま) → 広蔭(ひとかげ・富樫、国学/歌) 3 7 1 4

耶麻登(やまと・園原) → 旧富(ひさとみ・園原/藤原、神職/童謡) B 3 7 5 5

E4516 山登檢校(初世やまとけんぎょう、山登松和一、高木与兵衛男) 1782-1864<sup>83</sup> 箏曲家元;山田檢校門、  
房吉「吾孀箏譜あづまことうた」改訂増補(1824);父跋

大和左衛門(やまとざえもん・石川)→ 村文(むらぶみ・石川いしかわ、邑主/歌人) D 4 2 2 0

4518 倭建命(日本武尊やまとたけ[る]のみこと、景行帝皇子/仲哀父)?-? 古事記の伝説歌謡英雄、  
日本書紀では生彩ない、

①兄殺害(小碓命)②西征平定(倭男具那)、③東征平定(中央からの疎外)、

④望郷(白鳥説話):父(権力)から疎外された男が死を超え天に飛翔し解放される悲劇、  
御火焼翁と問答;連歌の始まりとされる

大和(やまと)大掾(やまとだいじょう・桂)→ 文治(江戸系3世ぶんじ・桂かつら、嘶家) F 3 8 5 9

E4517 倭迹迹日百襲姫命(やまとととびももそひめのみこと、孝靈帝皇女)?-? 三輪山の蛇神大物主神との神婚譚;  
日本書紀に逸話入

大和入道(やまとにゅうどう) → 資成(すけしげ・橘、廷臣/歌人) C 2 3 1 9

日本根子天津御代豊国成姫天皇(やまとねこあまつみしろとよくなりひめのすめらみこと)

→ 元明天皇(げんめいてんのう、万葉歌人) 1 8 2 9

日本根子天排国高彦(やまとねこあめのおしくにたかひこ) → 平城天皇(へいぜいてんのう、歌人) 2 7 6 0

日本根子高瑞浄足姫天皇(やまとねこたかみずきよたらしひめのすめらみこと) → 元正天皇(げんしやうてんのう) 1 8 1 9

大和阿闍梨(やまとのあじり) → 日昭(にっしょう; 法諱・不軽院、日蓮僧) E 3 3 1 6

4515 倭太后(やまとのおおきさい、倭姫王やまとのひめおおきみ、古人大兄皇子ふるひとのおおえのみこの女) ?-? 舒明天皇の孫、

645(大化元)父古人大兄皇子謀反のため父・兄は刑死/父没後倭漢氏(母の里か)に養育、  
668(天智7)天智天皇後宮に入内; 皇后、671天智が大海人皇子に後事を託そうとした時、  
大海人皇子は倭太后を推す; 天智没後即位説あり、壬申乱後の生涯は不明、  
万葉一期歌人; 天智発病-崩御迄の4首/147-9短歌/153長歌; 天智天皇葬送歌、続古1392、  
[人はよし思ひ止むとも玉かづら影に見えつつ忘らえぬかも]、

(万葉; 149/天皇崩御後の歌/他人はたとい歎きが止まっても私には忘れられない)

大和守(やまとのかみ・飯尾) → 堯連(たかつら・飯尾いのお、室町幕臣/故実) M 2 6 3 2

大和守(やまとのかみ・松平) → 直侯(なおよし・松平、藩主/歌人) D 3 2 0 0

大和守(やまとのかみ・内藤) → 頼由(よりゆき・内藤ないとう/藤原/永井、藩主) K 4 7 4 0

大和守(やまとのかみ・堀) → 親賢(ちかかた・堀ほり、藩主/古典/俳諧) N 2 8 4 6

大和守(やまとのかみ・菊池) → 嘉典(よしり・菊池さくち、神職/教育) F 4 7 8 4

大和守(やまとのかみ・松室) → 清雄(きよお・松室まつむろ;/ 秦、国学/歌) S 1 6 8 3

大和守(やまとのかみ・渡辺) → 友寿(ともひさ・渡辺わたなべ、家譜作製) Q 3 1 3 4

大和守(やまとのかみ・青山) → 秀堅(ひでかた・青山あおやま、幕臣) C 3 7 9 6

大和守(やまとのかみ・水野) → 忠成(ただあきら・水野みずの、老中/日記) F 2 6 4 4

大和守(やまとのかみ・堀) → 親義(ちかかた・堀、藩主/日記) B 2 8 6 4

大和守(やまとのかみ・小笠原) → 長保(ながやす・小笠原、幕臣/日記) G 3 2 1 9

大和守(やまとのかみ・多) → 久敬(ひさたか・多おの、官人/歌人) L 3 7 9 8

大和守(やまとのかみ) → 江棧(こうさん・信国のぶくに/神、刀工/俳人) J 1 9 0 9

大和守(やまとのかみ・石谷) → 穆清(あつきよ・石谷いしがや、幕臣/奉行) G 1 0 6 2

大和守(やまとのかみ・出雲路) → 定信(さだのぶ・出雲路いずみ/春原/斎部、神職/国学) L 2 0 8 6

大和守(やまとのかみ・坂倉) → 茂樹(しげき・坂倉さくら、神職/国学) Q 2 1 8 7

大和守(やまとのかみ・江見) → 長載(ながのり・江見えみ、神職/国学) L 3 2 3 4

大和守(やまとのかみ・鎮西) → 清浜(きよはま・鎮西ちんぜい、神職/歌人) U 1 6 7 5

大和守(やまとのかみ・小林) → 良典(よしすけ・小林、官人/尊皇/歌人) L 4 7 8 5

大和守(やまとのかみ・田中) → 正章(まさあき・田中たなか/佐伯、廷臣/歌) Q 4 0 5 7

大和守(やまとのかみ・橋本) → 順福(のぶよし・橋本はしもと/橘、和学) J 3 5 6 1

大和守(やまとのかみ・山口) → 知昌(ともまさ・山口やまぐち/今大路、廷臣) W 3 1 8 4

大和守(やまとのかみ・早雲) → 高古(たかふる・早雲はやくも、神職/国学) Z 2 6 0 3

大和守(やまとのかみ・竹尾) → 茂樹(しげき・竹尾たけお、神職/国学者) Z 2 1 3 3

大和守(やまとのかみ・藤井) → 右門(うもん・藤井ふじい、尊王論) E 1 2 7 5

大和守(やまとのかみ・土方) → 義苗(よしたね・土方ひじかた/木下、藩主/財政再建) O 4 7 7 3

大和守(やまとのかみ・松平) → 直恒(なおつね・松平まつだいら、藩主/国学) O 3 2 8 9

大和守(やまとのかみ・松平) → 直克(なおかつ・松平まつだいら/有馬、藩主/国学) O 3 2 8 8

大和守(やまとのかみ・六人部) → 筋篤(ときあつ・六人部むとべ/室谷、神職/歌) W 3 1 6 3

大和守(やまとのかみ・六人部) → 忠篤(ただあつ・六人部、節篤男/神職/歌) Z 2 6 8 5

大和守(やまとのかみ・宮地) → 守遠(もりとお・宮地みやぢ、神職/国学) L 4 4 5 8

大和正(やまとのしょう・榊原) → 宣安(のぶやす・榊原さかきばら/藤原、神職) I 3 5 6 4

4516 大和掾(やまとのじょう・竹本たけもと、内匠理太夫男) 1702-1766 65 浄瑠璃; 義太夫節太夫、豊竹座初舞台、

竹本内匠たくみ太夫を名乗(初代)/1745豊竹上野少掾受領/1747京で竹茂都大隅と改名、

1748忠臣蔵事件で竹本座に招聘され紋下(総座頭); 竹本大隅を名乗/のち竹本大和掾

大和掾(やまとのじょう・井上) → 播磨掾(はりまのじょう・井上、浄瑠璃太夫) 3 6 2 8

大和庄法印(やまとのしょうのほういん) → 俊範(しゅんぱん; 法諱、天台学僧) L 2 1 7 6



- 大和介(やまどのすけ・荷田)→ 延次(信次のぶつぐ・荷田/羽倉、神職) C 3 5 0 5  
 大和介(やまどのすけ・国栖/世古)→ 景雷(けいらい・国栖くず/世古、漢学者) G 1 8 7 6  
 大和介(やまどのすけ・谷森)→ 善臣(よしおみ・谷森たにもり/平、国学者) C 4 7 4 2  
 大和介(やまどのすけ・松室)→ 眞雄(まさお・松室まつむろ/秦、国学/歌) L 4 0 8 9  
 大和介(やまどのすけ・青木)→ 行忠(ゆきただ・青木あおき/宗岡、官人/歌) G 4 6 4 4  
 大和介(やまどのすけ・宮崎)→ 玉緒(たまお・宮崎みやざき/榊、医者/故実) Z 2 6 8 2  
 大和介(やまどのすけ・村上)→ 松男(まつお・村上むらかみ/源、国学/歌) T 4 0 1 0
- E4518 **大和宣旨**(やまどのせんじ、大和、平惟仲女)?-? 母;藤原忠信女、平安中期歌人、  
 左京大夫藤原道雅の室;観尊(少僧都)と娘の母/離別/三条天皇中宮妍子(1027没)の女房、  
 のち藤原義忠のりたの室;1041夫が吉野川で溺死、1049-55六条斎院裸子歌合に4回参加;  
 うち1055物語合「あやめかたひく権少将」作、「大和宣旨日記」、後拾遺3首;550/735/809、  
 [涙川流るるみをと知らねばや袖ばかりをば人のとふらん](後拾;哀傷550/相模へ返歌)、  
 (相模はかつて妍子に出仕/妍子葬送後相模からの歌に返す/水脈と身をを掛る)、  
 (相模の贈歌;とはばやと思ひやるだに露けきをいかにぞ君が袖は朽ちぬや;後拾549)、  
 後一条天皇中宮威子宣旨(章子内親王の乳母/宮の宣旨)とは別人であろう
- E4569 **大和大掾**(やまどのだいじょう・歌沢うたざわ、笹本彦太郎ひこたろう、号;笹丸) 1797-1857 61 旗本、端唄を修得;  
 歌沢節を創設、歌沢寅右衛門(寅派)・芝金(芝派)の師  
 倭判官(やまどのはんがん、懷風藻入)→ 小東人(おあずま・大倭宿禰やまどのすくね/長岡) C 1 4 2 6  
 倭姫王(やまどのひめおおきみ) → 倭太后(やまのおおきさい、天智皇后) 4 5 1 5
- E4519 **倭姫命**(やまどひめのみこと、垂仁天皇皇女)?-? 天照大神の託宣により伊勢斎宮を設;最初の斎宮、  
 (最後の斎宮は祥子内親王)
- E4520 **倭麻呂**(和麻呂やままとまろ・百濟君くだらのみき)?-? 56歳没 大和奈良期慶雲-神亀704-29頃廷臣;但馬守、  
 正六上、渡来系の家系、詩人:懷風藻3首;75-77/経国入(対策文2篇)  
 山鳥(やまどり・岡) → 山鳥(さんちよう・岡、戯作/狂歌) E 2 0 5 7  
 山の井(やまのい) → 景見(かげみ・相川、幕臣/歌人) B 1 5 9 6
- E4521 **山野井檢校**(やまのいげんぎょう)?-? 江初期慶長1596-1615頃の音曲家/三味線;虎沢檢校門、  
 三味線の名手;同門の沢住檢校と並称、唄物系三味線楽曲・組曲を広める、  
 門流から上方歌が興隆、柳川檢校・八橋檢校の師  
 山井大納言(やまのいだいなごん)→ 道頼(みちより・藤原ふじわら、道隆男) C 4 1 9 1  
 山井大納言(やまのいだいなごん)→ 信家(のぶいえ・藤原、廷臣/歌人) 3 5 9 6  
 山の井の尼(やまのいのあま)→ 井手尼(いでのみ、平安歌人) E 1 1 1 0  
 山井中将(やまのいぢゆうじょう)→ 道頼(みちより・藤原ふじわら、道隆男) C 4 1 9 1  
 山上臣(やまのうえのおみ) → 億良大夫之男(おくらのまへつきみのおのこ・山上臣、歌人) 1 4 7 9  
 山内備中守(やまのうちびちゆうのかみ)→ 信詮(のぶあきら・六角、武将/歌) 3 5 8 4
- E4547 **山上猿成**(やまのえのさるなり)?-? 江戸の狂歌作者;1785「徳和歌後万載集」1首入:  
 [青すだれかけて暑さもなかの町ちやう客と風とを待合の辻](後万載;二184/吉原納涼)
- E4522 **山の八**(やまのやっ・山本弘之、和泉屋八左衛門)?-? 1674-1704頃京書肆/浮世草子作家、  
 1682「恋慕水鏡」87「役者大評判」「好色覚帳」89「好色床談義」93「男色小鑑」95「好色旅枕」著
- E4523 **山比子**(山彦やまひこ・建部たけべ/たてべ) 1778-1839 62 出羽庄内藩の右筆/書家;  
 小野道風[秋萩帖]の真髓を会得;能書家の称、歌人/歌学:杉山廉・富小路貞直門、  
 「建部山比子歌集」著、「春來帖」書、  
 [山比子(;号)の名/通称/別号]名;敬義、通称;重太郎、別号;本之  
 仙媛(やまひめ) → 柘枝(つみのえ、万葉伝説人物)  
 山吹庵(やまぶきあん) → 呉山(ござん・神野、俳人) M 1 9 6 5  
 柘園(やまぶきその) → 由豆流(ゆずる・岸本/平/朝田、国学者) 4 6 1 3  
 柘園(やまぶきその) → 詮(あきら・松浦まつうら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
 箭園(やまぶきその) → 享寿(きやうじゅ・竹内たけうち、法眼/歌人) C 1 6 5 7  
 欸冬園(やまぶきその) → 為仙(たみのり・飯島/林、名主/歌人) H 2 6 3 3  
 山吹舎(やまぶきのや) → 致知(ゆきとも・片桐かたざり、商家/歌人) G 4 6 7 4  
 やまぶきの舎(棟棠舎やまぶきのや)→ 省齋(せいさい・入交いまり/小川、藩士/国学) I 2 4 2 9

- E4524 **山部王**(やまべのおおきみ、伝不詳)?- ? 大和期670-700頃万葉二期歌人; 万八1516: もみじの歌、  
[秋山にもみつ木この葉のうつりなば更にや秋を見まく欲りせむ](万葉; 八1516)、  
同名2人; とともに時期不合  
①山部王; 672壬申乱戦死: 近江方将軍だが大海人軍に従うため鈴鹿を越え、蘇我果安に殺害  
②山部王; のちの桓武天皇(737-806) → 桓武天皇(かんむてんのう) 1 5 5 4
- E4525 **山道枝折**(やまみちのしおり) ? - ? 狂歌作者: 大江戸派, 1806松好斎「ますかがみ」入  
山道高彦(やまみちのたかひこ) → 高彦(たかひこ・山道、狂歌) D 2 6 5 2
- E4541 **山茂**(やまもち・凡おほし山茂、あやもち)?-? 平安前期歌人; 伝不詳、古今1105; 墨滅歌、  
[憂きめをばよそ目とのみぞ逃れ行く雲のあはたつ山の麓に](古今; 物名1105/染殿・栗田)  
(水尾帝[清和天皇850-880]が母染殿[藤原明子828-900]邸より栗田院に移る時の詠歌)  
山本相国(やまもとしょうこく) → 公守(きんもり・洞院、太政大臣/歌人) E 1 6 7 9  
山本入道前太政大臣(やまもとにゅうどうさきのだいじょうだいじん: 続千載以下) → 公守(きんもり・洞院) E 1 6 7 9  
山本入道前太政大臣女(やまもとのにゅうどうさきのだいじょうだいじんのむすめ) → 公守女(きんもりのむすめ・洞院) E 1 6 8 0  
山本僧正(やまものそうじょう) → 覚濟(かくぜい; 法諱、真言宗山本流祖) B 1 5 4 8  
山本兵部(やまもとひょうぶ) → 忠明(ただあき・大江おおえ、兵法家) P 2 6 0 7  
闇雲先生(やみくもせんせい) → 君山(くんざん・唐橋からはし、儒医/狂詩) B 1 7 2 3  
飲茶庵主人(やむちやあんしゅじん) → 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師) K 2 8 3 2
- E4526 **野明**(やめい・坂井さかい) ? - ? 筑前福岡(黒田)藩士/致仕; 京の嵯峨住、  
去来の母方の主筋にあたる、俳人; 初め常牧門/のち去来門/1694芭蕉門、外戚去来と親交、  
1692車庸「己が光」/94素牛「藤の実」/98「続猿蓑」1句入、「去来抄」に質問者として登場、  
[平押ひらおしに五反田ごたんだくもる時雨かな](続猿蓑; 下冬・時雨)、  
(暗雲一気に覆い五反[1500坪])の田が時雨にけむる)  
[野明(;号)の通称/別号] 奥西善六/のち坂井作大夫包元(宗正)、初号; 鳳侶  
弥守(やもり・磯野/大島) → 直章(なおあき・磯野いその/大島おおしま、歌) 3 2 6 1
- E4527 **弥門**(やもん・菊池さくち) ? - ? 江中期享保1716-36頃の幕臣/江戸住、  
「柳営秘鑑」「柳営婦女伝系」著  
弥門(やもん・春木) → 房光(ふさみつ・春木/度会/亀田、神職/国学) C 3 8 2 7
- E4528 **野也**(やや・高梨たかなし) ? - ? 京の俳人; 梅盛門、1656梅盛「口真似草」入、  
1657梅盛「鸚鵡集」序、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[門松やたてよこ町の人並木](手鑑)
- E4561 **野遊**(やゆう) ? - ? 江前期上州安中俳人; 1691不角「二葉之松」入
- E4529 **野幽**(やゆう) ? - ? 尾張熱田の俳人;  
1695東藤「熱田皴笥あつたしわはこ物語」歌仙入
- E4530 **野由**(やゆう) ? - ? 尾張熱田の俳人;  
1703祖月「蓬萊嶋よもぎがしま」歳旦吟入  
野幽と同一? → 野幽(やゆう、熱田俳人)
- 4517 **也有**(やゆう・横井よこい、名; 時般ときつら/並明[; 隠居後]、時衡[一水]男) 1702-83<sup>82</sup> 母; 久留女、  
尾張名古屋藩士; 1727家督(千石)/35御用人; 大番頭・寺社奉行兼任、1754致仕; 前津隠棲、  
知雨亭で悠々自適・趣味三昧、俳人: 祖父野双(横井時英)・父一水門/美濃派の巴静門、  
平淡俗語の句風、俳文に長ず、多芸多才; 武道/平家琵琶/謡曲/書画/詩歌/狂歌など器量人、  
1781(安永10/80歳) 絵師内藤東甫(閑水) 主催の金剛山長栄寺尚齒会に参加(9人); 詠歌、  
句集; 1753「五百句集」67「蘿葉らよ集」70「埜ありが集」/「千句集」「蛙唱集」、  
俳文; 「鶉衣うづらごころも」、俳論俳話; 1733「短綆録たんこうろう」編/62「的なし」65「随々草まにまにぐさ」、  
1775「美南武寿比みむすび」、「けにのろみ」/「管見草」「非四論」「野夫談」、家集; 「蘿窓集」、  
連句集; 「漏桶」(独吟連句)/「漢和連句集」、詩文; 「蘿隠編」「城南七勝詩」編、  
狂歌; 「行々子ぎやうぎやうし」、65「小草籠こかご」/「蘿窓余白」「蕉翁五十回忌追善」外著多数、  
追善集; 3回忌「俳諧夢の蹤」(文樵編)/7回忌「蔦のしげり」(文樵編)、  
[昼顔やどちらの露も間に合はず](蘿葉集/朝顔に朝露・夕顔に夕露・昼顔には強い光)、  
(千代女が[どちらの露のめぐみより]と直したという伝承がある)、  
[也有(号)の幼名/字/別号] 幼名; 辰之丞/市郎平、字; 伯懐/順寧(; 隠居後)

別号 素分/野又/野有/永言齋/紫隠里/紫江/蓼花巷/不羨庵/知雨亭/半掃庵、  
暮水(歌号)/蘿隠(漢詩号)/螻丸けらまる(富士原/狂歌号)

- 野又(野有やゆう) → 也有(やゆう・横井、俳人) 4 5 1 7  
八代(やよ・油谷) → 倭文子(しづこ・油谷/弓屋/油屋や、歌人) 2 1 2 5
- E4531 弥生(やよい) ? - ? 播磨姫路の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入  
弥生庵雛丸(やよいあんひなまる) → 雛丸(ひなまる・初世弥生庵、狂歌) E 3 7 3 0  
弥生庵雛群(やよいあんひなむら) → 雛群(ひなむら・3世弥生庵、狂歌) E 3 7 3 1
- E4532 野羊(やよう) ? - ? 安藝の俳人;1691賀子「蓮実ほけのみ」1句入、  
[おもほへず微こどちをうたん池の駕をし](蓮実;413/琴柱を据え奏でる/想夫恋か)
- E4533 野楊(やよう・軽森かもり) ? - 1839 丹波亀山藩士/俳人:全瓦門、  
1816(文化13)「あくら日記」編、「柴舟集」「四時行」編、  
[野楊(;号)の通称/別号]通称;代右衛門、別号;半仙庵/半月亭/老々庵、法号;釈円寿
- E4534 やよ子(やよこ・桑原くわばら、内科医桑原親斯女)?-? 1775存 内科医桑原如璋じよしょうの妻、  
仙台の読書家:書家、教育熱心、人物研究1764-81「うつほ物語考」著、  
如宣じよせん・工藤球卿妻の母、如則じよそく・只野眞葛の祖母、眞葛「むかしばなし」に逸話入  
八代子(やよこ・油谷) → 倭文子(しづこ・油谷/弓屋/油屋や、歌人) 2 1 2 5  
弥与三郎(やよさぶろう・桜山) → 典直(のりなお・桜山さくらやま、国学者) F 3 5 3 0  
八代姫(やよひめ・徳川) → 孝子(たかこ・伊達だて、藩主継室/歌) X 2 6 9 1
- E4535 也来(やらい;号・三宅みやげ)? - ? 江中期享保1716-36頃京の浮世草子作者、  
各地の手工業製品の製法・特色を研究、  
1729「蓬萊曦海老」/31「統一休はなし」「昔男時世妝」/32「万金産業袋」著
- E4536 夜来(やらい・林はやし) ? - ? 江後期大坂竜造寺町の俳人:黄華庵升六門、  
1804(文化元)「幽居集」10「黄華庵句集」編、「百人一集前編」編、  
[夜来(;号)の通称/別号]通称;治郎兵衛、別号;翁堂/微雨舎
- E4553 也籟(やらい・林はやし、通称;千兵衛、別号;六湾)?-? 安藝倉橋の材木商/俳人;篤老門、  
1825篤老「巖島奉納集三編」序、1821篤老「大鳴集」32三蕨「四町集」入、  
[新らしき弓をかけけり初子の日](「巖島奉納集三編」)
- E4537 也蘭(やらん) ? - ? 江中期俳人;1708撰集「一枚起請」編/序・注  
槍之助(やりのすけ・佐々木) → 方壺(ほうこ・佐々木ささき/渡辺、儒者) F 3 9 1 5
- B4592 也柳(やりゅう・津村つむら) ? - ? 1759存 羽後秋田の修験僧;久保田上堀の自覚院住、  
俳人:各務支考の書信による門人、秋田に美濃派俳諧を広める;前句付点者、「秋田巖」編、  
[也柳(;号)の別号] 算水堂/仙女/木耳老人/木耳山人もくじさんじん
- 4529 也蓼(やりょう・碓花坊、環中道一、俳人梅子男)?-1783 伊賀上野の俳人;父(白井鳥酔門)門、禅僧;  
陸中柴田郡柴田村の舟岡大光寺14世環中道一和尚、1756大坂浄春寺の芭蕉忌に参加、  
1758鳥酔「冬扇一路」跋、1768大光寺に芭蕉「名月や池をめぐりて終夜」句碑建立、  
1769平泉毛越寺・高館に芭蕉「夢の跡」句碑を建立、大光寺に1771諸九尼・73白雄が訪問、  
大光寺に没、白雄の師、  
[岩橋をどこへかけたるほととぎす](鳥酔「冬扇一路」入)
- 4592 野蓼(やりょう・中村なかむら) ? - ? 狂歌作者:大坂の永井如瓶[走帆/1661-1731]門
- 4530 夜涼(やりょう・渋谷、名;嘉膳)?-? 安藝広島藩士/江戸詰・甲府住、俳人:柳居門、  
高柳信之(菜英)と交流、1805(文化2)「うしの歳旦」編
- 野亮(やりょう・安藤) → 黙我(もくが・安藤、商家/俳人) 4 4 7 2  
野蓼斎(やりょうさい) → 汶邨(汶村ぶんそん・松居、藩士/俳・絵師) G 3 8 0 8
- E4538 野路(やろ) ? - ? 江戸の俳人;雑俳、  
1767丸窓「豆鉄砲」/68東池菴「世話文殊」入  
屋漏堂主人(やろうどうしゅじん) → 長世(ながよ・村井、藩士/文筆家) G 3 2 2 9  
弥六(やろく・宮増) → 親賢(ちかかた・宮増弥左衛門、能;鼓) 2 8 7 0  
弥六(やろく・小笠原) → 宗元(そうげん・小笠原おがさわら、武将/幕臣/連歌) H 2 5 1 2  
弥六(やろく・萩野) → 康清(やすきよ・萩野はぎの、馬術家) B 4 5 2 6  
弥六(やろく・皆川) → 教純(のりずみ・皆川みながわ、藩士/記録) E 3 5 7 6



弥六(やろく・富田) → 貞武(さだたけ・富田とみた、藩士/記録) I 2 0 4 2  
 弥六(やろく・大原) → 山清(さんせい、大原おほら、神職) M 2 0 4 5  
 弥六(やろく・吉田) → 宋恕(そうじよ・吉田よしだ、医者/国学) L 2 5 1 6  
 弥六(やろく・堀) → 菅岳(管岳かんがく・堀ほり、豪農/儒者) Q 1 5 0 9  
 弥六(やろく・井上/南宮) → 大湫(たいしゅう・南宮なんぐう/井上、儒者) B 2 6 5 3  
 弥六(やろく・山口) → 美崇(びすう・山口やまぐち、絵師) C 3 7 4 0  
 野鹿(弥六やろく・西) → 言直(ことなお・西にし、篆刻/歌人) N 1 9 2 9  
 弥六右衛門(やろくえもん・関口) → 柔心(じゅうしん・関口、武道;柔術家) H 2 1 7 0  
 弥六親次(やろくちかづ・宮増) → 親賢(ちかかた・宮増みやます、能楽師) 2 8 7 0  
 弥六郎(やろくろう・八戸) → 義顔(よしつら・南部なんぶ、藩家老/歌人) E 4 7 7 7  
 弥六郎(やろくろう・南部) → 信有(のぶあり・南部なんぶ、領主/和学) J 3 5 4 5  
 弥六郎(やろくろう・黒沢) → 筋窟(せつか・黒沢くろさわ、藩士/儒者) E 2 4 0 5

E4539 **也魯齋**(やろさい・川崎かわさき/初姓;工藤、名;履) 1805-7672 上州沼田藩士/家老工藤行広の弟、  
 母方の姓継承/儒:昌平黌出;佐藤一斎門、沼田藩儒/1838学問所師範/68昌平黌教授試補、  
 1853「練胆長歌並出陣梗概」54「異船渡来ニ付浦港探哨筆記」64「孝経参釈」、  
 [也魯齋(;号)の字/通称/別号]字:叔道、通称;魯輔/魯助/魯介、別号;魯歳/碌々庵

也魯齋(やろさい・林) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0  
 弥若(やわか) → 弥若(みわか・東門院or東南院、童/歌) L 4 1 0 9  
 屋別廼舎(やわけのや) → 宗功(むねたか・車戸くるまど/藤原、神職/国学) D 4 2 7 8  
 八幡小侍従(やわたのこじじゅう) → 小侍従(こじじゅう、女房/歌人) C 1 9 7 7  
 夜話亭(やわてい) → 白尼(はくに・武藤、俳人) D 3 6 7 7  
 夜話亭(やわてい) → 雨石(うせき・石井、俳人) C 1 2 9 4  
 夜話亭(やわてい) → 雨考(うこう・石井、俳人) C 1 2 2 0

E4542 **和**(やわら・山口やまぐち) ? - 1850 越後蒲原郡水原の和算家;江戸の望月藤右衛門門、  
 のち長谷川寛門/1817より諸国遊歴、門人多数;越後・常陸・信濃など、  
 1816「算法三派之書」17(文化14)「道中日記」、「算法道行」「免許見隠伏三題并別伝之巻」著、  
 [和(;名)の字/通称/号]字;子美、通称;七右衛門/倉八、号;坎山かんざん  
 ヤン=ヘントリック=ダップル(Jan Hendorik Daper) → 泉石(せんせき・鷹見たかみ、家老/和漢学) M 2 4 7 8